### (मुमिका)

イントの私法によって 新たにイント連邦の国がとして認定されるに至ったとファィーの本格的な文法なといっものは 今日まて我が国に存在し なかった。

昭和18年の早春 日本外語者と財団社人啓明会との後週のもとに出版された打著「印度文件」のは いわゆう ヒノティー語の文法書ではなく 英領印度時代の哲尊更であり公用語であっす ウルトゥー語の文法書で ペルノナ文字使用でであっす。そのウルトゥー語は 今や新興 ーキスターノロの公用でに指定されているカーイントでは一地方話と化してしまった。

門知の辺り ヒノティーのヘルノキ話化してのカウルトゥーよのである。 四名間の主なる担心といえば 用舌の話癖的要素や使用文字以外に見出せない。従って 幾日かの存在が想定されるヒンティーにおける軸度の査定は 文法担償の知何に因ることではなく ウルトゥーと全性半道である動 お・代名詞・単一後質詞以外の諸品詞に見られるヘルノト語やアラヒキ語の合有はの対象によって決こることである

ヒンアィーとは ヘルンャ語「ヒント」即ち「イント」に由字し いわ ゆる「ヒントゥスターノ」の即ち現在の「ウッタル・プラアーシュ」つま り「北部州」を本場とする北印のイント語であることにわいて いわゆる 「ヒントゥスター」一語」と異ならない。そして 本語はセれそれ数質が

<sup>(1)</sup> 九智株式会社刊 A 5版430ペープ

<sup>(2) 「</sup>イノト教徒の団」の世のヘレノ+芦 広義ではイノト全土が吉味される

ら成る西ヒンディー方言群か、東ヒノティー方言群の、ヒハーリー方言群の、 ラーノャスターニー方言群。パハーリー方言群のなどに分たれている。

ラーフャスターニー力品的、ババーラー力品があるとに力にかいている。
さて、本常は限和25年度、交添自科学研究費によって成された「ヒノディー指法の研究」を初学者にも利用され得るように整えたもの。これで、本言語に関する限り、その「顔文法」や「方言比較文法」を除く一般文法はすべて並べ尽したつもりである。しかしなから、やゝもすれば女法和微の体系づけに徴底を欠く憾みのあるのは、古來文法よりも慣用か重視されて来た太言節における格集事情に包囲するものである。us

なお、本書の重点を「文章論」に置いたのは当然としても、紙面の都合 で「詩形論」を単なる序説程度のものに終わらせたのは甚に遺憾であった。 また、本書の文例における主要な用語を集録して、文法書としては起波 りの「翻集」を添付したのは、本邦にも「インド語辞典」が出現するまで の一時的方便からである。

終わりに臨み、本書の刊行に当り、大阪外間副大学からモノタイプのデ ーヴァ・ナーガリー文字母型の貸与に預かったことを記して勧謀を表する。

1960年1月

著者故す

<sup>(1)</sup> 木下を初め、ウルトゥーヤヒノトゥスターユーの雑誌と載も顕好の次い Khatibuli 25 (使用人口約530万) 中 Bral 25 (使用人口約790万) ほかる日から成っている。アータッ、アリーカル、マトゥラーの3 市西近で落されている。

<sup>(2)</sup> U P 州、つまり北部州の東部において約1.428万の住民によって私される Awadhi 答はか2程から終る。

<sup>(3)</sup> ポークブル地方の約12 000万住民に用いられる Bhojpari 語やガヤー地方の約1,500 万住

民によるマガダ店 (Magahi) などが含まれる。 (4) 「山の」立て、ヒマーフヤ山民の南朝。シムラから オパール王国までの間に話される数種

の方言が意味される。オパール言もその一つである。 (5) 350 ペーノ「信用は文法に優先」の項金剛。

## 日 次 (निषय स्ची)

**1**1 (मूमिना)

凡 例 (व्यास्या)

# 路一届 文字的(वर्णारिपिजान)

1

I 字 母 表 (वणमाना चन्न)	1
1 /3 °5 % (स्वर-चक)	3
2 👍 🛱 १ (व्यञ्जन चत्र)	4
u 🕫 🟗 (उच्चारण)	6
1 🗗 👸 (स्वर)	6
2 नें १६ (व्यञ्जन)	8
3 কিন্দেট (अल्पन्नाण) ১ৰাক্তাক (মहান্নাত)	12
4 Tatsama (सरसम्) ट Tadbhava (तद्भव)	12
5 गिहार Anustira (बनुस्तार) & Anunisika	
(अनुनासिक)	13
6 हे: द्वार	14
१ १० ३ १ (विदेश ध्वनियाँ)	1.5
Ⅲ 文字の総会 (बगरा की मिरावर)	16
ル 文字の音音方(अगर निगन की राणि)	20
V 15 の कृ के (गया वा उच्चारण)	22
भ स क (बुर)	=
VI 在使变化 (相切)	30

### 第二編 品 詞 論 (羽呵啊)

第一章 名 詞 (刊刊)	37
I 名詞の種類 (सजा के भेद)	37
I 性 (fer)	37
1 男性名詞 (प्रस्तिग सता)	37
2 女性名詞 (स्वीस्मिस्ता)	40
3 複合名詞の性 (समस्त सज्ञाजो का लिंग)	45
4 女性名詞の作り方 (स्नीलिंग सजाओ की रचना)	46
M 複数の作り方 (बहुबचन की रचना)	53
IV 格 (年78年)	58
V 名河の活用 (मजाओ की कारक रचना)	60
1 第一流用 (प्रयम विशक्ति का रूप)	60
2 第二活用 (विलीय विभवित का रूप)	61
३ 郑三活用 (तृतीय विमन्ति का क्प)	62
VI 名詞接尾辞 (मजाआ के प्रत्यय)	63
1 招 小 辞 (नपुराचर सन्द)	63
2 抽生名詞 (मानवाचन सज्ञा)	64
3 「人」を示す名詞 (मनुष्य-वाचन सज्ञा)	67
4 「場所」を示す名詞(स्थान-वाचक मन्ना)	69
Ⅵ 视合名詞 (समस्य मज्ञा)	71
第二章 代 名 罰 (सर्वेनाम)	73
I 人称代名曰 (पुरपवाचक सर्वनाम)	73

3 北容詞接尾辞 (विशेषण के प्रत्यय)

数形容詞 (सल्या वाचक विशेषन)

1 悲 数 詞 (गणात्मक सख्या विश्वपन)

🗱 (अपूर्णंक सख्या)

倍 数 詞 (गुणन वाचव सख्या)

6 配分数罰 (प्रत्येक-बोधक संख्या)

7 特殊記載法 (असाधारण अकविद्या)

🏿 代名形容詞 (सर्वनामिक विशेषण)

8 不定數型形容罰 (अनिश्चित सस्या वाचन)

2 序 払 詞 (कमवाचक सस्या)

4 集合数詞 (समुदाय वाचक)

3 分

Ή

M

TV

v

75

72

ደብ

21

83

84

86

86

86

88

90

94

94

99

101

102

104

106

107

110

111

vi 一目 次一	
第四章 動 詞 (帝和)	113
I 能助數詞 (कर्तृवाच्य किया)	113
(a) 自動 河 (अक्मेंक किया)	113
(क्रमहा 1) होना	113
1 現在時相 (वर्तमान काल)	113
2 過去時相 (भा कास)	115
3 不定時相 (सम्भाव्य भविष्यत काल)	117
4 未夹時相 (सामान्य भविष्यत काल)	117
(活用別 2) जाना	118
(1) 領視から作られる時相 (धातु से बने हुए काल)	118
1 क्री के (बाजाबोतक)	118
2 不定時相 (सम्भाव्य मविष्यत)	121
3 未来時相 (सामान्य मनिप्यत्)	122
[11] 未完了分詞如ら作られる時相 (वर्तमान-काखिक इदन्त से	
दने हुए काल)	124
1 不定未完了時相 (हतुहेतुमद्भूत)	124
2. 現在木完了時相 (सामान्य वर्तमान)	125
3 超去未完了時相(अपूर्ण भूत)	125
4 可能才完了時相 (सम्माच्य वपूर्ण वर्तमान)	127
5 推定大完了時相 (सदिन्य वर्तमान)	128

6 過去可能未完了時相 (सम्भाव्य वपूण भूत)

हुए काल)

(m) 完了分詞から作られる時相 (मूनकालिक क्ट्रन्त से बने

128

129

一目 次一	VII
<ol> <li>不定完了時相 (सामान्य भृत)</li> </ol>	130
2. 現在完了時相 (पूर्ण वर्तमान)	132
,	
3 丛主完了时相(如 项)	132
4 可能完了時相(सम्भाव्य भूत)	134
5 推定完了時相(सिंदिप भूत)	135
6 凸去可能完了時相 (सम्माव्य पूर्ण भूत)	135
(b) 他 10 कि (सनमें किया)	136
II 受動動詞 (वर्मवाच्य नियाएँ)	141
皿 無人称動詞 (भावदाच्य त्रियाएँ)	146
N 使役動詞 (प्रेरणार्थंव कियाएँ)	147
V 複合動詞 (समुनत नियाएँ)	153
1 監視を基度動詞とするもの (जिन की बुनियादी त्रियाएँ पातु	
₹1)	153
2 末完了分詞を基於動詞とするもの (जिन की बुनियादी	
त्रियाएँ वर्तमान-वालिक कृदन्त हा)	157
3 完了分詞を基礎動詞とするもの (जिन की बुनियादी कियाएँ	
भूतकालिक कृदन्त हा)	158
4 不定法を基理動計とするもの (जिन की बुनियादी क्रियाएँ	
त्रियारंक मज्ञा हा)	161
5 名詞勁詞 (नामबोधक त्रियाएँ)	162
<ul><li>ह रा ।दि स (दुहराये हुए गव्द)</li></ul>	166
第五章 副 請 (कियाविशेषण)	167
1 🖼 🔿 🖺 (काल-याचव)	167

2	「均所」の副詞(स्थान-वाचक)と「方向」の副詞(दिशा	
	बाचक)	168
3	「分量」「程度」の副詞 (परिमाण-वाचक)	169
4	「松健」の副詞(रीति वाचक)	170
5	代名劇詞 (सर्वनाम सम्बन्धी क्रियाविशेषण)	177
6	副詞藻用代名形容詞 (िस्याविशेषण तथा सर्वनाम सम्बन्धी	
	विशेषण का मिला हुआ प्रयोग)	186
第六章	後 置 詞 (सम्बन्धबोधक अन्यय)	189
第七章	接 統 詞 (समुचय बोधक)	201
1	緊 舒 的 (सयोजक)	201
2	反 窓 的 (विरोध दर्शक)	201
3	離 抜 的 (विभाजन)	202
4	仮定的 (मिलात)	201
5	證 歩 的 (स्वीकृति दिखनानेवाला)	204
6	結論的 (परिणाम दर्शक)	205
7	推 的 (कारण वाचक)	205
8	। (उद्देश वाचक)	205
9	說明的 (स्वरूप वाचक)	206
第七章	感 獎 詞 (विसायादि वोधक)	208
第八章	按 頭 辞 (उपसर्ग)	211
	(भार) (अधिकतर वर्णन)——1 月名(मास का नाम),	211
	2 週名 (सप्ताह का नाम), 3 紀元 (सन), 4 寸法	
	(नाप), 5 面間 (क्षेत्रफल), 5 時間 (समार)	avo

- B & -	ıx
第三編 文章 済 (कारक प्रिक्या)	
第一章 名 詞 (सजा)	217
I 単数・複数の用法 (एकवचन बहुवचन का प्रयोग)	217
〔a〕 名詞が不定の場合 (जब सज्ञा का अर्थ अनिश्चित हो)	217
1 技数扱いされる場合 (बहुवचन व्यवहार के समय)	217
2 単数扱いされる場合 (एकवचन व्यवहार के समय)	221
3 単複任窓に用いられる場合 (वचन के इच्छानुसार प्रयोग के	
समय)	221
4 単校の相違による記義の変更(मदाय-परिवर्तन जो	
एकवचन बहुवचन के अन्तर से पैदा हा गया हो)	222
〔b〕 名詞が数詞に伴われる場合 (जब किसी सज्ञा वे साथ	
कोई सल्या लगी हो)	223
1 一般的な場合 (साधारण अवस्या में)	223
2 特殊な場合 (असाधारण अवस्था में)	224
II 同 格 (समानाधिकरण)	225
Ⅲ 名詞の転用 (सज्ञा-मरिवतन)	228
1 測調への転用 (सज्ञा को क्रियाविशेषण में बदलना)	228
2 无容詞への転用 (सज्ञा का विशेषण में बदलना)	229
IV 名詞の反復 (सन्ना की पुनरिक्न)	229

231

233 233

239

V 名詞の占路 (सज्जा का छोड देना)

(कारक)

松 (सम्बप) 松 (सम्प्रदान)

竹格

1 厨

2. 与

x

2 1/2 (1.1)	
4 器 格 (करण)	
5 珍 格 (अपादान)	,
6 位 格 (अधिवन्य)	
(a) <b>पर</b>	
(b) 편	
(८) तर	
第二章 代 名 初 (सर्वनाम)	
I 人称代名四色指示代名四 (पुरुपवाचक सर्वनाम तथा	
सनेतवाचक सर्वनाम)	
II 再帰代名詞 (निजवाचन सवनाम)	
Ⅲ 不定代名詞 (अनिरचयवाचर सवनाम)	*
1 काई	
2 बुछ	
IV 短問代名詞 (प्रश्नवाचक सर्वनाम)	
1 कीन	
2 क्या	
V 國際代名詞 (नम्य वंगाचन सर्वनाम)	

第三章 形 容 訂 (विशेषण)

I 性質形容詞 (गुणवाचक)

2位 置(स्थान)

致 (अवय)

3 名詩への採用 (विशेषण को सज्ञा में बदलना)

1 एसा

1

第四章 動

वैदा 2

केंग्र 3

ਰੈਜ਼ਾ

कितना 2

जितना

भत-कालिक हदत)

इतना ८ उतना

I 不 定 法 (कियायक सज्जा)

1 以詞として (किया की जगह पर)

技 代分 訂 (पर्व-कालिक कृद त)

ञ्च (किया)

2 助詞状名詞として (किया-वाचक सज्ञा की जगह पर)

4 作因動作状名詞作成 (वर्त्वाचक सज्ञावा का बनाना)

Ⅲ 朱完了分詞と完了分詞 (वर्तमान-कालिक कुदन्त तथा

(a) 未完了分詞 (वर्तमान-भालक भ्रदत्त)

(b) 完了分詞 (मत-कालिक वृदन्त)

IV 条件文(आश्रित वास्य)

■ 動詞状形容詞として (किया-बाचक विशेषण की जगह पर)

x,

304

306

306

306

307

308

309

312

312

314

316

319

319

319

320

321

323

325

327

328

332

338

×n	B	<b>*</b> -
V	動詞の省略 (त्रियाओं का छो	ड देना)
V	(動詞の→致 (वियाओं का छहे	रुप या वम से सादृश्य)
第五章	द्र हा वि (शब्द रूम)	
(	(প্রাधिकतर वर्णन)	
	1. 話 法 (वणन रीवि)	
	■ 慣用は交法に優先 (व्यावहा	रिक प्रयोग व्यावरण के ऊपर है)
	3 手紙のむき方 (पत्र-सेखन के	'नियम)
	第四編 詩 飛	্ল (ভাব সাম)

**द्ध** (परिभाषाएँ)

1 音景詩 (मात्रिक छ द) と音節詩 (बणिक छ द)

2 均等時 (我中 安全)、半均等時 (अवसम 安全)、不均等時

第一章 析

4 韻節 (河可) 5 游行 (明天)

6 伏止 (4句)

(विषम छ द)

3 मी भी (उदाहरण)

व 四行詩चौपाई

b 二 चि क्षेदोहा ८ सोरठा

1 額文 (पव) と訓 (국화) 2. 音號 (মাবা) と音節 (वर्ष)

3 短音 (정택) と문音 (제작)

第二章 詩の種類 (धन्दों के भेद)

942 313

348

350 350

350 351

> 355 355

356 360

361

362

363

364

364

364

365

266

367

### 凡 例 (व्याख्या)

- (1)本書における( )即は省略可能なもの。(□ )即はそれに 先立つ語と全然同一なもの。(□ )即はその判限り代用可能なもの。そ して単なる [ ]即は単に参考のためにそこに置いてみたゞけのものが 意味される。
  - (2) \* 印は女性名詞、\*\* 印は男女両性液用語を買味する。
- (3) 名詞の右下に彫付したイタリック体ローマ字の小さい路額中、S はサンスクリット館、A はアラビャ語、P はペルンャ語、T はトルコ 語、E は英語、Po はポルトガル語、G はポリンャ語を示す。何も路字 の窓付されてない分がいわゆるヒンディー額である。
- (4) 邦字の略語では次の通りである。『年]=「卑語」。『俗》=「俗語」。 『方記-「方言』 『文記-「文弦』、『似2-「複数』、『弘]=「砂詞」、『位》=「他励 詞」、『自3-「自動詞」、『列2-「動詞』、『彩]=「形容詞」、『古3-「古語」。 『女2-「女注語』、『成2-「動詞』、『彩]=「取物』、『尹3-「東物』、

# インド文典

### 第一編 文字論(वर्णारोपञ्चान)

## I. 字母表 (वर्णमाला-चक)(2)

ヒンディー語に用いられるいわゆる Deva Nagari (\*マロでな)<sub>(3)</sub> 文字の 字母は、音声学上世界で最も科学的に組織立てられたもので、一々その発 声器音の位置まで考慮されながら発音順に配列されている。

すなわち、先ず母音に始まって歌音に移り、半母音を経て穿好音で終わるようになっている。そうして、舌の動きに基いて、口中の異なった位置 から発声される各々の音器に分類される。

ローマ学同体、Nagari 文字もやはり左宮とてある。そして、その50文字が、そのまま本言語に使用されるわけでなく、使用されるのは16 母音中の13字と34子音中の33字だけである。これにヒンディー特容の電子音字 (4、4) が加えられるので、現代ヒンティーの字母は差し引き46字ということになる。その配列は次の通りである。

<sup>(1)</sup> ヒノディー語の文法用語はすってサノスクリット由文語である。vara も lipta も「守砂」の数、jnian は「知識」の数。

<sup>(2</sup> mālā, とは「列」「粒」のな。

間 単に Nágati。とも行される。『哲会語』ので。deva は〔注〕の立。 ・

2

अ आ इ ई उ ऊ ऋ ए ऐ ओ औ स्वग घड छ ज झ ञ ठ ड ह ग र त थ द ध न फ व भ प र छ व श य षसह

(五) サンスクリフトの字符表にない ぎと る は、ヒンティーの字符表でもよく名称される。 省略されない場合には、未尾に置かれることが多い。 しかし、それぞれ ぎと る の次に置くのが正当であろう。

2) 辞書は上表の字母順に従って引かれる。そして、上表中 ま、す、 ガ、ま、

る の5字は一子の冒頭に用いられない。

#### 1. 母音表 (स्वर-चक)

発	音器官	(स्थानवर्ग)	短	母音	(ह	ৰ)	長	母音	(दी	र्ष)
			頸 音	中間 母音(1)	発	音	頭音	中間	R	音
Ø	۲	(কজ)	अ(1)	(2)	a	7	आ	T	â	7-
	盂	(तालु)	इ	f	i	4	ş	ी	î	<b>ار</b>
蓋	唇	(ओष्ठ)	उ	9	u	'n	ক :		ũ	ゥー
舌		(भूढी)	宠	e	ŗı	J				
0E .	口蓋	(कष्ठ-तालु)	ए	-	e:	z-, z	ऐ	*	81	71
のど	• 唇	(कण्ठ-ओप्ठ)	ओ	Ť	0 :	t-, +	সী	1	au	アウ

[22] 1) サンスクリット母音中、舌音 ¾ 対、信者 ※ は(または Iri) ② (または Iri) ③ (または Iri) ④ (または Iri) ⑥ (または

2) 上表中。■音字とは一番または一音質の初めに用いられる文字のこと。 例 対す ab「いま」 中等 ma'i es 「6月」。

- 3) 標準的な字形 す。す。などの代りに す。す。などの形もよく用いられる。また。 程 は 死 や 程 とも書かれる。
- 4) サンスクリットの字母をでは母音扱いされる録音化母音 Anu svara
   (お aň, am) と監験音化母音 Vi sarga (可 aň) とは、ヒンティーに関する
- 限り、単なる鼻音符と気音符とに過ぎない。両者とも母音の他に発音されるもので、特に依省は明確に聴取し得る気息音である。恐恐文字では、前者は「空点・
- 後者は涅槃さと行される。 [次節Ⅲ [備考] 2) の末足 および 5 項念円]
  - 5) ヒンティーの本均である北印以外の地方では、 ま、ま、 ま、 あ、 で、 で、 液

matra と称される。

<sup>(2)</sup> サノスクリトでは、Vi rām 「新止行」 [3] の無い子音字はすべて3音を伴う。ぎ止たのある子音は bai 「母音を伴はか子名」とわされる。

よので字か降を 図、朝、頭、頭、扇、頭、丸とと窓がれることかある。
 野 ま中 | 毎年 「この」 和覧 - 和前「兄お あれて - 両収す「上に」、収布 - 南本「1」。
 6、 本 はサノスペーン、ト監からの信用」に上げしか見えずられない。

### 2 子 音 表(() (四本()-司事)

	h. 112 de 000 -	
発力器官	無 声音 (硬音	
(स्थानवंग)	(अथोप)	(घोप)
のと音 (क्रुंब)	無気音 有效 (अल्पन्नाण) (महान्न	हिं 無気音 有気音 界 音  ण)  (अल्पप्राण) (महाप्राण) (अल्पआनुनासिक)
□शंध क्षे (तालव्य)	<b>事 k(a)</b> 現 kh カ(カ) カ(カ	) ク(ガ) ガ(ガ) ノ(ナ)
र्च हें (मूधन्य)	역 ċ(a) 평 ċh ナ(チャ) ナ(チ	+) (1)1+ 2(1+) 1(=+)
धि (वेह्य) (वह्य)	₹ t(a) ₹ th(x b(x) b(x)	a)
¤তেন)	ते t(a) थे th( ৮(э) ৮(э	
	¶ p(a) 名 ph プ(パ) プ(パ	
	のと音 哥 sh(a) シュ(ン	のと直引 y(a) 1(ヤ)
が 第 音 (あ5年)	舌音 ¶ ś(a)	*時前   舌 音で r(a) ル(ヮ)   (3/元代41) (5)   音 で l(a) ル(ゥ)
(0)-4)	歯音 ₹ s(a) ス(*)	ロひる音 マ(a), w(a), o(ヴァ) ゥ(ヴァ) ォ
	気音 w h(a) フ(ヽ)	
	に任告 g i(a) g	

<sup>(1)</sup> 本式は大体の空母類に基金なから有準 特声の両音が一目して分るように配列されたもの。
(2) anta stha とは 「内部または中間に位置した」のだ。これらの4次字は使の子音と序が音との中間に位置するからである。

- 1) おけら列の文子、計念文字は子育時の主意節を放すもので、一括して Varga (中有、一本有) おり「行頭」と称される。そして、市 から 写までの各 行うさす。て、それそれ 中本有、四本有、四本有、四本有、本本有、本本の相というれる。
  - 2) 第、項、可 などの別形、朝、明、古 は・ンペー式の文字である。 いわゆるじヒレー・(一定の文字はマラティー別、作ちマーラック器 (和夜句) やギンノー・(工で出代されるサンスクリット所の本には用いられない。 なおまた、 夏 も、夏 でまたい
  - 3) ・・・・クリッド語の字母また様に不良を言字(表, 表)は、ややもするととレー、一字母表中にも行的されることがある。便宜上、上記の字母表では同なしたでいてみた。
    - 41 ま、す。可、可 などの文字は 楚語からの信用語にしか用いられない。
  - 5) ヒンベノー字形に行用されている国際ローマ字では、宛 は ri, 可 は は xi, 可 は v(a) となっているが、ウルドゥー語をも含めたいかゆるヒント ウス・ニー・戸全体の立りから限るとき、s は cs に、sh は cs に当てる 力が一層通切と思う。国際ローマ字本語で、s を 家 に当てたのも、す の字と対比するとき問題である。
    - 6) 35 om 叩ち 副車=副 は、別可す pra pav 即ち執盟なつづり字で、 イントを三大計の結合を示す神秘的な名が在味されるの。
  - 7) ペルンン語やアラビや否などからの借用語のための特別な当て学については次節車、7. 少税のこと。
  - 8) ヒンコノ一用文了として記る一般的な Deva Nagari のほかに2・3特殊 な文字が一部の職業に限って使用される。いずれる。Deva-Nagari の変先で、上 の結符を右衛したものである。かつ、いずれも一種の注記用である。例えば、年

<sup>(1) 31</sup> は Vishou 株、3 は Siva 株、項 は Brahma 即ち捉えを示すもの。(後野店、「音中之化」1 5円高。この om はお折が高。めでたいあいさつを近べるとき、型金 Veda の はおかめゃなみ状りの時に埋たられる。

に れくと言いて 年代<sub>10</sub> kar 年代 karen。 年代 karen なとと続きせる すかはち 主として キナ市を中くとする 地方で行われる Karthu 文字 (写名 kāyati= Kāethi - Karthu Nāgari) とは Kāyathi すなはち主として paşwari ごこ ご 主教とする 除意の 間に 使用され (ナーフス 市を中し とする 地方 「けいれ」 Mahapari 文字 (= Sarrāfa 文字) とは Mahāyan (「今arraf a)すなはち 主として全融支着によって使用されるものである そして 上くしてイラー ー ト市以来にあける一般の月 売商 すなはち banyā前 。 一使用されるも のた Banauti 文字である。

一方 ナリー市を中しとする地方においては それら3種の名称がも。一呼まれることなく 続ね Kantha 文字に式当する草書体が Muryya ま は Mundi (あるいは Murya Hunda または Munda Hunda) などの名をする 一呼ばれて しるにはきない。

#### II 発 音 (3元朝1町)

#### 1 是 音(码()

母音は短母音 (高神 hrasva), 長母音 (和 dirgha) 二重母音 (中現神 神 san yukt svar) に分たれる。

- (1) ST [A] (a) 一口を幾分円く、半開のまま 舌の中間をやや上げ、つまり幾分圧落しつつ発音される中間反答。
- (2) **3**町[a]--- 舌を低くしなから微かに発せられる長い食舌母音。
- (3) ₹ [i]——前舌面を充分上あて〔晉口蓋〕に高く上げなから発声される前舌母音。

<sup>(</sup>i) いはウるグラナフート文字も 技字における上の検修を貯去した一孔をご相違ない。またいはゆるペノガール文字や西蔵文字も同じく数字の一支形にはかならめ、ヒノディーの手紙でもグラナラート四回程 物能がよく右がれる。

<sup>(2)</sup> 本項の見出しを限り 音標文字でかすこととした。

- (4) [1] [1] まりも長音であるうえに、舌と上あごとの間のすと間を一層狭めて発音される。 、
- (5) ▼ [u] --- 口を円めつつ。舌の核常を軟口蓋に高くしながら発声される状舌に音。
- (6) 等 [U] ― マよりも長音であるうえに、舌を一層緊張させて発音 される。つまり、まと 着 との関係に似ている。
- (7) 第【ii] これは単にサンスクリット割の字母表で母音扱されている関係で、ヒンディーでも囚智的に母音の仲間入りをしているが、事実上、ヒンディーでは母音でなく、単に子音と知母音とが結合したまでに過ぎない。
- (8) 『「[e] ― 口を半例にして発声される長音の前音母音。 しかし、ヒ ンディーでは、短音になる場合もある。例えば、『で ek [1] では反音で みるが、表で付 děblia 「インド首類名」では知音である。
  - (9) 【[re]---即ち、いわゆる ai の音で、半隔の前舌母音。
- (10) 到 [6] 半閉・長音の後舌母音。 で の場合と同じく、これも効 折ではたと人長音でも、ヒンディーでは約折短音に発音されることもある。 切えは、対対 たわりは「小さい」では長音であるが、前表で möhar\* 「刺印」 では影響である。
  - (11) af [10]---即ち, いわゆる au の音で、半期・長音の後舌母音。
  - □ で や 前 の言の長短を区別するために、特に施音を示すために、 積積の終 おを技能にするといった試えもあったが深た一般化されるに至っていない。 例え ば、 邦語の f 広告』にしても 南南南東 としか書けないので、 長音と短音との区 別ができない。

なも全母言は有声であること舞論である。

#### 2. 子 音 (해제)

- (1) 事 部類――も石を軟口蓋に接触させなから 発育されるの。」、 つまり軟口蓋官である点で同列の5字とも同してある。その、5、母音を「g」、U外の 事 [k]、等 [kh]、年 [g]、軍 [gh] は乾契音でもよう。

- (4) 可部類—一百[1], 甲[16], 〒[4], 甲[46], 〒[6] とも広いを上供に広く接触させながら発音される。 占約を根準に付けて発音される以下の甲以外は独名の破裂音である。
- (5) 可 部類―― [p], 写 [ph], 可 [b], 可 [bh], 可 [m] とも | トの口 びるを一緒に接合させた後の急速な分離によって化ずる同样音である。そして、可以外はやはり破裂音。
- E3 1)以上、5億額の個の破損管中の ま、可、可、の3分、1:とも、5つ初めた 用いられない。そして、その す と す とが下に次に求る他の子言、とお合する だけて、決して単独に用いられぬに対し 反射的外音と 可 はー、アのおりや一音 節の初めに用いられることがある。
  - 2) す は例えば て著 [run] なとと 9 音を採う場合が 夕、 阿仟で ngー[n] と作される。そして、 対 (重) は著音であり、 す や 可 は 赤すのそれ らと 艾らな い。

しかしたがら、以上の5身者字とも、4半段者字や4定約さったどの文字に おける場合と同様、5 可可の各子音字の訂でも、いわゆる Anu svāra (・) が よく代って用いられる。m

위, সত্ত্ব angs [子足]-সন, বাস্ত্র shankh ে [貝だ는]-সন, বজনার palijāb [州名]-ম্বান, স্বায় andā [原]-স্থা, ব্লাও candra [17] candar [月]-মুর, ন্যনা lambā [丘나]-ম্বান্ত (টাডাম্ক্রম্ম)

- 3) 上記「さ 部類」の5 舌音は邦語や英語などには見出せないものではあるが、それぞれの国語の近接音を探り入れて、英語のもや d に さ、ま つどの舌音 守を当てている実情であるに対し、邦語の「ト」「タ」や「~」「ア」には、有、そ かどの傷音でを当てるのが辛当である。
- (9) 半母音(明可研)――第 が子苔の性格を備えた母苔とすれば、耳や耳も明らかにそうである。

<sup>(1) 「</sup>子 部間」及び昨々 早 と置き性x られることのある そ の前では ぎ のように、また「Ч 部類」と 弓 の前では 耳 のように発育される。

<sup>(2)</sup> ただし、気曜(7) その他名于証では置き換え不能。

て終るとしても、俗音の用いられる現代語では単に軽い y 音になることか多い、例 可収。jaya. jay「籐利」、राज्य rajya, rajy「統治」

そして、この य は、ヒンティーにてよく ज に代明される。例 यमुना Yamuna \* 5 [別名] → जमना, योगी yogi s 「行名」→ जोगी。

なわまた  $\hat{\mathbf{u}}$  や  $\hat{\mathbf{u}}$  はそれそれ  $\hat{\mathbf{u}}$  や  $\hat{\mathbf{v}}$  をも容かれる。 例 可能 $\hat{\mathbf{u}}$  に [ 要 5 ] 「知ばならい」、 何々  $\hat{\mathbf{u}}$  ing  $\hat{\mathbf{u}}$  に  $\hat{\mathbf{u}}$  に  $\hat{\mathbf{u}}$  の ために」、  $\hat{\mathbf{u}}$  で  $\hat{\mathbf{u}}$  に  $\hat{\mathbf{u}$  に  $\hat{\mathbf{u}}$  に  $\hat{\mathbf{$ 

- (ii) ₹ [r]---英額の r とは全炉造って。 着舌にしなから上根の假く とも舌端で素早くたたいて得られる。
- (m) ぎ [1]――空気か口の両側から漏れる間に、 石絵で硬口蓋、 即ち 上機の抱くふを圧しなから発せられるいわゆる側首である。 英語の 1 より も一層音響も 神い。
- (w) 可 [v]——下降を上倒と上野とに採触させながら空気をそれらの 間に巡して発せられる機管音である。その間、自然に廃跡も起こるわけで あるから、次項の存置音の節類に属させることもできる。そして、この半 母音は點原や一貫にわける位置の相違によって多少の音変化が見られる。 すなわち、例えば、初刊可 abhaos 「我国」「不足」、初刊可行 bhag wan s 「神」、刊可 bhavas ibi bha'o 「性情」「相場」などにわけるように、w や 0 やの伝音も聞かれぬてはないか、原則的にはサンスクリットの音は v 省てある。例 可可 vayu「風」「空気」、前刊 jivan「生活」、引力 jiv「生 物」「施物」。

現代型の時代、概して語や一音節の目頭や中間では w に近い音となる か、それらの末尾においては一定しない。 例 可を wah 「彼」「それ」, 可数 wahan 「そこに」, 可可可 Cáwal 「米」「飯」, 可可 ganw, gán'o 「村」。 なお、梵語の 可 は、ヒンディーに借用されると、よく可に変る。例 可可 van 「森林 ニョー・ラマ veda 「インド教聖典 ニョンマ hod

- 医智上、中母者とされる上記の4文字中、音声学上真に半母者と称し得るのは、する。可のだけである。
- (7) 摩擦音 (ホエリ)——硬口蓋によるこれら無声の3 摩擦音は、次の 気管摩擦音 きと違って、共に「しゅう」類似の音声を持つ描擦音である。
- (i) 智 II 舌端を上あごに接触させて発音される点では次の マと似ている。たた。舌の接触点において、マ の方が マよりも幾分後方であるというだけの相違である。しかし、ヒンディーに関する限り、両名側に変わりがない。
- - (m) Ħ [s]---上街を舌端で圧しながら発声。
- (8) 反転音 ₹ [r] と ₹ [ri] この 字は 発語と 無関係な 準 一の ヒンティー 特有文字で、一切の外来語にも用いられない。 この四文字 こそ 代表的な有声反転音で、 五端を核方へ巻と上げながら 硬口蓋をできるだけ 広くたたいで発せられる音である。 この ₹ も他の 有声反転音 ₹ と取り

<sup>(1)</sup> Urdu 終では 可引 は wah と発音される。同様、Hindi の 可引 yah 「これ」も、Urdu では yah と発言される。しかし、Handi でも Urdu 次に多言されることが多い。[約ペーノ (い) では]

<sup>12</sup> 一尺にすが当てられるが、Urdia の場合の CP がやはりそうなので 当て字を改めたまでのこと。

替えられることもある。例 gifas drāvids「ドラーウ タ(H.ŏ)」→→ gifas.

### 3. 無気子音 (अल्पप्राण)<sub>co</sub> と有気子音 (महाप्राण)<sub>co</sub>

この関係は、「無気の断止音」と 1 有気の断止音」または 「落・図音」 と「溶・図気音」の関係とも言うことができる。前記 5 可可のほかに ま、 る の無気・有気の断止音を加えれば合計 11 個の無気・有気の断止音につ き百及したことになる。実験問題としては、独立文字こそないか、なわ樹 生行房音の nb, 曲楽音側音の lb, 他圣音反転音の rb, 両色音鼻音の mb, 個容音好響音の vb その他の有気音の成立も可能なのである。

ただ、ことに注意を要するのは、すべての気管字の気管は極めて低い。 例えば、阿可 kháná 「食事」「食べる」は、クハーナーてなくて取るカーナーに近い音である。9項 phals 「果物」「報い」「刀身」も、ブハルでなくパルといったぐあいに気音は文字に写せぬほどに微かに観える極度である。そして、基礎文字と気音字との間にほ音が置かれる。つまり前の文字に a 节が入るような場合には、例えば、考測可 kaháná 「書わせる」「名づけられる」、「現實 pahal 「側」「一切」(丁や性花などの) などと、全く別語になる。

#### 4. Tatsama (तेल्सम्) ह Tadbhava (तेल्स्)

これは重原に関する問題である。語原の如何は発音を初め、ある程度文 法にも影響するので、とれを常に心得ておくことは相当に必要である。 レンティー材成類の人部分を占めるサンクリット由来額中、原語の形そのま

<sup>[1]</sup> alpa 「小さい」。pran 「呼吸」の意。

<sup>12 「1</sup>じく「大きな呼吸」の点。

のものか Tatsama「それ(梵語)と同一の」と称され、原形の崩れたもの、即らなまった形が Tadbhava「それ(梵語)に起原した」と称される。 向古が特に文学語の名詞や形容詞に多く使用されるに対し、夜省はのらゆる品詞を通じて取も多く使用される。例えばサンスクリットの 写す sūrya 「太陽」、「有項可 tra gupa「3 倍の」、兩何 agm 「火」などか、それそれ 項で sūra」、「有項可 tra gupa」「3 倍の」、可行 agm 「火」などか、それそれ 項で sūra」、「有項可 tra gupa」「3 倍の」、可行 agm 「火」などか、それそれ 項で sūra」、「有項可 tra gupa」「3 倍の現代詞になまった類である。 また、任者の部類では、否定詞 可 na 以外、語の末字の子音字が a 音 を有しないに対し、前名の部類では、原語通り、よく a 音が発声される。 例 質素 buddha 「仏陀」、新雲 mdra 「宙門の神」。

1) Tadohava 語の多くは信託 Pra kṛt (河東市) や単正 Apabhransha (朝田市) などの過程を軽て現代化されたもの。しかし、現代の文学活では Tatsama 。接使用の傾向が弱水落しくなっている。

2) サンスクリット系統の語以外に、主として前方の Dravida 旅ごに由来 するものを切めとして、アッヒキ語、ペルン+高、トルコ語などを差す回数党の 泛入や近世におけるサルトサル人、イキリス人、フランス人などによる実致に起 因して、それら数々の外来語か少なからす混入していることも自かである。

5 昴音符 Anu svåra (अनुन्तार) と Anu nåsıka (अनुनामिक)

反照の母音の上に一点を置いて表わされる Anu svåræ=Anu smår 「母音の後に」と、同じく長短の母音の上に置かれる一点を半月即で包んた記号(\*) て表わされる Anu nasıka 「舜を経て」とは、五によく似ているのでさたわらわしいものがある。 会者の記号は candra binde (マスロマ) 「月 (印ふる) 片」と呼ばれている。

Anu násika は長短母音の鼻音化を示すだけで、それ自身何ら明確な者を持っていない。例 青年で hansná 「笑う」; 青 hún 「である」(ア1人れ

単数3、項材 wahán「モこに」、文明 項明 dá'en bá'en 「左右に」。しかしな から、この \*\* 田は必ずしも数格に守られない。たさえ、原則的には長時 省や二重母音の身音化に \*\* が用いられなければならぬとしても、ただの 一点、即ち Anu svára を以ってされることが少なくない。殊に、横線上に へ、、、、、などの母音節合字体が用いられている場合にはなおさらそうであ る。初 第 \*\* manf 「弘」→ 南;前 \*\* men 「(の)中に」→ 南,東前 \* kahín 「ど こか」→ 平前。

一方、Anusyara が行音に 従いなから ま、ま、ま、ま、ま など外音字の代 用として当該部類の子音字を初め、一切の子音字の前で、cn 丹音または短 丹名 a にて発音される時の子音字の上に置かれることは低述の通りであ る。 例えば、可可 gangā (河名)=可賓1。の 可 は 夏 と 夏 と 夏 と の 粒 台外であるに 対し、可可 ganwār 「田舎名」「哲學な」の 者 は短母音 ず の私名化した 者 が 豆 と結合したものたのである。

ただ、明粒に含えることは、Anu násaka は常に「ン」としか発音され ないが、Anu-svára は次に来る子音字の種類如何です「ン」、等「ニヤ」、 す「ス」、写「ム」などと多様に発音されることである。(8ペー)(備考)2) かり、

CE 氏 」に代すたく、具質化等音され Anu swâra で表わされながら Anu naiska のように発言される場合ものよくないため両者のは常にますます成長するほかしい。一般に手配えまでは Anu náiska を用いないし、異数にさえ Anu skâra とうできまして、るものもある。

# 6 别众百符 V<sub>1</sub> sarga (विसर्ग)<sub>का</sub>

+ンスクリ 1の字科をでは、存録音化母音として扱われていても、現 (1) ただい、可の可ではヨのように見合される。例、現場市 marpakt、「核合した」 (2) [つけ] Fできるのか。 代語センディーでは知道の そ を示す思好として、 野音学または短月音 a に発音される子音学の役に関かれる。サンスクリ 「からの借用部に用い られることが多い。例 ga punah。「再び」:河中・práyah。「一党に」。 ただし、次の落門では Visanga の名歌も可能である。 ■ cha 「6」;

ただし、次の用門では Visarga の省級も可能である。 ■ Cha [6] i g rt dukb [256]; 知可、和可 pratah kil = 「例早く」。

### 7. 外来在 (विदेशी ध्वनियाँ)

削捌の子育子はたは f や z の音が欠けている。そのほか、ベルノャ 別やアラビナ別に特力な音も欠けている。それらの外来音を不すためには ある特にな Ndgari 子母の下に代を打つことになっている。何 ギモ j q ・ マニャ kb, ボニミ 8, ボニシェ, フェ) えね. ひ ま, ヒェ, ギニ ∪ f

- (i) す [q]——ペルンンやアラビヤからの結用項にしか見出されない。 できるだけ、のどの更から出される有声音。
- (h) 可 [x]——元末、アラビア門由来の子音なので同門やペルノー語からの信用語に用いられる場合か正統的に多い。 普通の 司 よりも一切更から出される集場官の軟口盃音序写音である。 近り仮名で扱わすことご覧されるならば、可 がク (カ) ならば 司はフ (ハ) またはさなのである。
- (m) 可[9]――中や可よりも一層使に強せられる軟口五首の存物音で ある点で 可 と同一であるが、異なるのはうかいをする時に発力される 「グ」者に似た有力音であること。
- (w) 可 [z]——これには、上で支示される通り、ペルノー 別に 特有な zh=[3] を含む5種の z から成る軟管有荷の口道原製管が包括される。 4 種の z とも区別して発音される フラビヤ語の音ではあるが、ヒンティーではペルント音の zh を含めた5字とも 一様に z の音である。 それど ころか、 転数行者間では 可 と同音に発音されている。 つまり、 彼らの間

ては、字母去そのままに、可 音は無いのである。

- (v) を [f]--下唇て上脚を圧しつ x発せられる無声の歯唇音摩擦音。
- 1) 上記の5外来音とも立しく発音される場合のことて、一般大笑の間では 年に 可の場合と限らす 事、初、事、事、可、事、可、事 同性に発音されること まなに そのために 下の声さえよく右かれる。例 可利す samin r [地]「た り」」」上述 → 可利可 pamin、可同f 転配 x 「空しし」「からの」「た」「注り で → 可同fi。

2) 一語の末字として a 青にたる場合の Urdū 語の N h か Hindi に移さ れると ほとんど常に 研 a で表わされるか。まれに Visarga でおわされるこ ともある。例 舟 tha [6 曹=昭 , みゅ darpa (『社度』「位』数文』=東京 『ママホーママス 。

ごの辞字、前名、すなわち 研 てまわされる場合と Urde 器の alif (I) で持わる場合とか区別し続いことになる。そのため、せめて本書で次用のローマ テては m 古で発音される場合の M は単に a をもって、alif の場合は a をもっ て求わすことにしょ。

### Ⅲ 文字の結合(अक्रों की मिलावट)

(1) Nagari 文字を結合させる場合と単に 横に並べる場合とでは発音 か成う。例えば、ローマ字は単に並列されるだけで決して結合することか

<sup>(1)</sup> लिख, त, स्

ない。可で narak s 「奈然」「地球」という語も、単なる文字の並列であって、結合でない。

(2) 結合に使用される「中間母音」の形については既に「母音去」中に紹介答べてある。用例 ず kā, 行 ki, 前 ki, ず ku, ず kū, ず kū, ず kū, ず kū, ず kū, ず kau。

1 記の通り、短母音 まに限り、発音順に並配されない。母音字の結合 に関してのもう一つの例外は マ や ま が子音字の マ と結合するとき正規 の中間母音を マ の真下に置かないで、モ ru. マ rû といったように別便の 字元か用いられることである。

- CED Urdu 否に立んに用いられる ベルノキ語からの信用接続調準機件代名。 メは Hindi にて 存 ki と変かれながらも、実際は本語のイップ間における場合 合同は、A&b と発音される。同じく、接続。可能解 kyon ki 「なせならば」も、 「キョーン・ケ」と発音される。
- (3) 結合の重要性は、母音の場合よりも子音の場合において一層大きい。それは、Nágari 文字か邦顧の仮名文字関牒、原則としてすべての子音字が短母音 する 工終るようになっているからである。この a 音を表わさない、つまり子音字をして本来の子音即ち弐音にするためには、前配の通り、子哲学の下に Vi rām (何可可)「停止」の行号(、)を繋くか、次の文字と結合させるかのほかにない。この Vi rām の行号のある子音字がHal (表刊)「母音を伴わぬ子音」または Hal anta (表刊)「子音で終れる」と称される。例 可 g。しかし、この「防止行」(、) はよく省略される。

各文字は、それぞれの字形に違いて4種の結合法に大動される。

<sup>(1)</sup> 死の中間持者がその他の子音字に付いた時の何をなまる干傷けてみよう。 で、で、で、で、で、で、で、で、す。こ。

#### (1) 乖直袋ので終るもの\*--

स sha - र sh,

ख kha — रू kh. η ga - 1 g, क ka — क k. ਚ ća — ਙ ć, লাa — ⊽াঞ 덕 gha - 토 gh, ण na — ग n. ਕ ña — ≖ ñ. 新 tha 一字 th. ਬ dha -- ≅ dh. य tha -- ह th. ₹ ta - ₹ t. फ pha - प ph. ч ра — с р. z na -- 7 R. # ma - F m. भ bh - F bh. a ha --- 6 b. ल la — ह l, क्र पत्र — 8 V u va ⊸zy

ष <u>ईव</u> — ह ई

納合例。 बया kyā 「何」,和理 bhāgya s 「運」, सन्त sant s 「聖人」, सम्मता sabhyatā。 s 「文明」,सहित्य sāhuya s 「文字」

स sa — ₹ s

【記 本項所属のある 種の文字は 場にも嵌にも 任党に 結合される。 例。 荷=石 tt(a); 荷=石 nn(a)。 この社か、同一文字では ぞ、弓、弓 などがよく 板に給

合されるばかりでなく(4) னと च, प と त, ब と न, ब と न, ग と न, 平 と

त, प と a などもよく数にも結合される。 as

(n) 重直線の無いもの:-

<sup>(1)</sup> おかね 「は 引ぎ と称される。

<sup>(2)</sup> 同一字の数合例。 ラ。

<sup>(3)</sup> たずとの数合 何。 別、祖、初、祖

<sup>(4)</sup> हा, क, बाहा,

切 それぞれ 富, स, 其, 其, 其, 市, を などとなる。なお、みーガキオ・ゲホくだっ られるほかに、其, 其, 其, 其, 毒, 毒, 毒, ま, ま, などもまれに見られる。

경 ddh(a); Z db(a); E dv(a); 및 dy(a); 및 dbh(a); 튽 hl(a); 귬 hn(a); 급 hv(a) 탱 hy(a).

この印の字型の文字を横に結合するためには、先立つ文字の下に Vi rám
 の記号が置かれる。何 そる sph(a)=ξ; ₹3 dd(a)=ξ; ₹4 hm(a)=₹5。
 2) は が4項所式文字に伴われる時に限り ♥ の形になる。例 まず, 5寸。

(m) その場合:一

マがマやまと結合すると、マやモの形になることは既説の通りである。このマが長短の母音に先立たれながら無声になる場合、マの形を採り、次の子音字または長短の母音字の上に置かれる。例 マイ svargs 「天国」; マイオ darjan。エ「ダース」, マイオ kârya。「仕事」, 東行 mûrties 「俊」; ママイ mûrties

そして、てが無項子音に先立たれると、その子音字の結合字体の真下に 短い斜線を接合して表わされる。例、 $\pi \ker(a)$ ;  $\pi \operatorname{gr}(a)$ ,  $\pi \operatorname{gr}(a)$ ,  $\pi \operatorname{tr}(a)$ 0);  $\pi \operatorname{dr}(a)$ ;  $\pi \operatorname{pr}(a)$ ,  $\pi \operatorname{pr}(a)$ ,  $\pi \operatorname{tr}(a)$ 0);  $\pi \operatorname{dr}(a)$ 0).

は(a) まい(a) すか(a) ずか(a) であるとき、その文字の下に、印が置かれる。で if(a): す dr(a)。

(iv) 없=요: 호=요 ...

この2紅の合字は、上記の 可と共に特別扱いされ、ヒンティー 辞典に おいて、字母表の未字 その後に 順次配列されることさえある。 87 ks(e)

<sup>(1)</sup> 結合字体は こ。

<sup>(2)</sup> 月、月、月、長、春など皆縁なさる。これらの末首 = は、一語の末足によける他の 于首字解像、たとえ サノスクリテト からの 信用語であっても 発音されない。例 マデア candra g [月] → candra 仏音で tandra と発音されることさえある

<sup>(3) 74</sup> のように発音される。

は ぞ とな との合字であり、新 jňa (または gya) は ず と み との合字 である。

なわ、1:川内ドの発音を有する a にあっては、jňa 音は サンスクリ 1 の打て、gya 音の方か現代のヒンティー音である。例 明日 gyán, jňán s [知識]、元行明 pratigya, prati-jňáe s 「約束」、明明 ágya, lijháe s 1 かかしたがし、

□□ 紅、耳 の結合 計体は、それぞれ る。ま となる。

### N 文字の占書方 (अक्षर लिखने की रीति)

いわける 作まわしについて一言するならば、大体次のような順序できかれる。い 基本となる文字。(u) 中国母音 (uu) Anusvára (u) (uv) 上の 模様 関々の字形にも図るが、本言語が左言きであるだけに、短して左上から右下へと理事される。

次に信々の文字の筆法について述べてみよう。

- (1) マ、和、南、南などでは、先ずるで始まりゃからみとなる。そして、本文字の実形可は、、キ、みの順で書かれる。
- (2) まやまは、ローマ字のSを書く場合と似ている。即ちも、まの はである。子言ので、こ、る、ま、る、ま、など垂直線の無い文字も皆同様な 作使いてある。また、同じく垂直線の無いまは、先ず外形と 遊牧におい てローマ字のSに似たものを言いてからまの形にする。
- (3) まの計合をなするは、その場合同様。アラビヤ数字の3を持く 時の気持と界ならない。つまり、すもまもまやるの形を持いてから 1の方出張りに右の曲張りを紹行する。
  - II TATIL Anu nisika (+) b-ARTIGERIES.

- (4) 元 も先す左からの本の短縁でっ 孔ま作り オ 无にすっことは子 \* の台字 年 ( 〒+〒) の場合と同している。更に垂直線の右側の部分と 移っといった順字である。
- (6) ず 共 年 3字の筆法は似ている。 てれてれ す 年 す よとの文字 の」の似物のよいものから始って運直線の右側 まや部付して キ キ 年 よとの形してる。
- (\*\*) 可は先す。 死ッ害 てから機の短縁を添えて ロ 死し さへ。 図 の 下使に も同し、とで 免す。 死ッ作ってから機の短線を形える。 甘 も く 耳 や作ってから短線 > 配えて モ し すっ点が 似 し る。 また 本 の別所 甲 ち ま で 於 か まとする。
- (8) 可の はいったん左下から結び目で作っよっなし地で石へと短衫 引く。この他 すや 可は ナナ すや 可の中に斜枝を入れた け。こ す つ で は先す 可 ご きょ と は で さまな で は 先す 可 ご さ と は た す で 書き 出す時のよっな 気持て始まっもの。
- (9) 不規則合字 司 はアッヒト数字の2~音く時と同し気持て先す \* イドゥーカら 上の短線 更に短線を加えて コ コ にす o。 い も 同様 2 ~ 生くような古を出して & ff ~ 作り 次に右横に短線で落えてを ff じす っ。
  - (10) 予治一般の合字では 存はしゅ 何の願て むはゅゅゅ

<sup>(1)</sup> ナンし 引はまず右上か プ下へと言かれっ

<sup>(2</sup> か上か 左上 と) 3る

の順て、前は申申可の順で書かれる。

【図 1)其品やマファィー語、使用される 否 は先才在上が の右下へと ファミ 数子のきを左端に発せてのと語、てから め の如く石上が 短いひもと付ける 2)かつての西洋における月ペッのように イットではオナトを始 よし ・4以、合分知び 前して作ったしかゆる竹 → が用いられている

### V 品の発音 (जठदों का उच्चारण)

いまのヒンティーはサンスク」」トに由来するといっても この単語の 発音は、Tatsama てあるか Tadbhava てあるか ま・外来。このるかに よって、それぞれ違った制行のもとに発音されている。 マノして 本節の 記述か勢いとンティー単語の最大多数を占める Tadbhava 即うサンスク 」」トのなよった 五本位になりからなのはやむをえまい。 芸 即ら単計の 内容かとうであろっと、短日音 \*\*の無いことを意味する子音やの私合学体 や反短の母音を伴う子音子の発音は論する必要のないほと明征であるか 個の独立の子音字か幾つか重人でいたり、あるいは一子音字か上短の行う の間に介在したりする場合の発音があらわしい。 つまり これは音節の切り 方の問題でもある。これについては、今日まで未だ確定的な観定さない。 をかまたは単に多数のが解しなから、ある程度の規定もしいも のを作成しよっと読みたまでである。

- (1) 一覧の初めでは、芸原の如打に関係なく短母音化する。例 すす pals 「水」、キャ man 「4」」。
- (2) 一省の末尾ては Tatsama 語でない限り 短母音化しない。例 理INIC vyopâr 「商尤」, 四国 byaj 「利包」。

<sup>(1)</sup> 以下 本数でいう「子下字」とは いわゆる「結合字体」でない \*立て体が定りされる

- (3) 民族の方首に先立たれる3子音字語では、その第2子音字も短時 音化する。例 可表 lahar。「数」「感情」、明明 gapar。「人な」、東朝 pūrab「ヴ」、前頃で bhitar「内側に」、草南 paidal「徒歩で」、草南 men dhak「かわす」。
- (4) 前項同样の3子名字記であっても、末字か長月音を伴っ場合、長 短の日音とこの長日音を伴っ子音字との間に介在する子音字は短日音化しない。 例 आगरा agra (市名)、電荷 dehli (市名)、マモ和 patna (市名)、電荷 la patna 「次20」、電荷 la patna 「次20」、電荷 la patna 「か21」、電荷 la patna 「次20」、電荷 la patna 「か20」、電荷 la patna 「か20」、電荷 la patna 「か20」、電荷 la patna 「か20」、電荷 la patna 「八百屋」、町収分 jannpra 「小区」「ちの町 thongra 「あびの」「背の小さい」。

ただし、(a) 元ヶ母音を伴わぬ原題か単にある廷の核尾部を熱けされた ために この大字が長音化されたような場合とか (n) 断止行かめ た り、斜台字体でできない限り、常に全子音字が短母音化される習慣のたれ 由すってきれば、元の通り短母音化したままである。例 (n) आ arai árabis a 「アッヒーデ」、前記む titar is 「蛙しゃこ」、和刊 magar is 「吐わに」。(n) आ arai athavas 「または」、 和 na janatas | 人象」「人の少り」、 和 na zojanas 「空間」「計画」。

【記】 すべっちに 可 na か 取がし f 3 f â f a 5 成るむ りかごはは 1 页 (3) しざっするものではあるか テの元 Tまでは投充しまして T2 f â f a b けらでに (1) → "し ペーペ! "はこのかしはまではまっかものもかめされる だ 3 7円 ram 』 「F ま! しかし しれは 代か とからもくきかれることある。 (\* ct. の3 の4 年 1 例は「ごづ」をおすかめのでは ! か その色の2 円としば」

『 これ」の3円に 〒15位 [25]をオチナめの交流は「ボ そのため2件とも「草 でっすートノアー祭で辞べる付された一めに子され及称でしたもの。

- から非・明治化に交合すめに 所属か本項に支更される結果になる。例 平田田町 samajānā 「丁解する → 平田町 samjān 丁門した」 → 平田田田 「細方古る」 が行さる。 が行する」、 5吋で町 dapaṣāā 野かする ゼキィエ 。 「なんと を」」 → 5吋では dapṣā「韓命し" æしたてが → 5吋で町 dapaṣāる ら たとか) かますてきせる。
- (5) Tatsama 語にして、短時音と 子音字を伴っ長母自との間に介社 する子首字も短母音化する。例 अपमान apamán 「短」 अपराभ aparodh 「犯罪」、उपनार upakar「親切」を把」、उपरेश upadesh「告告」、て中前布 Tamanik 伊護ない。
- また この場合、「人」を示す接尾辞書 か歌付されても 同しことてあ る。例 अपराधी aparadh:「罪人」, उपवारी upakar:「悶人」。
  - **CED** たたし アフビヤ語やペルンマ話からの信用語であれば知识哲化しない。 例(1) S可付所 1月85 x 「会判」、 司奉荀で tagding x 連合」、 守て司長 par
- wāh,』: L配j, 河南明田 almas r 全刊石。 (6) 4子音字語では交互に短母音化する。例 可るge garbar。[第
- 記」、「GCRR Abajmal 「南空山」、4円町 malmal 「モスリン」。この場合、 太学か長時存化されても同じことである。例、平円町 kalkatta (市 名)。
- (7) 接頭部の酸水にある子育字は常に短母音化する。例 भगजन adh jala 「半線の」、अनुभव anu bhav s 「推成」、要項報 dur gandh。」「要 以」、行まて m dar 「張林ない」、中初可 para jay » 「敗北」、 知可可 pra vaćan » 「宜古」、平和信 sań gati » 「公台」「交際」。
- (8) 核尼耐の前では短時音化したり、しなかったりする。 すなわち、 (4) 某門の女性族尾辞 初 や男性族尾辞 丙 の前では短母音化は一定しな いか、(h) その他一切の核尾酔の前ではほとんど短野音化しない。例

- (1) महाय sahay, sahae s 「助け」+ता -महायता sahayatı, s 「突助」, मफन sa phal s 「成功せる」+ता -मफनता sa phal(a)ta。 「 派功」, राम dasa (4,1 dás s 「奴隷」+स्व tva=दागस्व das(a)tva s 「郭闳」=दामना dá sata s sata s s
- (ii) द्यामवत desh bhakt s「受国者」, घनवान dhan van s「企符ら」, नरकवामी narak vasi s「始決の住民」, नाचना nać na 「預る」, बानहर bal hat 「子供の気ま立」, नडकपन larak pan 「少年が代」, समपदार samajh dar 「質い」「分別のある」, जयपुर Jay pur (市名) (18年2月19年)
- (9) 短日音化せぬ子言 即ち結合字体子育字の面前・直径の子育すま 短日音化する。例 आ取収率 akarśan s 「能力」, 3元平 utsav s 「斧」, 東京平 mahatwa s 「微大」「誠性」, 5束 charma s 「秦伝」「喜び」
  - □ 1) たたし ナとエ Tatsama であっても 現代のですてはかほったされたい。 の 項書店 murkhata。 あり、知書司 prærthanā。 行: 」 ままま、 対するの præ sannstå。 上きけん」なとは 一般レールネれ murkhtā prærthnā præ sanntā なとの信ぐの方が用いられている。 つまり目 3 (8)の (1) 項の (11)項で転換したことになる 同様 管する citra Elvē citr できてある。
    - 2) Vi sarga や Anu svāra か合む一切の見言の前では対縁管化すっことも 既認の通りである。何 朝司 atahs 従って「それ故」、司司 graúths た」、 料理司 sam bandh s 中国可同語「民格」

## (FF) 音 並 IV

アクセントの問題は、地方別とか哲卓話と方言との別とかの話を内によ

って必すしも全土一定というわけにゆかないことは他の口語の場合と変らない。本語にわける大体の標準形を示せば次のようになる。

## 1 二音節語の場合

- (1)第1・2音節とも、(1)短音節か。(n)または長音節だけであるとき、前の方に独音が置かれる。例 (1) 更何 kt/sias 「農業」」、表現のsvá yans 「自身」 (n) 研研 a'shā,s 「願望」、 「東州 ch'-nā 「石灰」、 ずかす can kia 「藤樹け」。
- (2) 両音節か長短の両音節から成れば、強音は長音節の上に置かれる。 例、収む gha gi's 「跨計」「24分間」、収配 述'ttes 「種類」「階級」「種 策」、際町 htm s&\*\*・「殺害」。
  - (3) 次のような場合には平たん音になる。
  - (1) 第1 密節か長母音か二重母音かにして、第2音節が子音を伴う長母音であるとき。例 河町村 bird cal [地震], 代町で di-wārer [壁]; 司町村 cau pāl [計の集会所]。
  - (ii) 関省節とも短音節にして、後者のみが子音字を伴うとき。例 現式 caturs『真明な』「上手な」。 තるす bha-jans 『礼拝』「聖歌」; उपज 11-021×8 「収穫」。
  - (m) 第1音節か短音節、第2音節が長音節にして、両名とも子音字を 伴うとき。例 अभ्यान abh ydas 『神智』; स 元表 san dehs 『疑い』, स 知に sam ráts 『囲王』「皇帝」。
  - (w) 第1音節が子音字を伴う短音節、第2音節が長音節で終る場合。 例 标列 kan yéas 「頭」;「中町 Cin-tâas 「心蚕」」;「中町町 likh nā 「杏 く lo

<sup>(1)</sup> Anu evāra は見ちであって文字として放えられない。

(v) 両右節とも子音字を伴う短音節にして、第1音節が ξ 音、または す 音を行し、年2音節が す 音を有するとき。例、記述 in-dhans「新」; ではず ut savs 「住節」「祝祭」; 再なて sun-dars 「美しい」。

しかし、河南南 an ban。「不和」「けんか」や 可可可 jág-mag。 「きらめ き」などは、※ 音のある第1音節に符音がある。

### 2. 三省節語の場合

並言が一消の制にあるか後にあるか。それとも全然無いかの3種が二音 節消に見られたか。この三音節語の場合でも。並音が前に起る時。中間に 起こる時、および前ともとに同時に起る時との3種がある。

- (1) 一般に第1音節が子音を伴うと否とに関係なく。(i) 3音節とも 反音節である時、(ii) または3音節とも子音字を伴う短音節である時、共 に第1音節に短音が関かれる。例 (i) आगाभी a' ga-mis [来るべき][未 来の], पाठ्याला pa'th shá lá \*\* 『学校』。(ii) निस्सन्तेह ni's san-deh 「疑の ない」「確実な」「もちろん」。
- また。(1) 第1音節が長音節。第2。第3音節が子音を伴う短音節である時。(1) 第1・第2 音節が反音節。第3音節が短音節にして、子音字が 第1音節と第3音節とにのみ存在する時も同様である。例(1)列車収率 d'-vash yaks 「必要な」「重要な」。(1) 中収収度 mém-şa-ḥabss 「典さん」に加
- (2) 3音節とも短音節にして、(3) 子音学を全熱性わぬとき (b) 子音 字が第2・第3音節にのみ存在するとき、(b) および第1音節が短音節 にして、第2・第3音節が長音節である時には、共に強音は第2音節の上

<sup>(1)</sup> イントの召住達が外間人の大人に向って用いる語。とれば格語で。ment săbiba が正しい。

に置かれる。例 (i) 海南垣 a-tí thus 「客」, 現時信 su mú-ti<sub>s</sub>s 「良い心」 「良識」。(n) परिषम pa rísh ram s 「鲁新」「勤労」, 河垣寺石<sup>\*</sup> u dhil.-tar s 「より多い」「紀大の」。(su) 寺市町 a no-khā 「奇哭なりがするしい」, 信では「vi-ró-dhis 「敵」。

また、第1音節か短音節、第2音節か及音節にして、常1音節か子音字と 伴う投音節か短音節かである時にも同様である。例 「中間で li-khá' watu 「古き方」、可可で ba ná'-wai、『得虚』「発虚」、可可でで la gá' tár 「総ん 聞のない! 「続いて」。

- (3)次のような場合には、第1音節と第3音節とに強者か置かれる。
- (4) まず、第2音節が一様に短音節であるということを前提として。 両週の状節が投音節であるか、または子音字を伴う短音節であるかによっ て、さらに四つの場合が生ずる。
- a) 函数が長音節のとき。圏 भारण dhá-ra-ṇá/\*\* 「記憶」, भीतरी bhí-ta-ri' 「丹國の」; 和尼町 v.バ-ti ká/\* \* 「小庭」。
  - すに kát já 「とけ」「小さい行」、明で相 はため。「ハルシャ語」「イランの」、「利可的 bát tie=可配合「バケッ」「おけ」などは、たとえ外親は似ていて
    - 6、大元2音節語だから問題外である。
  - b) 成装とも子音字を伴った短音節のとき。例 qqq w a pád pan káje 「はすのような足をした」。
  - c) 第1首節が投行節にして、第3首節が子哲字を伴った短右節のとき。
     例 刊報知者 sá'wa-dhá'n。「社意深い」、刊取行称 ná'-ga tik、「市民」;
     表行をて há'-ni kára「行祭な」。
  - d) 第1音筒が子音字を作った短音節、第3音節が子音字を伴ったり伴 わなかったりする長音節であるとき。例 जरम्ब utkan thise 「心配」

「不安」,वर्तमान var ta ma'n s 「現在の」。

(n) 第1・第2音節か短音節 第3音節か長音節にして 全音節とも子音字を伴うとき。例 信号表明 hundus tân x 「イント lone

### 3 四音節以上の場合

- (1)全部か起音節から成るとき、木尾から第2位のものに当音が置かれる。例 अनुपरिचल a nu pós thut a の「出席しない」「欠席の」、牙信信は pra ti ní dhua 「代要人」。
  - □ この規定は短音的たけから成る3音的品にも適用可能である。例 ので何 a rú che s 嫌強力。
- (2) 長音節か 一つしかないとき、その上に強音が整かれる。例 8桁和IGH a bh vá' dans「会敦」、云明表で u da' ha rans「見本」。
  - 正記 専項信用 ku mu-di ni ss 「水塞」のように 他か 皆独様者であって FR 引 か 唯一の長母音であるような場合は別として それに先立つ九母音の中に他の子 む字でもダうようなものか 在在すれは 独音は七の方に置かれる 5〕 で行わる pa vit ra tâ ss で起」。
- (3) 長も節か二つあれは前の方か 独音化する。 例 प्रारितापिक pa ri to-5ik s 「貫」 महान्मित sa ha' nu bhû ti ss 「関格」。
- (4) 短音節で始まり 3 長行答から成る點では、その第2と学4の良音節の上に社音が図かれる。例 甲代甲代 pa ro pa ka rt's 「同品深い」, 「春曜田田田計 vish vá's gha tt's 「夏切人」「不信者」。

<sup>(1) 「</sup>イノト表はの個」ので 教養ではヒノトウスターーデの本品である!!! のウヘタ プラデーノュ 両ち止等所のこと

<sup>(2)</sup> an は否定扩張計 uposth t は「出すせる」「草稿でる」のさ。

れるととした。一般に下降調と上昇調とに区別することかできる。上昇調としっても、最級の独有化省節に建するまでは下降調の音調と異えらない。そうして下 計画が、ある一定の事態を表示する普通の概止。合今、または短期調と自する原 間に、また上昇調が要求あらいは試るの起答を求める質問などの場合にはこるこ とも他図はとすらない。

# Ⅷ. 音便変化(सन्धि)

Sandhia (音の)接合」とは、「一額の末字と次額の初字との音便的接合」が意味される。その主要な場合は次の通りである。m

### 1. 母音の場合

#### (1) 同種母音

적 는 제, 제 는 제, 제 는 제, 조北ら 長短両母音の接合 は共に 제 になる。例 परम parama 「設高の」+제で제 átmå。「残当 परमारमा paramátmå 「最高の親」「神」; विचा vidyå。「如歳〕+제लप「栄」 =「विचालप vidyåka」「松門学校」。

#### (2) 母音転換

文法上、母音転換(『呵「鳳牲」)とは、母音の派生的転換をいう。こ こでは、マ や 呵 が現実母音と接合する場合である。すなわち、マ と 3、

<sup>(1)</sup> Cの Sandhi に関する知识は、党語の場合ほどに必要でないので、本言語の初学者には本 だを全性心的したからとて左続の不便不自由をも無じない。

たる。太匹に掲げられた例題はすって姓語由来語であるため本面では批算符を占移した。

朝 と 真 の各接合は共に 見 となり、同様、 毎 や 朝 が 〒 や 玉 と技合すれば一様に 前 となり、また 毎 や 朝 が 東 と接合すれは あて と なる。これらの 曳、硝、硝、 か、 それぞれ ミ や 素、 ま や あ 及び 班 の Gun と称される。例 परम + 祭祠て=परमेस्वर paramesh ars, parmeshvar ル「最高時」「ヴィンス特」、東京「大きい」+ 宮村南「大」=東京四南 maho taw 「大水り」、東京「空人」=東京四 maharfa 「大水り」、東京一年頃「空人」=東京四 maharfa 「大水り」、東京一年頃「空人」=東京四

### (3) 二重母音転換

### (4) 異種母音

- (1) 収, 新, 克, 新 か他の母音と接合すると、それそれ 4項、3項、3両、 3両 になる。例 第(=項+収)+第=両項。1872、16613a)「節刊」、前。 「新1+2項「1 1=可値可「節目」「前の」。
- (2) ₹, ₹, ₹, ₹, ₹ か異種母音と核合すると、次のようにそれぞれの同族半母音に変わる。
  - (1) すや 考が他の母首と接合すると 異になる。のすなわち、 まい まと

<sup>(1)</sup> यण सन्य स्कटंशह.

स २८६६ म, इ ८ च ४८६६ मू, २०८६ ६ ए ४८६६ में ४४६६ 🕅 इति [८२११९४]+आदि [४०४]=इत्सादि [४७४], स्रीम [४०६८]+उदम् 1 स्थ सि]=सम्बुद्ध abbyuday सिल्सी, स्रीम एक [1]=स्रोयेक pratyek [४४००](४४८.

TEI 1) Anusvāra か終行を伝えば 年になる。何 初 sam (一報車 と見に のごと/才接頭別)・利用する 恐わし 一杯町可て aum ācār 税配し、たたし Anusvāra か子近りを快えば その行取 10も代の八音に支わるのかしなので あるか、Anusvāra のままである場合も多い。例 料・積収 「気圧」=根末付 が起こ。

2) その他。電力化の野盲と接合してるになり、でとすとできたなり、 研と等とで、研になったりする。

3) で 及び 3首 の血栓における 3T 首指をを示すためのチンスカリットの 母音は写作 Avagraha (3可収度) 即ち (3) 印か まれに Tatsama アに見られ ることかある。

#### 2 子音の場合

(1) 三つの基本子育字中の合和第1文字か 表 を作うと、その第1文字かその紐の第3文字に変わると史に、表 自体かその紐の第4文字に変わる。例 चर् [「上比」の意を示す接頭辞〕+表で、「祖失」「改北」= コるで uddhār 「借金」。

<sup>(1)</sup> पण सन्धि धरादेशक.

- 【記】1) † たし、司 ド押り、次に来る文字の如何に思り、多種多様に変化する。
   (3) 负音に伴われると 可 に (2) の(11) 母音を初め 可, 耳, 耳, 耳, 耳, 耳, 耳, 耳,
  - て、すし付われると で に 受わる。 また (m) すや 可の町ではそれぞれ 可 や 可 に なり、(n) 可 や 更 の前では歩に 可 に なるといったくあい て ある。
    - まかるに住われる時にも同様。上記(1)と同し結束になる。例 3で (~3で)+表で「打った」~3で uddhat「高性な」。
- (2) 전 以外の 東、東、天、久 など 4 Barg [祖] の第 1 文字が、(4) 長 短の母音を初かか。(n) 半母音や (m) その組の第 3 文字を得えば、それ それ 東、東、東、などと、その組の第 3 文字に変わる。例 (f) 程東(n) 「方位」「地域」+ 東京で「内蔵」= 長で示て dig antar 「大気」、(u) 存東 + 中田町 「部分」= 尾行神田町 dig vi bhag 「方角」、(m) 程東 + 中町 「泉」= 尾で町 dig sm(a) 「八つの方伯の一つにいるといかれる組織 + の底 (m)
  - (3) 刊 か他の子音字や母音字を伴うと、次のような変化か起こる。
- (い) マ や む を伴えば 页 になる。例 雲東 (『思い』 窓の権頭辞)+写代記 「行い」「行なった」= 雲を司代記 dush carut (邪悪(な)」、 同戦 (否定を示す 接頭部)+を両「詐欺」「類略」= 同程を両 nish chal 「偽りのない」「策略のない」、
- (11) ヨヤヨ 以外の母音に先立たれながら 事, 要, ず, ず を伴えば でになる。例 まで、 要では「結果」=まです dusknt「整行」「罪」=まです。

<sup>(1)</sup> 昇音字を伴えば 事 やる もそれぞれ ぞ や 可 P 変わり、 早 や て はそれぞれ 目 か 可 に交わる。

<sup>(2)</sup> 鼻充字は別として。短母音 37 音で発声される各子言字も含まれる

<sup>(3) 【</sup>くれ、からオーもの。ここでは 一覧の接頭はとして用いられている。

<sup>(4)</sup> 他の七つの方色にいる気とすじ。世界を支えていると想像される。

duś karm; द्स् +प्रकृति「性質」=द्रप्पकृति duś-prakriti「性質の悪い」。

(型 1) さを伴う場合も同様である。例、要刊+さて# カル国」= guzt duśjar 「打筒てない」= gस7て dus tarco。

2) 甘か ず や 朝 以外の助音に先立たれる時にも 可 になる。例 信 (「不 統一」のむを示す接頭刷)+ 日平 「平らな」「等しい」= 「有 u u v sam 平らでない」「高低のある」。

- (w) 智音に先立たれながら長短の母音を伴えば 前 になる。例 取可 +で「車」「乗物」=中介で mano rath「願空」「希望」。
- (\*) マ や 朝 以外の録音に先立にれながら長短の母音のや半母音を伴え ば て になる。例 3項十市信 (=可a<sub>x</sub>)\*「運命」= gán dur gat。「不延 (な)」: 3項十四年「人」= gán dur gan 「悪人」「那悪な」。 3項 + マロギ 大修」 = gán dur dashá。「不幸」「織」、 3項 + 項目「直」= gán dur mukh「酸い 人」、 3页 + 和丁 「名声」= gán dur yash「不評」「憲評」: 「有項 + 年日 「話す と と」= 「行句 中 nir vacan「口をきかね」「汚した」

<sup>(1)</sup> で ヤ 取の前では 刊 は変化しない。

<sup>(2) \*</sup> 音を伴う時の子音字も含まれる。

### 3 気音符の場合

- (1) a 音に先立たれなから a 以外の時音を作えば気音符 (Visatga) は消失する。例 長中 humahon「氷」「型」+ simma álaya 「住い」= 「食中imu humálaya (川の名)、 a a atah 「だから」 + एव evaco 「また '= अतएव ateva 「そのために」。
- (2) 短行音に先立たれながら て を作う時にも 気音存化器失し、その 短行音か長母音化するのか 原則的である。例 何 [否定接尾針=何τ]+ マロ「オ」= 前τπ ni ras [計気のない]。
  - 1) て以外の子音字を持えば変化をねこと無数である。初 同・सदेह 15年 い」= 同 中名表 mb sandeh 「ほいのない」 (能かべ)」、同 + 知识可「使用」— 同 知中可 mb prayonan 「優に立えない」。

- (3) 気管行か 等、要、可 を除えば 司 になる。例 資 → 학교 [動作]= 実確定 dush ćešja [ 空行] [ 至哉] , 行 + 世報 | 得り] = 行取取の mish čhal = 行 要可「知既のない」「即結び」、行 + 世界「力性い」 = 行取報 mish chakt 「鋭い」。
- (4) す や 研 良外の母音に先立たれなから。(3) 母喜。(3) 半母音。 (in) 責、及び (iv) 基本子音字各組の第3。第4、第5の文字を件人は気音 行は え になる。例 (3) 何 +明はて「炒改」=行れて mr adar「無礼」「砭 へつ」。(4) 行 +項ぼ「掛木」=行項"町 mr vnks「樹木のない」。(10)行 +

<sup>(1)</sup> Visarga は原則として常に母音に先立される。

<sup>(2)</sup> Tatsama 語中 特ピ 可 と 可 とは現代語じるいてもよく = 音が付って声キされる。

हिम 「四」=निहिम nix-him 「雪のない」。(1V) दु (=द्रम्)+गन्ध्र (कि.)= द्र्गन्य dur-gandh\*「悪臭」, नि +भय「恐れ」=निभैय nur-bhay「恐れない」;

द +नाम 「名」=दर्नाम dur-nam 「悪名」「恥辱」。

(5) 逆に τ か 電、 प、 哥 なとを伴えば気音符になる。例 असर「内 

「町」=3d पर antah pur 「ハレム」「後宮」, adt+atu 「感覚器官」=

अत करण antah-karan ि । िसं । िसं ।

(6) स् も म や す の前では、よく気音行になる。例 दुस् +समय「時 間」= द् समय duh samay 「悪い時」 「困難時」 , दुस +शील 「品性」= दु शील duh shil「邪णな」「下品な」。इस +वासन 「支配」「統御」= इ वासन duh. shāsan「仰し難い」= दुनासन。しかし。時々。この स は र の前で र sh となり、中の前では स のままにとどまる。例 दस+शासन=दरशासन dush shāsan=इ जामन , दुस्+सह # 「我優強い」「文拍」= दुस्सह dus sah

「中海できぬ」二萬四点

■ 現代ヒノティーにおいても、それ自身特有の軽度な Sandhi が独立詞 賞 を作う場合や主格形・従格形複数語足を持付する場合に見られる。例 37司「今」 + 前 = みず 「たた今」; 自己 「娘」+ 町 (女性土格板数版尺) = 自己は ; 「寝く 「イント 数は上部 (従格技数語尾)-[養産剤 ; 有表』 (一句母。) 「肚子の塾」「説」+で 【女性主格及数語記】=有表現 (=有明期) [25 ペーノ [人行代名詞] の [用法] (4)。 および 78ペーノ『指示代名記』の『用注』(4) 参照)

# 第二編 品調 論(初三秋刊)

# 第一章 名 詞(部)

# I. 名詞の種類(根頭音報)

名詞は「具象名詞」(पदापैनावक) と「抽象名詞」(知句可略称)とに2大別され、前者は史に「普通名詞」(可信句可略的)「固有名詞」(配信司句を) 「好合名詞」(中項司句句で) とに細分される。cu

# Ⅱ. 性 (िकग)

名詞の程類やその問有語・外来語の如何にかかわりなく、すべての名詞
か「男性」(気で可可) か「女性」(を所で可) かに分類される。 そうして、「生色」を示す名詞にして、「男性」を意味するものは言語的にも一切男性
扱いされ、「女性」を意味するものは一切女性扱いされるという原則以外
性則に関する多くの規定には例外もまた少なくない。

- 1. 男性名詞 (प्रशिग सज्जा)
- 新 て終る Tatbhava 腰―例 आटा「粉」、चमडा「皮革」、 報刊記 「けんか」。

主なる何外――『昭 「はら穴」、中8年 「西風」、中和「むく鳥」。なか、次 のような外来語も女性扱いされる。例 マロ 1 本 1 本 1 、 「本」、「マロ 1 「心配」、 田 1 、「部」、『町」、『田」「空気」。

<sup>(1)</sup> 以上は名詞の序語に一た 書町 の恋を入れてもよろしい。(2) 外左答なので、幸 はすべて ▼ 名。

(2) 引 で終るもの――例 घाव<sub>の</sub>「飯」、वर्ताव 「取扱い」 यहाव 「統私」 「下流」。

主なる例外——टेब<sub>(8)</sub> [習慣], नाब<sub>(9)</sub> 「舟」, नेब<sub>(4)</sub>=नीब<sub>(6)</sub> 「生淀」「支ん」。 「**153** उ. ठ जो जो なとである名派にも別か多い。例 जान「1.-かいも

नो - जब 12v 『大类』, पशु ङ 『京記』, वायु ङ 「空気」 『理

- (3) पन, पा, आव स्व などの擅居辞で終るもの――例 चौवापन ! 幅」, बुबापा [老年」, गहराव gahrao [初 き」, दानस्व dâs tva 、「奴隷の身分」「沙面」。
- (4) 朝日で終るもの―例 項明日 > 「はら」 (6) 、の日日 4 「近答」, 項明日 4 「下苑」, 信明日 4 「勘定」「計算」。

例外――「中ताब」「本」, जुर्राव」「くつ下」; ताब ゃ 「美」; रसाव 「あふみ」; भराव 』 「難」

- (5) आ市 や आर で終るもの――例 雲雨式 / 「担 td.」, बाजार / 「市 切」, मचान / 「家」, मामान / 「致物」「家門」。
  - 例外—— तकरार 』 [武武] 「口論」, दुकान 』 「唐」, सरकार » 「政府」。
- - □ すずなする「洗師」、「清明「実打」、事可は「治師」「信答 などのように 末字の如何に関係なく。「人」や「就計」かってものの多くは単性であるか の
     □ これらるとンディー型のはる名。 ② tev tec。 ③ náw nao (4) new neo
     □ nhw (はペーン形(い対き所)

外といえは 可引 (jury)# 『岩奈旦: m , 可信報 (pohce)#. 『広だ m , 又可# 「人民」; मनारो # 「奈名」「奈恕」m ぐらいなものである。

(7) 国名・都市名・山岳名──例 「中四』 「エップト」, यूनान』 「ギリッキ」, यूनार (パナーラス」; हिमालय (ドセマーラセ).

例外——अयोष्याः (前名) : देहली= दिल्ली 「デリー」; बम्बई 「バンパイー」の、लबाः 「セイロノ」。

- (8) 年月日や風日の名――例、सब्तः 「紀元」; वर्षः 「年」=बरमः=माल ・・ चैत 「インドが昭和12月」=चैतः ; सातः 「月」= महीना, सप्ताहः 「近」= हएना・・ हित 「日」「ひろ」。
  - □ たとし、「日、よりも短い時間的区分になるとまうまつで घण्टा (19間) で 「中नटょ 「分」はで生であるが、रात (夜)、नाम० 「夕彩」=सम्या』、मुबह्य 「朝」などは女はである。
- (9) 金属や宝石の名――例 前可「企」、市可「送」、市両「サファイナ」「貯玉」;中可「エメラルド」「製住土」、 gロヤマ「以王」; 前方「貨 計);同可「ルビー」「紅王」。

例外――विद्यी 「知」, चुन्नी 「小さいルヒー」, मणि 「我日」,

(10) 感情を示すサンスクリット降一例 等表(14) 5円は「15 だ」、5円は「15 だ」、5円は「15 だ」、する「15 だ」、方で「15 だ」、方で「15 だ」、方で「15 だ」、方で「15 だ」、方で「15 じょう」、「17 じょう」、「17 じょう」、「17 じょう」、「17 じょう」、「17 じょう」、「17 じょう」、「18 じょう」、「

(त)११—पूजा [ १ ६१५] (शिक्षा) , प्रथमा [१४८७] - प्रमन्तना [१४८]

(11) 星の名——例 नेतुः [ほうき厄];चन्द्रः [月];मुत्रः [仝ग]

<sup>(1)</sup> 平円だこ内はナニマドカつづり。

<sup>(2 「</sup>多ろ」のたわかでも、その主性は数は स्वास्थि とくべれれたになる。

<sup>(3)</sup> これらナノー、インベー国都市名はたて2位に専門して女性をお扱い。

例外--आकाश गड़ा (天の川), पथ्वी (垃球」「短」

- (12) 樹木の名――例 पीपल「(まだい樹」, वृङ्गः =पेड # ! セォ木」, मागीत =मागोत=सायन「チーク樹 lm。
- (13) 数物の名——例 確[「小皮」, 可四可 [米」, 中27 : 人 5 つ」。 例外——可義「オート友」「えんぱく」;可可「小粒 5 小豆 私い 5 の」 中で町「からし」。
  - (14) 町、町、町、町以外の字母。

# 2 女性名詞 (स्त्रीलिंग सजा)

- (1) 研にて終る Tatsama 第一一例 आत्मा「魂」, जनसम्ब्या「人口」,
   (5) (保護」, द्या「同情」, सभा 「会」, सेना 「知びた」。
- (2) ई や 5 にて終る語――例、बोवो 「男の履答」、元武「バン」、 प्रवाद 「戦争」「けんか」、司信は「階級」、同程は「日限」、司信は「既刻」。 例外――司(n) 「ギー」、司「心」、中間は「海」、「中間「水」、表で】「糸」。
  - (3) ता にて終る Tatsanea 語―例。 आवस्यकना [必受], मूलता[長], स्वतन्त्रता 「地立」。
- (4) च्या にて終るもの一例。 कटिया 「魚つり針」、गीरिया 「寸すめ」、 南िया 「チョーク」「白巫」、「智徳和「馬」、「高信या 「小初」 とお何या 「土び ん」「陶器製水差し」、「食宿和「散茶」。

主なる例外――बरिया = 「何」, बेडिया 「おわかみ」, पहिया 「非輪」。

ाइरिया=महरिया [李郎] [李郎] , ब्हेबिया [李郎滿去], भूमिया (他

<sup>(1) 2,3</sup>の例外もないてはないが、日本にない得すなのでお略。

<sup>(2)</sup> とれっ3文字がけが女性扱い

<sup>(3) 4</sup>充から近られる調味料。

- 主」 て刊まず「料理人」なと すへて「人」をかすものはりした
- (5) 司 や を にて終るもの 一例 前面「勝利」 和四「話」下下榜」、 可ご「負担」、訳で「市場」、 ママェ「風」、

#### 主なる例外---

- (1) サンスク) / 1 जगत 「宇宙」、前尾石「庄高」、京「川岸」「は 岸」、中石、= 中名、 「山」 知道を有「運搬し」「数い」、中石「宇原」、中で 「風」「風の神」、 可で、 = 名、 「作」 章 日で、「イントデス哲学の一」、 東西にて「話」、 母帝石「しこし」「町子」「表示」、 平和石「音楽」、 平名「紀元」。
- (m) ヘルンャップー・可能で「肉」、でで「上身」、ででで「上身」でです。(手)、前で、「女人」、年で「延」、年で「少良」。
- w) アラビヤギー―祝बूत「松」、सबत「統富」、बक्न「時間」、मबूत「立 証!「証拠」。
- (6) 中 にて終るもの――例 आम 「仓配」「開榜」 आम 「鈴」 वनाम 「校花」, टेनिम』 「旋珠」, नम 「血蛭」, प्याम 「のとの烈弋」, प्रोम』「川 別」「診察料」の, वनवाम 「むた話」, वाम 「祈」, 用あげ [甘味]

<sup>(1)</sup> すべの複数形 fees。

例外——जल्म 』「行列」,विश्वस्य 「根疑」「死疑」「現始」,प्रयासः 「分 力」、वेतः 「竹」,वन वाम 「起放」,मोम—गाम<sub>の「</sub>段」,रवः 「११」,विश्वासः 「विशि 」, मारवः 「和祖」,ब्रम्यासः 「静列」,श्रीव्यसः 」 [版史]

(7) ベルン+由来語にして 町 特に इच で終るもの――例 आतिम 「火」・बारिय 「近」・बोरिय 「努力」・根で風र電「推門」。

例外――ओच「熱情」, दरवेश 「たくはつ僧」, होश 「感覚」。

(本) ・ソン・由する以外は ほとんど 哲明性となる。例 तासा (カルチ) セート , देवाव 国 , प्रवेसाव 「入野 , फर्सोव 「しゅうたん , नक्कासव 「貝 対象

(8) 動詞の勝根が抽象名詞化したもの――例 項で「忘却」「説り」, 中で「需要」, 和で「芳香」, 可で「〔足で〕けること」, 和で「寸柱」。

主なる例外——朝雨 「遊戯」。まて「恐怖」。を破破「押し」「断き」; 刊電 「獅踊」,「有可容「精」「粋」「真髄」, 刊電「ひっかき」「つねり」, 行可で。 = 「電気に一刊電「考え」。

四日 5月の語覧とずしも摘念名詞とならなし。例 覧で「つは」「だ故」、前は 「曲り角」「河川の曲り」。

(१) ग्र≄—-ल यङ्गा≈गगा, जमुना=यमृनाू

िंशं—-ब्रह्मपुत्र , निघु , सोम<sub>तः</sub> ,

(10) 曹陽名――例 湖南「英嶽」, 可を町「ウリヤー郭」, 可介「ウルトゥー説」, 可称の「トルコ説」, 南南の「中国歌」。可可元南。「日本部」。 東河南の「ギリンナ嶽」; 河町 『言語」ken

<sup>(1)</sup> サノスクリットの由来語の意の時には「月」の食。

<sup>(2)</sup> ガノガー河の支流。ナーダブール地方を流れてペトナー市の上流で合札。

<sup>(3)</sup> それぞれ「トルコ人」「中国人」「日本人」「キリノ+人」。または「トルコの」「中国の」 「日本の」「キリノ+の」の役ともなる。

<sup>(4)</sup> すっての言語名に本女性名司を当行してもよい。

(10) 聚物の名――例 和何可言できた「熱光酸」; させて町「原車の一種」; されまい「白動車」; されまい「汽車」; 前さてきい「白動車」; されまい「汽車」; れて行った 「白松車」。

(11) 唇針・蒸味の名――例 中部「カレー」;申収む「じゃ容」;申収て「サフラン」; 何可「としょう」; 何可「ちょうじ」; 初で「土しょうか」; 何不」「アニスの欠」; 前での「あざ」 [極]。

例外――अजम्द=अजमोद「パセリ」; मुक्क = 一じゃ番」; लहमन FicAにくら

□ 対すです「しょうが」は男女所性に用いられる。

#### 

- (1) サンスクリット―――「転で町「日光」「光線」; तात 「糸」「音幣」「潤 子」; いて「売れ」「川」「刀身」; いてがて「たくさん」「登宿」; いて「保護」 「遊離」。
- (m) ペルン+語― आयाज 「声」: वमर 「腹」: गर्वन 「首」: पार=पमन्द「安好」: चाय 「芥」: चीज 「判」: चेचक 「天然痘」 「ましん」: जान

<sup>(1)</sup>これらに女性名同に一ト 利(音) 「車」を飛付してもよい。

<sup>(2)</sup> せき止めの変にもなる。

<sup>(3)</sup> 買味がとしてほかりでなく。質問の清浄剤としても用いられる。

[生命], जसीन [土地] [地球], वेज [세], जाम [夕於] मरनार [政形]

(w) アラヒャ語——जमर [年的], विनाव [本] विस्म [60] वीम
[國民] [夜族] [前版] वैर [80%] मवर [初起] [報道] বুसान [佐]

गुर [전明], मवर [祖記] [一見] पौज [河際] वद्व 사였] वजह 및
由] [原因]。

v) 英語の一一 郊村南 (appeal) 「訴訟」、 東東南 (command) 「命令」 む麻 (team) 「テーム」「団」 「租」 ななす (drawers) 「引出し」、「中々 (mb) へ ン先き」、 中のさす (platon) 「小原」、 切信を (pocket) 「ナケ !」、 切信な (polah) 「みかき」「つや出し」、 「年成間 (pustol) 「ピストル」、 草和 (pen sion) 「年金」「財 絵」、 草稿 (pencil) 「鉛 管」、 「存む (film) 「診 画」、 可信な (barrack) 「ハラ・ク」「営会」、 草甸 (bench) 「長いす」、 中旬 (machine) 「例版」、 日雨 (mill) 「工場」、 で中 (ride) 「小絵」「ライフル 統」、 明河谷 (lantern) 「ちょうちん」、 司を (vote) 「投票」、 「中寸え (ciga rette) 「巻きタハコ」。

□□ 1) 章 で終る英塔も、「人」や「職事」を丁すもの以外は女性投いされるこ

- と 一般の原定書りてある。例 耳ई (May)「5月」, ではでき (royalty) 「印度 a 2) 表形からの信用まで男性投いされるものも少なくない。 例 さばいけい (telephone)「記述」、でする (rubber)「ゴー」、で何 (school) っぱい
  - 3) 上記 ii) m) m) なとの等例は核く一部分に過ぎない。
- 4) 知方別によって性別を異しするものも多くない。例 研は「肥料」。表別 『観乳の , 相相「呼吸」,「फ本』「に配」「考え」。 等可円 4 』 「 公報 。

これらの記録は ますれるデリー是方で男性機(され マクリウ地方で女性 はいされる。

<sup>(1)</sup> 以下括弧内は字訳でなく 英語つづりてある

<sup>(7)</sup> ルク本版化したもの。一種の放休ヨーブルト。胃腎の清浄用に食事的一て用される。

また、着すれ「とう」「とう製品」や ではい 「特筋」「特」は、 約8割まで か男性ないされるに対し、 わずかにラクナウ部以来で女性ないされる。

これに反し、ずず「ガラス」;朝東で「なつめやし」,現在する「ね」、味記え、「写真」などは、テリー地方で女性扱いされるに対し、ハナーラッカ以外では男性似いされる。

なわ、社画「評弁」や 可張。「約」「亨」などは、Urdů で男生性いされる が、Hindi ではか性に行われる。

# 3. 校合名詞の性 (समस्त संजाओं का लिंग)

互に性を異にする二つの名詞から成る複合名詞の性は、化に求る名詞の 性に従うのが原則的ではあるが、必すしも一定しない。大体語頭に関係な く、(い)「人」を示す場合には男性の複数扱いされるが、(い) 前の割が後の 類の説明派になっているような場合には私の割の性に従う。

(ў) (i) माँ-वाप≈माता-पिताः [父時] [函報]; साई-वहिन [兄弟始妹]; देवी-देवता [韶明铭女] [玄宗二 [汝神と男神])。 (i) सापा-ः [古語]-मास्त ः [思定] [科学]=मापा-सास्तः [古訳学]; पाठः [学即]-चापा-ः [故] [公郎]=पाठमाताः [学校]; जन्म [張生]+मूर्षिक [土地]=जन्म-भूमिक [延 生地]。

しかしながら、両語が互に同義語か、または類語である的には一定しな い。

(5) कुडा+करंट。=कुडा-करंट [ごみ] 「ひり」; चात。+स्त =चात-सात 。「が (後」, शारी。+ +स्याह=शादी-साह 「結婚」; लेल 「赴蔵」+कूद。「説経」=चेन-कर 「光経」。

○ 1) なおほかに、同一語でありながら、語義の症いて性を異にするものが若 でもる。例 です「言語名」。と「解析」「野宮」「野宮地の市場」; では「たて (税): 広告: 株式。と「投」的が、駅本「日光。と「み、旬中(z(れ))の)。と 毛髪 、竜で「順番 。と「歯折すもも」。町円「夕春 。r と ン ニ 田 。

2) 性別とは頻関係であるか。 **すべて**「さる」 [1931 # 「港 **P のよ**うに。<sup>E \*\*\*</sup> ハ 込」 て行義を表にするものもある。

# 4 女性名詞の作り方 (बीलिंग सजाओं की रचना)

この場合、「人」や「鳥歌」に限られる。そして、 男性名詞から 女性名 詞か作られる主なる方法を示せば次の通りである。

# (1) 朝 で終る語は をにされる。例

**軒町「父方の伯** 〔叔〕父〕 बाबी (父方の伯 दादा「父方の 初父! दादी「父方の 初日! (权)母 Jos मामी 「母方の **刊刊「母方の伯** नाना 「駐方の 朝父」 नानी「母方の 祖母! 伯(权)母( नेवारा [独与男] केंगरी [独身女] कता [大] 表刊「此大」 गधा जिल्ला मधी [िंडिटाई ] घोता मिरा घोडी धिन्द 可能「ねすみ」 可引「既ねずみ」 होता िक इस्ता सोती [धिक्किक रेट रेट र **育年17** 「山羊... वकरी [धिं॥主] बछेडा 🕮 🕮 बछेडी [धार्-ाहा हिर्छक वदा [ 息子! बैटी कि पोता ऋदिन । पोती सिधा भतीजा 🖘 📭 सतीजी [४५६०] लडका 🕸 🕮 सहकी [少女] बुढा, बुढा बुडा, बुढी, बुढी, बुड्डी साला माली 「老人」 【老婆】 「妻の兄弟! 「長の姉妹」 भेडा 📺 भेडी छिन्। मर्गा [४३८४७] मर्गी 「めんどり」 CM 1) वच्चा 子供」には、その女性形 बच्ची「女児」があるにもかょわらす

<sup>(1)</sup> 同次: चचा=चचा ; चची=चची の方が一畳書表である。(2) チウドギ P.E.

「女児」も含まれる。

- 2) 次の活品は「生物」でないから先気限性は不に概要を実にする。例 अपूठा 「規能」と अपूठी 「石の入った規模」、甲目「水差し」と घटी 「終計」, छाता 「かま(余)」と छाती 「胸」、नाना : じょう前」と तानी 「かき(針)、माना 「花物」と用待「庭師 。
- (1) 次のような子音字で終るものは、をが添けされる。例 कबतरी 「धिंधिと」 तीतर 「レベン」 सीतरी िक्षिर्य । भवतर ० िंद टे ∫ दामः । (ए३१) दासी िंद्रश्रिक् दुत ८ [使去] **द्वी**「女使者」 देव ३ शिया । **देवी** 「女神! पत्र8 [段子] परी कि पठान「パターン पठानी「パターン 族の灯」の 族の女! क्जूम िं 5 वजूसी 「女のけちん坊」 बाह्मण ८ 「ハラ प्राह्मणी「パラモン मेंडर] の女! चेटर में इकी 「雌かわす」 बन्दरी क्षित्र है। मगर किटा मगरी रि≝्रांश्रट । बन्दर विकेश राक्षम ः 「監理」 राक्षमी 「女型魔」 राजकुमारः 「王子」राजकुमारीः 「王女」 मुखरी दि‼्र टा हम विदेश 841「松白岛」 मुअर [कर] ■ 祝夏」または「軽傷」のなを表わすために ある種の女性には ぎてれる 七 近の女性形のほかに 写写 にてわる門匠の元を持っている。例 क्ती (雄大) → कृतिया , चृही (離ねすみ) → चृहिया , बन्दरी 세 ざる) →

हुती (韓大) → कुतिया , चूही (韓 25 ई.) → चूहिया , बन्दरा ( 韓 2 ई.) -सन्दरिया , युढी (楚隆) →बुडिया , बेटी (韓) → विटिया

た」と、消化町「お」かみ」は 守る「熊子」の女性形でない ことは前記の よりで (40 ペー/4)の末行会例 (1667年) は石色町「龍子士」の言語の 女性形に凸きない。また、可能で町「牛錦」」「牛錦」」の女性形よ可能でする る。

<sup>(1)</sup> アフガーニスターノの代表的質素。百パーキスターノの北西回提地トカデザでもする。 アフガーノ海とも行される。

(1) ある種のサンスクリット語は、男性形に am を添えて女性形を作る。 俳

अब「山羊」 अबा<sub>の</sub>「韓山羊」 पण्डत「学者」 पण्डता「女学者」 「知祖「寛人」 「別祖「寛人」 明司「原子」 明司「韓」の 章礼「長五蔵 章礼司「同階版 版をの男」 の女」 報ば、「歌音版 の女」

| 同年「ノヴァ神」 | 同日| 「ノヴァの妻 (4)

(4) 職業や身分関係を示す名詞にして。可 や f で終るとき、 fn(i) または infn に変わる。例

 中市収金「レルちゃう細工師」
 申市収金「同開級の矢」の

 寛本郎「八百県」
 寛本郎・『東本郎・『 " !

 市所の「抽風」
 市局内の「市場」

 本所「比立協」の
 本知・本本の。「 " 」

<sup>(1)</sup> 竹々項の bakrā bakra の方が一般若適である。

<sup>(2)</sup> 前ヶ項の putr, putri の方が一般的。更に、be å bett の方が一般を通に使用される。

<sup>(3)</sup> ছা: মুরা, য়ৢরাণা ১৬০০কেত.

<sup>(4)</sup> 女神 Durgs, 即ち Parvati などがさけまれる。

<sup>(5)</sup> 前者はラクナウ地方の発音で、後者はデリー地方の発音。

<sup>(6)</sup> उटेरा उटेरी の方が一覧音通。

<sup>(7)</sup> 古头、イントでは感覚世襲の習慣があるために、1 臓学が1 無税を形成されてえた。そのため、同時の女、同味者のそや殺なと、その胎表。その家者の全女性が意味される。

<sup>(8)</sup> kunjri ともいわれる。

<sup>(9)</sup> 母子面を扱う者。

III 正音は darzi, darzin darzan である。

दलहा [花好] **町**前「せんたく屋! **ਜਾਰੀ「娘の食子**」 माई [मुश्का]

वहोमी जिंदे ।

पायी [30] र । 1工大门部局

माली [ ब्रिंग हि ।

मोची [रंअड़ि] समधी िक ठेट कि

**まかず 「単子屋」** 

दलहिन, दलहन भिर्देश

धोबन, धोबन [同階級の女]

नातिन, नातनी [tisotis ] गाउन, नायन 「局跡粉のむ」

पहोसिन, पहोसन ि七の婦人।

पापिन, पापन 「女の邪人! वेडडन, वेडन 「同時級の女」

मालिन- भारत । //

मोचिन, मोचन [くつ屋の辺]

समिधन, समधन じゅうとめい

हनवाइन「同階級の女」

# (§) 子音字で終る (4) と同種の男性名詞にも srf や xrf がぶえら れる。少い

वंग्रेजिन 「英国婦人! अशीरन. अशीरिन [間階段の女]

अंग्रेज [英国人]

असीर [4श्रहा

すहて「かでかつぎ人」

**耐耐て「鉄かし」** 刊和て「金かじ」

なわ、ます や あすのほかに、ぎ や 引 をも添える女性形もある。例

कुम्हार「陶門師」 चमारक [くつ配]

**बुम्हारन, कुम्हारी, बुम्हारनी [陶器師の妻]** चमारिन, चमारन, चमारी, चमारनी जिलिए।

कहारन, कहारिन 「同節投の女」 लोहारन, लोहारिन

स्तारत, स्तारित / " ]

<sup>11)</sup> samdhi, samdhia とは花野または花味料互の義父。義母の作。

<sup>(2)</sup> 皮者のなめし足でもある。

गंवार 「村人」 गंवारिन, गंवारी 「女の村人」

मालिक 4 主人」 「持ち主」 मालिकन, मालिकनी 「女主人」

उस्ताद 》「学校教師」 उस्तादिन ॥ , उस्तानी ॥ ॥ () 女教師」

□ 31章 「強盗」の女性形 31億年─31億年刊:女とつの一般 は外肌のどはとなる。

(8) 身分を示す男性名詞に आ容す を示えるもの。例

ओसा [द्धिकी

ओसाइन 「既術師の安」・

परिवृत 「学者।

पण्डिताइन「女学者 「学者の妻」

たたし、基礎となる名詞のつづりか幾分変化された上にだっられるもの もある。例

बाबूक (देहें)

बवुबाइन 「同階級の女」

पाण्डे, पाँडे(१) 「パンテー पण्डाइन, पाँडाइन 「同階級の女」

दुवेw「トゥベー階校の男」 दुवाइन 「同階校の女」

(1) 単に 玠 を添えるもの。例

あえ「らくだ」 あた行「離らくた」 वाघ「とら」 वाघनी, वाघन「雌とら」 ロアω「シャー」 明己州「同原版 中に「くじ 神代析「雌くしゃく」 ・数の男」

रोष्ठ 「くま」 रीछनी 「姓ぐま」 सिहः 「しし」 मिहनी, सिही 「姓じし」 ただし、स्वामी。 「主人」→ स्वामिनी 「女主人」 や पापी : 「犯罪人」→ पापिनी

「女の犯罪人」「悪女」は幾分不規則である。

<sup>(1)</sup> やゝ不規則。~

<sup>(2)</sup> 特に英語を使って仕事をする人々。男女の場合とも。一行号としても用いられる。

<sup>(3)</sup> パッモノの一行号。氏姓としても使用される。使。数所。広まなどの技术で作所。

<sup>(4) 4</sup> Veda 中の2 Veda ド亜時するパフモノの一分氏名。

<sup>(5)</sup> Rajpst 族の一派。

- > (das)	तें (पवित)	<i>ट</i> ' (अशुद्धि)	iF (गुदि)	
39	下から4行目	有項占	有原天	
44	# 11 #	ちょうちん	かんてら	
46	# 5 #	बटा	वेटा	
, 59	10 #	(EE 1) 54	(DE) 1) 208	
60	4 *	從标准数形	在格里取几	
62	F#511 #	int,"	主称複数	
*	# 10 fe	र्यं	ये,	
65	# 2 #	लिवाई	<b>सिखवाई</b>	
67	1 5 1	[37人] →	[¾] →	
89	131	िश्वि द्वालय [大学]	विस्वविद्यालय 「大子」	
75	1.5 <u>; 1</u> (2)	ते य	य	
85	14 4	5) 吳間代名詞	5) 関係代名了	
87	8 *	टूटा-फटा	टूटा-फूरा	
101	5 #	पौने (क्(०)	योन (-15(०))	
*	F555 #	[इर्ध वेट]	[इंग्लंड बटे]	
128	F# 63 #	[思] [5] [即5 [不 正元] [1] 相[	「近」 a 付 即も「不 元末に「時相」	
149	BS21: (4)	काइकाट <b>दबाना</b> क	「投資する で作用の	
159	2 1	(142ペーン	[140 :- 2	
"-	下から6 #	巽	té	
201	5 #	मालम	मालूम	
221	3 /	相较多同	वाद्यतः ।	
228	下からアカ	「非るな高値で」	これ はっぱて 四	
241	11 /	मुगंध	मुग व	
4	18 #	इङ्गर्नड	इङ्गलैड	
250	56 ,	<b>मॅ</b> न	<b>भे</b> ने	
288	6 9	5不打作には	to be little	
*	12 #	~6	रण ५०० १ वर्ग । सं	
ر29ء	下から5 *	🕮 नमी	<b>ाट)</b> क्या	
306	11 2	जमे [	जैमे	
*	Lat (1)	एमा	<b>ऐमा</b>	
357	5 0	5	\$	

## (1) 単に वानी を不えるもの。例

जेर [‡०२। जेता

जेठानी [美の兄のだ]

देगर [大の第1

ं देवरानी [夫の弟の妻] • नौकरानी m [女の召使]

नीवर » [召使] सेठ [दृष्का [銀行家]

मेठानी Г∻⊘≭ ।

पण्डितः 🚉 🕹

中で3日子 「学者の妻」「ハラモンの女」

मेहतर [指於人]

मेहवरानी [扫版]人の走।

たんし、祝言=村唐 [紅牛] は 祝言司=和言司 になると記義が変わり「頭 用地らくだ」の窓となる。

なお、本項に属するものにして、幾分不規則に女性形の作られるものが ある。例

**昭引 )「クン<sub>+</sub>トリヤ** 新河車 / 階級の男」

खनानी, क्षत्राची | क्षत्रानी, क्षत्रिया | 同階級の対

चीतनी अधिक ।

चीता [८८] जाक्टर- (१८८१)

डाक्टरनी<sub>का</sub>डाक्टरम्न्<sub>वा</sub> [医師の廷]

बनिया } 「殺物官」「商人」 विणया }

वणियानी, वणियायन वनियाइन<sub>(4)</sub> विलिख्य भेडीनी, भेडनी [姓込むかみ]

भेडिया [२०२०२०८] मास्टर्क [先生!

मडाना, भडना | 雌ねわかみ] मास्टरनी, मास्टरयन [先生の妻]

हायी िंद्र ]

हयनी, हथिनी धिन्छ।

<sup>(1) 1+11</sup> naukarna

<sup>(2)</sup> 前記の近り、个部で3程の女性形が存在する。

<sup>(3)</sup> 主にデリー地方で使用。

<sup>(4)</sup> 切可 yan や 夏可 m てだわるものは ナ株 ラクナウやハナコース以車の地方に使用さ

(9) 全然別語をもってするもの。例 अध्यापकः विशेष जन्मिना प्रिशामि देवतार m दि। ( टेडी॰ प्रांच। परपंड जि =बीर क्ष पत्नीः दिश ufas 「夫」 ar 「雄牛」 --- P+4 भाताः । रका १% राजा रि€ी ಶೇಶೇ 15 जीहर P 🕮 竹屋 「兄弟」 समुर् । १८ अ ममानी ि∄र्तित **町甲 「⊕方の** (中(中)任) #I# 伯(♂人)父!

1) 以上とはご一女性名詞から男性名詞が作られることは「以こ」は「たるる。 (的気像)(は考)を限)。例 何可な manud 夫の結婚」→ 可なな様 mandの「!夫の始もの夫」、可信可 結婚」→ 可能可能「結婚の夫」。

2) 角生を利用的に正べる場合 万川でありまた」自身 なと多くの爪が はその「煌」をもって代声されるか。「山本」や「平」は「暦 だもって代末される。(日、四 (四本) か申)。「ねこ」も同様で、行れその「世」でかることを は引すると要のか、限り、毎年前「世ねこ」でなく 行を耐りたねこ」こもって 代表される。

3) हरिल - हिरल-हरल 「しか」は、हरिला - हरला 「エしか」と हरिली。- हिरली-हरली सि. じか」とを余めた代字五であるか、これにはし、 は然」の片方しな行たない品がある。例 অংক 「ふくろ」、する町 いらす」。 कोयल。「かっこう鳥」、बच्चर 「おは」の、印る はなりたか」、 元度町「ひょう」;

<sup>[1]</sup> devata 現代音 即ち伝言は dewta または de otá。

<sup>(2)</sup> ラーノブートかの行うである てート「王」の女性形。

図 奇 をそれて「単さん」の食に思いられる。ナノベー地方では 可奇「たんへ」に対し すぞ 奇「天さん」がよく思いられる。たた。 奇奇 はえて男女を行けずあらゆるみ分の 女性のなに思いられる。

<sup>(4)「</sup>姓ろば」と「育馬」との物種。

लगलगम [८५०६७], चील<sub>क</sub> [६७], लोसडी<sub>क</sub> [३०३३], यतर<sub>रम (१</sub> १०५) [ऊछठ], मन्तीक [सर्वा, मन्त्रीक [सर्वाक

このような「風球」両形と持てない場合で行の名に対し致して住りによわ 上変のある場合には ペンシャルの仕事をです。可て「男は、中に、mád・「女 性」が用いられる。例 って 中間「他からす」、中にするコートからす」、って 市を利「他のよう」、中に「音を和「他のよう」。

# Ⅲ 複数の作り方 (बहुबचन की रचना)

単数 (収率を示) から複数を作るには、「てにきは」(資金を) の拡張によって2種の複数ができる。すなわら、いわりる主菌複数と発格性数とである。

- 1 主格複数の場合
- (1) 芦枝同形名詞
- (1) 子音やで終る一切の男性名詞

例 पत्रक 「手紅」, नाटकः 「前」, मुन्दः 「口」。

- (m) 독, ई, ਚ, क, 왜 간환증되生名詞
- 例 प्रविक [型台], प्रेमीक [美人], साधुक (石名), बाडू-मतापू (株), रेडियोड 「ランオ」。
  - (m) AT で終る次のような男性名訂
- a) Tatesma 窓 ――例 वर्षो 行かが〕(神)「土料」、वाना 与える
   者」「聖人」「社」、देवता (本」、नेना 「指導者」」、परमारमा 「人皇」、「神」、 申請ला 「人とな親」「人聖」、योगा—यादा 「兵士」、विधाना 「計

<sup>(1)</sup> ILTI's batak batakh bottakh bottak,

b) 血塩関係を示すもの――例 पिताः 「父」, चचा 「父方のおじ」, नाना
「丹方の祖父」, परदादा 「曽祖父」。

ただし、可見では「祖先」などと、まれに複数形を探ることもある。の

- c)「若号 や 意葉」を示すもの――個 बगुवा「案内人」「指導者」, वावा<sub>の</sub>
   (老人に対する道称), राजा<sub>の</sub> [王」, राजा 「王」<sub>との</sub>
  - d) ある種の外来医——例 आगा<sub>= (3)</sub> 「主人」。 ख्दा = 「神」 , दिरया <sub>=</sub> 「河」。
  - (1) 前項 (m) 所並以外の 3T で終る一切の男性名詞

その 研 を 東 に変えて複数形が作られる。例 वेटा 「瓜子」→ वेटे , वेला

- (3) 5 または <sup>第</sup> にて終る女性名詞—— の明合 可 が感付される に対し、 章 の場合にはこれが 表明 に変えられる。例 可信。「階段」「延 類」→ 可行可, さ时「帽子」→ ご刊可。
- (4) ইया にて終る女性名詞――単に、 才居に Anu nâsika が置かれる。切 項信収 「人形」→ 項信収 ; 有信収 「老婆」→ 有信収 。
  - □ भेडिया 「かょかみ」や विनया「総物館」などは男性名司だから、それぞれ भेडिये、बिनये क=विनये とれる。
    - (5) 前項所載以外の一切の女性名詞――すなわち、子音字で終るすべ

<sup>(</sup>i) జార. ১০৫৪৪৯৬ বাদ-বারী ১৯৫৪. ১৯১, বাদ ব্রোপী ০৮৮৮১৮.

<sup>(2)</sup> また、乞会が一位人に可指けるのに用いられる。時には「軽傷」のひも表わされる。因数 決は「父」に対する可掛け許として。イノト教成は「父方の祖父」に対する 可掛け語とし て、及びず国人は「子供」に対する可掛け語として使用することもある。

<sup>(3)</sup> まれに 利可 となることもある。

<sup>(4)</sup> Rāput 於力。

<sup>(5)</sup> åaå.

<sup>(6)</sup> このたのまゝが、町格の単数ともたる。

ての女性名詞と बा, ज, क で終る女性名詞にあっては耶に 単致形に ए が 派付される。例 बाव [雄牛] → बाव , वेन्सिल ៖ 「給作」 → पेन्सिल , दिशा ៖ 「方角」 → दिशाए , वस्तु » 「物」 → वस्तुए , वह 「蛇」 → वहुएँ, 100

- [22] 1) 智者「經」, 賣者一賣者「養者」(非戸」のような 湖 や 朝 にてはる男性 名品では、その記配が で に変わり、それそれ 買び、賣で一賣者 となる。そして、 この主格性数がそのものが接格性数に専用されること。 朝 ている一投五点の男 仕名詞と異ならない。 例 で布 賣者 朝 耐て「ある井戸のガヘ」, で平 四番 朝 「ある少年の」。
  - 2) 女性複数活足 ぜ の代りに、ず も時々用いられるがたりよくない。
  - 3) 南南「八人」や 町町。一町町 「餅」「大勢」その他のだめ と数のごとよわすのに用いられることかある。例 項荷 南南 「強人達」、布督可如。「鈴人達」、たまし、南南 かまに拡致後いされるに対し、町町 を初め 南京 ~ 南南 「餅」「紅」や 南南。「参数」「餅」などは単独両貨に扱われる。

### 2. 従格複数の場合

- (1) 前項 1. (1)の(1) (11) 及び同しく(5)に該当する諸名記は即に京訴に 就 を感付するだけである。ただし、その(6)項中の ま て於るものに 限り短時符 (3) 化する。例 ではっ [計画] 「手段」「治段」→ 3寸値〕、 では「王」→ では前 。 1 寸寸・ 1 両り ・ 1 寸寸・ 1 可り ・ 1 寸寸・ 1 可り ・ 1 寸寸・ 1 寸・ 1
  - (2) 性別の如何に関係なく、まて終るものには वो おれけされ、まで 終るものはいったん短母音 まに変えてから वो かけけられる。 () पृतिः 「聖人」→ पृतिवो, पृतिः。「土地」→पृतिवो, पोबीः。「本」→पोविवो。

<sup>(1)</sup> 女性複数新足の前の契母音が同時音化するのに止動。

<sup>(2)</sup> 刊引 は 刊可。「統合」「石壁」の資格物数をである。

(3) 10頁 1. の(2) に設当する आ で終る別性名詞にあ ては、そ の間形が 前に変わる 「阿 बीआ 'からすい') प्रचिमे , बुना-बुनो , ,पम 「ペーン(刊)」 पानो

दर, इस चर्छ अप । शास शास अप १००० आ ० आ १८ इस ० ११ मनेबा १४१ १ चर्यवयो वस्त्रेया १९४१ १८४ १९०० च्याचेयो १विहराक १९ चित्रियो

🖽 १ बुजी ५० , घुबी त्य शहासदाताः स्थानस्य बुजा , पृथी ८८ इ.

2 शास्त्रम् ५६ ५६ ८ । सारा ४०० ११ , वोगोत-वोतिमत 2 ०९६ ६ द्वारा रक्ष ६६ १ , सारा १०० ११ , वोगोत-वोतिमत १९६६, परमा १-५६६ १ सरमे १००६ ११ , वरमे १९६६, परमा १-५६६ १ स्टब्स १६६६ १६ सरमो १६६६ १

3 從格拉敦特別用法

## [a] 副四として

- (1) 単独の場合
- (1) 一般的な場合――例、春行「徒歩で」:東南「飢えて」。
- (b) 「貯園」「貯蔵」「寸弦」などに関連して、ぼくぜんと「多炊」「多 弘」の意か表わされる。例 परा 「貯園」→परो⇒पिक्योक「繰り間もの間」: すべ前「終年もの間」・परोच「提月もの間」、すず前。「幾マイルもの間」。

用例— नोलो दूर 「幾マイルも这方に」; सूची (= सूखा) मरता 「銀死 する」, पदी वैठना 「機時間も座る」。

<sup>11) 1</sup> glán 1221 S. 2164-36 215.

<sup>(2) 1</sup> kos 杓は約2マイル。

#### (2) 複合詞の場合

- (1) 「強敵」のために反復された名詞の前點が後始複数形を知るもの。 例 (者) वीचा वीच 「(の)真只中に」; सत्तो सत 「真夜中に」; हाचो हाच 「消れに」。
- この場合、まれに両名詞とも従格複数を探ることもある。例 बातो बातो = बातो ही बातो में 「話しているうちに」「話の企中で」。
- (ii) 校園詞の省略によるもの。例 उन बिनाक 「その頃」「当時」, नुष बिनोक, 「就日間」, जपने कानोक, पुनना 「自身の耳で聞く」; पुटनोक बलना 「ひ ぎで歩く」「はう」, वेरे हायोक 「私の子で」, जाव दूर्या नहाएँ और पूर्वा फता 「あなたが大いに栄えますように」。

#### [b] 形容詞として

「金額」や「目方」「容徴」などに関連して、ばくせんと「多益」の意を 示しながら他の名詞を移飾する。例

たいし 新州(e) 村可「11~ル数アンナ(紙)で」は悪いてある。

गाहिंदों (त) क्पान 「車機台かの棉花」; मनो (क) पल 「幾マウンドかの更物」、

<sup>(1)</sup> 計「になって」が各等。本句の単数的合い方は 3世 『さす「その日」。

<sup>(2)</sup> オデ「まで」「の間」が占略。

<sup>(3)</sup> は写がは上に 円 「によって」が占稿。なおは)の野系は 望さず」 そして、(6) の立む。 「あなべと、ハクでも(着しなさい。そして但子はで変と結ばせなさい」。一般に野福の合 念としてお人に用いられる。「有難う」の代別ふ。

<sup>(7)</sup> 所もは 初ぎ(\*「ま」

<sup>(8)</sup> 料子 は約80ペントの重さ。40 円 から成る。

### [c] 数形容詞の場合

58

四日 1) 1 1 し ] さい数の総格基化 は とも 残らす のでう ° され さ。例 दोना दोनो 声名 とも) दोना मनुष्य は人 ताना बच्च 3人 の子はとも」、चारा और 四カー 周四ト。

2) 二つ以上の複数を示め 一つので日 月 止なる」 合 お飲のもののへか 任 特別がようのかいり削りである。しかしなから 近来の何づとして全名が 任格 放放化する。 段 司利・司利「総子書字」 — 一司利・司利 「押し合いへし合い」 最近」 — 中国・名司 道 「押し合いへし合い」 民民」 — 中国・名司 道 「押し合いへしたい」 て」 (1回回 神長にものは 利力 をではてい 有 正せ 人正せ まとりに気よの)。

## IV 格 (和(布)

格には8種か数えられる。(1)行为の政作者を示す主格(中間),(2)他功 河の助作の直接的な対象物。つまり直接目的哲を不す対格(中間),(3)他功 詞の動作が行われる相ず つまりいわゆる関接目的計を不す与格(中区間間) (4)物の出所 拠り所で不す手格(河口間),(6)動作の为されるところの手 段となる媒介的を示す契格(不可) (6)主として近間や関係を示す関格(田田中),(7)動作の場所や促進で示す資格(河口でで),(8)呼進けや等位に用いられる呼格(祖刊中)。

与格名詞には常に、個詞 前「に」か罪られるか その対格には 計「を」

<sup>(1)</sup> 旬間。[20] 102ペーク「舞台北門」参門。

が折られたり、打られなかったりする。器格と発格には共に氏型調査「をもって」「から」が採られ、 国格には後質詞の後に来る名詞の「性」や「数」如何によって、それぞれ 町<sub>四</sub>、竜<sub>四</sub>、奇<sub>の</sub> が採られる。また、位格には 苷「中に」、 पて「上に」、 雨==高雨<sub>の</sub>=両<sub>の</sub>=両<sub>の</sub>=可<sub>の</sub>=可<sub>で」(の</sub>「まで」などが用いられる。

なお、 好格には後間到こそ用いられないが、 名詞の単複とも従格化する 点で他の提格の場合とほとんど異ならない。 ただ異なる点はその複数差格 形において 前 の末足の方が省かれて単に 前 になることである。 (カペーノ [5]原則は明]

- [ 1] 年代に用いられる原稿割については54ペーン(I)を呼のこと。
  - 2) 知覧一項を刊言・時間計「兄 覧」や 可言・中国・中国で・中国で・中国では「中国計「中国計「一日報」 などの名詞における後方の各2で (行即のある分) は特に呼作用さといったよいなどである。
  - 2) Hindi では野角特を車両「主路」の中こ合めているか、やはり Urdu がに円老を期件に扱う力が展刊であるう。従って本までも改置詞を採らない主格 と、依例刊を採る野价格及ひ表が「は採らないが後望刊を採る場合同様に名詞の が投が記程空にする時待をも含めた対称。与称・評格・器格・異称・位性などの いわかる価格とも区別して、両者を対例的に取扱うことにした。

ちなみに、別作品とは、野門の12時和中の「完了」「現在気了」「可性気了」 「心ま完了」「仮元元了」「近去可能完了」など、すべて「他動門の完了分司」か ら作られる6時間が用いられるとき、主匠に校長調 寺 「によりて か収られる 場合のことである。

<sup>(1)</sup> 男性事故を訪り前に。(2) 男性複数を計の前に。(3) 一切の女性を門の前に。(4) 日今で使用。(5) 時に使用。(6) par yant はまれに使用。

わる男性の値名も間隔化したり、後間調を伴うとき で 化されることが多い。 वलकला「カルカック」、आगरा「アーグラ」、「同項の「レムラ」など、 ウルトゥ ~ 出つよりで a むの る で終る都市名がそれで、 同じく alif (4) で終る पूना 「ブーナー」、 गणा「ガヤー」、 अव्याला「アンバーラー」などは で 化しない。 अवोच्या のような女性の都市名も で 化しないのは結論である。

### 2 第二活用 (द्वितीय विमक्ति का रूप)

第一店用に図しない一切の男性名詞。 つまり 前節, 1. (11 (m) 項該当の 研 にて終る男性名詞が含まれる。本店用では從格複数において原形に 新 が您付される以外, 主格複数も從格単数も原形のままである。

### 活用例 であげてん

(1) ± छ गीत

料。	划 数	抜 数
主 格	राजा「王が」	<b>では、「諸王が」</b>
醇 格	राजा से 「王から」	राजाओं से [अंडिके है]
吁 柗	है राजा [कंक्ष±2]	है राजाओ 「おお王方よ」

○四 なお、ジミまでに、本括用に属する(3) 初雨「歌」;(1) 項目の「聖人」; (11) 収収養「大工」;(19) 初収。「行者」の活用例を示してみよう。

गीत

從将	गीत	गीतो
(11) 主格	मुनि	मुनि
性格	मुनि	मुनिओ
(m) 主格	वढई	वढई
從作	बढई	वढडयो
(iv) 主 作	साधु, साधू, साधो	साघु, साघू, साघो

ॗ 第三活用 (ततीय विभवित दा रूप)

g や f にて終る女性名詞か合まれる。(54ペーク(3)を<sup>取</sup>)

※無例 (1) सडवी 「少女!

62

的 \$ 13. लडकी लडकी

北 数 लडिकयाँ

लडिकया

從 終 (n) इस्तलिपिङ [जिंक]

. 主 柞

हस्तलिपि CE #3 हस्तलिपि हस्तलिपियाँ हस्तलिपिया

4 第四活形 (चतुर्य विभक्ति का रूप)

▼ や € 以外の文字で終る一切の女性名詞。主格主語において、原形に

ず または ず ず かぶえられる。

活用(f) (i) 平(g) \* [f] [

単 数

担 21

主 む माता 從 格 माता माताएँ माताओ

(n) यथ [16.]

**‡** 13

वघएँ वध

在れ वध् बधओ

(III) याय प्रिः 4 J

すれ साम गार्थे

<sup>(</sup>II) 長時立て株る数字が複数形式の前でに発音化するのに注意。前ペーン(例で)(iii)お月。

क्षंद्र श्रेष्ट्र १६ १६ माय गायो

(av) नाव + 「舟」 また

नाव नावें

भावा, नाआ

ते १९ नाव

(v) चिडिया 📳

主 松 विडिया चिडियां 花 松 विडिया चिडियां

# VI 名詞接尾辞 (सजाओं के प्रत्यय)

### 1 指小辞 (लघुवाचक शब्द)

- (1) 詔尾 町 を女性題尾 € に変えて ――例 町両町 [記録] 「やしの 実」→ 竹市「小妹の 朔」「丸茶」, 甲酉 「錢」「韓 関」→ 甲右 「錢」, 東マ町 「뱛」→ 東マ市「小坊」, 毎両 「粧」「車転中の一区切り」→ 行っ前「小策」, 電町「大歩」→ 電奇「小歩」「財布」, 守町「大きな本」→ 守守町「本」。
  - □ आ にて作る別は念詞と、章 にて許る女性多词とも、(1) 同意になる場合と、
    (n) アだこれるり合とかある。例 (1) कुरता> कुरती> 「イント式しゃばん」、
    सोपडा = शोपडी 「小屋」、 बूता = जूती 「くつ」、 बोप = चोरी 「メック数・(4)
    अगीडा 「大人はち」 「独語報の記」と अगीडी 「人はち」「経知」、 ताला 「じょう」と ताली = चानी 「かき。

<sup>(1) 「</sup>町の」「ボの」「町民」「市民」などの立ともなる。

## 「山地の」。

- (३) इया अहे र --- श जीस् । १३। → असिया । १३। । ८। । दिखा
- [第] [草室] → डिविया [小額] , वेटी 「娘 | → बेटिया [小娘 | 『記』1)上記の何でも見られる近り、ついりか多少変更されたもの。接て呼か然
  - . 511246125 के क्यां-क्यां-क्या-कर #戸 → व्हिया क्या 「川井戸」なとは この思たしい例である。
    - 2) 上記 一切の指小サデビー語は女性名詞になるので メェロ ごけどがい した。
  - 2 抽象名詞 (귀여귀चक संजा)
- [a] 名詞・形容詞を基礎とするもの
- (1) 女性語品 まを添えて--- 例 (1) 南 〒 「如 | → 有 市 「排 作 」「 監 業し चोर [弘人) → चारो [弘 みし (n) ऋँग [弘 い] → ऋँचा ि । । भला → भलाई किंछ।
- 語に限られ、法院となる語が名詞のとき、つねに「人」を示す語であると とが特色である。例 (1) 新年 [詩人] 一新年([詩], 行す [次人] → मित्रता 「友情」, बानु 「故」→ बानुता 「故意」。 (n) आवश्यर 「必要な」→ आवश्यकता 「必要」, मूर्ख 「愚かな」→ मूर्खता 「豊」, स्वतन्त्र 「独立の」「自由 な」→ स्वतन्त्रका 「独立」「自由」。
  - (3) 女性語尾 までを聚えて──例 (1) विवाह 「女」→ विवाहर 「女の 気まま」、वालः 「子供」→ वालहर 「子供の気まま」、 राजः 「王」→ राजहर 「王の気まま」。(ロ) चरमरा 「からい」→ चरमरास्ट 「からさ」「からい好」。 चिक्ता 「なめらかな」→ चिक्ताहर 「なめらかさ」「平滑」: सदा 「獨った」→

64

मडाहट 「腐敗」。

- 女性語尾 रूट はまたつの背根に挙付されることもある。例 मुनदुराना 「父
  - 51 → मुमबुराहट १३० ०
- - □ 1) 上記の bac pan, laTakpon は、共にや1不規則である。
    - 2) पन, ई の原源にか任むに住用されることもある。ह] चौडा :広い」→ चौडापन =चौडाई。「広さ」「福」, मोटा 「太い」「悪い」 → माँटापन = मोटाई。 「太さ」「原名。
    - また、पा ६ पन 同様のほだとして終々用いられる。() वृदा '२१ た」
      「芝人」―― वृदापा वृदापन (芝午), वृदा (大きい) ――वृदापन रहापा वृद्धार्थ,
      「大きさ」だた。
  - (5) 男性部尾母 を添えて――例 यहरा 「深い」→ यहराव=नहराई。「評 さ」。
    - [b] 動詞の語根を基礎とするものem
- (1) 女性朝尼 幸を露えて──例 पुडनना しかる」→ पुडनेल じけん 元」, बोलना [語す]→ बोली [方語] [音語] [語], निलवाना [どかせる]→ लियाई [把取り]。
  - (2) 女性語品 朝養 を除えて――例 चटना「登る」「乗る」一चराई「公 (1) おなのたださのまいても、その人類かがける名別になるととはないの表している。

<sup>(2)</sup> 元前は ghurakus, ghurki,

「磯う」→ लडाई 「戦争」「けんかし

- 「TA」 上校記録的仕の抽象を同には「「MfL」とそのTMEに基く「料金」の2でを アナガ合か少なくない。何 घलना 「洗われる」→ घलाई 「洗うこと」「洗けく 代 ,परना 「料理する」「\*\*す → पाई 「料理する」と」 料理長」, रगना : テ める」→ रगाई 「すめること」「かふだ , सिलना 「きまわれる」→ सिलाई 「でこ) -EI (tott a
- (3) 女性語尾 आवट を示えて── 💹 थक्ना [技れる] → थकावट 「妓 労」, बनना 「作られる」→ बनावट 「作製」 「据告」, सजना 「飾られる」→ सजावर 「蓼飾 ७
- (4) 女性訊尼 हट を抵えて――例 चवडाना [当惑する] → घवडाहट 「当政」, चिल्लाना 「さけよ」→ चिल्लाहट [さけひ」「騒音」; भिनभिनाना 「ぶんぶんいう (針なとが) 」→ भिनभिनाहर 「うなり」「ぶんぶん」。
- (5) 女性語尾 34 を添えて──例 उलझना 「もつれる」→ उलझन。 「もつれ」「紛糾」, फडकना 「鼓動する」→ फडवन 、 「鼓動」; सहना 「我役す る」→ महन 「我投」。
  - たいし、उडना「飛ぶ」→उडान「搬ぶこと」はやム不規則であり、चलना 「歩く! → चलन 「行い」「智慎」が男性名詞になる声が違っている。 そのう え、これは 可可一可可「行状」「品性」なと」。 複合名詞の一部として用いられ ることも少し。
  - (6) 別性部記 बाब â'o を添えて──例 चढना 「登る」「乘る」→चढाव [坂] 「腐貴」「増水」「上流」, चुनना [選よ] → चुनाव [選挙] 「選択」;

<sup>(1)</sup> Bait ulajhna nighan.

<sup>(2)</sup> 元元元 pharakna pharkan.

दवना [任せられる] → दबाव [任迫]。

- (7) 別性語程の 朝 を訴えて――例、 宮中町「印刷する」→ 安町「印刷」 別1: おすま研「けんか口論する」→ おすま」、「けんか」「口論」。
- (8) 別性部尼 त्व tva s を除えて——例。 दास s 「奴抄」→दासत्व = दासता
- 。「奴談状假」「談風」,सतीऽ \* 「地死」「真女」→ सतीत्व=सतीता\*° 「真筋」。
- (9) 女性語尾 अत, तो を添えて──例 रगना「黎める」→ रगत「紫色」; बदना「増加する」→ बदती「増加」。
  - (10) 沿根の処ほ音を長段音に変えて──例、「中तना-जूलना 「和合する」→ मेल-जोल 「親密」; चलना 「動く」「歩く」→ चल。 「行動」「行い」。
    - ハルノ・ボヤフラビャ連の拡張を引や指小前についてはカルトゥー語の文法 切が明のこと。
      - 3. 「人」を示す名詞 (मनुप्य-वाचक सज्जा)
    - [a] 個 有 關
- (1) ई そ形えて。(3)—例。 विधिकारः 「支配」→ विधिकारोः 「支配人」; व्यापारः 「商元」→ व्यापारोः 「商人」; पापः 「罪人」→ पापोः 「罪人」。
  - (2) वाला wâlâ を添えて<sub>でい</sub>――例 कपडेवाला 「反物前」; घरवाला<sub>(3)</sub>「芦上」「犬」; नाववाला 「船頭」; रोटीवाला 「パン郎」。
  - अजिल्लाहरू ए ११८१ ६००६ १६८६ १६४ ६१४ ४ । जानेवाला १११८ । देवनेवाला १६४४ । रहनेवाला १११८ ।
  - (1) いわゆる Taisama 旨でない場合のものの多くは男性名詞になるので。
  - (2) third jhagarna, jhagra,
  - (3) 38ペーン、(6)及びその「折ご」お押。
  - (4) 90ペーン。素容別接尼許を照のとと。
  - (5) 木下の人了を \*\* 化すれば「主婦」「す」の意になる。

- (3) हारा=दाला を踏えて一一例 लक्डहारा<sub>क</sub> 「木こり」, निस्तनहारा<sub>ल</sub>」 「粉をひく男」, मरतेहारा=मरनेवासा 「班ね人」。
- (4) 男性語尾 ずす。「人」「ともから」「類」「雅」を於えて――例 यम्पुन ( ) 「元親」「一門」、祖明寺 ( ) 「行者の類」、で対すす。「女の人」、 स्वामीवन。「利己主義者非」。
- (5) 別性部尾 वाताः 「与える者」を添えて――例 अवदाताः 「忍人」, भवदाताः 「窓を与える者」, जीवनवाताः 。「中命を与える者」。
  - (6) वासी=वासी 。 「住民」のを 蒸んて 例 नगरवासी 。 「市民」, स्वगंबाती 。 「天郎の住民」, हिन्द-बासी 「イントの住民」。
    - (五) जन्म ऽ 「生れ」や जाति ⇒ □ | 生れ」「延期」 も(4)項の जन と同義に用いられる。例 मनुष्य-जन्म (=—जाति) 「人類。
      - [b] ペルシャ由来語(o)
  - (1) ﴿——例 奉命「囚人」「諸威」、南東代「宝石商」「宝石の」、東लबाई 「楽子展」。
  - (2) बान=बान 「著人」「人」—例 गाडीवान 「馬車屋」, दरवान=दरवान 「門系」, क्षालान 「底筋」。
  - (3) दार 「所有者」——例 खमीनदार 「始主」, दुकानदार 「店主」, सरदार 「首節」

<sup>(1)</sup> lakat hārā [2 lakrī 『木材』に由井。

<sup>(2)</sup> pisan hárá (はずい) pisañ [(物に) ひかれる」 F由京。ここで、hárá の代りに hárísa harlを以てすれば「物さひく女」の歌になる。

<sup>(3)</sup> 男性名別と形容別「に住める」の業内否である。従って、magar vāsī は「町に住む」、 svarg vāsī は「天国に住む」「死んだ」「故」などのむともなる。

<sup>(4)</sup> 門首には Hindi F使用される程度のものたけ挙げることにした。本項で話呼行の無い分 は共ペルン+5.

- CE この時後 आ 前で作る「吐本性性」の前で ए 化する。例 ठीवा॥ 突 約」 → ठीवेदार॥ [数寸形] , याना॥ 「交系」 → यानेदार (元光」, पहरा॥ 「見張り」 → पहरेदार॥ = पहरेदाला॥ [現底人]。
- (4) बार [住事]—例 वास्तवार [登夫], बयवार॥ [著名], वित्रकार ॥ [國家], नतवार॥॥ [對肝家]。
- (5) गर 「製作者」「職人」—— श वारगर=वारीगर 「職人」「職工」, जादगर 「魔法仗」, मौरागर 「商人」。
- (6) गर ितिया प्रिक्षेत्र 例 खिदमवगर 下男」, गुनहुगर िस 死人 । मददगर िक्षेत्रेत्र | 百伝人 ।
- (7) 可容 zôda「以子」――例 審証で可容(=変記です「ハラモンの思子」, 町ま可容(「王子」, 明末事可容( 評土の恵子」「坊っちゃん」。。)
- (8) सार्व saz 「製作者」——例 कारमाव 「発明字」, घडीसाव и 「時計 歴」, रमसाव ॥ = धोषी ॥ 「染物師」「添染工」。
  - [c] トルコ語接尾辞

単に 司「製作者」「光子」か任用されるだけてある。何 34計中旬17 = 34計用 アヘン製焼谷」, 前4司・「総子」, 前4司中司か、「銭売者」。

- 4 「場所」を示す名詞 (स्थल-बाचक मजा)
- [a] 固有語
- (1) आलयः [分] [場所]——例 पुस्तवःलयः [溫去顏] , निय्वित्यालय ऽ「大学」。
  - (2) 研研。2=研研。2「家」「場所」——例 明研研。2「牛小房」。

<sup>(</sup>i) granth「本」 čite「西」 ngitya 「箱)」などと すへてサノスクリフト部 F 恋になっている

<sup>(1)</sup> 大字を ₹ 化すれば されづれ「ハフモノの数」「王女」「お切さん」などの意となる。

- यमशाला 🕫 िर्सित (おばるや五礼者の) , पाठशाला 🕫 「学校 🖍
- (3) घर [家]——例 चिडिया घर [功物國] , डाक घर 「郵便局」, तार घर शिक्षिकी है
  - (4) वाड्र=वाडी (場所」「權内」「庭」——例 फलवाडी ==फलवारी \* 「花岡」、中間間は、「殉死する寡婦か亡夫と一緒に焼かれる場所」。
- (5) पूर ८ िको िको िसी——例 कानपूर (市名), नागपर (市名),
  - मनीपर (旧茄王間の名)。 (6) नगर。「市」 町」――例 श्रीनगर「カンミールの首都」, क्रव्णानगर 「市名」。
    - [b] ペルノ» 由来語
  - (1) आबाद 「市」「町」――例 इलाहाबाद。、〔市名〕, फैबाबाद。、〔市名〕, हैदराबाद。(市名)。
  - (2) वाना [家」——例 वारलाना [工場], अजायवलाना,,=अजायवयर 「树物館」, डाक्खाना=डाक्धर 「郵便局」。
  - (3) गाह\* 「場所」——例 वरागाह\* 「牧場」, बदरगाह\* 「港」, शिकारगाह\* LATER I
  - (4) स्तान [均所]---例 परिस्तान [おとき話の田][よっ粉の田], **(すべて) 「イン)教徒の国」「イント」。**

ただし、若にこの木了か子音であれば ままます となる。例 पाすり「神聖 21→ पाविस्तान (周念), कवर 4 [我]→ नवरिस्तान 「窓地」, रेग\* Г砂」 ・ रेगिस्तान「砂地」「さばく」。

<sup>(1) 「</sup>朴の町」(2 「乱みの町」(3)「ししの町」などの它のアッピヤに。 (4) 発音 ajá ib khina.

- 四計 交流つつりでは स्थान と立る。 🖰 निवास-स्थान ब (住庭) । हिन्दुस्थान 「イント」。
- (5) दान 「容器」――例 उपालदान=पीनदान 「たんつば」, नमनदान 「塩 入れ」, पुण्यदान 「花びん」。

## 切 複合名詞 (समज स्जा)。

前節 (VI) も広義の複合語 (不可です) に相違ないか、ここでは接尾 辞と無関係な名詞符合詞を扱うことにした。

(1)同義語の場合――例 चमन-समक、「難き」, चमन-राल、「託式」「風 で」, वॉन-पेच「わき」「手技」、रेम-पेल。「人混み」「悪業」, मुराग "म 「幸 那」。

完全な同義語ではないか、互に似たような直義を持つ語の並用される場合もある。例 पर-दार「攻」「住い」、पास-पुत्त「かれ 草」、वस्र कपडे 「若 むし

- (2) 単なる口濃の食さのために蒸乾なしの添添をするもの―例 項で収る=契の「つそ」「釣り」、収す 可用。= 型用「準度」「覧ぎ」、可引・可消・ 切消 「氷」、 需要を行る形象。= 用書「被か」」「けんか」、 報句の・ 型句の 「歩」」
- (1) 接続詞の省略によるもの――例 गाग-वेत 「宋帝」, जनवायुः 「矢 悸」, साना-वाना 「経作」, गाँ-वान 「父ほ」「商親」, सुव-हुख 「おゑ」。
- (4) 前額が後額に対し修算器の役目をするもの――例 本本 信代 \*\*\* = 明本中代 「家生日」、 では本いる「国事」「統治」、 でははなる 「宮政」「大統 領官部」、 にて、表現 \*\*\* を見いる はいてになる。 「新聞」。

<sup>[]]</sup> sanyukt sar gyz とも称される。

[22] 1) この場合 前語が四有名詞でもやはり形容語りこれる。例 गुन्त समय श 「クナが対し」、व्यक्त ग्वराज्यः 「イント共和国」、गुनान देश 「ギリンャの国」。

हिमालय पर्वेतंड ६४-७१६॥ ०

2) その他民格後選ぶで集合されるもの、――『 पीने वा पानी 飲みか , मिट्टी का तेल 石曲 , हाथ वी घडी 闘りゃ!。

3 独立のために同一語か結合されることもある 所 दिन वा दिन ा\*\* 日」、रात की रात 34夜。

4) 可てま「清ち\*」を伴うもの。――例 写て可で 全文款」、その時で 全図」、
 「有でる 耳て (首) 「世界中(水) = (空へ~~)「完容訂」「?故応計」(\*)かよび37ペー

ノ (男字) 4) 2月)。 5) まれには形容別と名別との結合によるものもある。例 वडा दिन「ケ)

スマス」、円を用印む「大学」。

6) ヘルフェ所やアラビヤエ由空の飲命を行の診断される プレカルトューリ

6) ヘルノャ語やアフビヤ語由来の複合名割の詳細についてはカルトゥーはの交法者を買のこと。

# 第二章 代 名 詞 (सर्वनाम)

## I. 人称代名詞 (पुरुषवाचक सवनाम)

## 1. 第一人称 (उत्तम पुरुष)

## **荆**[私]

姐 数 世 姓 主 松 弟 "私は」「私が」 **評明「私きは」「私・まが」** 動作権 発音できましょう हरने (१ (१) 既 お मेरा [-रे, -री] ほの。 हमारा [-रे, -री] ऋळा 4 to महो, महको विश्वदा हमें, हमको म्थ्यादाता 対格 \* \* 阻安; ク タ「乳泡を」 🎖 😘 मझसे हम से 幕 格 मुझ से 「私から」 हमसे । इ.१९०० हा 位 格 中町 単 「私の内に」 हम में (स.क्रेक्श्राट)

## 2. 第二人称 (**मध्यम** पुरव)

## えの「お前」

<sup>(1)</sup> 各種代名がにおける単複各種の与称の形のうち、関わるである形の方が近代的である。

<sup>(2)</sup> 方言では 引または 引 ともいけれる。

तसं, तुझको िक्षार्थ। 計 坎

तझ से 「お前こよって」

葉 格 तझ से 「お前から」

付 松 तझ में 「お前の内で」

तम्हें, तमको [क्रहा(ह),हरू]

**तम से** 「お前(君)建こよって

तमसे 「お前(君)きから तम में お前(君)赤の内て

田 法

哭 救

(1) 8円----本語は主として次のような場合に用いられる。

(1) 個人か世論の代弁者として、あるいは団体を代表して語るようなと き。(u) 羽主や高貴な身分の個人によって。(in) 著作者によって。(iv) 親 しい間柄同士の俗語「ほく」の意に。(v) 無数益・無数音に紀因しての以 用から。(v1) 立腹から。(v11) 高得から。

促って、日上の人に本語を用いることは失礼になる。なれ、本語はたと え単数の窓に用いても動詞は常に複数になるので、外形からだけでは単位 の区別がつきにくい。よって、特に複数であることを明確にさせるために は集合名詞 南南「人々」を用いて 宮田 南河「私産」とする。

- (2) 豆---これは次のような場合に用いられる。(1) 妻子・親ななど、 遺植の要らない間柄の各にcm (n) 日下の老や春公人に。(ui) 析師などで 神に呼びかけるとき。(av) 作品の中で、 許人が君主に呼びかけて言うとき。 (v) 人を侮辱して言うとき。(vi) 立腹したとき。(vii) 往々、数師が生徒 に向って。
- (3) 気料---とれも複数形でありながら盛んに単数扱いされる。同僚・ 家笠・木姫の若者・労働者・小売商・召使・子供などか本語使用の主なる 対象となっている

<sup>(1)</sup> 自身の作・故様・第などに対しても製造の全りから用いられるが、父・祖父・叔父など に行って用いられることはほとんとない。

なお、本語の場合でも、特に複数であることを強調しょうとすれば、や th लोग रूस्ती केट

(FE) 1) gq にせよ (Tq にせよ、単複画意に用いられるのは 主格・従格を通じ ていある。

2) すべて、人利代名詞や指示代名詞の属格は、その次に来る名言の数や性 およびおに応じて、水字 研 が でまたは 章 に変わるのでふる。

(4) 強敵詞 計 を伴えば「自身」「こそ」の意が暗示される。例 計 会「以自身!「私こそ」。中で計「私自身の」「ほかならね私の」。

との場合 Sandhi に基いて多少つづりが変わる。例 ます・計=評判= हमी. तम +ही =तम्ही =तम्ही, मुझ ⊤ही =म्झी, तझ +ही =तझी.

> 3. 第三人称 (अन्य 9रूप) 표 II. 指示代名詞 (सकेनवाचक सर्वनाम)...

### 1、48m「饺」「饺女」「これ」

61 25 ug fakt fahit in 主 格 दसले (१) १०।

拉维 ये स्टिह्माट्स**ह**स्था

इन्होने. इनने १०। १०।

इसका (न्के. न्वी) 正 格 「弦の」「これの」

動作格

इनका [-के, -की] 「彼ちの」「これらの」

इसकी, इसे दिस्या ग्यामा इनकी, इन्हें द्विकारा विकास 丘 於

<sup>(1)</sup> san ket 「花子」の代りに、nush-cay 「決った」「従った」も用いられる。 (2) 文字通りなら yah 音であるが、実产上。 ウルト・ー ごに yeh 名。 さしろ 花数でか d

J ロバに発音される。本語は「との」をの指記に発音にもなる。 (3) 最数「これが」「役が」、複数「これらが」「被女達が」なとでもよい。しかし、これら「近 芸管デ代名冊」は、次項の 可。や 、ほとに第三人子代名語となることが少ない。

<sup>(4)</sup> 各格を通じて、複数形はまた。人行代名室の場合に限り、専務的に単数民いもされる。

भूति सरहात्वीहरी १८८ । सर से देवन देखें हैंदूरी ते के देखें १८८८ । १८८८ - इनसे १८८८ । १८८८ १८९८ - १८७८ - १८६८ - १९५७ - १८८८ १८९८ देखें १८७७ - देखें १९८५ - १८८८

## 2 किंत स सद हा

### 用 法

(1) 項 と 項表 一門おか取了の具確にいるか比較的遅れの位置に対 る [人] や [特] を示すに対し、後者はあ了の間に対ないか比較的違可 の場所にいる [人] や [特] を示すのに用いられる。しかし、これら内型 政形とも、「花」なり「花女」なりが [和] をもって話しかけられるような

<sup>(</sup>i) この wh 5つルトコードに web かしろ う のなどを含される) べないことはまたこった (11ペープを含され)、455とけで さびア場合 [その]の意となる。

② 大子代グジアが行動り、可能が下車放便いされる。ため、上去の、世界の場合でも、女 村の「人」や「竹」にも関いられること、十年の場合と果わらない。また、このことは呼吸 可るのでは、世界においてもじむとである。

関柄の者でない限り「人」には用いられない。つまり、「あの方」のような敬語的意味の第三人称としては用いられない。これに反し、両者の複数形 章 や 章 は複数として「人」にも「物」にも用いられると共に、表 甲 や 可 同様、単数扱いされる場合には「あの方」とか「この方」のような敬語的意味にも 用いられる。「物」を示す場合には、この歴の制わはなく、正確に適近の単複が区別される。

また、これら両半数形は、ウルドゥーの影響を受けてか、原形のままよく複数扱いもされる。ただし、この場合、常に複数値弱が採られるので単独の区別は自らつく。ヒンディーにおけるこのような傾向は私近のことで、未だ一般の容認するところとなっていない。従って、避ける方がよろしい。なわまた、可をと可をとは、一般の事例や理論に関連して「前者」と「依者」とか、「一方」と「他方」とかの意を示すのに用いられる。そして、時間的関係を示す場合。可をが「現在」または「歴史現在」を示すに対し、可をは「過去」を示すのに用いられる。

(2) 対と者——上記の通り、これら関連数形は、その能格複数形も 5 とも、地位的によく単数扱いされる。そして、その主格複数の場合、その 数の単数如何に関係なく、動詞は常に複数になるので紛らわしい。そこで、特に独数であることを批判する必要があれば、やはり 幸 帝可「彼ら」「彼女ら」となまれる。

また、この すが「神」を第三者として並べるような場合にも用いられる。

(3) 指示代名詞が指示形容詞として用いられるとき。その移動する名 詞が低四詞を伴うか否かによって、主稿形が採られたり鍵格形が採られた りすることに指示代名詞自体の明合と同じである。例、報 前行本「その兵 生」; उस कृते का 「その大の」, वे घटनाएँ 「それらの出来事」, इन लोगो का 「とれらの人達の」。

- - (5) 各代名詞とも、その主格主語かよく省かれる。例 (年) आता き 1 「(彼が) 来る」。

# Ⅲ. 尊敬代名詞 (आदरप्रदर्भक सर्वनाम)

代表的な珍飲代名詞は 初刊「あなた」で、これは「あなた方」の窓の 複数扱いされると共に、「あの方」の窓の第三人称単数の敬语にもなる。 そして、たとえ単数の窓に用いられる時でも複数動詞が採られる。従って、 複数性強調の場合、やはり 初刊 が続付される。しかし、 以詞 利可「あ る」の現在時相とでは 前 ではなく、書 が用いられる。

本部は年反者や見知られ人などに向って用いられるのであるか、丁寧な 会話において、眼前にいる人のことを話すような場合にも、章 よりは一層 多く用いられる。また、神に祈願する時の呼びかけ語として、ウルドゥ 一畑の者が 賈 一点要りであるに対し、ヒンディー畑の者は、賈 よりも 100 見た 世子 自引と記てみたが「はかちらぬ」とする方が一番表で、 प を使用することか多い。まれに でい も用いられることかある。

- CD 1) ・ノへ一境力では 資子 か最も広く用いられるに対し コウナウ地方 ては同校的 はかりでなく を飲か生味で対してさますぶか用いるほとである。 2) のの一かしなかな ファット・ファット
- 2) 代の一般人所代名詞原像 朝下 も女性かされるおよれま二人所女 性根数の動詞が 用、られる。何 朝甲 細 研究司 きょ 『江本社大北ます』。 そのほか、 白頸 や 放女に 対する 敬語と して、 男子用の 利用(する)()、 「現(す。) 「現(できる)、 河田軍 4 : 現(なく) (の・や計人用の 利用(引き)(の・者)(もな)、 行同 4 その他かある。
- CE 1) 上 3 呼朔け用の敬意の社がに 「 さん」「 ポッド 氏」 なとのよう に 医常名両や物温名両に認けされる終つかの際行かある。 例 पाषी औ 「ナーノアィーさん」、 सीवा औ 「フーターさん」 (私司 成 (ま 父 ちゃん) बाप ず 「お 久 さん」、 वेदा जी 「 セナさん」、 पाई ची 「 兄 さん」 , साबु ची 一 सापु वा वा 「 行者さん」。

जी はまた他の類語にも振行される。 हा ताना जीता, वाबा जीता, यीमान जी [太下は श्रीमती जी] का मुक्त वाम [公名]。

2) 研究する動物を「住人」「特主」「特主」を 前 の同的なとして 「各人」「 治」「 圧」の意とはて作に回数他の男子側に広く肌 られる。日は此の見縁を入外水人の女性には 研究可 のファビャニが女性で、研究可 aábub 「投資も人や外水人の女性には 研究可 のファビャニが女性で、研究可 aábub 「投入」「主持」「よ」カ 用いられる。例 予定で研究「ネーフロルーさん」、初するな

<sup>(1)「</sup>字葉伝」の在

<sup>(2)「</sup>大王」の代ではあるか 一を人の日常等できる。

<sup>(3) 「</sup>主人」「賞下」「改作」などの意 主人や阿王ア対しても用いっれる。(4) 有名なでなのを、タリッナ物の示人を結婚の異名でもまる。

<sup>(5) 「</sup>女神」 竹厂 Durgs 女神が意味される。

<sup>(6)</sup> 本央 ヴァイノナ階級の名下対する名字 『父方の祖女』や『だ古』に対するなど。

<sup>(7) 「</sup>初交」や一切均十に対する数学。

<sup>(8) 「</sup>幸運な」の食の秩序。 (9) 5 にはとんと関う取り性に 3 どの何合。

置詞の付い たものか代用されることもある。そして、阿可可 を強めるために、 この 「何可 か全分に発行されることさまある。用例

अपनी निज की कुर्सी (धिनीधिनिक) के

3) आप の微格形 अपने のほかに 医格と特殊のみに使用される初正代 会議 आपस (至に)かある。用例 आपस का [-के, -को] 「お立の」、आपम 並「お立に」。

しかし、このではでは、ए年 दूसरे वा [本, 4] 「相正の」。ए年 दूसरे 我「お互に」の方が一部一般的である。

ます。なくれてま「お互いに」「お互いの」も用いられる。

4) 再帰代名詞の一層詳細については「文章論」283ペーンを明のこと。

# V. 不定代名詞 (अनिश्चयवाचक मर्वनाम)

## 1. 朝家「離か」

(1) 次のように活用する。これには複数形がない。(1)

主 な ずき「誰かが」

動作器 विसी<sub>का</sub>ने [ 〃 」

馬 格 「存祀 有 [一年, 希] 「鑑かの」

与 松 【何中 可「誰かに」「誰かを」

位 格 何州 平「誰かの内に」

用例---(क्या) नोई है? (鑑かいるか」, नोई नहीं 「誰もいない」, नोई बाता है। 「髭かか今る」

(2) 一種の不定定詞として、(1) 「人」や「物」を示す単数浮記名詞

<sup>(1)</sup> 枚数の組念を干すために、主格形、低格形ともしばしば反復される。

に ソクナクと方では 行及 か 行前 に代って用みっれるとともある。

特に、形容制の正では常に期間化する。

यह बछ लाल है।

「これは少し木い!

यह क्छ बडा है।

「これは少し大きい」

□□ 申请 や すむ を基礎とする各種の複合不正代名詞については「文章論」286× ~~つけのこと。

# VI 紅間代名詞 (प्रश्नवाचेक सर्वनाम)

## 1. काँव 「新」「何」

# 21 1<sub>k</sub> ₹7

: १५ जीन

ਲੀਜ

१५५१ विस्ति ने

विन्हात, विन ने

🕮 🕴 विस्ता (-के.-वी) दिनवा (-के.-वी)

🚼 🔛 रिसे, विस वो किन्हें, किन वो

🎇 🚯 विस से

विन से

45 ४५ विस में

ਰਿਜ ਸੌ

[E] 1) 17門代名。『の場合、主格・符片に関係なく、主席の時には「馬」のでで あるか。たとえ上作みでも、止音において「行」の意になることもある。これに 以し、従行形からな、多くは「人」 も子すにしても、まれに「約」を示すことも ある。(\*女作。) 291・一ノシ町)

「人」を元す名詞の前でない限り 展問形合詞の場合。「行」「どの」「とん たしたどの代にのみ用いられる。そして、よく反称もされる。 詳細は、すべて 「文意論」に渡る。

- 2) 動作物のもお乱は、「人」か意味される時に限り、 尊信的に 単数扱いも される。
  - 3) この1 福元は主格形等三人科代名詞並指示代名詞とよく荷格的に用いら

れる。 (文章論) 231ペーン(5)の末野診門、

4) 南可 に強を調 君 が行けされると 南南 または 郁・君 となる。用

ह। विन्हीं को विन्हीं से

### 2. 年41 「何」

1 के दबा विकि।

区 お काहे वा [-के, -की] 「何の」

与格 朝彦前「何に」「なせ」

अ का हो को 何念」

応格 町産前「何で」op 「何から」

位 格 南彦 草 「何の中に」

(E) 1) これには、単数形状かりて、複数形と動作格とがない。

2) 春町 の従格形は、古典ヒノティー 南町 「何」「どれ 「たせ」に由来す るだけに、実際的に使用されることがまれてある。わずかに、 異格か 存在 すれて का (何(数)の」、与なが किस वास्ते - क्सि लिये - क्यो 「なせ」の代りとしてま れに用いられる程度である。用例

यह खिलौना काहे का है? 「このおもちゃは何て出来ているか (何製か)」

3) 疑問形容詞、感受詞その他甚々在用在については「交登論」に渡る。在 ま、主格形等三人行人行代を開発指示代を開き上く同株的に用いられる例につい ては「文章論! 296ペーン(5) 森昭のこと。

W. 関係代名詞 (सम्बन्धवाचक सर्धनाम)

司 「…する所の」「…する者〔物〕は」

重り

m 25

複 1 粒 जो जो

<sup>(1)</sup> この此のとき、宏称条件。

ध्रीमिक जिस न जिनने, जिन्हाने

ほお जिसका[के-की] जिल्ला[क की]

5 to जिसे जिस को जिन्ह जिन को

र्ग । जो निसे जिस को जो जिन्हें जिनको

ರ್. ಗ್ರ जिस से जिन से

位 🌣 िस में जिन में

(五) 引 およひニの各格は「人」にも「物」、も用いられる

- 2) 先行句が「人」をデオ計 限り 単数総位形の代列 投設形の 何可力 尊称的、単数の空に用いられることがある。
- 8) この 前 と状出の弦が同の 南 「もしも ク研門つ 可 するとき」とを互) 沢岡してはならない。
- 4) जिन カ強亡の ही か体えば जिन्ही まりは जिन्ही とない。用例 जिन्हो
- 6) しかしなから 相関等としては 主体・技術とも 可えか 和 ! 代って 相関代名 1として用いられる方か一缸が、相関月の占端は全り分ましいことで はないか !\* ニーの主性形がよく占轄される

# 第三章 形容詞(विशेषण)

# I 性質形容詞 (गुणवाचक विशेषण),,

### 1 概 要 (साराश)

- (1) 『容清 こいわゆる形容 計用法 (विशेष्य विशेषण प्रयाप) と代立 的用法 (विश्य पिरोपण प्रयोप) のあることま郷 高がてあっ。 『 容満に移 然される名』 は (विशेष 』 と初される。
- (2) 形容言的な場合 イント固有形容調である限り 原期として修飾する名詞の前に假かれる m

(3) 幾つかの孔容割か並用される場合。接続調は末足のものの的にた。 け入れるのか一般印であるか。必ずしも入れる必要もない。例

い人にないか一般的にあるか。 紀ずしも人れる必要もない。 例 छोटी मोटी वार्त 「大小の事帳」, स्वेर के समय की धीमी, जीतल (और)

村可 引収。「早朝町の畳かな侍い(そして)符らかな空気」。

<sup>(1)</sup> gun [tt]] vácak [yiii]ght] [z iiiii]

<sup>(2)</sup> ペレノ+添血水形では be eira「無法な」「気力って」は 特によくといの後に設かれ テの先立つ名の2分性や数に支配され張尼支化やする。

<sup>□</sup> まで終わるとの秤の分散計でして存に活足支化をしない上の例については105ペーノ(付す)1)のす化金円のこと。

- (4) たいし、で答為が 在に限収して利容句を形成するような場合、接 計画は据れない。例 添加 引加 「高低のある」「てこほこの」、 4 平和 「牛外の Jenn
- (5) 一年の元 (計句として、1) 加調の過去分割 即う過去形の結合 (4) (1) 即はる対別子のために形容割に有義物または類似者の類義質を保付 してよの、次 (14) 事計の過去分割に 打義的を作けしたよのとうある。例
- (1) पश-पकामा विक्षि したての。(い, परा पूला (紫栄とさい) लिखा-
- पक्ष = पढा लिला (光行のあるため、ट्टा फग 「こわれた (エ) थोडा बहुत (少ないたが、वृक्ष सन (こいたの、सन्त भाषा 「あと かる
  - (m) वचा-कचा 「狡した」「たくわえた」。 रहा-चहा 1 致った」。

राक्षि, हीला-हाला [ध्रिकेट]क , वन चाप हिंदेण ० क

別例――元記 फूटी मेना。「支継統談の即移」、रहामहा बकः「今力」。 भागो मालो लडवोक 「あとけない終」。बना-बनाया बोटट 「山戸舎いの上れ」。 मुनी मुनाई बान。「うわき」、यह स्त्री पदी लिली है।「この女は影響かある」。

(6) 国際依頼記を作っておかえ会計の世界で指ふるのは行めて自然的 なことである。 別 「知中 年」「川の」「先きの」、 中彦 年」「任の」「フレら の」、 5日 年」「名ばかりの」、 5日 年 「行用な」、 でをは、 4日 「内立の」、 の中 年 「生れなからの」、 用り一項。 (年代) 「年 年 年 年 青 ぞ 「これは 行の役になつのか」、 4度 可引 記示 記示 年 青 1 「反は太陽な体格 (の人)

<sup>(1)</sup> 政歌一「利し」 (と) 共さない。

<sup>(2)</sup> 直登= | 料理された 料理した」(3) 前7 = | 型件が戻り 花が湯 また! 人の差えることにも用いっれる。

<sup>(1)</sup> ガアー「まいた どんだ」

<sup>(5)</sup> ここでは ・夏子「多い」や 刊マ 「芦い」は 11なるなでとなっている

<sup>(6)</sup> 共に 八匹は在昨を持たない。

た」, आगे क, पठ「先きの学部 い पीछे के चित्र में [1]の絵で」の。

- (7) 時折 1) 副調や 1) 孔容詞にさん 耳格 (監討か 孫付されて, 新げな 孔 在 密詞が作られる。 例 (1) 可長 オー (1) 可長 オー (1) 可長 (1) 可見 (1) 可見
- (8) 形容詞の反復は強意になる。例 यह नीला नीला आकाश है 1 「とれは密い斉い (即5 1年27年) リ 空てある。

# 2 形容詞の比較 (तुल्नावाचक विशेषण)

- [a] 比較級 (उपमाजनक परिशाग) —
- (1) 最も普通な方法は、後置詞 せ を用いて表わされる。例

यह उस ने बडा है।

「これはそれよりも大きい」

へれば] この地球など何でもない!。

(2) (者) अपेशा\*\*の「比較」, मुकाबता 』「比較」「対照」「競争」, आगे (=लामने)「(の)前に」などを用いて。例

अन्य (==दूसरे) देशा की अपेक्षा 「他の国々と較べて」「他の国々よりも」 प्रारंपिगक विक्षा के मुकाबके में 「初等数質に比して」「初等教育よりも」 मूरज के आगे यह पृथ्वी कोई चीच नही। 「太陽の前には (かち ナ船に)に

<sup>(1)</sup> とれからだもっとする先きの学科の意。

<sup>(2)</sup> 既にはみ終わったペープとある計の音。

<sup>(3)</sup> 文語でのみ使用。

- - (b) £ £ छ (न्वॉत्तम परिपान) -
- (1) ऽऽहिंद्रशास्त्रिक के रू. र २००० है। यह पर सद (चरा) ने बड़ा है। "ट०९४४४६ (३००, यह नव ने बड़ा घर है। "ट३४४४६ (३००९०५०) म्ब ने बड़ा घर है। "ट३४४४६ (३००९०५०)
- (2) मे を呼ててのたち近の反応によって、() वसम ने वसमः 「松は の」: केंचे में केंचा परंतः 「原路の山」, यही में कडी सीयः 「灰も然しい吹 たし

Bartel.

দেং চ, অধিকঃ কিংবু ক কর্ম কিংবু কেরি ক্রিডাঙ্গলৈটোলাল কেনেত্র জী অধিক ন স্বাধ্য ক্রিছেটা, ক্রিয়া বাদ ক্রিছেটা,

- [22] 1) 後間万 首 も比較の私しはもからのに まれに 着 に代って用いっ れる。の बानो में में बनवान हूँ। 「2人のけでせかれい」。सब में बना 「たべ てのかでかきい」。बह मेरे सब मित्रो में बनवान है। 「शहराक たくこうしん の中ではい」。
  - また के बरावर कोई नहीं। KSLいものはな ग्रमालर के स्विध のでかまわされる。
    - सव घरों में इस घर के बराबर बोई नहीं 1 किस्टिक्श की कर दल है। किस्टिक्स के बराबर बोई नहीं 1 किस्टिक्स किस्टिक्स
  - 2) 動計 電荷 「前走する」「前人する」「頂地る」の数数分 1 可すて 「前 地た」や門でで動す。電荷 「減少する」「下行する」の数数分 1 可すて 1 万 た」も、奇 中 有者 に行われたがら、「違い」「減しまい」か 「な」「就し

らる」などのたち声的で味に用いられる。例

तुम बुद्धि में मुझ से बढकर [घटकर] हो । िष्टाः आसार ३६० ८६ ६० ६८० (४०) ८० ८

तुम बुढि में सब म बढकर [घटकर] हो। शिक्ष भाषाट हा र १६०४

प्रिंश के सब में बद्धर विद्यार है है। निर्माणिक कर है हिंद कर

このような場合 下法だ分詞とも名通の片でより 河口市 ヤ 年耳 の門次 、 なるので 上げけれても 事事で が付けに 河口市 घटकで まけり 年耳 え もってしても一角変変人ない。

特に 可称での力は 化つた (m) が別に用いたれるとさ (4) 竜 かぶ (化し、物別「使れた」、カモコさたなし、作)

तुम मुक्तसे बदनर बुद्धिमान हो । िश±६, ±१६७६,

तुम सबसे बढकर बढिमान हो । छि। छ।

ममय सब मे बहकर मृत्यवान पदार्थ है। विश्विधिकिधिप्राक्धिरक्ष

# 3 形容詞族尾舒 (विशेषण के प्रत्यय)

### (a) 名詞に添付されるもの

- (1) बा— 関 प्यासा [道した], भूवा 「空製の」, ठडा 「火い」「命い」。
- (1) इत——例 व्यानारिक 『龍葉の』、 和प्रामिक 『龍洋の』、 たいし、 との場合、よく音韻変化か行われる。 例 विवाहक —— वैयाहिक 』 「私 路の」 、

लोव s →लौविक = 「世の」「世界の」, वाया = 5 →वायिक = 「将外の」。

- (m) ईय—例 भारतीयः 「イン」の」, शास्त्रीयः = व्यास्त्रीः 「注 们 な」 「別定の」, पर्वतीयः 「山の」, यरोपीय 「ヨーロ 、パの」。
  - (iv) ई—-(ल दुबीड [占括江], मुनीड [安泉江], देशीड [! 🏅

प्रेमो₃ 「親受な」「恋人 l。

- (v) ईसा-一例 चमकीना 「黥く」, रचीना [季堂な」; रमीता [古気の多 いち
- (い) मान्—ण वृद्धिमान् ऽ 「知的な」「姓人」, व्यक्तिमान् ः 「力於い」 मतिमान ऽ 「人の姿の」。
- (vu) बान् ही. बराबान् 「力たい」; मृत्यवान् 「高いな」, धनवान्। = धनीः 「なんだし
- ा ।) स्कार पूर्वक करहोन ड च्हीन ड िक राजा स्टिम हो स्कार
  - お、ないないのとなったと思います。
     コンペン・エン・ロットのは「形式を含する もりが用いられる。 ひ、中央引きた。
     「他の」に共気のあるとは可用す「他のついた」「タチカ」。

### 「6) 動詞の答復に添付されるもの

- (1) ある――可引和「生石をちりばめさせる」―― 可到あ「生石をちりばめた」; を可可「続けさせる」「留まらせる」―― を可ふ「永均らする」「際居な」; 信申可「売れるに対した」。
- (ii) आवना——मुहाना 「喜ぶ」——मुहानना 「心地よい」「愉快な」。 たとし、 इराना = इरावना 「恐れさす」「恐らしい」は形容詞・動詞の意用語である。

#### [c] 掌接尾辞

ててては、終核尾辞というよりは、若近の形容詞さたは形容詞と他の品 詞との芳用語なども、名詞や代名詞に振付されたりするものか扱われる。

- (i) 本引。「一の変した」「一のような」 これは名詞 रच。「姿」「形」 「特色」の光容器化されたもの。 所 4項を引 (なのような): モオ モ引 (女のような)。
- (n) 不式可 「・・のような」「・にはた」――この使用は、やゝ旧式化し たか、しばしば代名詞に指付されることがある。そして移動される名詞の

性や数と一致する。例 मुझ मरीया मूर्व 『私のような囚人』, तुम मरीये लाग 『海のような人選』

名詞 和中 n p | 名] や 和中 可 も同しように 「影容評別に用いられる 例 を取な 和中 (年) 更重 初新「ダントラ」と呼ばれる一人の王 もっと も、こうした形かなくとも、「 という」の意は特殊される。例 "如何で" 収表「シャーハーシュという流点

नमें पैर चलने वाली स्त्रिमाँ 【禄足て歩く女置】

गार्थे चराने वाले बालक 【投資遊』(直聚=年1 ともにひを食へさせる少年達)。

(n) 秋下 で特にされた」――これは、主として「月方」「面配」「寸 性」などを示す名詞に飛行されて形容詞切ご形成する。例 々とれて「脳関 の」、前でいて 中間「1ヒーガー一杯の土地」の、カマ かて かなが 「1ヤールー 杯の布1、前で ママ なぜ [1セールー杯のミルク」の。

(vn) 利田 s [新する] 「可能な」「値する」---

<sup>[1] 1</sup>ピーガーは18分の5エーカーの直放。

<sup>(2)</sup> トセーレは約2多千ノトの目方。72ページ、「複合名引」(編号) 4) および177ペーノ、 (領号) 4) 念朝。

जाने हुए योग्य द्योग

「知られるに値する人達」

वेचने योग्य पिलीने

「売れるわもちゃ」

#### (d) 和 の用法;-

この形容詞技尼辞には特に多彩な用法かある。

- (i) 名詞や代名詞に振行すれば、「・のような」の意となる。例 申討試可 研「大陸のような」; 河町 研「あなたのような」; 資明 町「お前のような」; 長年 町「おれわれのような」。用例 資明 申号で (君(ら)のような 以子近」。
- (n) 形容詞に原行されたば、「・・らしい」の底になる。 बच्छा 中「良く 見える」、 वाला 中「思みがかった」、 「中四 田「征気じみた」。 用例 中間 者 マロ 中「造かかった色の」、 車前 前 奇奇「大きそうな娘」。

たとし、「配」を示す形容詞に駆けされたば、単に「強怠化」するだけで ある。例 ま石न 中「これだけの」、中ま 中「非常に少ない」、東京 市「非常になくさんの」、中で 市「飯くわずかな」「つまらね」「取るに足らね」。

- □ 前等 者 "岳く少数の」で 電荷 着 「丘めて多くの」ように、佐放化すれば 「不定の性」かがわされる。また、数定容易 であ にだけされた であ 研 [女性 せず 前] 「おたい写しい」に対し、であ 社 は 「同一の」のもである。
- (m) 名詞や代名詞の賦格に取付されたば、その賦格によって所有される「弥釣」との「類似約」か去わされる。例 तेरी सी मुल्यला「お前の(持つ笑しさの)ような災しき」、अपनी सी बॉल「自身の(持つ誤の)ような災」、उनने से बांल 「彼らの(持つ似の)ような災」、उनने से बांल 「彼らの(持つ似の)ような災」、उनने से बांल 「彼らの(持つ似の)ような災」、उनने से बांल 「彼らの(持つ似の)ような災」、उनने से बांल 「彼らの(持つ似の)ような災」。

しないな」のご。

研 ま 1 「彼の体格は私の (それの) ようだし

CD 1) रिष्ठारिकालग्रेक्क्षराज्ञात्कातिकार बीन मा [ktt कीन मी] [どれい、बोर्ड सा [ktt बार्ड मी] においても一つの」「ふでも 人の दुख मा (やい)「恋か なと、ついてはなばのがりであるなお दुख बाही सा に、か

2) 疑問代名。中不定代名。以外の代名。 以み名つのち, 和 はよく弓 総品 前相 や 中代門 に代用される。 寄中 和 [ - 一端相 ≃ 一中行和 ] 使らの ようなし。 着さ 和 一 一 一 一 一 一 で このような

# 並 数形容詞 (सस्या विचक)

# 1 起数詞 (गणात्मक संख्या)

1	एक	12	बारह	21	चौत्रीस	35	पैतीम
2	दो	13	तेरह	25	पञ्चीम	36	छत्तीम
3	तीन	14	चीदह	26	छव्वीम	37	मैतीम
4	चार	15	पद्रह  पन्द्रह	27	सत्ताईम	38	अडतीम
5	<b>ণা</b> ৰ	16		28	अट्टाईम	39	उन्तालीम
	( छह	17	-	29	चन्तीस	40	चालीम
ь	{ स्टह स र्थ	18	अठारह	30	वीस	41	(इकतालीम (एवतालीस
7	मात	19	उनीस	31	{इक्सीम  एक्नीस	42	बयालीम
8	লাত	20	वीस	1	वत्तीम		(तेतालीस विवालीस
9	नौ	21	इक्नीस		तिंतीस	43	<i> तैतालीम</i>  तितालीस
10	दस	22	वाईस	33	{तेंतीस तितीस		<sup>[</sup> तेतासीस
11	ग्यारह	23	तेईन	34	चौतीस	44	चवालीस  चौवालीस

45 पैतालीम	62 बामत	79 सनामी	96 छियानवे		
46 हियालीय	63 शिंसठ	80 अस्पी	97 स्तानवे		
47 मैतालीम		81  स्त्रयामी	98 अद्वानवे		
48 अडतालीम	64 चौसङ		99 तिन्यानवे		
49 उत्पाम	63 पैसठ	82 वयामी	100 भौ, सैकडा		
60 पनाम व	66 छियामठ	83 तिरामी	० शिन्य वता सिक्र व		
	67 সহনত	84 चौरामी	िसिकर्य		
51 डिक्कावन एक्यावन	68 बाहारह	85 पत्रासी	िहजार सहस्र		
52 বাগৰ	। । 69 उन्हत्तर	86 छियासी	-		
	70 मसर	87 सतामी भत्तामी	<b>十</b> 近 नात <sub>(3)</sub>		
≡ {तिस्पन श्रेपन	71 इनहत्त्वद	1 3	क्छ निब्स क		
54 খাৰন	73 बहुतर	88 (श्रहासी अट्टासी	करोड क		
55 पिचपन पंचाबन	73 तिइसर	89 नवासी	+धा श्रितं इ अरव <sub>ल</sub>		
56 ग्रप्पन	74 चीह्सर	90 नब्वे	्रा विवे		
57 सत्तावन	75 विबह्तर प्रसर	91 (इंड्यानवें एक्यानवें	∓िं (सरवे <sub>ज</sub>		
58 अट्टाबन	16 हिस्तर	92 बानवे	ने-१६ बीलंड		
59 বন্দত	E	93 तिरानवे	न्ध्र विदयः न्ध्र विदयः		
60 দাত্র	77 (सतहत्तर	91 चीरानवें	± सप		
61. इंग्संट एक्सट	78 अट्सर अट्सर	95 प्यानवे	महा सख्य		
THE SHE SELTERISEDED. SHAPE (FIFT EET					

(1) abdura は khille 「安っぱの」の同式ぶとしても問いられる。sitar は 何なす ともち

<sup>2</sup> RTCれつれ san handu (十万) das lähh [百万] son lähh [千万] son karon (十 他」,sau arb 「不使」 sau Mush 「十九」 sau nil 「干化」などともいわれる。

<sup>[3]</sup> とれらすってのでいなは、イノト人の 可用は「住我」で思いするの。

- 6)性質を合計に与われるもごがよく複合もでは何をた成するように、特に「寸点」「自力」「独」「重度」などを示す名だが数項に持われる的にも一種のな合払股を目的になる(22ペーノをおり。
  - 7) 「約」の意の表わし方。
- 1) 我们的出生 更多 生态 大 无。——四 年報 更中 中有笔 年 1910];就 更年四一年16 相。约100],南16 智区 机 使取由 19400。,2015 在后上方も, 有几为数词为均合同位,但然合社合名词比充定为为为原的它含合为,是批比比。 我们的他比较高之名。
- n) लगभग की रुपाय कार्यो क्लांस्टरन्द ――小恋はたらで辞書さ、 快速はだって、 四報とも「ほとんど」のでにもなる。 何 लगभग पचास दिन 「お550日」「प्राय बील पुरुष は200人の別し。
- m) 近は数:『の立即で。— दो सीन प्दो चार (2.3(の)」, तीन चार (3.4 (の)」, चार पाँच [1 5(の)」, दम बीस [१) 10か20(の)」, दम पन्छ [第10か 15(の)」, बीस सीस [2.30(の)]; बीस पच्चीस (20か25(の)), दो तीन सी [2.300(の)], मो सवा सी [100か125(の)]; सी दो सी [100か200(の)]。 照門 साठ सतर रुप्ये [6 70ルピー]; एक दो दिन [1 28], कोई दो दाई महीने [約 2 か月か2 か月 [1]; एक आप यह तार [1 ヤールかトヤールのカ」 | 1 エール そこそこのか。

大きい歌がかさい歌の部に出されることもある。 श वो एक (1 2(の)) (約2(の)); इस पाँच (約10(の)) 5 6(の)), सात पाँच (6 7(の)) (約5(の)); दो एक सी (1 2 四(の)) 用門 दो एक दिन की छुट्टी (1 2 日の休込。

けっ、弦だす家かが改調の際に立かれることもある。何 एす む む ずず ず ibstan 2年のうちに」。たいし、単なる एす 截 は F同一のJPAたJのだ。 しかし、上記のようなごい方は最分優別的であるため気勢でなどはないとしま

<sup>(1)</sup> एक सी एक १३ (101). (2) चार सी एक १३ (401).

98

なければならぬ。例えば、दो एक, दस पाँच などの数割を、それぞれ逆にして 服いるのはほくない。

#### 8) 基数温の慣用:

ある種の芝塾副は、単位のままか当用によって特殊大意味に用いられる。と がある。

- 1) उन्नीस と इवकीस वीस 「20」をはて つの生生とする (ノ)・の 引 切から、 — つみだの उन्नीस か「かん! 「年下の」「後端の」 なとのだに用い られるに対し、「20」よりも — つかがの उन्कीस は「ひれた」「年天の」「先ばの」 「成功する」などの近に用いられる。同様、「40」の「50」も — つのサイとはなき れる関係で、 इक्लाविस 「41」や इक्लावन 「51」も इक्कीम の向な 「としてもな われる。何 वह मुझसे उन्नीम है।「後は私よりも分っている(または年下であ ろ」、 उस माल में यह माल इक्लीम है।「その後品よりも この様品が 行名であ る」「 आप का यह इक्लीम है।「あたまは成功するでしょう。
- n) उपीम बीस—この後会款間は「大変なく」のでの関う句である。ない。 उपीस बीस वा は「ほとんど等しい」での形容局。 उपीस बीस होना は「ほとんど でしい」での話る。別将— उपीस बीम वा मेर 「おずかな玄梁」、 वृष्ठ उपीम धीम (変化がない) 「孫公なおてある」 (中央など的。
- m) तीन प्रीच—これは「記い合い」「口説」のたの女性名示になる。(神) तीन पांच करना は「(と) こい合いする」「つじつまの合わたい対称をする」で ある。また。(中) सात पांच करना も「ごいろう」 アとかる。
- (v) तीन तेरह イントの習取では3と13の社が扱も不古な故と見なされる。 すべて3の字の付くものは不古であるとの考えから、23 33 43 なども3と 13 ほどにはないが、 四数と見なされる。そこで、 तीन तेरह は「支貯扱契の」「從らばった」「禁いた」「販告の」などのでとなる。 तीन तेरह करना は「役らす」のでてある。
  - v) 可昭――昨新、「たくさん」のでに用いられる。そ可て もまた同様に用いられる。例

उमने मुझको लाख [नहचार] समझाया । हिस्सहरूर, हिस्हिर्टर, हिस्हिर, हिस्हिर

## 2 序数詞 (कमवाचक संख्या)

第6までが不規則である よまわち、पहना=पहिना「約1の」、हुमरा 「第2の」、तीसरा「第3の」、चीचा「第4の」、पोचवा「符5の」、छञ= छठवा「第6の」、नवा「第9のよ

序数詞の別尾変化は 研 または 新 にて終る一般形容詞のそれと同じ である。すなわち、別性名詞の前では ए または ヴ に変り、 女性名詞の 前では ई または ぎ になる。 例 पोचवां वर्ष 「第5年」; चौषे स्थान में 「第 4 に」, नवें अध्याय 。 (= ऐरे 。) का 「第9業の」; तीसरी पुस्तक 「第3数本」

- बारहुवी सत्ताब्वी ईसा [ ईसवी] [西經源 12世紀]。 〇屆 1) टのみは記述是 वाँ は加子…しまけされる。 १९ थी बाताब्दी (江 17世紀)。
  - 2) १७७२१ १ १ १० १६६६ । प्रथम (१४१०) , पदम (१४१०) , स्वस्म स्वस्म (१४१०) , स्वस्म स्वस्म के पूर्व से (१४१) । १६००।
  - 割 封目のためにも、また別版の序数詞が用いられている。イントの丸に月 は明常各15日間の2部に分れれる。月のかける前:は 夏四年は - 夏四年 (中央) 「風い石」または 平常。 「月のかけ」「大が月の鬼・「か」といわれる。

8) 基数詞の質用

qq

ある種の基数副は 単独のまいか芝用によ かある

1) उत्तीस と इक्कीस — वीम 「20」を見て 切から 一つ不足の उत्तीस か「ちった」「年下か」 られる: 付し「20」よりも一つケーの इक्कीम は 「戊がする なとかず「用いち"も。同校、「40」や れる際件で इक्नाफीस 「41 や इक्काम 「51」も 至 われる。何 वह मुझने उत्तीस है।「改は私よりも労 る」、उत्ता माल से यह मान इक्कीम है।「その総品より る」、जाप ना यह इक्कीस है।「あなたは成分するでし

- 3) उनीस वीस—この核合数詞は「大芝なく」ので उनीस वीस शाक्ष [おとんと等しい]空の形分詞。 उनीस वीर でしょ」での込詞。用約— उनीस वीस का भेद 「わずかな वीस 「ないかい」「総分きをできる」「でなんとか」。
- 3) तीन पाँच—これは「ごい合い」「口湾」の窓の女性 तीन पाँच करना は「(と) 돌い合いする」「つしつまの合わな ある。ま\* (智) सात पाँच करना も「ごい母う」だとなる。
- 19) 有用 奇様 ― イットの智順では3と13の数か及も不吉 る。 すべて3の字の付くものは不古であるとの考えから 23 33 ー 13 ほとではないか、 四数と見なされる。そこて、 前用 奇様 は い、 「数ちばっす」「数寸よ」「飲酒の」なとの亡となる。 前月 奇様 ギ デ す」のじである。

' सं सुदी•व ८५८कठ

> そして同 ナ り反

1数名

100

月の浩つる後半は सनलपसः=सनला 「明るい 半分」「白い石」 または सदी\*# 刊Gas 「太陰月の明半」といわれる。 そして。15 日間の名行は次の通りである が、それらの名称は孫原の加何に関係なく、すべてか女性名詞である。そして同 ーF打タか、毎月の明点、つまり1日から15日、16日から30日の2回にわたり反 物使用される。co明確を区別するビ要上。 暗率の日付には 野型T の語を日数名 の前に置くか 収引 の点を日数名に置けするかし、前に明半の時には 気軽灯 を 前に付けるか 報引 を後に付けるかする。

भा । ध परिवा, पडवा, प्रतिपदा, 259 ॥ नौमी, नवमी,

अर 2 B दूज, दितीया<sub>व</sub> न्छ10B दशमी<sub>क</sub>, दसमी

अ**३ व तीज, ततीया**∞ #11B एकादसी, एकादसी

#34 B चौथ, चतर्यी ≈ अ:12B दादशी.

५५ इ.च. पाँचै. पचमी 🍃 ७४३३ तेरस. त्रयोदशी.

अ. ६ २ एठ, पप्टी. , पप्ठी 🔑 ँ १९१४ । चौदस. चतर्दशी.

%7 B सत्तमी, सप्तमी₅

**%158 अमावस, अमावस्या**रक

938 B अप्टमी<sub>व</sub>,

4) 西野になく日野女には前提のヒッデュー序野局が用いられる。たたし、 この場合には「日付」を空味する 信望。3 = तारीख。4 と関連されて常に女性形 か探られる。例 पहली [第1日] [第1の];दूसरी [第2日] [第2の]; दसवी

「第10日」「第10の」 (213ペーノおよび 214ページ (付定) 1 3 亡収)

5) ヒンディー序数詞は主た代名詞にもなれる。例 受れて「他の」「別の」 「他人」「第2」: तीमरा 「第3(の)」。用何 दूसरो का 「优人道の」。

6) 序数詞 死刑 は形容詞・副詞》、用語として「上要な」「以前に」など

<sup>(1)</sup> つまり、第1日の日什名は明暗の名初日、即ち1日と16日とに使用される。 (2) これは「暗半」115日間の最終日であるとともに。また「新月の日」の初りでもある。こ गादश्रात, [ण्क्षा क्षा हा हा हिला है । क्षा हिला पूर्व मासी पूर्वी पूर्व मासी है पूर्विमा है などと呼むされる。

1.01

のざになるとともに、時代」なとを述べる場合 、「過ぎまっ」「初期の」 欲 もなる。 प्रति は常に顧問て、「ます」「リ前こ」のそ。

# 3 分数詞 (अपूर्णक सल्ग)

### (1) 次のよっな形容詞を用いて---

पीन [\$(0)][-\$]<sub>0</sub>, पीने [\$(0)<sub>0</sub>, सवा [1\$] [±\$], आघा, आष<sub>(1)</sub> [\$(0)]=साढे<sub>0</sub>, डेट [1\$(0)], हाई, जहाई [2**\$**(0)].

周例 — पीने वो [1登], पीने चार [3登], सवा तीन [3±], साढे चार [4±], पीने सी [75], पीने हचार [750], बेड सी [150], ताढ़े चार सी [450], लडाई नो [250], सवा सी [125], नवा हजार [1250], पीन आठ सी [775], पीने आठ हवार [7750].

- (2) 名詞 तिहाई。「多」や चौयाई。「よ」を用いて ――用例 दो तिहाई
   「長」、तीन चौयाई「呈」。
- (3) 序数詞に भागः 「華分」「創答」=िस्सा 1 bussa をだえて —— 用例 तीसरा भाग िक्रो , चीषा भाग िक्रो , पांचवी जाग िक्रो ,
- (4) 分母と分子との間に マヹ [まナは 章之] 「上に」を用いて ――とれは最も適位的であるだけに表現か容易である。用例 एक बट दा [支」,
   दा बट पाच 「ま」。

なお 整数は सही [正しい] で去わされる。例 एक रही तीन वर चार = १ सही ३ वटे ४ [1월]。

<sup>(1)</sup> 物に使用。 (2) 分型に使用

<sup>(3)</sup> 名詞にも転用される。例 これ刊 371年「この十分」

<sup>(4)</sup> 水に3以上の数の前に置かれる。

月の淡つる後半は 製造で収益。=電機では「明あい十分」「白い面」または 異常。よ 現存。「大次月の明半」としわれる。そして。15 日間の名音は次の通りである か、それらの名音は話録の如何に関係なく すってか女性名詞である。そして同 一日数名か 毎月の明監 つまり 1 日から15日。16日から30日の 2回におけり反 彼使用されるの明監を区別する必要上 臨年の日付には 歌を仰 の話を日数名 の前に置くか 複雑 の記を日数名に添けするかし 世に明半の時では 気管可 か

क्षा व परिवा, पडवा, प्रतिपदा, अत्र व नौमी, नवमी,

们に付けるか 刊引 を後に付けるかする。

#2 E इज, हिलीया # 7810 B दशमी<sub>ड</sub>, दसमी

🌣 3 E तीज, तृतीया = 🌣 🔭 ३ च एकादबी : एकादसी

अ 4 व चौथ, चतुर्यो , अ 12 व दादशी ,

% 5 E पाँचे, पचमी . अाउल तेरस, त्रयोदशी .

\$6 E एठ, पष्टी, पष्ठी क \$14E चौदस. धतदंशी

<sup>१७</sup>७ । सत्तमी, सप्तमी, अप्राठ⊟ अमावस, अमावस्या, स

१४८ हा अच्टमी,

5) ヒンディー序数词は主た代名詞にもなれる。例 素質で「他の」「別の」「他人」「第2」、前便で「第3(の)」。用例 素質で 有「他人達の」。

6) 序数詞 現所 は形容詞・圖『勝用語として『主要な』「以前に』など

<sup>(1)</sup> つまり、第1日の日行名は明暗の各初日、即ち1日と16日とに使用される。

の意とたるとともに、正代しなどを述べる場合に「過ぎまっこ」「初期の」意に

またる。なる は常に副副で、「主ず」「以前に」のご。

# 3. 分数詞 (अपूर्णक संस्मा)

## (1) 次のような形容詞を用いて---

पौत [3(0) [-1] m; पौते [1(0)m; सवा [11] [-1], जाया. आध्य [﴿(の)]=सादें (a , देंद [1﴿(0)] , दाई, बढाई [2﴾(0)],

用例 ---पौने दो [12];पौन चार [32]; सवा तीन [32]; साढे चार [4के]; पौने सौ [75]; पौने हजार [750], डेड सौ [150]; माढे चार मौ [450]; अपाई सौ [250]; सवा सौ [125]; सवा हजार [1250]; पीने आठ सी [775], पौने आठ हजार [7750].

- (2) 名詞 तिहाई\* [金] や वौबाई\* [金]を用いて・――用例 दो तिहाई ा क्षा क्षेत्र की वार्त कि la
- (3) 序数詞に WIT』「部分」「割等」=f、をHT』 bussa を探えて:---用例 तीवरा भाग [金]; चौथा भाग [金]; वौथवौ राग [金]。
- (4) 分母と分子との関に RET [または 記] [上に]を用いて・ーーこ れは最も適俗的であるだけに表現が容易である。用例 एक बरे हैं 「も」。 दो बटे पाँच िंदी

なお、整数は 飛引「正しい」てよわされる。例 एक उसी तीन वरे बार = १ सही ३ वटे ४ विके

<sup>(1)</sup> 物に使用。 (2) 分量に使用。

<sup>(4)</sup> 令に3以上の数の前に置かれる。

- □ 1) 分数は「日方」「寸は」「全額」などを示す語と共にも用られる。 5〕 वाई मन 2マウントギのをき」、पीन गज 「1ャールの会」、 सवा रपये 「1キルビー」。
  - 2) पाव (土は、1.として「目方」の 就て (ず2 ずット) との関係において 別いられる。 6) पाव (就て) 「1 まヤール」, 前中 पाव (能文) 「3 セール」, आघ पाव (れて) 「1 キール」。

## 4 仏合数詞 (समुदाय-वाचक)

#### (1) 拉集合名詞

जोडा=जोडो 2] [1対] —用例 चार जोडा=~जोडे [4対]。

गण्डा=गडा 「4」──本語は主に目方の 秋 や貨幣代用の कोडी\*

可可「5」--本語が2以上の数詞に伴われると、単数両形の採否は 任意でなく、常に類尾が複数化、即ち 更 化する。

可見。「5」―特に、果物や新改用の円くて平たい牛ぶん、その他 類々しい竹を致えるのに用いられる。用例 老中 可能 割用「50個のマンゴー!

ですれ「6」――本語も他の2以上の数詞に伴われること、語尾は必す で 化する。ですす 9可には「計略」「無計」「非難」などの名。

ず記:=電和:[20] ―― 用例 前す 前前 [60], 前者が「竹」「桂」などを払えるのに用いられるに対し、後者は「果物」などを数えるのに用い られる。前年 も卑談的に約々代用される。例 寸寸 前年 [100]。 मैकडा = मैकडा 「100]——これはまた「百分(%)」「パーセント」の寛に も用いられる。周例 बाठ वाने सैनडा [一सेकडे] 「8アーナの少分で」、दम एपये सैनडा [=सैनडे] व्याज [=सूदर] 1 割の利子」。

- □ 1) 複数級、されるとき、上記 3T で作わる男性名詞数、のてか メナが尺 変化をするものと 前面、 間可可、 値の面、 対象を変化が 任むに行われ るものとかある。これに対し、 質器尾て持る女性形は常に下見のまい門いられ、 けして女性の複数別にならない。
  - 2) 自由計 か「界物」などのほかに「戦災」や「面談」をはかるのに用いられるに対し、同義を 朝和 [一司祖七司] は「我初の故故」や「才のなけたとななるのが、百姓や成けく足によって用いられる。また 可利和 「40」は「年故」か「日故」に用いられ「40年日」「40日の周囲」などから呼ぎまる。なわます、司行制に「32」は、すべて32から成る学令体に用いられる。(7点ば ノットの近代作家 第中国 (明点 21年 明和 11年) の短編集にして 第中 電行中 アンレームの32年が挙」や 第中 国軍権制 「ブレームの32年が挙」や 第中 国軍権制 「ブレームの32年が挙」や 第中 国軍権制 「ブレームの32年が挙」や 第中 国軍権制 「ブレームの32年が奉」や 第中 国軍権制 「ブレームの32年が奉」を よいうのか ある。

## (2) 基数詞に 部 をあえて

この場合、ほ x 20の数を増として それ以下の小さい数の時によ「全部」 「残らす」の窓になるか、それ以上の数の時には、単にはくかと多数の意 を示すことになる。の例 दोना=दोनो「両者(の)」。 8 知一を計「6 全年 (の)」「6 者とも」、 義称可 知中四年 \* 1 幾百という発行者」、 8 知 式 लावा वर्ष पत्ते 【数千分年前に」。

(E3 単広る広数詞の場合同様 本項をど合ても 強症化のため、辛・腐てム 反復される。例 名相 帝 名前 年て 刊で 1 「10人か 10人とも死んた」

<sup>(1)</sup> ナゲし 30 40 60なとの数 対しては 実際上本年民の产えられることが こ。

<sup>(2)</sup> これたけが例外で。 do に no または non がだてっれる。

## (3) 基数詞に 3ず を示えて

この歴字は「4 5 の」「数 」の意を表わす場合に用いられる。例 ₹仲前「幾つかの 10」「数+」 वी [神] 「幾つかの 20」「数+」,पच्चीनिया 「幾つかの 2つ。

1) 以上(1)(2)項の場合しも 忙や格の如何で、5元か交わるようなことは

ない。
2) 以近のよ例のらしても 新で作る集合数 jiもまた代名 別似 される。

とかがせられよう。例 **दोनो** 双方の」「前者」 तीना 3 考(の)」。用例 दोना के पर 「両人の宗 वे चारो 彼ら4人とも「それら4か4とも」。

## 5 倍数詞 (गुगन-बाचक सरुया)

(1) 原則として基款詞に गुना=गुणा 「で掛けられた」か然付きれる。 しかし、2から8までは基款詞の短縮した形に続付きれる。例 दुगुना दूना, दुना。「2倍の」、विगुना 「3倍の」、चौगुना 「4倍の」; पैचगुना, पवगुना 「5倍の」、छगुना, छ गुना 「6倍の」、चतगुना 「7倍の」、अठगुना 「8倍の」、नीगुना 「9件の」、 ची गुना 「100倍の」。

[22] 1) この原字 項明 カ住 数およの格なと心左右されて可引,項引に交わる。 また 名詞化もする。例 質項引 行列引 ママ [23 倍 こ]。 そして 比較の対象とな

る語には後蓋詞 育力 使用される。例

उस से दस गुना पानी 「それよりも10倍の水」 पर्ठो गायेँ बैंदो से दसग्नी है। 「ここに進生が雄牛の10倍いる」

 本漢字は分数にも付く。例 सवा गुना 「1½ 悠たかの」, वाई गुना 「2½ 悠たかの」。

<sup>(1)</sup> इत दुगना, दुगुण, दुगुन, दुन ६८८६००००१६६.

(2) 悲数詞に हरा か際付されることもある。例 एवहरा, इवहरा 「た とひとつの」「ひと重ねの」; बोहरा, बुहरा 「2重の」「2指の」, तिहरा, तेहरा [3 重の] [3 倍の], 司訳([4 重の] [4 倍の]

これらは主として「寸法」に用いられるのであるか、若物や紙などを折 りた」む時にも用いられる。例 司書で 歌で 「4枚にた」みなさい」。

□ 1) 一般に使用される加 (जोड), は (बाकी), 4, 年 (ग्ण, गुणा)。、 (भाजन, भाग)。 の変わし方は次の通りである。

दो और भीन को ओडना

「2んヨンかっる」

सीन में से दो को घटाना [=वाकी निकालना] (3₺ 5.2 ₺ हा ८ ।

तीन को दो से गणना[ -गुणा करना ]

「2と3とを掛ける」 「3や2で割る」

तीन में दो का भाग देना ところか、地方によっては、拼算の「ル九表」(98181) にわける神町 拉1

から10までに次のような特殊用語が後われることがある。の एकम् s [1(0)](a), दुना(a) [2 (\*0)][2 र स्रिति होती ], तीया, तीक [3(0)]

[ 3 रामने कारा, चौक, चौकाला 41, पँचा, पजाला 51, छक्काला 61, सता sen[7], अट्राक्त[8], नम्माक, नम्का[9], दहाभ [10].

(1) 必ずしも全国的に一定しない

(2) দাল दो एकम दो f2×1-21.

(3) 10 以後の完散とでは下足が 1 化される。用門 蓼 इनी वाहर 「6×2 12」。

(4) 承数が3から10までの時に限り住用。系数11以上の時では言変而可が用いられる。例 छ : ती अठाइह (6×3-18).

(5) 井に季数2以上では江足が ឬ 化する。

(6) 乗数10以下の場合に限り正足が 旺 化するが 乗数11以上では原形のまゝ。 つまり用数系

のまゝ。 (7) 条数11の時に限り牛歯の 刊行 が用いられる以外 寸に哲記が ぜ 化して用いられる。

(8) これも早放11の時に限り普通の 羽尾 が使用される以外 ずにがつに 更 化する。

(9) 気数11の時には普通の 式。しかし 気数1でにだす U 化するに対し。 更数3から10 ま ては簡形のまき。

08 変数12以上の場合に使用。

- (23 1) 一切の込み中、助打「(我表現事 行和) とと用になったり、「ひ上可代 \*\*しておれいに欠けたりするのは 計画 たけである。
  - 21 他の一切の動。)の「現在時報」に任明があるに対し、資利 等 \* ^!') 今に限りは別がかし。
  - 3) 名門は事 人们に投われる。ここれにしてご明らればまりは失いが明 いられる。

## 第二型的

भै होता हूँ
 13 हम [वे] होते हैं

23 तू [बह] होता है 2 तुम होते हो

(1) これにはは別があり 「現在分別」問む「よご了分別 のえを探っている大門口の本字 आ や 更 が 覧 化する。つまり、単純の各人質とも 資材 となる。

2) 阿型の住用別は、第一型が何との特殊な事実と述べるのに加いられるに対し、第二型は主として一般的言語的な真理。反復的習慣的な動作、一定事項、あるいはきまり切った当件の事務などを述べるのに加いられる。何

धुलाई का क्या होता है ?

「在たく代は幾ちですか」

मौ लाल वा एक वरोड होता है। ाधक つかは1 Fガである! 例とば वोटियो पर क्वेत हिम होता है। เมลอบมะ は がおおし において,

めたは、当1641 でくるは「食料 長山 長1 川中の川には「おから」にないて、 あの此気とかこの山頂とか、何々の山頂に白のがあるでなら 書 だけでよい。 なか、こに特に 止ばを至することは、この 第二型と、裏面す が (1) 形容引や (10) 名詞との結合から成る複合型河と温野してはならないことである。例 (1) 「毎日 貴市「空つ」、知で1一「得られる」、 毎日一「成長する」、で41 「作出 する」 和四4 一「知ら」で51 美田で一「郷まされる」。(1) 才で31 一

<sup>(1) 「</sup>現在分割」のち「オマア分割」に 产間 の「現在分刊 そろえたもの。(128ペーノギ

<sup>(2)</sup> 他の針訂の場合なら「現在未完了時相」と行される。(125ペープ書所)

「入る」「入学する」「入院する」、 きて一「選れる」。これらの核合同が「現在的 担」、つきりいわゆる「現在未完了的相」になると、外観上、第二型と同一にな る。

3) この等二巻はいわゆる「進行現在」にもなる。しかし、「現在進行」専門の時相は「建株現在時相」(初刊前相等 有事相等 有所) とむされ、本野门のほ使と助針引との間に で要可「続く」の出去分詞 即ち定丁分司を入れてふわされる。例

वह हो रहा [रही]<sub>का</sub> है । क्रिस । १००० १ करें।

2. 過去時相 (भूतकाल)

第一型

123 मै ति, वही था थि हिम (तूम, वे वे थिं)

第二型

「 であった」「・ になった」

123 मैं [तू, बह] हुआ [हुई] हम [तुम, वे] हुए<sub>ला</sub>[हुई]

(至 1) ボー型はいわゆる「定了た特別」においてよく騒動がにもなる。 で二岁 はいコルる「不定完了」 (初明四 項の) の計和と同たであるが、資明 表 項 ライのように、一切の動詞の「過去オテ丁計和」や「過去完了時和」におい て動物になる。

2) 第一世が明依る一事大きたは一野作を上べるに対し、第二型は製作なり 技になりか優分会まで代くような場合。つまり「であった」よりも歩ろ「になった のでに用いられることから、「「(有時で)」・「中でなる」、「(ではい)と、 うしたつう」、「裏面 中間 裏面」「何もなかった」、「電面 裏面」「打かとった」;

<sup>1)</sup> 角折石内の動詞は、すって女性型。以下告目じ、

<sup>(2)</sup> हुवे २ हुवे ।: जन.

可依 中代 裕之 養年 | 「ほくは必(生かじが必)に会った」。可表 可表示 まだっ 要列 | 「佐は非痛に苦んた」。この第1例のような場合でも 表 を以ってすることは良くな 。特に第二型は副詞がにきぇなる。例 更不可ご 夏初 18時間が1. 「作不行 存す 表で 「幾日前にJop。

- 3) 長四 の 「過去打和 に似けるのに 表面 の 過去えた」 (匈東京 東西) の時報かある。 卓 [夏、電景] 前面 昭 [長雨 印] , 表田 [夏木 南] の形である。 すなわち てあった であるのか常であった」「常に になった」 などの意になる。 これは 過去の習慣的反復的事実を対くるのに用いられる。
  - 4) १ १७७६ ईतारीका हो तीक्सीसीया (तालानिक भूत) धराउंग इ. ल में [सुन्ह] हो रहा या [—रही यी]।
  - 5) 法弘词中, 2種の「現在時相」や「近去時相」を持つのは 割用 たけで ある。
  - 6) 「現在分割」即ちて未完了分割」は、動詞の語根に 可 [女性形 計] を添えて作られる。しかしなから、名詞にしてこれらの記定に称るものも少なく なし。例 引司「色子の色子」、司司「発」する前。「居住地」「人口」。
  - 7) 辞密に思すられてある協調の形は「製造状名詞(年貢司司マ 昭和) 即ちいかかる「不定法」の形である。その「不定法」語是 明 ではる語はよう しも顧問であるとは限らない。(i) 名語 (u) 形容器 (u) 到別答名詞などで 刊 でおるものも少くない。例 (i) 刊者可以「通知」; 社和 (原則),(u) 和刊 [片限の], 表表刊、表表刊「おの」,(u) 初刊「分彰」「全へる」, 刊刊 「金」「配る」。

<sup>(1)</sup> これっは分割的副詞句の直及ではそれぞれ「1週間になった」「我日になったか」などの 意となる。 [131ペープ(2比よび)(3ペープ(2ぞ3)) 会長)

## 🛚 不定時相 (सम्मान्य भविष्यः, कार)

「 てあるかも知れぬ」「 になるかも知れぬ」「 である」「 になる」 「 てあろっ!

- 1 में होऊँ
- 13 हम (वे) हा
- 23 सू [बह] हो 2 तुम होओ
- □ 1) 方言や口器体では、第一、二人行即数に 前夜、寝可、寝可、寝可、平一 二人行 北京に 前夜、霞町、青町、アニ人行即数に 計 も用いられることかある。 持こ ロ、ば 中 草、草 で移わる形は旧式であるから五くへきである。
  - 2) 本時相には性別がない。
  - 3) 前項12の否定詞として 可潤 カ探られるに対し 本時相には 可 カ なられる。
  - 4) 前項12の総合同様で可の本的相もが動詞が可である。すなわら 「可能未完了的相」や「可能完了時相」におしては、砂型にとして本格でして付 される。(本ペーノの(医療権主) を用)
  - 5) 単数のア2人行は「命令形」と行して(質) 前「(型は であれ」、 (何刊) 前補 ともかる。
    - 4 未来時相 (सामान्य मिक्यत कार)

「 てあろう」「 になろう」

- 1 मैं होर्जगा 13 हम [वे] हागे
- 2 3 तू [बह] होमा 2 तुम होओंगे
- □□ 1) つまり、本時間は前項の「不定時担 に「オ 契時担 に尼 可 [まぐも

<sup>(1) 「</sup>可作未交も」和」の企。 sam bhárya は「可能な」「かり得る」の意

<sup>(2) 「</sup>住道未来時相」の意。前項 2 「不定時相」の時から「可性主交には」づまらかが れと区別して「予選の」立入れでもの。本書では 一々原語を記さかれてと「した。

前] を単数の各人利に、前[女性形 前] を複数の各人利に部付したものである。ただし、第二人行女比複数形容前 は会話にてよく言所 の形で肌、られる。

2. カニヤロ語体では、単数第一人打に 青河、同じくその第23人称に 計画 [または 記収可、記収可]、私数形一人作に 記ず可 [または 記収可、

होबेगा [१८६६ होएगा, होयगा], १६३४मा-८१६६ होवेगे [१८६६ होएँगे, होबेगे], १९८७ २०७२८६६६ होगे अमार्श्वराठ २८४४,५६

本約相の否定詞は 可見。たどし、フクナウ (可何可否) 地方では ずけれる何いがある。

4) 位の動かでは、「人夫時相」かすべて「本来の推定」に用いられるに対し、ひとり ぞ可 のそれは、「推定本来」は外に、(4) 現在の推定に用いられるばかりでなく。(3) ほとんど 「時」に虹関係にさえ用いられる。例

(1) आपनी अवस्या कितनी होगी र किमारेक हैं एट ८३ ज

【活用例 2】 引刊「行く」

# (1) 筋根から作られる時相 (धातु से बने हुए बाल)

# 1. ക 🚓 (आजाद्योतक)വ

人門 単 私 私 数 2. (內) 可「お前行け」 (刊) 可効「(江)行きなさい」

(1)「命令」形は、告題の「命令」のほかに「禁止」「賢告」「要求」 の在で表わすのに用いられ、主題はよく名略される。そして、単数命令形 の用はは第二人称単数代名詞 貢 のそれと全く同じで、神や年少の子供ら

時には親女に呼びかけたり、行や前肢などに対し受情的に甘えたり、ある (!) vi-dhi kriya や sipafethuk kriya とも思される。 いは「立腹」や「軽悔」の意を示す場合にも用いられる。

- (2) 節根に 翰 が断付されて作成される第二人称複数命令の形は、それが対象となる 育可 のそれと同一の用注を持っている。
- (3) 対敬代名詞 बाप が対象とされる最も普通の「尊敬命令」は、動 間の類似に 取<sub>の</sub>(一句) を添けして作られる。例 (बाप) बाइचे 「どう ぞ来て下さい」 (बाप) 東南東「どうぞお聞き下さい」

たとし、次の諸動詞は「尊敬命令」の作法においてばかりでなく、ある ものは普通の複数命令においてさえ不規則である。

हेना [5,8,5] → दो → दीविए हेना [10, 5] → भो → सीविए पीना [10, 5] → पियो → पीविए करना [3, 5] → वरो → कीविए, होना [5, 5] → हो → हविए...

(4) 前頭の「移動命令」の形に「未来」を示す誤尾 町 を置けすれば 「辞敬未来命令」となり、最上帳の趋敬命令として用いられる。そして、この形は女性にも禁用される。例

आप आइएगा।

「お越し下さいますでしようね」

षया आप मेरी नमस्ते उनको दे दीजिएना ? 🐯 「どうぞ あの方に宜しくいっ

<sup>(1)</sup> との方が一箇好ましい。

<sup>(2)</sup> 布代収 も用いられる。上記がよく Urdu で用いられるに対し、これだ H odi で使め人 に用いられる

<sup>(3)</sup> 今は原外、正形で言葉で はまれにしか用いられない。 型今、 資南でで か用いられる。「ど うみ であって下さい」(・ になって下さい」の意。

<sup>(4)</sup> namaste は地方別によって性弱の扱い方が渡っている。すなわち。ディー地方では女性 に扱われるに対し、U.P 州の東部以東では男性に扱われる。

#### て下さいませんか!

(5)主として危険や危急の場合に対する「野也」や人の助けを求める 時に用いられる特殊な命令形かある。それは約根に マロ を抵付して作ら れる。例

वैठिया मत्त्री

「座ではいけません」。

また「い福」や「のろ(駅)い」の意を表わす時にも用いられる 例 中間 で行む! 「こ幸福に」

मरियो <sup>|</sup>⇔मर जाइया । शिंदेश≛ देशके ।

■ 1. U P 11の 収さず1 地力では、よく11項、等数命令」の代用をすること かあるたけ。 トアには地方01・カロウム 専工命令」の形に振行されることさ えある。京 中国政計一名「対一名「収計」したさい。

2) また、北方的・カ云的には一種の「オよ命令」として用いられることも ある。すなわち、第巻の「命令」か「即分の」(宋代朝)、行行が正生される「現 在命令」であるに対し「即分でな。」(守代朝)、つまり都合のよい前に入げして よい「命今」のでこ用いられる。例

मत भूनिया। 『(いつの間にか) をれてはいけませんよ」。

(6) 最も若適な「未来命令」として動詞の「不定性」の元そのものが 用いられる。そして、この形の「命令」は主として「忠告」「性政」「哲 体」「依頼」などの資を示すのに用いられる。例

(तुम) न जाता । 「(日は)来るべきでない」 दादना मत 1 = न छोडना 「放してはいけませんよ」

न भूलता ।=भूलना नहीं। [हिंगराक्षणातंत्रस्थितः]

CE 1) 命行文の否定詞としては 羽で かだ止命令に限り用いられるに対し 可と 可能 とは各種の命令形に用いられる。ナムし、可能 は私詞の責任にしか用

いられない。 なお、上的で見られる通り、「命令」として用いられる不定なには 守 が普通であるが、 阿可 も用いられることかある。

- 2) 苦通の「現在命令」はまた「未穿」に関連しても用いられる。なお、 「命令」には性別もなければ、いわゆる「違行売」もない。
- 3) 電子に対してなされる門接的な命令を変ま、および「延んま)にさせよ」などの事一人行に対するいわゆる「両接命令」については、次ペーン[vui] かたの16(ペーン20() か年のこと。
  - 2. 不定時相 (सम्भाव्य मविष्यत)<sub>क</sub> [行く」[行くかも知れぬ』[行くだろう]
  - 1. मैं आर्ज 13 हम(वे) वार्ए
  - 2.3 দু(লঃ) লাড 2 বুম লাओ

### m 法

- (1) 本的和は俗にいう「仮定は混む的和」のことである。一方、原符 名か「可能未ず的和」であるだけに「未来」に関連して、(1)「可能」(2) 「仮定」、(2)「不定」、(2)「順望」、(2)「祈願」(2)「根品」、(2)「日 切」、(221)「命令」、(221)「注目」などを述べるのに用いられる。例
  - (i) तम रहो ता मैं भी बोल्ं। 【江が言うなら話そり』

<sup>(1)</sup> 以後 双5時間名によける 石弓 の一: こがする。

「彼はどこにいるかしら (知らない)」 न जाने वह कहाँ है ? (111)

(ル) जी में आता है कि उससे कुछ 「数に少し与ねてみたい」 पछै।

(v)

122 (11)

> बेचारा जान मे तो न जाए। 「可好そうな奴か死るねように」

「神か彼を幸福にするようこ (vi) ईश्वर उसको मुखी रखे।

(vu) उसने प्रायंता की कि मै जीक し、」私か生きるよっにと彼は祈った」

ここに来るように扱に いいなさい (vm) उसे यह दो वि यहाँ आए।

(ix) मुने या न मुने, मैं उससे अवस्य 」(仮か)聞こうか聞くまいか、私は पहुंगा । 必す彼に言わう。

(2) 相手の意向を費すような場合にも本む相か用いられる。例 क्या मै यहाँ ठह है ? 「私はここで辞ちましょう か!

(3) 尊敬代名詞と共に用いられ」ば、丁塚な「勧告」「安治」か みわ される。例

आप ऐसान करें। 「あなたは、こんな事をなさらぬが LUL

# 3. 未来時相 (मामान्य भविष्यत)

से जाऊँगा 13 हम वि] जाएंगे

त [बह] जाएगा 2 तम जाओगे

[王] 1) つまり、語根に私付された「不記り相」語足 ま。 で、で、ओ に逆に「木 来時相」語尾 研, 市, 州 か旅行されたまで」あるか。 ある狂の語形においては 「不定時相」語尾の付け方が不規則である。よなわち、 割可 の語根には まや

<sup>(1) 「</sup>目的」を示す場合の技術詞 「子同様 司」「子」「するために」にすかれることも多い。

sit は然付されても。 U や U の添付されないことは既正の通りてある。 また。 **え**れ 「与きる」や लेना 「取る」の 画根が「不定時相」 語尾を指付する前に母音 ひ かか去したうまに「未来時相」 悪尾が修付される。例 द्या. देवा. देवा. देवे. दोवे लंगा, लेगा, लेगे, लोगे

たね、 語根が長母音 ぎゃ あ にて終るものにあっては、 いわゆる「不定的 出」み尾をおけする前に短母音化される。例 引刊「飲む」→ 何志卯、何卯卯、 पिएँगे, पिओगे , छना ाध्रठा → छऊँगा, छएगा, छएँगे, छओगे,

2) 京河 の場合同様、一般動詞の本時相では、たとえ「不定時相」 に足 U や で に「未来的相」語尾を飛行することか正規であるとしても、第二・三人称 単数に जायमा や जावेगा が、複数第一・三人称に जायेंगे や जावेंगे がよく用 いられる。同株 आयमा, आवेगा, आर्थेगे, आर्वेगे などとも思かれ、また पियेगा,

foiti ナドよとく用いられる。

3) 教教代名詞とては常に第三人称後数が使用される。(1)例 「あなたは行くでしょう」 आप जाएँगे जिएँगी।

用

朱 (1)「不定未来」「確定未来」「意志未来」などに用いられる。例 「彼はきょう来まい! वह आज नही आएगा। 「畑に孫子が生えよう! स्तेत में बीज उगेंगे । 「私はもう出かけます! में अब चली जाऊँगी।

(2)「喋願」「ことわざ」などにも用いられる。例

क्या आप अपना नाम बताएंगे ? 「お名前をいって下さいませんか」 「主く物をかり取ろう『因果広報』 जो बोओंगे सो काटोगे।

(3) 時々「…に遅いない」などと、「推定床来」としても用いられる ことは 訂可 の場合同然である。

m 80ペーフ (発考) 4) む風。

- (4) 本時相の「進行形」はまれにしか用いられないが、 वह जा रही 計引(「彼女は行きつとあるだろう」などといわれる。
  - (予) 同一文中に「現在」「孔太」「ます の3時根が利用されることもある。例 वे मसमे पीछे थे, है भी और रहेंगे। िक्टाइडिंग किस्सिट १ किससिट १ क がれており。また (A役も) ざれよう
    - [11] 未完了分詞から作られる時相 (वर्तमान-कालिक क्रस्त से वने काल)
      - 1 不定未完了時相 (हेर्नुहेर्नुमद्भूत)... 「行ったら」「行ったかも知れない」
  - मैं [त. यह ] जाता [जाती] हम [तम, वे ]जाते [जाती]

用 法

(1) 本時相は、いわゆる「現在分詞」即ち「未完了分詞」そのま」の 形である。厚酒の物義が示す通り、主として「過まの条件」しかも事実と 相反したり、実現しない事柄。つまり「不可能条件」について、「現在」 「過去」「未来」に関連して用いられる。例

यदि मेरे पास रपया होता तो मै नुमको 【もしも私にお金かあったら君に देता । あげたのにし

(2)「現在」や「未来」に関連しての「不可能条件」にも用いられる。 例

करों की टॉने छोटी होती तो पेड़ों के पते 「らくだの脚か短かかったら人の बर्जाबार स्वाते ? 菜をどうして食べよう!

(3) 本時相の否定詞としては ヨ が用いられる。

<sup>(1) 「</sup>条件がたしの音。

# 2. 现在未完了時相 (सामान्य वर्तमान)

「行く」

1 मैजाता है

13 हम वि] जाते है

2 3 सू [बह] जाता है

2 तुम जाते हो

★性果では、単複各人者の主動詞とも語尾の 研 や で が共こ € 化して 可能 となる。

#### 用 法

(1) 本時相は、いわゆる普通の「現在時相」のことで、一般的な、または個々の事務、時には晋値的な事柄さえ述べるのに用いられる。また、時間的には即刻実行される動作、つまり「遊核未来」にも図述して用いられる。本味調の「進行形」また「現在」に関連してばかりでなく、「近校未来」として「・するととろである」の際に用いられると共に、まれに「近接近土」として「たま今・したところだ」の歌にまんなる。例

वे अभी यहाँ आ रहे हैं।

「彼らはたゞ今ここに来たところだ」

- (2) 本的情の否定文では、希 司奇 可可可 | 「私は知らない」のように、 粉動詞の行かれるのか特通である。そのため、 外見上、 応述の「条件及头 時相」と同形になるので紛らわしい。 たまし、 本的相の「進行形」では助 動詞は名略されない。
- (3) 動作を表わす動詞の用いられる本時相の否定文は「拒絶」の②を 入わすこともある。例

मैं नहीं जाता।

「私は行かない」「行きたくない」。

3 辺上未完了時相(अपूर्ण मृत) 「行くのを常とした」 126 123 मैं[तू,वह] जाता था हम [तुम,वे] जाते थे

「FA か性形では、別は複数の助動詞 可か 町 になる以外、主動。J・助助詞とも、 大学が ぎ 化する。

## 用 法

(1) 過去の習慣的一般行為を述べるのか本時相の主要目的である。例

वह आप यह बात कहता था। 「彼自身この事をいっていた」

जब मै पारवाला में पहला था तो मेंड 「私か学校で学んていた頃、よく खेलता था । マリ遊ひをしていた

(2)「過去の状態」にも用いられる。例

आप वहाँ रहते थे? 「どちらにお住いてしたか」

झीले थी जिनमें केंबल के फल खिलते 「ハスの花の咲いている池かあっ થે ા たし

たいし、同じく一種の「状態」を示すにしても、動詞次第て余り習慣的 になり得ない場合もある。例

बया आप जानते थे?

「ご存じでしたか」

(3) 複文中に本時相が並用されるとき、末尾のもの以外の助動詞は一 般に省略される。例

वह मेरी ओर मृह मृह कर् देखता 「彼は私の方を振り向きながら見

और हैसता था। で笑っていた! (4) ところが、単文と複文の別なく。助動詞の省略される特別な形が ある。この場合。特に「過去の反復行為」が表わされる。しかし、助動詞

省略のために、いわゆる「過去時租」即ち「不定完了時租」とは外観上局 形になるので互に混同され易い。そのため、前後の文脈によって、そのど ちらであるかを判断するほかない。たと一つ、この特別形唯一の特徴は女

<sup>(1)</sup> 校院分試、文全体は過去の短時間の状態を示している。

性物質にのみにおいて主動詞の女性語尾 奇 が 奇 になることである。例

हम जाती।

「私達はしばしば行った」

(5) この「過去未完了時相」即ち「近上習慣」の「進行形」は未完了 分詞部に 耐 さ では に変えて作られる。例

हम चल रही थी।

「私達は歩いていた」

4. 可能未完了時相 (सम्माच्य अपूर्ण वर्तमान)

「行くならば」「行くかも知れない」

1 मैं जाता होऊँ

13 हम [वे] जाते हो

2.3 तू[बह] जाता हो 2

तम जाते होओ

□ 外以第二・三人打の助別がは 前収 や前項、また製菓等二人打には 前 も 所いられる。そして、女性乳においては、前項 3 の均分同様 単位の主動詞とも 一件に 可耐 となる。

## 用 法

(1) 本的相は、いわゆる「現在可能時相」とても称すべきものである。 的項2の「不定時相」即も「可能未来時相」が、より多く「未来」に関 速しての「顧望」「例定」「条件」その他の事項の「可能」つまり「ありそ うなこと」か述べられるに対し、本時相では、主として「現在」に関連し ての「顧望」「現在」「現在」に関連し

यदि वर्षा होती हो तो बाहर मत 「もしも附か降っているなら外出 जाओ 」

पिता जी सीने हो तो जगाइये नही। 「父さんが眠っているなら、どう ぞ起こさないで下さい!

(2) 本時相の「進行形」は「現在分詞」の代りに「語根」に で を

**添えて作られる。例** 

वे जा उर्दा है। 「終からは行きつくあるかも知れぬし

「FI まじおもそってあるが、特にその「非行形」は前後の文既次等で t わゆる 「近にます」 かまわすこともある。

# 5 推定未完了時相 (संदिग्ध वेतमान)

#### 「行くに違いない」

1 मैं जाता हैगा 13 हम विरेगित होगे

2 उ तु विही जाता होगा 2 तम जाते होगे

□□ 女性形では 上動詞およひ助動詞とも、それらの才字の 3万 ペ € かー様に を 化する。

#### 昭 妹

(1) 原語の語義は『疑問現在』であるが。 実際は (1) 「現在の疑問」 を示すことはまれて。(n) 窓ろ確実と認める事柄を仮定的推定的に述べる のに用いられる場合が多い。例

(4) तम यह न जानते होगे। 「担はこれを知らないにないよい」

होगी ।

(a) ताम के पत्तो को तम पहचानती 「トランプの一枚々々をお(女) は見分けるに高いたいも

(2) 本的相の「進行形」も「現在分詞」の代りに語根にですを加えて 作られる。例

वह जा रही होगी।

「(多分)位女は行きつよあるだろ 1 6

型上可能未完了時相(सम्माव्य अपूर्ण मृत)...

「行きつるあったら」「行きつるあったかも知れない」

<sup>(1)</sup> apurn betubetumad bhut [12 [alf 3ff ] beffetto.

## 123 में तु. थर] जाता होता तम [तुम, ये] जारे होते

- DO 10 BE 657 B. CARREST STEPPERS, ALEMAN AND IN ५ दर्भ एक इ.स. १६६ ८ धर १६ जानी होती २ ६ द.
  - 2 DEL ASSOCIATION STRUCTURE DE L'ORDINA न रा , देशहरू

#### 四 法

(1) ADEDL BUG WE OMBITE INGITED THEIR 間違して、事実と長着な条件を行めとして、実現しそうしない関切などを 近べるのに思いられる。例

यदि बर आसी होनी नी उपनी आहट 📑 ६६६६१,५५०५,०५८,०१६६१ मनाई देशी। たの配置が想これたろうに

(2) ふわねの「近むこ」でも、ではり「現を分211 の代りに、誤しに Tre & Bille tion C.

में बा की होती । [सिक्ट्रिसिक्ट का अंदर्क के प्रियम किया की

(in) ऋप्रक्रिकेन्द्रि

#### たりガ

「完了的相」のな「対人分別」は次のようにして作られる。

- (1) またいがはが子音で終わるとき中に 朝 かだけされる。何 पपना 1歩く ---- 9円 (歩いたふ
  - स्था--- बचना (१) दे !--- विया क्रिये-विष, बी, बी ] हिंद !-
- (2) 割切か まで終わるものは、いったん复じ音化してから 81 か出仕 टराउ, हा एसा किंद्र-- एमा किंत्रको
  - (3) がはが 和 や 新 て終わるものは、音便として ガ ム中間に入れ

6:05。例 बाना「北へる」— बाया「北へた」。रोना「粒く」— रोना 「かいた b

例外--- 可可「行く」(本ペーノ1 参照) , 前可「ある」(115ペーノ2 ヤニ型台所)

- (4) 所限か 考 て終わるものは、いったん短行音化したうえに す か中 間に関かれる。例 切申 「飲む」──句可「飲んだ」、祖和「縫う」──任可 「抢った」。
  - □ 1) 阿匹の単独女性形は それそれ 引, 引 や 刑, 引 になる つまり その単数形は五種と 門孔になる。すべて、 更可 で終る 近去分りの女性形型 は 等, その相談形は 等 や 引 になる。
    - 次の25に別え全く不規則である。 देना 「与える」 → दिया [दिये, दी,
       दी] 「ラスた」、लेना 「取る」 → लिया [लिये, ती, ती] 「取った」。
    - अधिराय वा त्रांकिठ के ठाउँ के ठाउँ के विकास के वितास के विकास के विकास

## 1 不定完了時相 (सामान्य मृत )

## 「行った」

123 म [तू, वह] गया

हम [तुम, वे] गये

- CE 1) 三以の女性形は、中間 や गवी である。 しかし、 गई や गई もよく 爪に られる。
  - 2) जाना の原則的完了分計 जाया の形は、例えば जाया करना 「よく行く」「行くのか常である」といったような複合的円の場合に限って用いられる。
  - 3) 項の形は、戸野相の私な男性形としても、また 初刊 における 知叹の下口はに「不宜時相」としても用いられない。cm

<sup>(1) 121</sup>ペーノ2 「不正時和」を呼。

引 法

(1) 太時相は、いわゆる「引き時祖」のことで、原語の語名は「竹竹 りょ時相1である。そして、形は「記法分詞」即ち「完了分詞」そのまとで ある。キとして、「Atal の慣別的・特殊的判実を述べるOE用いられる。

とよう。一般関節の他の事でも「おお」として扱われたり、また「記在す を示する 割とも一緒に用いられもする。例

जाहां आ गंगा । 「多が変だし आहा ! बादल आये । [PAI TOBET

आज आप क्यो जीव्यता ने आये ? ि है है है, देश दशर है।

いこしたかり (2) ほとんど「現在」同然に用いられる。 豆

अच्छा, बया हुआ <sup>२</sup>ता 「さて、(ちて) 見らになりますか!

「今日はどうこまんだ」 आज वया हआ ?

PER 1) 上足の通り、付に 前刊 の定了分配とも、もっこをかに 7度を たち

にたることが多いが、竹に打文では他の一を正フェーエーことのこになること かゆたくない。

यदि बद्र आया तो

「もし彼か楽たら

# 2 现在完了時相 (पूर्ण वर्तमान)...

「行ったし

1 मैं गया है 13 हम वि] गये है

2.3 न बिही गया है 2 तम गये हो

□□ 1) 女性形では 単れともによ動口の語風 研 ヤ ロカ ぎにかわるたけて ある。

M 法

(1) 本時相は一種の「過去時相」でありなから、「過去」を述べたり。 「出生」を示す副詞とは一緒に用いられない。 たとえ、過去に行われた事 柄でも、その結果が現在するものでなければ使用されないのである。例 क्या आज डाक-लाना ल्ला है ? िक्षेत्र है खिलाविद्यापार एक की मप्ते बडी प्यास लगी है। [私はひどくのどかめいた]

(2) 貯には「現在時相」の代用をすることがある。例

पया यह मडफ पटने को गई है? 「この近はパトナへ行くのですか」 しかし、この場合、「現在時根」可能を受けてする方が一層好ましい。 □□ 一見、本的和と混同し与いものに次のような場合がある。それは、上に「状 世」を示すために、主動詞の完了分詞に訂付した 創刊 の元了先の占編に囚る 60 एक ठ. শে यह जो तुम्हारे पाम वैठी (हुई) है वह कौन है ? যে গে に沿っていた技女は誰ですから

3. 迎去完了時相 (पूर्ण मृत)

行行ったり

123 मैं [तू, बह] गया या हम [तूम, वे] गये थे

<sup>[1]</sup> また、Janes bhūt (kil) 「近接直上」ともいわれる。

[15] 単複の女性形は、それそれ गयी थी. गयी थी

用法

(1) 単に口調の食さのために、「近花引ましのみか、一瞬間前の事柄 にも用いられる。例

बल तम बड़ी गये थे <sup>9</sup> जिल्लाम सही गये थे <sup>9</sup>

यह अभी मझे मिला था। 「彼はたった今私と出会った」。

従って、前項の「不定完了」即ち「おお時相」と大差ないことになり、 **物部の日頭などでも本時期で始められることままれる。例** 

शाम हो गयी थी।

「夕森になっていた!

わけても、主動語を調子づけ、かつ効めるための感え物として収んに主 動品に仕加される 可可 の完了形から成る複合動類は、風なる「過去時相し

と本質的には少しも変わらない。例

「彼女は去った!

वहतीचली गयी।

(2) ある「過す」の自に起こった事績に、例

मझे एक पत्र मिला । इसमें लिखा 「私は手紙を受欺った。その中に

था। रगः । 「兄弟分」・ 」と言いてあった。」

LE 1) 接続河 毎 を得いながら、「 するや石」のでを示すことがある。しか し、この場合も、「存 で導かれる何において気される動作の方か常に診り的に にかるので、前項(2)の一種と見られぬこともない。例

मह अभी गया ही या कि दूसरा 「彼かたったいま行くと直く別なた人かや

भित्र आयाः। って欠たし

この形式は、特に動詞 可可「得る」「許される」か「君志完了 になる場 **企によく問いられる。例** यह आने भी न पाया था कि मैं चला 「彼か求ると直く私は出かけた」

गया ।

しかし、この構文では、先立つ不定法語咒が E 化することと、関バる定詞 かざかれる。

2) 本時相もまた。「現在完了時相」同様、時本勘點詞が占かれるために、 「水ボ完了時相」と同形になることがあるから注管しなければならない。

# 4. 可能完了時相 (सम्भाव्य मृत)

[行っていたら][行っていたかも知れない]

1 मैं गया होर्ज 13 हम [वे] गये हो

2.3 तू[बह] गयाहो 2 तुम गये होओ

正記 主動詞の完了形に 京市川 の「不定時相」を指付したもの。 女生形は、その 単位とも主動詞の活用を 引 または ई 化する。 本許相は 祝知(84 पूर्ण वर्तमान 「可能現在完了」とも行される。

#### 用法

(1) 前記「可能未完了」(回4)が「現在」に関連して、ある事柄の 起こる「可能性」を述べるに対し、本時相は「過去」に関連しての「可能 性」を述べるのに用いられる。すべて、「過去」を対象としての「願望」 「推定」「条件」などが言及される。例

बदि मर गया हो तो

「もし (彼が) 死んでいたら…」

दे आ गर्पे हो तो उनको बुला हो। 「彼らが来ていたら呼びなさい」

(2) 本時相が「可能現在完了」とも称されるだけに、「現在完了時相」 の意にも用いられる。例

रोनो प्रसार के पेड लाना। ऐसे भी 「2 疑の樹木を持って来なさい。自 जो आप में ज्ये हो और ऐसे 然に生えたものと。植えられてあ भी वो बोये हुए हो। 5 ものとを」

# 5. 推定完了時相 (संदिग्ध **मु**ढ) 「行ったに違いない」

- मैं गया होऊँगा[~—हैंगा] 13 हम वि] गये हागे
- 2 3 र बिही गया होगा 2 तम गये होगे
- 女性をでは、単複・人者の如何に関係なく、すべて主動器も思わるは、別様 たのしてが 素介するだけである。

#### 町 井

(1) この時相も、「現在」に関連される前記「仮定末先了」((a) 5) と 対比されるもので、本時相は『君士』に関連して、「ありそうな事柄」が 述べたり、確かな事柄を仮定的・推定的に述べたりするのに用いられる。 例

आप यक गये हाने 1 「食方はお飲れになったに相違ない」

मेरा नाम मना होगा । [起の名を願いたに違いない] (2) 本時相に、正規な「進行形」はなく、形は「仮定未完了」の場合と

共通である。例えば 明 で 計画 は、「現在」「過去」「未来」、つまり「む」 に関係なく用いられるので、耐寒の支燥火寒で、「行きつゝあるに かいた い」「多分行きつゝあった」「行きつゝあるだろう」の意になり得るわけで ある。

> 6 丛去可能完了時相 (सम्भाव्य पूर्ण मृत)... 「行っていたら」「行っていたかも知れない」

123. मैं न्द्रि, वहों गया होता हम तिम, वेों गये होते

(E2 1) 女性的は、複数形において助動器が 高浦 となる以外、主動詞も単数

<sup>(1)</sup> núra hefubetumad bhút 「完了おえる件 | メモガンれる。

形の助力引も、それらの末字か一様に き 化する。

2) 否定同は、既近の123の場合とも 可能, 456の場合とも 可 が用い いわス

#### 用 法

(1)「過去 に関連して、事実と相反した「条件」や実行不可能な「願望」を述べるのに用いられる。例

यदि वे वहाँ गये होते तो फिर यहाँ 「もし彼らか、そこへ行っていたら वापम न आते। 再びここに帰って来なかったかも

知れない」

यदि उसने मुझे वहा होता तो मैं से 「もしも彼か私に言ったら連れて来 कर्<sub>थ</sub> आता ) たのに」

(2) 本時相は常は条件文の条件句にのみ用いられるとは限らない。(3) 主文にも、また(b)全然条件文でないものにも用いられる。例

(m) सूमारा गया होता, परन्तु वच 「お前は設されたかも知れないが故 गया। むれた」

## (b) 他 詞 動 (सकर्मक किया)

(1) ここては、不規則動詞の一つである他動詞 そずの「不定時招」 「与えるかも知れね」「与える」「与えよう」の活用だけを記するに留める。

(1) 程序分配

H R

初 新

ा मैं दूँ, देऊँ<sub>ला</sub>

13 हम [वे] दें, देवें,

2 3. तू [बह] दे, देवे

2. तम दो, देओ ...

- (三) 1)「未来時相」は、この「不定時相」に、それぞれ単複両性の「未来的相」 語解析付されるは認られること。自動詞の場合と変わらない。
- 不規則計計 青州「取る」の店用も ミ州 のそれと似たものである。すなわち、その 不定時担」の単数は デヤ 市、複数は 南 ヤ 南 となる。(1)

#### 田神

(1) 他が弱が自動詞と受なる点は単に前節 [w] 所載の完了分詞から作られた6時相にわいて上語に後置詞 守 が採られることだけである。 従って、この場合、動詞は常に目的語の数や性と一致する。例

मैंने एक पस्तक पढी।

「私は1冊の本を読んだ」

मैने पस्तकें पढ़ी है।

「私は本を読んだ」

たいし、目的語が �� を伴えば動詞は常に第三人称単数別性にといまる。 例

मैंने उन पुस्तकों को पड़ा है। 「私はそれらの本を読んだ」。

(2) しかしながら、たとえ他動詞の完了分詞で作られた時相でも動作格の採られないこともあれば、逆に自動詞の完了分詞で作られた時相でありながら動作格の採られることもある。従って、最も根本的な問題は他動詞と自動詞との定義の決め方ということであろう。

テとで、それら特殊な動詞の主なるものを挙けてみれば次のようなもの である。

<sup>(1)</sup> 地方的。UP 州イタワ市門辺に使用。 図 共に地方的。

<sup>(3)</sup> 式 こ123 ベーブ信号 1) の中頃お門。

138

(1) 他動詞 さず「与える」が自動詞の語根や抽象名詞と合して一種の慣 用句的複合動類に成るとき 守 を採らない。例。

「彼らは笑った」 वे मसकरा दिये।

वह चल दिया।-वह चल पडा । 「彼は出発した」

वह आता हआ [=आते हए] 「彼の来るのが見えた」

दिखाई दिया ।

なお、मुनाई देना「聞える」、पवडाई देना「逮捕される」も न を採らぬ。 たいし、(२) साय देना (を)助ける」(と)協力する」や自・他兼用 動詞との結合語 घटरा देना - घटराना 「田秀させる」には 引 か好られる。

(ロ) 他明詞 लेना 「取る」が होना の話根に伴われる時にも ने が好ち れない。例

बह मेरे पोछे हो लिया। 「彼は私の後について来た」

वे मेरे साथ हो लिये। 「彼らは私と同行した」

(m) लाना = ले आना 「持って来る」 や ले जाना 「持って行く」「孤ぷ」の ように、他動類の類根に自動器が掛付されたものも同様である。例

मै यह लाया है। 「私はこれを持って来た」

ちなみに、自動詞 可可 は受動館にもなれる。例

बह नाम में लाया जाना है। [それは役にたつ]

(直訳=それは仕事の中にもたらされる)

(iv) 自・他差用引詞 जनना「生む」「生まれる」もそうである。例

माता मझे जनी। 「母は私を生んだ」

(v) 自動詞 बोलना [話す」他動詞 धमझना 「了解する! 自動詞 वांमना 「せきをする」、「劉本和「くさめをする」などは、中の投茶任在である。

例

तुम मुक्तने मूठ क्यो बोले [=तुमने・ 「担はなぜ私に腹舌をいったのか」 बोला । ?

बह मेरी बात नही समझा [ - उत्तने 「 後は君の言葉が分らなかった」 समझी ] ।

同様、中(中) ではい 「私はせきをした」である。

なわ、独窓収合詞 समझ जाना が ने を扱うないのはいうまでもないが、 ममझ लेना は扱る。また、यह सब से जन्छा समझा जाता है। 「これは成も良く低せられる」などと受効態にもなる。 बोसना も बहाँ सो भाषाएँ बोली जाती है। 「そこには二つの言語が話される」などと受効態にもなる。

(vi) लडना「戦う」は単独に用いられるとき 守 を探らないが、同義の 目的語が用いられる時には 守 が深られる。例

वे लहे ।

「彼らは戦った」

वह अपने शत्रुओं से लडा। उन्होंने लडाइयाँ लडी।

「彼は自身の敵らと戦った」

「彼らは飲々の戦を戦った」

また、この動詞の使役形 可引用「戦わせる」「戦う」の語根に 元 を係 んた強高複合詞にしたものが オ や目的語を探ることは当然である。例

उन्होंने जानें लडा दी। 「彼らは命がけで戦った」。

□2 1)大作、この動詞が目的語を採るのは、9分通り「戦争」が対象とされる。 これに反し、目的語を採ら取力は、「戦争」以外に、「個人間の急い事」にも用い られる。たまし、実践行。」で専行「すもう(何文)を取る」は例外。

2) 自動両にして動詞と目義の目的的を試り得るのは 報恵集 何まれ「飲い をする」や 稿何 積荷可 「遊散をする」以外にも見出される。何

आओं, झूला झूले।

「実結え、ぶらんこをしよう」

वे परी नीद सोते हैं। 「彼は戦闘している

(vii) 可で可「欲する」「愛する」も単独の時にはその主語に す か採ら れるか、 मेरा जी चाहा कि 「私は を欲した」(訳道 私のしは を改した) の様女では、主誓 引「心」に 引が探られない。

(viii) भलना 「忘れる も主語に ने を取らない動詞であるか、この動 詞は単独に用いられることはほとんどなく、常に語識のために 3777 を伴 う。例

अपने को भल जाऊँ।

140

「自分を育れよっ」

मैं उसे लाना भल गया। 「私はそれを持って来るのを亡れた」 उसे यह बहुना न भल जाना। 「彼にこれをいうのを忘れないて下

115%

○ 1) 上記のほか व इसको सना किये । 「彼らはこれを無くのか常であっ f」のように 習慣」を表わす場合。 およひ 値動詞 STOT 「得る」か 示され る」で、用いられる時には、主語に す が採られない。の

2) 自動司 खेलना 「遊ふ」「かけ事をする」は、जुआ 「とばく」 ताश 「ト ノンブ」、 गतवा=गदका 「打時棒」「ハット」、 (वा) शिवारः 「片斑」その他 「すもう」以外の競技名なとを目的声として用いられると共に、例えば यहाँ यह खेल नहीं खेले जाते । にょではこれらの遊飲はやられない」のよ うに受動物にもなる。本来、自動詞は目的語を採り得ない原則になっているにも

からわらす。イント語では自動詞と同義の名詞かよく目的語として用いられる。 り चर चरना 「(跳ひを) 跳ぶ」 भूला भूलना 「(ぶらんこを) ふらんこと する」、यरयर र्नापना 「(斗農いを) 斗器いする」、(बा) बाच नाचना 「(の) げ りを終る。用門

वह क्तिनी मीठी नीद सो एहा है! िळाडल という甘味な眠りを眠っているこ

とより

<sup>(1) 156</sup>ペープ加 および 161ペープ(2) (11) 数明。

3) 完了見去司の主託が二つ以上から成るとき、その各々に 〒 が孫付される。 例

जमने और जमकी पत्नी ने देखा। [故と後の基とが見た]

4) ある杯の性知知は、その単一字と接合語との知日に関係なく、自動詞的なで味に用いられることもある。例 まで記。事で可一一期刊「はき気を催す」「ほく」、そて、事で可「遅れる」、用例。

मोटी निव वाला माफ-मुधरा निलता है। 「太いペン先きのはきれいた芸ける」。

5) とフティーで自動了扱いされる 3で可「恐れる」は目的孫に  $\hat{H}$  が取られる。

# 』. 受動動詞 (क्म्प्रधान किया),,,

#### 1. 作り方

他動詞の完了分詞に、動調 明刊「行く」の各時相を派えて作られる。 何 教明 明刊「見られる」。試みに、これが誤板、未完了分詞および完了 分詞にわたり、その代表的な時相を掲げてみることにする。

(i) 不定時相。

「見られるかも知れぬ」「見られる」「見られよう」

単 数 複 1

मै देखा जार्क [देखी बार्क]
 तुम देखे जाएं [देखी जाएं]
 तुम देखे जाओ [देखी जाएं]

(11) 不定未完了時相

「見られたら」

<sup>(1)</sup> thit kasm vácya kríyá, Eblibha.

<sup>(2)</sup> 能勢助調の場合には「性」の入場は何かったが 交換制門の場合には主動門の指足だけに 性別が起こる。なむ「香で放」では「 は ごるへきだ」の直となる。

-- 16 3 -142

दिखी जाती ]

दिखी जाती।

(m) 现在完了時相

「見られた!

मैं देखा गया हूँ दिखी गई हैं] 1 3 हम बि देखे गये हैं दिखी गई हैं ] 2 3 तु [बह] देला गया है [देली गई 2 तुम देले गये हो [देली गई हो]

123. मैं [तू, वह] देखा जाता हम [तूम, वे] देखें जाते

割

2. 用 法

(1) 元来, ヒンティーには, いわゆる「受動的自動詞」(布中南南) つまり自発的行為の窓示される受動的意味を自ら備えた自動類を初め、受 動態的性質を持つ機通りかの構文があるので、河町 を補助助詞とする普

通の受動態の使用範囲が比較的狭い。co

(2) 従って、いわゆる受動館の使用されるのは次のような場合である。

(1) 行為者が不明であるか。またはたとえそれが分っていても表明する 必要のない場合。例

गाँधी जी महारमा समझे जाते थे । 「ガーノディーさんは「だけな魂! と了解されていた」、

(11) 接続詞 fr が書かれると否とにかしわらす。従属文を伴いながら 無人称的に事を述べるような場合。常に第三人称男性追数の受動態が採ら

れる。例

कहा जाता है (कि) ि टेडिश्चेस्ट ।

यह देखा जाता है कि 「…ということか見られる」。

(3) 慣用的に主語によく対格が好られる。例

(1) 145ページ (備考) 5) 会別。

तुम्हें बनाया गया था कि •

「君は…ということを告げられた」

सडके बुलाये जाते हैं।

「少年達が呼ばれている」

-लडको को बुलाया जाता है।

यदि यह[ इसे] न हटावा गया तो 「もしも、これが選げられなければ、 हम ठोकर खाएँगे। かれわればつまづくだろう」

उसको दण्ड दिया गया । (क्षेत्रज्ञारु-प्रिट्रेश्टर) (वेद्यः । विक्रेस्टर) इंद्रेडिसर्टर)

このような禁文は、「・が と認められる」とか、「 が に作られる」とか いった以気の物态と他認識から或る近部を有する 「 む」を示す主張にも残られる 結果、その付証を認めて途上の主語になる。さらない限り、このような団苦しい 気取った形式は避けて、普通の主格主流を探る受験をが望ましい。 (4)特に新作の「行為者」を示す必要のある時には、その行為者に登

「によって」: 市 吉田 (市) = 市 吉田 (市) 「・の手で」「・によって」など 「 が採られる、の例

बह रात्रु के हाथ में मारा गया। 「彼は敬に殺された」

(5) との「行為者」に き を採る受動隊の構文にはよく「能」「不能」 の観念が去わされる。例

बह मुझने देखा न गया । 「それは私には見ていられなかった」 बह काम मुझसे लिया जाता है। 「その世界は私にできる」

क्या तुमसे यह कवितासग्रह पढा 「君にこの詩史が読めんのか」

नहीं जीता<sup>?</sup>

だとし、
者が「事物」に付けば「原因」が表わされる。m例

<sup>(1) 251</sup>ペーノ「石朴」俳句が何。

<sup>(2) 251</sup>ペーノ「器格」と258ペーノ「毎格」は、むよび次算「作人計動制」お回。

इसमे क्या काम लिया जाता है ? 「これは何の役に立つか」

(6) 乾むのために、善補の順位を変えて、主熱か受動な詞の間に置か れるととがある。例

देखा यह गया कि

厂 ということか思られる。

(EZ 1) ऊपनाना [自分のものとする := अपना करना のようた代名詞的動詞も 受動性になれる。例

अपनाये जाने के कारण विकास कर कर कि

2) 一見 普通の受動性に思えても、 ずは他動詞の 高根に独立の 切引 かぶ 仕されたものがある。cm例

राजा उसको राज्य दे गये हैं । 「王は成こ王郎 (即ち統治松) を与えた!

3) 例えば、वृझाये नही वृझना 「如何こしても 消されない (人や然などが)」

や हटाये नहीं हरना 「どうしてものけられない」などのように、ある豚の他動 間は「強い不定」を打出すために、受動作用の補助動詞 可可 の代りに、それ 自身の自動詞を探るものがある。一変の否定挺修奨動修ともいうべきものである う。これが在の受動能と異たる古は面勘団に常に否定司が置かれるぜかりでなく 博助動詞となる自動詞が主語の性や数と一致するか、主動詞となる他動詞の完了 形が常に話尾が 豆 (=す) 化されることである。例

यह लकडी उठाए नहीं उठेगी। Гट०अंतरक्ष छाद्रां १६.५५७ स. इ. ।

- 4) 受動態の「現在分詞」や「過去分詞」は、それぞれ बनाया जाता हुआ 「作られる」; वनाया गया हवा 「作られた」となる。主語の性や数に一致するこ とは無論で、形容器にも転用される。
- 5) そのほか、普通の受動修設外の様々にして、写動場的音味にたるまたる ものを列をしてみよう。
- 1) 受動的自動詞。(3) 例

वहाँ पक्के आम विक रहे हैं। 『そとにゅしたマンゴーが赤られている!

<sup>(1) 154</sup>ペープ55公用。 (2) 149ペープ(2)公用。

これを一般交動性の構文と比較してみれば、例えば उमकी पदी काडो 取[1 において、「彼の吟っか (誰かに) 様された」ことになるが、同一類词の交動的 自動詞を使って なる 項を または なる 項を とすれば「自然に抜われた」ことになる。

また、例えば「私は非難されている」という場合に、項明可 官口 町町 管 」 という単なる「現在完了時程」の代りに、変動等の「現在完了時程」項明可 電口 両川町 和町 着 1 を以てすれば、「私は何も悪いことをしないのに」の音か暗示 される。

- 由) 名詞や形容詞と होना との結合から成る複合動詞。 (月 (有1) प्रयोग s होना 「(が) 用いられる」, प्राप्त होना 「得られる」(a)
- n) ある臣の名詞や弘河の不定法に得われる में बाना の様文。例 वह माम में आता है। [一 में नावा चाता है] 「それは役と立つ」, वह चेवने में आया 1=वह देना गया। 「それは見られた」。
- iv)「状態」を示すために、他動詞の「過去完了時相」の中間に 食可 の先 了形をさしばさんた様文。例

वे घर गमे हुए है। 「彼らは帰宅している」

दराज में ताला दिया हुआ है। िडासिटाट ようかかえっている」。

- v) चला जाना ित्र (」「去る」は、चलना ित्र (」「多く」の仗役だ चलाना ित्र के से ( ) जाना を駆けしたので、外形だけは実動性と同じてある が、 だ味は自動却である。本故合動詞は「人」以外のものにも使用される。例 यह पानी कर्रो चला जाना है? 「この水はとこへけくのか」。
- vc) আনা 「受ける」「こうむる」から成る名詞製湯も常こ又製的で呼にな る。 例 和て。 제 না 「打たれる」; जूती。 আনা 「くつで打たれる」 , रगड, আনা 「こすられる」。

<sup>(1) 162</sup>ペープ5 (1) 238ペープ(3) (i)。 および239ペープ2 (a)(i)(i) 参照。

# Ⅲ 無人称動詞 (भाववाच्य किया)。

これは受動性の一変狂である。 ↑ 1、普通の受動態か溶に他登詞を基礎 とする受助ににして、主意詞も補助動詞も非に主語の数や性に一致するに 対し、無人が動詞は外形か似ているがけてある。 すなわち 自動詞か基礎 となる受助形であって、主動詞も補助動詞も常に第三人称の男性単数にと 1 こことである。 でして、主語が表明されるとき 常に 着 か採られる。 本物文は取ら「能」「不能」を示すのに用いられる。 解

उनसे जाया अया नही जाएगा। 「彼は行け(半られ)まい」

जनसे चुप चाप बैठा नही गवा। 「彼 [[または彼女]] らは吹って座って いられなかった!

मुझसे नहीं रहा जाता । 私には我慢できない」の

□ この です可可可 は 「 せざるを得な」のきを変わすために 従格化即も 5元か で 化した完了分詞を伴ったり伴われたりする否定的で説か必要請 信可 「 せすには」を育する否定文字によく用、られる。例

मुझमें बिना क्षाये नहीं रहा जाएगा। स्थितंद्र∧का ए। ठंश ई। औ

ます。これと同じた味は後で云及される自動打 研究 「できる」を用いす で 現空前 を以てもずわされる。チェレ この場合には 交動性で ないから 主格 主呼が 深られる。例

मैं वहीं पर्ये विना न रह सका । IBBR २००७० धार्मिमा अस्त जान कर्मा कर्मा ३ विना में एक स्थानिक विना कर्मा करा कर्मा कर्म

<sup>(1)</sup> 一名 bhāva pradhān kriyāss 「紅人町の動門」とも行される。

<sup>(2)</sup> 不契明完了分別 可可 でなく。放則的完了分詞が使用されているのに注意。

<sup>(3)「</sup>ノットしていられない」「定視するに忍びない」立。

# IV. 使役動詞 (पेरणार्थक किया)

#### 1. 概 必

とれた、自身が「…する」「いさせる」宜を示すための普通の使役動詞の と自身が「第三名をして いさせる」「第三名から…してもらう」意を示す 第二使役動詞のとから成る。共に他動詞であるから動詞の「完了時相」か 5年られる6時和の場合、上海に守の行られるのは当然である。

しかしながら、全動詞が皆自動詞、関連段動詞を具ிするわけではない。 例えば他到詞 पाना。「符る」「受取る」のように使使形を欠くものを初め として、自動詞 पाना。かぞ言可。などのように他動詞や使役形を欠くもの 逆に、「4年」「試む」など多くの他動詞のように自動詞を欠くものがある。 そして、音味的内容はとにかく、製剤的な使役形の作法としては、普通の 便段動詞の場合、語根に 4日 または 4日 を、また二重使役動詞の場合に は 4日 または 4日 を駆付するのが一般的である。意味的内容としては、 例えば他詞詞 すて可 の両旋役形 年代可二字で可可「させる」のように、両 JPPで行かに変に扱われる語詞とまたやなくない。

(1) 受動的自動詞	他助罰		便役動詞
बनना [११ है १२ है]	बनाना 🕆	زة	बनवाना [१६६ स ह ]
पिटना <i>नि]र्गःदे</i> ६८	पीटना 📳	2]	पिटवाना <i>[1] १८ च</i> ठ 🕽

<sup>(1) 「</sup>励ミす」位の形容計。

<sup>(2)</sup> १८-१६१२ (यहली प्रेग्णार्थक) ८-अअस्ट.

<sup>(</sup>३) १८-१६१ (दूसरी धेरणार्थर) सम्बद्धाः

<sup>(4)</sup> えず「リスる」が「得させる」だの使物的料念なり入るのに用いられる。

<sup>(5)</sup> 中司刊「戊る」が「行かせる」「釈迦する」といった仏教的意味に用いられる。

<sup>(6)</sup> 他勢間 すくず が「あらしめる」並の使役動詞として代用される。

なお、受動的自動詞 seem 「住がれる」の他動詞は seem 住く て、 「取伊役動詞は seemen 往いでもらう」である。

### 2.作り方

各動詞の意味的な内容は別として、単に使役動詞の作り方を示せは次の 初りである。

(1) 短母音に先立たれ、かつ、その新模が子音にて終る動詞にあって は、他動詞や使役動詞または二重使役動詞を作るのに、基礎となる動詞の 新却にそれぞれ MT または MT が感情される。例。

मुनना [日 く」 मुनाना [日かせる] मुनवाना [日かせてもらう]

ぶがか=उठना [記さる] उडना [元之] बनना [かられる] [できる]

निस्ता [かく] पडना [記む] जसना [かえる] सौडना [かる]

राजा [かる] पोलना [記む] लिसा [おちる] [मिलना [かる]

せいにするよう Hereに 放送点の Hereに 行わるのよ (Merel 1227)」。 また、二つの短行音や二重母音に先立たれる時、および指根が Anutwira にて終る時にも同様である。例

बदसमा [変わる] भटनमा [旅を遊う] पकडमा [浙える] विपनमा 「松石する」 वमनमा [郊く」 समझमा [了解する] (ロ・位) पोलमा [然える] [およる]

<sup>(</sup>I) दशक्तरहरूटाप्रहरूरधारमस्यक्ति विन्ताना निन्द्रपाना रहत्त्व.

तेरना (冰ぐ), दीडना [走る], फैलना (松げる), बैठना<sub>ला</sub> (経る), हॅमना [父う]。

たとし、この場合、基礎動詞や二家使役動詞における第2短母音が、他 動詞や使役動詞において無声になる。例、badaina「変る」・badiana「変 える」、samajhna「了解する」・・samjhānā「わからせる、「説得する」。 なわ、する可「話す」「名づける」の使役形 報酬 が「称される」との交 動的意味を有し、その代用語 する同可「話させる」「名づけさせる」 「…と称される」する可可「が「話してもらう」「名づけてもらう」となる などは例外である。

(2) 前項とは同一の類似であるが、その使役形に他動詞液用)を作るのに、 類似の短母音を長母音化し、 二重使投形において再びもと通りの短母音に 可 を駆付するもの。 係

बंटमा「分配される」 बांटमा「分配する」 बंटमामा「分配してもらう」 पिटमा「打たれる」 पीटमा「打 つ」 पिटमाम」打ってしらう」 たとし、との場合、短母音 さ で終るものに戻り、他私詞において あ でなく 前 首に変わる。例

चुलना 「浴ける」 चोलना 「溶かす」 चुलनाना 「溶かしてもらう」 同類語=कटना 「切られる」 विचना 「引張られる」」。 खुरना 「混られる」 खुलना 「叫かる」 「聞けられる」 विचना 「奪われる」 विचना 「皮がむかれる」 सुलना 「行られる」。 व्यना 「亮霞される」 「焼印を押される」 व्यना (斤き

<sup>(1)</sup> 正規の形 वैठाना क्राक्कार विकास ६६६४६६६ वैठलाना विठालमा, विठलाना ६४ の形は興味である。

<sup>[2]</sup> との性役形は 気づ可 ともなる。

<sup>(3)</sup> स्ट्राज्ञादक्र तौलना ८६वराम, 二क्ष्र्यक्रज्ञाद तुलाना, तौलाना ८५०.

<sup>(4)</sup> これが依役先は दवाना のはかに दवाना が使用される。

れる」、पलना | 育てられる」 पितना 「(粉に)ひかれる」 वैधना 「縛られる」 (結はれる)、मरना 「死の」の、 मुझ्ना 「曲る」「曲げられる」 रूपना 「止まる」、 जरना 「結まれる」 सुदना 「盗まれる」 सिचना 「水でやる」「かんかいする。

たいし、次の結動制にあっては、基礎動制である自動制における短母音 \*\*\* 4 、その他動詞において \*\*\* 音にならないて \*\*\* 音となる。例

छिदना मिळे षि८ छेदना मिळे प्रिपेट े छिदाना हिन्दाना हिन्दा है सिळे प्रिपेट रे छे

「月瓜担=恒で町「聞まれる」「中で町「届る」「うろつく」「年春町「投けられる」。 作を町「附かれる」「よき削される」。 存電町「見られる」。 なおまた、 短母音から成る 2 音節類にわいては、その第 2 短日音が、他

動詞において長母音化される。例

जपदना 「根こそとに उलादना 「根こそと उलादवाना 「根こそどに これる」 してもの

लिक्ष्रांं = ज्वरना [降りる」 बदुरना [其められる」 बिगडना [強われる](a

我中村一年平原可可「支えられる」。何有可可「出る」。 (3) 長日音に先立たれなから子音にて終る基礎動詞にあっては、その 長日音が他は調や低及動詞において短母音化されたうえ、それぞれ 可、可 か部付される。例

- [1] 阿佐孜ルでは「数す」直球の日かに「打つ」「負かす」などの意にもなる。
- (2) अप्रतिकार कि स्थान स्थान स्थान स्थान स्थान
- は 伏段形では 中空川 よりも 中空川 の方が一階多く使用される。
  - (a) ১লবংশুকাল যেতা এলংগ্রুত কলংক বীশ্বা ১ল্লেখ্যে, এলগতে যুক্ত করিব নিয়া বালা কাংক্তেড্নতে,
  - (5) एस्ट्रीट निगडाना bigging 6@हाटराट.

बागनाधा 日かさかる」 जणाना 「日をさます」 जणवाना 「日をさましてもらう」 भीगना 「おたる」 मिगाना 「おらす」 कि मिगनाना 「おらしてもらう」 द्वना 「ひる」 「だむ」 ह्वाना 「ひす」 [沈かる」 ह्वनाना [沈かてもらう] 同類語ाञ्चीलना () [편う] पूमना [散策する] देखना 「見る」 たとし、この現合にも、前項 (2) の逆に調散が ओ で終るものは す に変わる。例

जोतना 「排す」 जुताना 「排させる」 जुतवाना 「排してもらう」

(4) 消飲が、長母音 sri、fi で にて終る 1 音節語である 他過額の場合 にも、その長母音を短母音化する声では前葉同様であるが、そのうれ更に 阿佐快那にそれぞれ sri lá、seri lwà が集付される。例。

同類訓=稍和「縫う」。

मेना 「以る」の便役形は निवाना 「取らせる」であり、बाना 「持って米 る」の使役形には特に निवा माना 「持って来させる」が使用される。(को) निवा ने जाना 「に)運ばせる」もよく用いられる。また गाना 「取う」も गवाना 「吹わせる」となる。

<sup>(1)</sup> इर जगना ८६६६. (2) इरुध मिगोना, (3) इरुध हुथेना,

u) स्टार सियाना करता स्टाउट विद्यान क्षात्र.

<sup>(</sup>S) (६११) दिखाना (११५६) एश्चर दिखलाना ११% इटकड.

ただし、まや ず にて終るものは短母音 さ になる。例 सोना [ 既る ] सुलाना [ 既らせる ] सुलवाना [ 既らせてもらう ]

周報期=रोग かくし

たいし 受刑:触る」には正規の使役形 専利可「触らせる」のほかに छभाता があり、बोना「失う」には使役形 खबाना。बोभाना 「失わせる」か

ある。また、योना 「(祖子などの)まく」にも使役形 व्याना や वशाना などが 用いられる。か

(5) 全く不規則なもの。例 विकवाना जिल्ला है ਰੇਚਜਾਨਿਲ ਨ।

विकता रिकेट (तोडवाना 「複きせる」 रटना 「惣れる」 तोडना 「惣 पे」

फडाना फटना डिक्किंग है। फाइना डिप्ट री 「烈かせる」

फडवाना फोडवाना क्षित्र है चे हैं।

फुटना सिर्हरे के ब्रेडना सिर्ह की (छुडवाना [故たせる] छटना 「解放される」 छोडना 「放 つ」

धिलाना ्रितापा |धुलवाना स्टिश्चिक् धलना 「洗われる」 धोना 「洗 う」 3 用 例 (i) 使役動詞と、(ii) 二電値役動詞との用例。 (i) दूत दौडाये गये।

「使名達が走らせられた」

उनने मझनो लौटा दिया। 「彼は私を帰らせた」 हमको दिलाओ (=दिलसाओ) । [ばくに見せ船九] (n) हाथ मुँह घुला दो to 「手足を洗わせなさい

(1) 引知刊 愛到刊 の形は正しくない。

(2) 「繋ける(豆などが)」「発穿する」「わき出る」「拡がる」その他のなにもなる。

(3) 共に 156 、一ノ「複合助訂!(値考) 公開。

उमने तुझे बुलवाया है। 「彼はお前を呼びによこした」

एक कोट बनवाने की मंत्री इच्छा है। <sub>एउ</sub> 「私は上衣を一着作らせたい」

たいし、「遊菜をして させる」のように、「誰菜を 」と被使役者を明

京する必要のある時には、それに門格 स か据られる。例 इसना उत्तर मुझले लिखना सा Im 「この近野を私に含かせなさい」 मै जसन तस्ते समा करा देना ! 「彼か甚を数すようにさせましょう!

# V 複合動詞 (संयुक्त कियाएँ)

その情成上から見るならば、人体、主動詞の悲劇となるものか、(1) 動詞の間根 (h) 「木完丁分詞し (m)「完丁分詞」(w)「不定法」の4 行から成っている。それに、いわゆる「名詞動詞」や「型成語」も、これに加えることかできよう。

- 1. 語根を基礎功嗣とするもの
- この場合における主なる補助動詞は次の通りである。
- (1) 新門「求る」――ある動作を済まして来る畝に用いられる。例 でに―「いって来る」,何の可―「出て来る」,前―「行って来る」。時々,

「しか」る」意にもなる。例

-----

यह सो आयी। 「彼女は眠りかかった」

との船助頭類は、消費と同形にもなり得る接続分詞の女にもよく用いられるので、耳の複合動詞と甚だ認同され場い。つまり、接代分詞の印である。すて その他の同狂の駆付置か看置される場合のことである。との場合、

常に「 してから来た」意となる。 圏

<sup>(1)</sup> 直が一「一名の上太を作っせるへき私ので語がある」(2) 155 ヘーノ「複ぐ動訂」(8) むよびこの信ぎ参照。

(2) arer -- 「嬉じる」「嘘じ出す」の意として抽象名詞と結合する 場合。この時にも意味上の主語に与格か採られる。例

मझको उसपर दया आई! 私は彼に同情した

रसको बहुत [=वडा] नाय आया । 「彼は非常に怒った

「TE 1) STIFT か「知る」 さこ用いられる時にも同一の構文かなられる 例 मझे अप्रेजी नहीं आती। ग्राधक कर्मा करा

21 たね 8月刊 と結合するすたら社会を引きがけてみるちょま 引す。「解 既! विचार 「巴犬! रतोंदी。「馬目」その他の病名を初め नजर。4 「兄ぇるこ

है। प्रसद्भ हिंका, याद्र शिरुक्षी, दिशा, सर्मेश (अ.८०) होता हि 党」「正気」など 特にウルトゥー系のものか少なくない。

काम (मे) आना क्ष क्षिप्रा के

(3) पडना--抽象名詞に伴われて。例

उसको चोरी की बादत पड गई। | 彼には盗癖かあった!

मझको यह समझ पडता है कि वह न आएवा। 「私は彼か死まいと担う」 本砂額は、特に次のような特定の抽象名詞との成句によく用いられる。 Ø दिलाई पडना [=-देना]=देल [=दीख] पडना=दीखना [見고장], मुनाई पडना [= - देना] = मून पडना [間こえる」, जान पडना = मालम पडना

「=-₹|ना 「知れる」「 らしい」などてある。用例

उसको दिलाई पहला है कि 「彼には するのか見える!

मझे उनकी बाहर सुनाई पडी । 「私に彼の足音か聞こった! (4) マママママーーー名詞や形容詞と結合して「嘘じる」「兌んる」「くっつ

く」立に用いられる時、意味上の主語に与格か探られる。例

मुझवा भूग [प्याम] लगी। [私は空数(混)を感じた]

मुझे यह वस्तु बुरी नगती । सिक्षेट किसी केश्वर दे दे ११

- □ 1) かたたすけれ मुझनो मूक (~मूक) नगी [表] है 1 は 「上はなが をむしている」 現在が加 मुझनो मूल समग्री है 1 は、私気なたらのだ 日前から なほのがしてみかけ がの返すで、「単はお機か変く」が、かなる मुमन मूल है 1 や में भूसा है 1 は おに、ひもしさを訴えるけのこしきのます~ある。だ って 1 担か fさますか」のでいて क्या आप मूले है ? としつのはのりで なる。
  - 2) उसे चाट लगी। विधाद क्षिति। १० उसका दनको वर्ष लग गया।
    विधाद 10 はこなった」なども それぞい前項の四や (3) と正に 和当するものか ある。また उसकी बात मुचको लग वर्ष । は「他のごだか このか」だった」 たのれがつ。
- (5) でデーー・抽り名詞や形容詞に伴われる。「就就」か 去わこれら以 外、 様文その他の六て 宮町 と抽象名詞や形容詞から成る名詞や詞と門し てある。例 項町でユー「熱かある」 町で一「記憶し続けっ」。 別例

मैं वहाँ खडा रहा। सिक्षेट्राध्येतिहासी

で明朝 3 では、資本 町 明可 可で表す | 「数には名物の影響かなかった!

「知 以上列外したいかかる「名前動画」に似たものに 目的話としての名目と助

「とかれるして 私合語のほとんと頻繁に存在する。これらは 页の 名がり面と

と近って 動画はためと頻繁に存在する。これらは 页の 名がり面と

と近って 動画はたるの集立つ目的語の名詞の性や数と一致させた けばなら

ない、つまり 何年。 でで可「好」が 代酬者。 そ可「見える 」 ますごも助り

あるその定立つ話とは赤して一致することなく、それらの状合語に主立つかの
自然正のはや性と一致するのと異なるおけである。 例

<sup>(1)</sup> 名割動門中の形容割は 目的 5の数や性と一致する。

166

- 1) उठना छिक्त है ।--- श जी-- (1245 है ठी)
- 「自己欲牲を苦ぶし
- m) माना १६९६। [こうむる|--- 例 घोखा-「欺かれる」, ठोवर. --「つまつく」、77年8--「含う」、7878--「仰向けに倒れる」「苦haする」。
- 10: देतर "१३३ ८ --- श्री जन्म ड -- (4 रहा वर्शन ड -- (4 रहा -「慰陽る」、知可ま一「死ぬ」。
  - v मारना ११० |-- 🕅 ठोकर-=-लगाना=लात-- ११ (१६) ठ। । छलाग—=—लगाना [धिका, (की) गप-शप,—「(の)ध्वर्धरू के वा गोली,—「अ で打つ! 甲甲一つけん骨で打つ」。
    - (पर) भरोसा---करना 「信報する」。 गिरवी:--「抵当に入れる」。
    - करवट[=करवटे]-「空長りする」、जन्म-「生れる」。 वदला-「報位する」。
    - ठा, डबकी+- [≈-मारना] िं ८ ठा ब्रिटेश देखा- खिरठा.

# 昼成証(दुहराये हुए शब्द)

名詞や形容詞にも見られたように、語調を良くするため類似音や同義数 の動詞を並用することがある。圖 कहना-सुनना 「批判する」 「職論」, पमना-धामना 「うろつく」, पढाना-लिखाना=जिक्षित करना 「数音する」, सजना-यजाना「飾る」「整える」, समझना-बुझना「了解する」。用例。

उमने मझको समझाया-बङ्गाया । 「彼は私を説得した」 वह घमती घामती मेरे पास आई। 「彼女は回り回って非の所へ来たし

# ध्रा कि हो। हो कियाविशेषण) त

用はないまその唯一所と複合的 基度語と終生的なと数多的なに内容や低低があっても、人間してい「時を示すもの」(m)「場所」はたは「方向」を示すもの (m)「存む」を示すもの (m)「存む」を示すものとに分類される。m

### 1 [14] ० छात्र (कार-बाचक)

मता = मदेव = = ह्मेसान िहिंदि], आव ि 日], कल ि 日] [明 日] (0),
आजन्त ि ी], परमा | - मि 日] [明也日](0), तरसा=अंतरसा [- मे / 日]
[3 日心にし, 0, नरमा [4日]][1] [4日 心にし, 0, मितिवन , रोजन = हर राजन
[15日], मितवर्ष र [16] [1], बहुषा = = अवसर ( [6] के 6] ( पुन व = चिर्तर)
[15] [15] (), तुरस्त = = पर= मट वर [5] के 6], भेवानक = पकायक ( [5] ( रि) (

そして、名詞か刊訂に信用されると、単取従格化 即5 आ て終3ものの別尼か 収 化される。例 明春町 = 司を町「早期」 — 和春末=司家寺「卯中く」。

<sup>(1)</sup> 部で 食気質 標件で 応ぎ目の4品では 不支がとして 小河平 avyaya。「記号を化 をしない知らと称される。

<sup>(2)</sup> vi shetan だけでも「開門」「花公園」「花的で」などの直になる。 ktiyá と一枝になって「釣刀を牧めする路」の意。

<sup>(3)</sup> いわうる「代名前刀」も この4日の分類年に今まれる。

<sup>(4)</sup> いずれの食じ用いいれるかは 野気の時和で見分けがつく。そして これらじ 名言に もなる。

その他 आ市(n) 「先きに」「後程」、中間(n) 「後で」「仮刻」、中間市 中間市「併 月」、資前 資中。「毎週」などすべて 研 て終わる名詞からの転用部である。 また、この反復に当り、慣用的に前語が複製維格形が採られることがある 研 を研 を可 月ととに「作用」、取前 取す「放射の内に」「放射」、

なお、「代限」「時」を示す名詞か一般の凡容詞や将不形容詞に項かれる 場合にも側別化する。その際、新 て終るもの はやはり 使格化することに 変わりない。例 एक दिन 「ある日」、電 साल。 「2 年間、 अगले साल 「宋年」、 「位むन माल 「去年」、 दूबरे दिन = अगले दिन 「翌日」、 तीमरे चीचे वर्ष 「3・4 年 」「に」、 रस माल 「今年」、 उस दिन 「その日」「当日」、 उन दिनो 「その頃」 「当時」、 दिस ममय 「いつ」、 किसी समय 「いつか」、 किसी दिन 「いつか」 「いつの日にか」、 इक दिन 「数日間」。

また、まれに、「時」を示す両名到が 中で結合しながら測動句を作ることもある。例 दिन के दिन 「毎日」, साल के साल [毎年], पल के पल [毎 歴際]、

2 「場所の副詞」(स्थान-बाचक) と「方向」の副詞 (दिशा-बाचक)

बलग「能かで」、बागे=सामने=आमने-सामने [前方に] [前に]、बास-साम 「顯語に」、पाल=निकटक [側に]、उत्पर [上に]、उत्पर नीचे [上下に]、नीचे 「下に]、पीछे [背後に]、भीतर=बल्दर 「内側に]、बाहर [外で]、बार 「とちら側に」、परे 「向うに」、दूर 「遠方に」、मर्चनक 「到る所に」、बाई 「左に」、विहने 「方に」、उस बोर 「そのガへ」、निस्स बोर 「どの方に」、बाई बोर 「左の方へ」、चहिनी बोर 「古の方へ」。

<sup>(1)</sup> 両者とも「均所」でも用いられ「前方に」とか「背後で」の食になる。

□ 「世界」を示する画や「姓名」などは高、戦したる。 野 यह उसे घर लाया।
「沈はニれことへけって来た」、 सुमको याने से चर्चमा । 「武を欠るへ近れて行こう」、 नह पाठमाना [यर -वड्ड, स्टेंघन, पूना, नागरे] गया । 「会は学校(祭行、ワーナー・アーケッ)へ行った」

# 3 「分丘」「程度」の副詞 (गरेमाण वानक)

野部の示す过り、「分配」「程度」「類」を示すものではあるか、これに所はする 副詞か 最も少ない。 舒 本でです。、本情は、本語の「大いに」「非常に」、持行者は、「やや「幾分「少し」、知可は「ほとんど」、幸者で、「相等」、 者所「たと」「単に」、可可の「少し」「ちょっと」、「有可要の」「全く」「全代」、 を可利用「ほとんど」「およそ」。その多くは他の品詞からの使用語であって、 その主なる場合は次の通りてある。

(i) 一般で容闘から。――例 चोडा「少し」「キュ」、चोडा-बहुत 「ある程 改」「少し」、बडा「大いに」「非常に」、अधिक 「大いに」「非常に」、अधिक से अधिक 「多くとも」、बच से कमः 「少なくとも」。

これらは、名詞を終飾する他の一般光容調に先立つ場合に副詞となることが多い。こして、明 て終るものは副詞版用の場合でも、やはり 明 だる形容詞もろとも、名詞の性や数と一致する。例 電前 電行 आलावना 「非常に声い地話」。

- (n) 「不定代名詞」から。―例 雲宮, 雲豆 雲豆「少し」「やム」「幾分」, 可否・安豆「大いに」「たいへん」。
  - (m)「代名詞形容詞」から。――例 ますす「これだけ」、すすす「それだけ」、

<sup>(1)</sup> ままと切り さしておぼす化しない。

v) この副詞句の間に否定詞 i か置かれることもある。例 \*पपा पैसा चती है तो च चती | 「(もしも私か) わ金を持たなくて

रपया पैसा नहीं है तो न सही । 「(もしも私か) お金を持たなくて も (私は) 気にしない

(EE) 1) 独位の 報酬 たけか 単独 に文の木尾に用いられる時 トこせよ」「 たと仮定せよ」のでの一弦の「波歩」か き味される 例 यिद रपया नहीं आठ आने चही 1 「もし 1ルヒーか 無けなに 8アノナでも

हुम नहीं और सही, और नहीं और 「(もしも)及女が至とあれば他の者でよし、

**明訂 !** 他の名も否なら まナーれ以外の者で もより J(1)

副司句 न सही は「精わぬ」 哲となる。例 साथ रहना नही है न सही । 「一絆に住めなくともぴわない」

यदि वह न आए न सही किन्तु तुम िर्धाळक ऋके ८ ६ १४३० करा के स्रोध

ただし、可能 研究 は一層接受的で、「してはいけない」のでになる。例

औरों में पूछने भी नहीं सही ! 「他の人達に尋ねては、ナないの
 2) तो は「殊亡」とか「解剖子」のために用いられるほかに 19ペ यदि s =

अगर, , जब, जो の相関詞 तब の代りとして用いられる。

75% मुख हार बुख भी लिएही, कोई भी दिएही; जो भी लिएहे 75%रोत बब भी निएडेटा, तब भी न्स्किम्ट्रिटा निर्माटका, जब

(1) 「百女が私の言っことを含いてくれなくとも。他にまだ五女の代りが中山存在する」を。 (2) 勢負ごとなどで 側かっ相手に合げすり 第二者に複数を求めすりしてはいけない。王々

至々と助負せよとのか。
(3) 門しく「きぇ」の作けなる です については 279ペーン (作を) 3) たり

भी (いつでも), नहीं भी (४८०६ ईठलंट), बही भी (४८८८६); बो भी (८०१३०७४८) といったような蛇竺がある。 ちたみに बुछ भी बची न हो । はによもかい (たして) のひ

たたし、前 州 は それでも」「なお」「にもかかわらす」の意の技権制である。

- 4) 引力 取で打 行れたす」「満たされる」の活要 取てかる消費だ辞やた客 、現在辞として用いられることは既認の重りてあるか。「時間」「預想」「自力」 むを示する際にほけされたがらば満句をも作る。例 可可 取て「終生」で可称で 「終度」、紹可 取て「四間」、和可 取て「1~~の丁さたけ(の)」、前被 取て「1: 一名(けまってが)の近のりたけしの
- 5) ある打り名詞の反抗もよく副詞句を完成する。例 可て 可て「次ことに」、 可可 可兩 「危機一生で」、 噴て 噴て 「一消また一芸と」、 可可度 可可度 「所へに」。 用的

वमर कमर घास है।

「鹿まて草がある」

बह महद संडक गया । िद्यार विकास किला निर्मा

6) ヤズ、京、南、市 なとの単一を証拠かを同じ付いて無数の副割切かできる。(245ペーノ(n) 290ペーノ 資考金) 271ペーノ 債等3) 277ペーノ 信号3) 25円ペーノ 信号3)

また。任会長型河の場合でも同じことである。例 एक शण के नियं (一野 の間), सदा के नियं 「本久に」, निर्यं की तरह いつものように」, बढे आगर्द (一つの間) वे साथ (井原にどんて)。

7)「移統分詞」「現在分詞」「過去分詞」からも多くの副語句が 件られる。 (327ペーン備名の、330ペーン、335ペーン会刊)

# 5 代名副詞 (सर्वनामिक कियाविशेषण)

これは、字義通り、代名詞から派生した副詞のことである。

(1) 72ペーノ (信号) 4)。および92ペーノ (ロ) 会場。

रा; रच में शिवकड़ा विवासका, पहले से द्विशकड़, द्वेटकड, अभी में सं विकार कार्यकार

2) 行こ。「時間」 えずす代名語詞に民格板管詞が付ける計画など語詞句が行

21 -

5たる。(1) 四年 第二四年 中<sub>(1)</sub>今度」 また、このFの代名に当に近けされる 朝 はょく 着 の母をあとたる 「1

अव गा 「この野以文」; बदका いっから! 「とのけの間 か

अब नव करना ।: १९/१० । ११.

(4) 写剤 の用法

(1) 否定調 積 と一緒になって「決して、せれ」の意に用いられる。

9]

भै वभी नहीं जाऊंगा। 「私は決して行とません」

यह वभी रोती है कमी हंतती है। 「乾燥はりには泣き、りには欠う」

 (10) 年刊 日 年明 「いつか」 はたは「まない」ので、また 可な 年刊 は「いつても…するがには」の近となり、年刊 年 [昨には 年7, 前] は「ザ っとび的に」の何の形である。

(5) **すぎ の**用法 <sup>(1)</sup> 石工写として反為のに用いられる。例

मेरे यहाँ सेवन नहीं है ? [ग्र.णकाटसिक्टिंग्यान] (सर्वन -

मराजी बाहा विभागें, परन्तु (म्यास्ट्रीसीटें क्रिक्टिसीटें क्रिक्टिसीटें क्रिक्टिसीटें क्रिक्टिसीटें क्रिक्टिसीटें

かったし

(1) この人性質的な状态がはラクナクだえての使用。 は、またださの方言切として「今の」「気だの」のまにもなる。

भागने की शक्ति कर्त ?

(n) 可計 布計 は時々「大差」の意を表わす 接続調的副詞として 用いられる。例

कहाँ आप कहाँ मैं। 「あなたと私とは比較にならん」

(m) **\*\*\*** すぎ は 「方々」「あちこち」の意。用例。

मै क्हों को भी आया । [私はあちちこちらを通って米だ]

यहाँ दिह वहाँ मसलमान । 「インド教徒と回教徒とは大逆いだ」

(iv) বहाँ का कहाँ は「非常に違方に」「ちりちりばらばらに」「ことか しこに」などの音。

## (६) कहीं क्रम्

- (0) PKI WITH
- (1) 時々「かつて…であるか」の反語的否定詞になる。例
- भ उसे बया समझाजें, कहा वह बेरा 「私は彼に何を言い聞かせよう, か उपदेश सुनता है? つて彼は私の忠告を聞いたことが あるか!
- (n) 形容詞の前ては「はるかに」の意になる。例.

यह चससे नहीं वडा है। 「これは、それよりらはるかに大き い」

(血) 育賞…可 が「命令文」では「・・せねように」の窓になるが、「可能 宗で時相」では「多分」の窓になる。 例

: 1971日 では 1971日 四五に400 回 दौडो मत, बही गिर न पडो । 「ころばねように。 走ってはいけな

い」 उसने कहीं इस पुस्तक को न पहा 『彼は恐らくこの本を説まなかった

ます! かも知れない」

(w) その他— 有前 奉前「ととかしとに」「時々」; 布司 ㅋ 有初「どと か」; 有前 市司「どこにもない」。 ○ するでは「言う」の女性複数の過去形も同形の する。 とかる。

### (7) जहाँ の用法

(1) この関係副制の正式な相関制は 可計 ではあるが今日では際語とな っているために すぎ か苦道の指示代名詞かが用いられる。 そして、先行 間を採らぬか 南 が「何でも」「誰でも」の意を暗示するように、可計 に 導かれる場合にも「どとでも」の音が暗示される。例

जहाँ चाहो वहां जाओ । [君の望む所へ行きなさい]

जहाँ मूल वहाँ काँटा। 「花のある所にトゲあり」

जहाँ समझ में न आया हो उसको 「分らぬ所は常に質問しなさい」 प्छ लिया करो।

この種の構文では相関調はよく省略される。例 जहाँ चाहो जाओ।

「どこへでも好きな所に行きなさい」。

(11) 副調句 可能 革命「あちこちに」も、「どこへでも」の意の路係割

調句として用いられることがある。例

बह बस्तु जहाँ कही हो से नाओ। 「その品物をどてへでも運びなさい」 सेवा पर जहाँ कही तुम्हें भेजें 「勤務上で君をどこへ造っても異存

विरोध सो नहीं करोगे? कै। इस्री के।

(111) 副詞句 報情 西下・する所まで」「・・だけ」は「程度」を示すの に用いられる。例

जहां तक हो सके <sub>का</sub>जटपट करो । िए ३८ १८ १६ मिर ८० ४ ६०)

वह जहाँ तक हो सका दौड गयी 1 「彼女はできるだけ走った」

जहां तन भाग सनो भागो । [选げられるだけ逃げなさい]

<sup>(1)</sup> 次例のように「近去の事情」ではなく。事がこれからなされようとすることが暗示される。

- (iv) 本語はまれに wa の代用をすることかある。例
  - जहाँ [-जब] घटा बजता, सब लोग 「鎖か鳴ると皆か外へ出るのてした」 बाहर चले जाते।
- (日 1) जहां तहां के な核されて जहां जहां तहां तहां 「どこても それらの場所では」などと思われることもある。
  - 可能 有 [ 市] もお は 「同じが近て」 「元の所に」のどのを間も、
  - 8) यहाँ वहाँ も「あちこもに」のせであり、यहाँ वहाँ も一江の珍妙的瀬 コンケス。
  - (8) जिधर の用法
- (i) との抜札別請の正式な相関調は既に廃語となった 信取 であるが、 名通一般に用いられているのは 3可へ 3破 前て である。時か指示代名詞も 用いられる。例

जियर तुम जाओगे उघर में भी 「我の行く方へ私も行こう」 जाओगाः।

जियर से मूरज निरसता है, उसे पूरव 「太陽の出る方を取という मन्ते हैं।

- (n) との場合にも相関詞はよく省略される。例
- निवर जाते गालियाँ सुननी पडती । [行く先々て(扱らは)翌日を聞か ねはならなかった』

जिस और चाहता है मोटर को फेर 「望む方へ自動車を向けさせること के सकता है। かできる」

- जिथर तिघर-जहाँ तहाँ-इधर उधर la िक्र केट के। ००.
  - (9) ज्यों の用法
  - (i) ज्यों ही = जो ही = ज्यो 「 するや否や」。用例

जो ही वह चला गया वह आई। 「彼が去ると直ぐ彼女が朱た」

この場合、相関詞として、時々 徳 訂 が採られる。例

この場合、相関過こして、時代 लाहा かまらなる。 फ ज्यों ही पूर्व अस्त हुआ, त्यो ही 「太陽か投すると直ぐハスの花はレ भगम का फल मिक्डला है । ほむ」

च्यो ही त्यो ही क्षा ठिक्टका ठाइंठ हिंदी विकास करें हैं।

जो जो दिन ढलता है घूप मद्भम 「日が傾くにつれて日光か鈍ってゆ पडतो जाती है। く」

この場合、相関詞 त्यो त्यो नतो ता が時々採られる。例

जो जो जीपिय पीता हूँ तो तो रोम 「(私が)薬を飲めば飲むほど病気が बदता जाता है! 高じてぬく」

(m) 以上のように「時間」を示す以外に、この関係劇談やその相関類が統合すると、残つかの「程度」を示す副議句ができる。例 知 祝一 前 前 二 前 前 ( = 可 祝) 取て 市 「 やっと」 「どうにかこうにか」。 たなし 可 ず で 祝一 前 町 前 「元のま」の」 「そのま」で」は、主語の性や 数に広じて 町 が 幸 や 奇 に変わる。

2) 同じく第4列目に属する 専前 の複合詞 専前 你 は「なぜなら」の 然の技术詞、専前 市前 は「もちろん」 車前 可 前「なせ…でないのか」も、 肯定を反論的に述べたまでとである。 いまは旋語間壁の 車前 示て は、か っては 章章「どうして」の同義語として用いられたことがあった。 (10) 可可 の用法

(i) もしも主節が「命令文」ならば、従属節には「不定時相」が採られる。例

जब वह आए ता मुत्र से कहा । 「彼か来たら私に言いなさい」

- (n)もしも上節に「木字時相」か採られれは、従属節には同しく「木字 時相」カ、これは「不定時相」か採られる。 M
  - जब बह आएगा [本आए] तब तुम 「彼か宇たら君は行くてしょう」 लाओगे।
  - で記 1) जब の目前語として जिस समय s = जिस घडी = जिस वक्त ムなとか 用いちれる。
    - - 3) まれし 可可力 おいこれ その物理がたけか 別いられることしある。列 程度は 可証 前 可収 前 可倍 神町 「子牛か大きくなると それを何という 可容可 書?
    - 4) जब निध्य जब の門表語であり जब क्षमी は にっつでも する時には」ので。
    - (11) जब तक の用法
- (i) 「 する間」「 する限り」(n) 「 するまて」の意の的には す の 好否は任意である。しかし、す 2採らね方か一層ようしい。

例

- (1) ठहाँखे वब तक मैं बस्त पहिंतुं। 「私か茶物を扱るでも待ち下さい」
   प्रव तक मैं (न) आर्क ठहाँखे। 「私か芳るまでも待ち下さい」
   (n) जब तक आपका जी चाहे बैठ 「お好きなどけお座り下さい」
   पित्रें।
  - जब तक बहु लीग मैं ठैरा रहा 1 ि 後か がるまで私は待ちがけ」。

□□ 1) / 大し 可可示 計算機 は「思か(それな)見る間 てなっか すか状 ちれると「果然(それま)「見ぬうちは」「 見な計せは」のご

2) 上で(1) の場合 接続す 「布 か今分に伴う ともある (2)

जब तक कि जान में जान है 「作品のある限り」

また この場合 その相関コンして 西京 西南 カよくぼられる 係

また この場合 その相関側として (19 (19) カエくはりれる ド

जब तक मौस तब तक बास । 「生命のある限り予望(りある)

बह जब तक जीवित रहा तब 「たはときている風り" いっかり気

तक उसन भरी बात का सदा 🗷 रा

ध्यान रखा ।

#### 6 副詞兼用代名形容詞(1)

ように」、前者に「のよっに」者に「そのよっに」や「数は や「程度」を デナミネボーミない「これがり」「これほと」 なるが[ るば] が、これがり」

(1) 竹飽を示す ऐसा「このよっに」 वैसा 「そのように ,वैसा 「との

「それほと」 क्तिना [ किसा] 「とれだけ」「とれほと」「幾ら , जितना [一阿सा] 「 がけ」「 ほと」 तितना [=ितसा] 「 それだけ ふとか 原孔の主とて 形容調にも見過にもたることは बडा बाडा बच्छा एक [一

つの」「第一(に)」などの一般形容詞と異ならない。

(2) その従格化したものし社合計 君 や器付すれば新、な込合副詞かでこる。例 徳 君「ちょっとこのよっに」「あたもも」、希奇 君「ちょっ

<sup>(1)「</sup>文章論」「代名形字書」(305ペーン) 玄関。

<sup>(2)</sup> 括型内は今では佐雪 以下払行し

とこのよった」、春年 部「如门に とも」、 जैसे 部「ちょっと のよった」、 कितने ही [ हिसाइह एउ |

- (3) そして、その「程度」や「数量」を示すものに限って、後置詞 デ やまれにする作ってとかてきる。例ですず「かれてれずっつちに」。 क्तिन में [३~ाव्या] [ 及ら (の値) て L
- (4) 「方法」 「松飯」 ふデすために 前記 ず町 カ ず研 ふ相以詞とし て用いられる。(111ペープの円) 例

जैमा किया वैमा पाया । = जैसा करागे वैसा पाओगे । = जैमा 「因果定報」 बाए वैसा काट।

この場合にも而ずの順位が逆に用いられることもあれば また 着町 の 代りに 17日 「こんな」「このよった」も文の初めに用いられることもある。 [4]

वैसा तो नहीं जैसी महाको आया थी। स्थित ऋषि ते व्यक्ति एक्षिया । ऐसा करा जैसा [=एसे करो जैसे] 「私かごった流りにしなさい」 (कि) मैन बताया

CE जैसे हा वैसे は「できるがけ」のこで यया शक्ति と同義

(5) 「程度」をデすために 前記 何雨町 かでの正式な相関詞 ਿ (ततन) よ りも べろ まतना や उतना を相関調代用ぎとして用いることか多し。

जितना चाहिये उतना साओ । 「髪るだけ特って来たさい」 この場合 जितना カ उतना や इतना に先立けれることも 探めて多い。

例

<sup>(1)</sup> 型ボー「したよっに そのよっド行た」

<sup>(2)</sup> μ1次=「(まは)するよっに ての通りを得よう」

<sup>(3)</sup> ガン 「(菓子を)まく通り! かり取るっ」

जनमा ले ला जिनने की आजध्यवना लिए हैं रिपिशि में दें रें रे **₹** 1

तमको इतना देगा जितना कि तम 『おのやむだけ差上げましょう』

माँगा १ SEA 「銀石町」か問 )的にも形容点的にも用いられるように 「程度 を折すける

の他の副詞 यावतु ៖ 「 だけ」もだ容詞的「爪」られる。例

वहाँ रावी हुई यावत् वस्तुओं का िर-१८०० गर्म ठिकर ने १० १० १० १०

# 第六章 後置 詞 (सम्बन्धनेधक अन्यय)。

も別詞といっても、その単一語は既に随所に言及したので、ここでは専 ら複合な習詞を扱うことにする。mいわゆる複合を図詞の多くは、名詞、刺 詞、形容詞に由来するもので、わけても名詞由来語が多いために性別に支 配され、切名を図詞 奇か 前 に伴われる。

- 1. 男性投いされ 市 に伴われるもの。
- (1) サンスクリット

स्तिरिस्त atinkta=सिवाय siwa'e > 「(の)ほかに」。 अधीन adhin=आधीन > 「(の)もとで」「(の)女配下に」。 सनसर anantar 「(の)欲に」「(の)孤欲に」。

अनुमार anu sar 「(に)差いて」。——まれに 章 が在かれることかある。

例 आशा के अनुगर=आज्ञानृसार agyanusat 「(の)命令で」 बारण karan=मारेs 「(の)ために」「(の)短由て」。 — के か省かれる

こともある。例 इस कारण 「このために」。

परे pare「(を)越えて」「(の)向う側に」。— उसके परे 「その向う側に」。 विवेद के परे 「理性を越えて」。 के の代りに चे が探られることもある。 例

<sup>(1)</sup> sam banéh bodhak avyaya とは、「既存さ行す不支部」の表、後置引ま 何料行・s と も置される。「名詞の以及表化」「他の記言」のき。

<sup>(2) 58</sup>ペーノ「称」参照。 (3) この符合の 〒 もが可能。

जम किनार में परे "उठा (ग्रेकार) है।

पार par ((の) 白 ) विष्ट (2) 信切 て 一日 जन्म र पार よを機切って出まれ、3所 9代 その白い間に なこと すり着ける

ともある。また されに 中 の代りに 中 も用いられ コニュウオコ पूर्व point ((0) क्षाट्राट्याट्याट्याट्याट्याट्याट्याट्याट्या

के पर्व शिर्रोहर करों है, म अग्निका उट है है है है जिया में प्र ביונוסוווד.

प्रति prati (の)じりに。

प्रतियस pratikii = विरद्ध struddh र (12) १८८८ -- (1) आप प्रतिक्स 「あなたに反対して」、

वल「(の) 力で」「(に) よって」。別例 पेट के वल घलना (はっ」(れに

「数によって歩くり、

मयासमय yatha samas 「(の)भिव्या b に ja

योग्य yogya=लायन १९१ag र (६) हो ८८ वासिश यह अस वियाह ग 帝 पोग्प 不虧 きょ「役(または 数女) は、いよ約約に適しない」。ちなか 本状門が認知の幸は、動力の不定はや打工代名がに行われると、幸に

採否圧意であるか、名詞に作われるとき す はおおされる。例 ママ それ रहने (बे) योग्य नहीं है। [टळधालिक्षी एळाटिकाक्ष्म हो। उस (बे) यो 「されに逃した」, यह अभी विवाह योग्य नही है। [後(または 数な) は だ結婚に適しないも

「何代は vi pant 「(に) 反した」「(と) がってし

<sup>(1)</sup> とのまゝ物の名間文句にもなる。 (2) 92ペーノ (vii) お凡.

विषय vi śay=विषयल 「(に) 関して」──ヸ を作うこともある。例 इस विषय में 「これについて L

समान saman=मद्दा sa dṛsh # =तुस्य tulya # ≈ Г(Ø) ように」 Г(と) でしく Г(と) ばじにし

समीप samip=पानस =नजदीन = [(の)左くに], गाल घेरे समीप [ध्र.०

本別は元を記的にもなる。例 बनारस वे समीप मारनाथ में अहोत स्तम्भ Fバナーラスに近いサールナートにもけるアノっカの円柱!

महित sahit 「(と) 一指に」「(を) 題入て」。――はとんど常に वे かむ かれる。何 अपने भावमें सहित 「白分の兄が近と共に」, भोजन सहित 「丘 竹を終えて」, यमा महित 「師仏をはて」「配切に」

です。 からにし、 かいでは、 からかれる。 例 を介える「はかなられての たいにし、 代名詞の後では、本が合かれる。 例 を介える「はかなられての たいにし

ा योग्य क्षण्डित्र रेटिंगा हरा ठ. ₩

वहीं मेरे गोग्य वर है। [क्रिक्रेस्टिंग्सिटर्ग]

(n) ヒンディー

利用「(の) mば」「(の)m方は」「(に) 先んじて」。──「期所」「位限」 などを示すのに用いられる。例 申礼 利利 利利 [私の前に(なって) 行みなさい。

「川所」か「小匠」を示す場合、昨々 市 に替われる。例 明報 新市 報酬 「私の小匠(なって)歩きなさい」

また,「比較」にも用いられることは既近の通りてある。(88 ペーン/2/5項) आमने-मामने [(の) 前に] ((と) 向かい合って) [(に) 而して」。――例 तेरे आमने-मामने है। 「(それは) お前の以向かいにあるし

आस-पास=इदं-शिदं=गिदं (0) ख्रिष्टाः ।

उपरान्त 「(の)後に」「(の) ほかに」「なむその」に 川切 इमने उपरान्त 「そのしに!」「それに加えても 市 か省略されることもある か な すす उपरान्त [ 2 म र्स ह |

**あすて「(の) 上に | 「の) 上の方に \_ 一単一に置詞 97 と同 扱いされ** ることもあるか、別扱いされることもある。例えば、gt か炎語の on に 当る場合か多いなら、本語は up や over に当る場合か多い。また、 महापर、भेरे कपर とはいえるか。 この両心置詞に対し両代名詞1道に使用

また、本語は マス に劣らず、よく「治理的な事柄」にも用いられる。 例 उसमे ऊपर भगवान की कृपा हुई।「彼の上に神の共せがあった」

tran 「(の)下に」「(の)足もとに」。---多くの場合 す か省かれる。 (が) पवि (वे) तले 「足の下に」」

attr 「(の) 手段でよ(を) 経てよ(に) よってよ ---この す もよく省 かれる。例 जाप द्वारा 「のろい (呪) によって」; रेन दास 「在爪で」 ま た、本語の直後に 社 を伴うこともある。

なた、本語も形容調的にも用いられる。例 नत्य प्रतियोगिता में उदयानर **द्वारा** नत्य [舞踊コンクールにおけるウダイ・シャンカルによる舞踊]。

可用の「(の) 名で」「(に) 宛て」。――これも形容詞的にも用いられる。

例 उसके नाम पत्र 「彼あての手紙 し

することは許されない。

<sup>(1)</sup> 名訂 तला 「宜」「かがと」「支持」「保護」からの行用に、

<sup>(2)</sup> ベルノャ語とも共通。

पहले = पहले 「(の) 前に」。 — 「時間」を示す場合に限り、(1) 市 が省か れたり、(1) 市 の代りに 市 が好られることもある。例 (1) एक घटा [=घटे] पहले 「1時間前に」。(11) उठने से [=क] पहले 「起きる前に」、घて जाने से पहले 「歌へ行く前に」。

पाम「(の)側に」。――「移動」を示す動詞や 東南町 [送る] と共に用いられるとき 「(の) 所へ」の窓となり、「存在動詞」と共に用いられるとき 「所有! が込わされる。m

なお、पास 平「側に」は単なる पास と同義の副詞句である。

चिक्के 「(の) 社に」。──「根所」にも「時間」にも用いられる。用例 भेरे चिक्के 「私の君はに」「私の不在中に」、社づ命 可能「姐姐とに」、この時

合にも 市 か省かれることがある。例 पर (市) पोछ 「家の背壁に」。 बदमे 「(の) 代りに」「(の) 観いとして」。用例 अपने बदने 「自身の代り に」」。 चनने बदने 「その代りに」。 详 が会分に添けされることもある。

₹₹「(の) 支配の下に」「服従して」。

art 前 f(に)ついて」。用例 知中で3 ますれ 前「証明書について」。な お、本語の前の 寺 も省略可能である。

बाहर=बाहिर [(の) 外部に」。——本語でも跨々 से が के に代用される。 例 नगर में [क] बाहर [市外で]; सारी समझ से [=क] बाहर [= के परे]

<sup>(1)</sup> ただし所有されるものは「何生和」や「特徴」で、「人間」なら「君仏」に守っれる。

「よへての理解を越えて」「人知を絶して」

चिच 「(の)中に」。——これも「均所」にも「均例」にも用いられる。 はた。 しはしは 首 や 章 神 を伴っこともある。 图 違信神 章 司च 華 「見ている っちに」。 変 副च 華 「かれこれする」 うにし

भरामे 「(を) 信頼してる

भीतर 「(の) 中に」「(の) 内側によ

मारे「(の) ために」。用例 लज्जा ने मारे 「恥かしさのために」。順位こ 近によればれてになる。例 मारे जम्यास के 「神智のために」。

यहाँ 「(の) 所に」。用例 उसके यहाँ 「彼の所に」。

सगमर== रिय (の)到」[はかり]。 [ 野国] や [数] に用いられる。 例 आग् दम वर्ष के सगभग होगी। 「年齢は10歳倒てしょう」, उनकी महमा २ साल के सगभग है। 「その私は20万ばかりである」

ただし、本門か「約」「およそ」の意の劇詞の場合、年 こ必要としない のは釈誦である。例 電報車 可可限率明 ボロゴロ ギョマ(18 きょ) での人口は 約 3 000 万である。

लिए=बास्त 「(の)ために」「(の)周」---「目的」や「野園」に加いられる。例 विर्ठी पत्री के लिए 「文述のために」, कुछ समय के लिए = कुछ दर के लिए 「哲くの間 し

ない、するする 何で 明中 中部 1「数らはなへ出かけた」なとと「 へ」の なにも用いられるか、不定法に行われるときよく行かれる。例 年 आपने 夏市 町 えで (者 原収) 収収 収1 「私は大きなしに行った」。

また 本部が指示代名詞や 疑問代名詞に 皆われるとき、す かおかれる と否とて意味の異ってとかある。 すなわち、 著母 帝 fere か 「これかために」 「彼がために」であるが、इस लिए は「だから」「それ故」である。また、 किस के लिए が「誰のために」であるに対し、किस लिए は「なせ」「何の ために」である。

なわ、本語も形容詞的にも用いられる。例 **和**和 帝 लिए आवाहन 「仕事への召集」。

ず「(の)こちら側に」。

महारे 「(の) 助けでし

साथ=मग 「(と)共に」「(に)対して」。 ही वेरे साथ 「私と共に」、 भैने उसने साथ वदी बदी बुराइयों की (「私は彼に対しいろいろ非常に悪い事を した」。

ただし、 行可え क साथ साथ は「岸辺伝いに」の窓。また、本語は形容 調的にもなる。例 एक पण के साथ राजदमार 「花を持つ王子」

相用者=相理者「(の)前に」「(の)考えでは」「(と) 校べて」。——特新、 「比較」や「洋斯」に用いられるほかに、主として「場所」特に「位置」 に用いられる。相相者 前 骨 世書「直ぐ前の道」、 せて 幸 祖相者 朝間 「保 「家の前の概」などと両格や 朝間 を伴うこともある。

計=程1「(の)所に」、用例 年代 程1「仏の所に」。

別4「(の) 手で」「(に) よって」

[m] ベルシャ由来語

अन्दर andar 「(の)中に」「以内に」、――「場所」にも「吟間」にも用い られる。反復されて、 महीने के अन्दर अन्दर 「1ヶ月足らすで」などともい われる。

また、「弘意」のために、 むを照て、 反復される こともある。例 すぎ

मिट्टी के अन्दर ही अन्दर फैनती रहती है। [根は土の中へ中へと拡かって ひくん

दिमयान dar mıyân 「(の) 周に」「(の)中間に」。——「時間」と 均所」

に。於々、草 を作うとともある。 可能性 nazdik 「(の)似で | 「(の)意見では」。

बनाय ba jay 「(の){じりに」。

वमजिव ba mûnb 「(に)ないて」「(の)空由でし

बराबर bar f bar [(と)ない」「(の)ように」。 川例 वह मेरे बराबर सम्बा है।「数は私ほとけかない」、मेरे पास आपने बराबर रपया नहीं है। 悉

はあなたほども金を持たない」。

また、形容割的にも用いられる。例 पिता वे वरावर मित्र "父によく仏 た女人」。

बानजूद bd wasúd 「(に)かかわらず」。 हनक rû ba rû 「(に) 妬して」 「(の) 西いて」。

सुप्दं supurd=सपुदं 「(に) 委ねてよ

(iv) アラビヤ中央祭

भनावा 'alawa 「(の) ほか」「(を) ないて」。

**取引は qarib「(の) 近くに」「ばかり」「およそ」。** 

**中間で qabil 「(に) 対して**し

「個所味 khilâf 「(に) 反して b

are ba'd 「(の) 後に」。――「時間」に。市 が台かれることもある。

मुआफिक muáfiq=माफिक 「(に) 悲いて」 「(に) 遊して」

मुकाविल mugábil 「(の) 辿に」「(と) 相対して」「(と) 較べて」。

मताविक mutābia 「(に) 悲いてし

सायक láyag, lajo ((E) खेंLT L

ਜਹਰ sabab「(の) 理由で「(だ) よってし

□ ある種の間調化した代名形容調もこの部類に属させることができよう。 引 ・ 立確 「 (の) ように」: 可容 信号前 (申) 清音 「あるイント気は述のように し。

- 2. 女性扱いまれ 朝 に作われるもの。
- (i) サンスクリット ardem ((に) Httl [よりも]
- (に) 比し」) よりも(n) ヒンディー

जगह 「(の) 代りに」「(の) 場所に」。——ただし、इस जगह = यहाँ 「ここに」は単なる副詞句である。

देवा-देती [(रु) ग्रंधिर 🌡

可能「(の) ように」「(と) 似て」

vifa「(の) ようにし 用例 किसी भौति 「何とかしてし

時々,形容詞的にもなる。

用例、कक्म की मौति उजले बस्न 「きょうかたびらのように白い石物」。

सन्ती=मन्तेर७६३ F(Ø) रिशः\_]

(m) ベルシャ由来語

ज्ञानी zabání 「(の) 言葉で」「(の) 口頭でし

वदीलत ba-daulat 「(の) 手段で」「(に) よって」「(を) 経て」。

〔iv〕 アラビヤ由来語

खातिर khātır 「(の) ためにし

**ポ味 raraf** 「(の) 方に」「(の) 方へ」。

तरह tarah [(D) 15K]

araar babat 「(に) 樹してしーーヸ を伴うこともある。

वजह wajah 「(の) 理由で」。

3. 前置詞兼用語にして 市の取捨任意なもの。

बिना=बिन 「 なしに」。——とれば 1) 参假詞としても、11) 前盤詞としても 命 か省かれることもある。例

- अपके बिना 「あなたかいなくては」、मेरे बिना 「私無しでは」、पस्ति
   बिना 「変かなくて!; उस बिना = उसके बिना = विना उसके 「それがなくては」。
- n) विना सन्तान के 「子孫なしに」,विना अपराघ 「罪なしに」。 この方が
- 1) の場合よりも強度的である。

ただし、nn) 必要調、nv)前要調の別なく、前調の完了分詞(常に 収 化) と共に用いられるとき 市 は用いられない。例 nn) उससे पूछे विता 「彼に 込かなくては」; 夏 帝 前 पき विता 「善節に磨らないで」。 nv) विता परियम 「春春 「努力しないで」; विता अर्थ समझे 「腔味むけらないで」,

वर्गर ba gairy---これも विना の場合と同一の用法を持っている。例

1) मेरे वर्गर [私なしに]; चन के वर्गर [それらの物(または彼ら)なしに」。 ம) वर्गर किसी रोल टोल के [何らの誠芸なしに]; बर्गर पास = चे पास 「ハス 無して」。 (ம) मरे वर्गर [死ぬのでなければ]; कुछ और पूछे वर्गर [他に何 も列ねないて」。 (お) वर्गर देखे [見ないで]; बर्गर काम किए (我) [仕事を しないで」。

じく、前智語・私殿調養用語ではあるが、前二者と走って、完了分詞と一緒に用いられない。また、 関格も四詞が省略されることこない。 例 か उमके सिवा それ〔主たは 後〕以外に」; देवने के सिवाय [見る以外に」。 ii) िमवाय मेरे [私のほかに」; सिवाय इसके [これ以外に]; मिवा बक मारने ने 「針 (まなとの) で何ず以外に」。この場でも、11) の方が倒載である。

(空) बिना と告ぶとてはまなみにもなる。別 बिना रोग (可欠の知い。」「新明からはかから、「बना पाई (一वे पाई) बाले अक्षर (最近級のたい文字)の

4. 前置河の時と後置河の時とで国格後置河の性が変るものつまり、ある野のものは、後置河として用いられる時には 衛 に伴われるが、前面割として用いられる時 帝 を様る。例 उन श मानिद=मानिद
उनके 「され〔されば数〕のように」;すて前 前て(=तरफょ)=ओर(=तरफ)
すてを「次の方に」かく、流て(=तरफ)が単数数いの時には ぞ が終られるにもかかわらず。本語が 引市。前市、東京 等本の第合数詞に修飾されると、男性複数は格式四周等が採られる。例 る建帝 事でが ओて(=तरफ)

「それ(全たは 数)の関方(二周囲)に」。 なわ、項行内4句 ba nusbate、「(に) 較べて」「(に) ついて」も、本項に以 するものである。

- □ 1) ओर (=ਰरफ) は 前2の पार や वारे में 同日 「台」に既正して 用いられるとき、それ、 る状、 唇平、 唇平 の気にあいて窓に とかれる
  - 2) मेरी ओर (=तरफ) में は、ほのひから、ほに代って のさ。
  - 5. 属格後置詞を打らないもの

ママス メ ≔マチチ 「(の) 支配下に」 「(に) 服從して」。

<sup>(1)</sup> で、、て、そ など至直線のない文字を で、で、下 などと区別したもの。

#### 一移 器 11-

ला किसी कार्य का कित्सी मिल एका L समेत : [()] -शाट ! (त) बीबी समेत [ !!) सेहा | के! शिक्ष के उसे हैं।

1

す に伴われることもあるか。 無い方か 一層好きしい。

(TE) 1) (क्रंट, इंट्रेंड्रेड लग=ला क्षेत्र प्रान्त हरुखा। एउ । तक छ 同夜話であるたらずやずしなわれる」とはない ペーンなりが 水はまで

**台門**) 2) जीज मिर्का के जिल्लाहर प्रवेग हो (1- 11 ht otook 直 うというよりも、他の名がに付いて 頭の紋に放となる場合があい (\*) 野田

प्रवंश दिशका गामिकार , नियम प्रवंश का कि क

# 第七章 接続同 (समुचय बेघक अव्यय)

- (1) 緊辞的 (मयोजक)
- (i) और, तथा रक, तथेव र अो [および] また」[をして][と]
- (ii) एव : : एवम् रिक्न हो । रहे के छे हो है
- (m) 和「もまた」「そして」「さえ」「同称」
- □ 1) ハトノ・由来語 可 ŏ、wa (そして)「と」も、まれに2名前の無許として用いられることがある。しかし、今は鹿面部やである。
  - 2) ア四 存在「存び」が、時々技能調的に用いられる。「それから それから 」といったぐあいに、同一文中に質問反復されることもある。 副文 存在 中 存る 衛 は えあまた」の立の接続為。
    - 3) 金品公全通じて無效的技術調点よく報報される。例 भूवन्यात。[江廷] प्रानानीना [此江], हवारो वालो वर्ष पहले [美子俊十万年的]に], लिल-गड कर [代本改善したがら], ह्युने तियुने चावल का [2・3 (佐の米〇), उमने मसको डांटा करटा [後此及老別山した」。
    - 4) 二つ以上の名言。 孔容詞または 弘詞の不定はなどが並用される 場合、一 於た木尼のものの前にの入棄詩的故欲記が置かれる。
    - (2) 反世的 (विरोध दर्शक) ம
  - (1) परन्तुड, विन्तुड, परडह, लेकिन』 しかし」
  - (n) प्रयुत् s, बिल्क sp. (=बल्कन); बरन (=बरन्=बरच)(0) \( \bar{\psi} \bar{\psi} \)

<sup>(</sup>i) sauyojak avjaya とも有される。San yojak は「投作計)ので、sam uccay とは「作さ かは文の物紀)ので、

<sup>(2)</sup> E[5] Yatháa 「とのように」の初閲監察技術別である。

<sup>(3)</sup> virodh s は「反対」。darshak s は「示すれ」の在。

<sup>(4)</sup> 今は晩点。

「むしち」「それに反し」。――これらはよく病に制に作われて、「のへならず」のでに用いられる。用師

न नेवल मुमलमान बल्जि हिन्दू भी। [जिश्लिक्षाई क्रेफ्टि दर्गर । ११६६ (मुगलमान तो मुमलमान हिन्दू भी ) ६ %

一同じく 作明 も 「単に」でない。意味の耐文を受けるとい。の (ならず) の意味も用いられる。例

तलबार वैरी ना वेचक तस्य ही नहीं ीक्षा भागाः विश्व है दिशास्तर है। परती, विन्तु वारोज को कुर्तीना १७६५ स्थिति देशास्तर १० भी कतानी है।

DE 1) तो भी ( तो भी) ६ स्थल्य १८६० भारत कारामा ह

- 2)「のほか」「でなければ なとと、 計外 をかすのに何いられる 円式を も、中なるなぎがな しかし のまに別いられることが少なっない
  - 3)まれに みない「しかし・も用いられる。

## (3) 點接的 (বিশাৰণ)<sub>in</sub>

(i) 町、 अथवा s m 、 वा s (a) 「または」「即ち」ーー川州

गाँव या नगर का नाम

「村または町の名」

टिकाना या पता

「住所、即ち所器地」

つまり、二つの物か「別個のもの」であるとき「または」のでとなり、 百名が「同一物」または「類似物」であるとき、「即ち」の夜になるeto

vi bhājak s 「分ける」「配分的」「新技的」の意。

<sup>2)</sup> athavā, fe 首は athwā,

<sup>(3)</sup> wi vi. 个往晚路。

<sup>(4) 206</sup>ペープ(9) (備考) 1) (1) お死。

(n) या (तो) या, चाहे चाहे, चाहो चाहो, चाहे अथवा, चाहे या, वा वा かまたは か(そのいずれかを)|「そのいすれても、原明

या (ता) बह बाए, या उसका मित्र। 「彼か来よっか彼の女人カ来よっか」 चाहे [ चाहो] देखी चाहे [一चाहो] 『(君か) 見よっか見まいか」。

न देखा।

(m) चाह पर, चाहे तौ भी ित्र टिह रहें की

(iv) क्या क्या ि か か」 ि てあろっとあるまいと」 「いすれも」。

用例

क्या पुरुप हा क्या स्त्री। 「男にせよ女にせよ」 क्या भीतर क्या वाहर 「四七卦でも」

(v) 〒 fm 「(しかし) てない」。用例

(v) 〒 | | (しかし) てない」。用

和 आप में बहुता हूँ, न कि उस 「私はあなたに言っのて 仮にては से। ありません」。

सुम न बडे हा न छोटे। 「君は大きくも小さくもない」

न भूप है, न गरमी। 「日光も岩純もない」

न कि बैकुष्ठ न कि गरा । 「天国てもなければ絶滅てもない」 (vn) नहीं तो. अयवाक [さもなければ]

(vii) नहां ता, अयया ः । ट ६ व्हाराध्द

(vm) fr<sub>(n)</sub>「それとも」「または」。用例

यह गाय का दूघ है कि भैस वा ? 「これは純牛の乳てすか,それとも

水牛の」。

<sup>(1)</sup> 俗 5. ほとんど 町 の同義ごとなる。

204

(4) 仮定的 (ずलात)

(1) यदि (=अगर。) तो 「もしも ならば」。用例

यदि वहाँ कोई मी नहीं हो तो ि १०६८ स्थार्ट ।

(ロ) जो तो 「もしも ならばし 用例

जो जाएँ तो मानम होगा। ि६८६ (ऊदार्ट्रा) होरीख, क्रिक्री

りてしょう!

जो मह सज्जन प्रय हे ता 「もしも彼か神上なら」」

□□ 1) この場合。 तो の代りに सो か用いられることもある。例

जो आएँ सो जाने। [६६(कद्मार्थ)श्राधकित १८६० ।

2) 仮定的接代調はよく占略される。相関コミスあねば欠むの不明セオすでれかないからてある。例

यह न हों तो िस्तर्भाता

बडे बनना चाहो तो छोटे बना। रिक्ट रेक्ष प्रतिस्था हिल्ल

ようとすれば (先す) 始まれ」のひ)。

3) 可 はまた 可可 の代りに用いられることもある。 (207 ペーノ領で2) か 四)。例

जो मन्ष्य नेवल ईश्वर को सोचता है 「人が神のみを考えるとき」

(5) 深步的 (स्वीष्टति दिखलाने वाला)

चाहै, यद्यपि , यदि ऐसा हो िट दे है के

(23 1) 前旬中に चाहे のある場合、終旬の初めに पर, परन्तु, विन्तु, ना भी ~
कर भी などが用いられる。例

डिब्बों की सूई चाहे जितना भी 「神兰黎の沙北たとまどれば近り炒かそう हिलाओ, विन्तु वह सदैव घूम とも、それはおこぐろくる回って北崎の बर घूव की ओर हो जाएगी। カ比回くム 2) यद्यपि のが合にも、後切は तो भी रू फिरभी で始められることもあ スが、かだたのは तथापि 「たお」である。 (5.

(6) क्षांनेश (परिणाम दर्गक)

इस सिए; तो; इस से; अत: a; अतएव = [tib 6] [स्यारंक 6]a

- (7) 推論的 (बारण वाचक)
- (I) क्योंकि, इस लिए कि यिएयं कि की
- (ii) 可作 p […だから]
- この2種の複数詞の用はは多少空っている。すなわち、(1) 前者が射りを導くのに対し、(1) 飲者は前句を導くために状句の前によく 契利権者(の が相関語がに関かれることがある。例
- (1) बह नहीं गया बयोंकि वर्षा होने 「徳は行かなかった」なぜなら傾が添り出 लगी।
- चित्र वायु चल रही है इसिये छिन्छा-रा-ठक-५ उद्विक्षिक्ष्य हो।
  - (8) 目的 (उद्देव वाचक)

ताकि 🕫 ; कि , इसलिये --- कि ि --- するためにし

これらの接続。か使用されるとき、それに導かれる句の動詞は常に不定的相

<sup>(1) 「</sup>結果をデす」の意。

四 同程語 引 比个可以吃下。

<sup>(3) 「</sup>理由をデす」の意。

<sup>(4)</sup> クルトゥーでは、間に「杯」「だから」「そとで」も用いられる。

<sup>(5)</sup> uddeshya は「目的」「主作」のだ。

<sup>(6)</sup> ゼ 壮 てはあるが ほ 延 のなく発音される。

を採らればなられ、例

(1) सप्ट निमा ताकि प्रत्येक ममझ 「誰もか了解できるように叫好にむきなさ

सके ।

(1) अञ्जलो स्था करना चाहिये कि दिष्टश्रीकृतकेठ जाति हो है है है है ।

जमवे समान हो आऊँ। धर्दाराज्यक

(m) वह इसलिये दौड रहा है कि शिक्षा कि 1 मिनिट र की न्ये राज . एक पक्षी पक्ष में ।

(9) 既明的 (स्वरूप वाचव)

(1) अर्थात् इ. याने ब ≈वानी ब [३६३) 5]

(11) मानो=माना [क्रांटक्र है ]

(111) 年「 ということを」 用例

(क्या तुम) जानती हो कि मैं कीन 『(सिंडश्राध) 社か混合か知っています है। か」

ただし、この恋の 衛 はよく名前される。例 幸高 朝雨 ま、ए幸 दिव 「ある日 だったといわれる」

बहते हैं ि १०३८ हैं

○ 1) 年からまたは」や「するために」の它に肌 られることは既宜の近

りてあるか coなお次のような用去もある。 (1) 年「即も1の同義語として。例

सूर्यं था कि आग का गोला। (स्ताक्ष) समझ्यक्रित (एक ना)।

<sup>(1)</sup> svarups は「何一の」「類似の」「似け性質の」にどの形。 (2) 201ペープ(3) (vii) あよび205ペー/例と例。

(ii) 「 さとう\* のごに、む

21 (ni) 「そのむすり のでに、む

में जाने मगा हि यह आ-गहेंचा । हिंदे शिक्र केन देशिक्षात । तिस्ता

दम वर्ष हुए वि वह आया। (१४ १८६६) 10 थ ८८ ५० ६।

(b) " LTHE OFF P

として ( 21 tm) のよに思いられることがある。 行 अच्छा हआ जा [-िरि] आप सा गए। [१८६ ६०८ ०६ ई८१-३०

2) 1 हाइलक पराह्न को निर्मा के विद्या प्रकार स्था

जारर देशा कि वह भोजन वर चुका शिकादश्री १६०८ कर ५५ के हिं कर सित्रे हैं।

# 第八章 感動詞 (विस्मयादि वोधक अव्यय)

### (1) पंटाम्रंट (प्रकारमा)

थजी !, अहो ! ड, छे ! ड, हे !, ओ !, हा !, ए ! ड, ए लो ! --- 用例 हे राम! िक 25-421 िल, जो बेटे िक 2872 ि

上記はいすれる相手の注意を喚起するためのものであるか 特に呼び掛 ける相手か目下てある時には、 ずく! おす (=す)! え! ことか使用され る。例 あえ भवा [=भाई] 「おい兄弟分」」。 ただし 相手か女性であ れば अरी や री になる。例 अरी राक्षमी 1 「おい女悪魔奴」」。

### (2) दिक्ष (आश्चर्य)

भोहा, ओहो। है। है है। एँ।---- लेखल क्षेत्र अहो है 「飲き」を示すのに用いられる。例

अरे क्या सो रहा है। 「主あ (お前は) 眠っているのか! 」。

また、疑問詞 神町 も同様、本項所属の管数詞にもなる。例 थान क्या ही महाबना प्रात काल [まあ! 今朝は何と心地のよいこと 211

<u>ફ</u> 1

(3) 喜び (हず) आहा !, अहा !, आहा आहा | अहाहा ! याह ! [लिट रे. 16 ८० ! ] बाह !, बाह-बाह ! बाबाश ! p [केर है ! ] [रक्ति ! ]

<sup>(1) 「</sup>フーム」はヴイノヌ派のイノト教徒からフーム チャノトフの略然として「神」の世に も好されることがあるので、よく「もゝ対よ」の在でも用いられる。まだ信念で、

#### (4) दिशे (प्रजमा)

दाह  $^{\dagger}$ , बाहबाह  $^{\dagger}$  धन्य  $^{\dagger}$  $_{0}$ ,, धन्य धन्य  $^{\dagger}$ , अच्छा  $^{\dagger}$ , बहुत अच्छा  $^{\dagger}$ , शाबाद  $^{\dagger}$  $_{p}$ , सब  $^{\dagger}$  $_{p}$  [万歲] [てかした]

जया, जय जया किल्ही (1552)

#### (5) 悲しみ (司南)

हां, हा हां, रायं, क्षय हायं हाय रें। आहं। ओहं। उन्हां, अ.फो, उफो, अफसोसं हिस्टिरा[कि.धो

हे राम', हे भगवान्<sup>1</sup>, राम राम' राम' हा राम<sup>1</sup>, या-कल्ला '<sub>(3)</sub>, दैंसा रे '<sub>(3)</sub> िंक ४ में भूँ '] [के ४ ']

羽(ē¹s「あゝ'」「助け粉ぇ'」

### (6) 失望 (नैराध्य)

अरे रे । बाह ।, बाहबाह ।, अरे बाप । (一रे बाप । – बाप रे । – बाप रे बाप । – बाप मरा ।) 「あょ!」「だいしゃ」」

用例 ----बाप रे। बचा हुवा ? 「あゝ」とっしたことかも

# (7) 軽侮 (विरस्कार)

[명 ' 명 명 ', 명 ', 명 명 ', 독대', 및 ', 및 및 ', 국도 '로 '

धिव s, धिवकार s 「ちんっ」」「まあ、みっともない!」

# दूर (官) 「 「去れ ! 」 「退れ! 」

 <sup>(</sup>j) 「竹笠つ」の在广用いられる名前 dhanya vàda 「底門」は この dhanya 3 「本芝な」に vàda - bàda 「静注」「高」を加えたもの。
 (2) 倒去状の写相、「すゝ神上」の在。

IN TAX TO LOOK

<sup>(3) 「</sup>おゝひよ」の台。

<sup>(4) 「</sup>おゝ久よ」ので、 3社 と大丁国項にも用い れる。

川田 ---- विव मह बया कर डाला ? 「ちえっ」これは一体どうしたんだ」

TES 町かだけの ま! よ「緑梅 かずすのに用いられる。何 क्यो वे । यह क्या क्या? 「こいつめ! これはとうしたんた」

(8) विश्व (स्वीवृति)

ਰੀ ਜੋ ਈ , ਕੀ , ਕੀ ਲੀ ਦੇ ਟਰ ਪੈ ਪੈ

मला! अच्छा । बहत बच्छा 「結構々々!」

(9) 祝福 (वधाई)

आजिए। क [स्वर्कात । 1, चिरजीव । [長生とするように 1], स्लमय क हो। सम्बद्धाः च्हो। [幸福であるように!], सम्बद्धाः हो। 「成功するように!」

「成功を祈るぞ!」; पन्य (ま)!「何と幸福な!」。

(E) 1) これらは、モダや先輩が若者や目下の名か敬意を払われた場合の答礼用 プである。

2) オー「リューバーそら!! は相手の「注目」をうながす場合に用いられる。

# 第九章 接頭辞(31191)

接尾辞については、名詞や形容詞の末節においてそれぞれ述べてあるの で、ここでは接頭辞だけにとどめた。

本立語に使用される核頭辞の大部分は Tatsama 語であるが、ことでは 主として少数である Tadbhava 語や外来語の主要なものを掲げることに した。

- (1) 「否定」を示すもの
- (1) अन् s——अनवान = अवान 「知らい」「無知の」, अनवह 「純学の」, अनमोल 「低の知れる「下添加な」
- (m) 有s —— 有sで s 「恐れない」「大胆な」, 「有な事で s 「心配のない」
- (iv) 行てょい 何を祝てょ「返事の無い」, 何て取ま『希望のない」, 行或報≃行可称『力の無い」「弱い」, 行者祝司よぁ「虚弱」「無力」
- (v) विन<sub>(i)</sub> विनयन 「無江の」「貴しい」、विनव्याहा 「太坂の」、विन वाना पानी 「役物や水(a)ち、数点物の無い。

ただし、本接頭枠や前記の बन は、頭部の過去分詞の前にもよく付く。 例 विनदेखा= अनदेखा 「見えない」。 विनदोखा = अनदेखा 「見えない」

(1) Tatsama 毎に用いられる。24ペーノ (7) お用。

[聖4.の], विभजाने [知らない], विनसीचे [そったいし

「無関心な」、何で可=引て可「無病の」「健康な」。

০ে লক্ষ্য বিনা নল ৮

(vi) 有<sub>s(i)</sub> — 「有फल s 「実らない」「無益な」, 「有事でs "よこれでない」 「治療な」, 「有なの s 「他国」「外国」。

本語はまた「否定」とは無関係に、「特殊な『多種な』の意にも用いられる。例 「有明中』「科学」、「有明中」「科学」、「有明「勝利」。

- (vu) वे pu वेसुष=वेहोश > 「無管覚の」「人事不古の वेचारा p 助けの無い」「作めな h
- (vm) ਜਾ<sub>p</sub> - नारान <sub>s</sub>「無知な」「無学な」, नापमल , 好かない」, नासमङ 「分らない」「解しない」。
- (ix) गैर」「他の」「別の」「外間の」――गैरमामूली」「変こ」「妙な」。 गैर सरकारी = 「非公式なし
  - (x) मीょ「各」「 につき」, भी स्पवा「1ルピーにつき」, भी सैक्डा
    - (2) その他
- (1) 新日「半」――初日和「半アノナ」(知ち「2・14 + 阿比) ,初田何可「半 関の(在にいっ)」,初日何可「半階の(一比的)」,初日何可「半共の」「半共の」、
- (n) 変ま「顎」「無用」の一変をする「見にくい」、変相が。「恋道路」、 変相が。「恋道路」、 変相が。「恋心姿態」、また中間で、「悪い性質」。
- (m) 研ま「 を有する」の一一研究する「実った」「栄った」「栄った」「成功した」。
- 項別報の「安孝な」「触版な」、中等時間→□ 「成功」。
  (w) 現の「良い」「美しい」ローー・現明中の「よく知る」「賢い」、現時のの「比い形の」「光感の取れた」、現時の「栄えた」、現時の「答べ交際」、
  - मुमाधन s [善行]。 (1) すへて Tatsama 語。

- सहायम क िक्षा । शिर्मित
- (11) まてた「各」 まて です 「各人」; まて 可て 「毎度」 「いつも」; まて 町戸 Chatt L
  - Tatsama おに用いられるその他の拡張時にはなら次のようなものかある。 お行ったいへん」「井台に」、お「日「特別の」「全分の」、お子「に思く」「に従った」 「・異似て」、森中「反対の」「に欠けた」、湖南「に反して」「使れた」、湖南「反 おの」「欠けた」「かった」。 研「まで」「反対の」; すず「上のカへ」; すず「間の」 「おった」; まて、ます にい」「 しだい」; 内で「!分に」によく」, 気すて「再 ひ」、牙「非常に」「恋多」、प्रति 「各」「各との」「反対の」、प्रावः 「前の」、प्रम FARRITONS

[Hiz] (अधिकतर वर्णन) 文法ではないが、ここに少し必要な小項 を思けすることにした。

1. 月名 (मास का नाम)

(1) インド教徒の月

1.	र्चंत	「3月-4月
----	-------	--------

बमन्त 🔣 🛚 2 वैसारर (411--51) ।

जेठ रहा -- 611 । 2

ग्रीप्म 🗓 असाद 6िरी-7िरी

मायन [7月-8月] वर्षाची ।

मादो [8月—9月]

**マボス... 「9月―10月」** } शरद\*ऽ「秋」

वातिक [10]]-11]

<sup>(1)</sup> Tatsama If. 以上。本質を明記しなかった分は、接頭許そのものはたとにサノスク)フ NT.であってもヒノディーの Tadbhava 斯と共に用いられるものである。

<sup>(2)</sup> कुआर, कुआर, कवर, स्वार ८६० नंत्राठ.

```
- ft
                          57: --
211

 अपटन 「11月—12月 |

                         हेमन्तः [रू]
10 9年 「12月-1月」
11 関ロッ「1月-2月」
                         } निश्चरङ [🌣ឃ]_
12 中四 [2月-3月]
 以16期の名前はほとんと文章、殊に許文に限って用いられる 一般に、
1月は कार्तिक の月からほぼ各4ヶ月に区切って जाडा「冬」 गर्मी。「豆」
बरमान。「所期」の3間に分される。
 (11) 本語の月
 1 जनवरी januari > 2 फरवरी farwari * 3 मार्च marc
 4 अप्रैन apraul = 5 सई mai = 6 बन )în
 7 जलाई pulá": 8 जगस्त agast 9 मितम्बर sitambar.
10 अवनुबर aktübar 🛮 11. नवस्बर nawambar 12 दिसम्बर disambar.
2. 四名 (मप्ताह रा नाम)
  🛚 🗥 🗄 इतवार, रविवार 🔉
  Л ए । नामवार «
  人 ए । मगन (बार)
  水 則 ॥ व्य (वार) अ
  人 🖫 🔢 बहम्पनि (बार) 🔊 गम्बार 🕫

	☐ ११ 日 मृत्रवार , दात्र (बार) ,

  d. १८ छ मनीचर, शनिवार
3 紀元 (平)
 (i) मम्बत samvat (-वित्रम-मवन)-- वित्रमादित्व 王の竹めたもので
イントれ代の間に貸き広く行はれている。西暦よりは57年早い。 との所
```

年は 寺市の月の16日から始まる。

- (n) 甲利司 fash e.—これは、Albar 大帝の前めた太陽智で、特に地 代の支払いなどに使用される。四暦1556年の9月10日に起こり、毎年 平列での月の1日から始まる。
- (in) 明年 shāk(a) ——これが創始者は明確でないが、一般に 明何可要 正とされている。西暦 78年の 青年の月から始まる。前二者に較べて使用 者が少ない。
- (w) 復す代 hijri」 広く回数従の使用するもの。 西原 622 年 7月 16日の金曜日に数初が मनना から 4दीना に逃亡 (hytah) した日を起尿としている。
- (v) मन् ईन्की San 'iswi——つまり [西昭] のことで、宗教を超越して加いられる。
- 4. 寸法 (刊刊)
- 16 मिरिह (=१४१२ मिरह) (1)=1 मज = [+-16]
- 1½ गड=1 हाथ
- ½ हाय=1 वालिन्न。>(=िचलाँद。=िबता) 「9インチ」
- 16 গী<sub>(s)</sub>=1 गिरह [¹५४-ル]
- 8 जौ=1 अंगुल<sub>(1)</sub>
- □□ 1) 地方によって多少の変化が見られるが、ある地方では24 が収率-1 官中、 4 表[ロー1 दण्ड 8 gp), 2,000 ででエー1 कोस、4 कोस-1 पोजन 5 gp) が思いられている。

2) ほかに चौचा - चवा 「4本指の長さ」がある。また、井戸のほさを削る

<sup>(1)「</sup>松び日」のか。 (2) 数階と小指とを拡げた時の長さ。

<sup>(3)「</sup>大支」のな。 (4) 「竹」のむ、竹の長さ、即ち大変を並の長さ。

<sup>(5) 「</sup>さむ」のひ。 (6) むりマイル。

のに 気折 \*人の手の届く言さ かある。 引き : 野丸」「着外距離 は一層反 い新鮮に用いられる。

5 面積 (क्षेत्रफल)

20 नन्दासी≠≈1 कच्चासी∗

20 बिस्प्रासी=1 शिस्वा

20 बिस्ता=1 बीधा

6 時間 ( マヸマ)

alur もまた地方によって多少異なるわけであるか、大体凡を我か2以

पहर [3時間] [1昼夜の%] घडी=60 यल **[24**5]। 1 पल=60 अक्षर [24≱⊅] 1 अक्षर= 24 秒 60 日 16 1 24時間 1 1 日 2 1

5 飲 15 歩〔約 25 3 a) に相当するものとされている。

20 बन्दासी=1 विस्वासी=

# 第三編 文章論(朝禄明)

### 第一章 名 詞 (सजा)

# I. 単数・複数の用法 (वचन का प्रयोग)

### (a) 名詞が不定の場合 (जब सजा का अर्थ अनिश्चित हो)

明えば、第十 उमका श्रेष पकड लिया।「私は彼の手を結えた」ては片方の手だけを摘えたことになるが、第十 उसके श्रेष पकड लिये! ては両方の丁を持ふたことになる。 同様、 前市 वाले उठो! 「配っている人よ、起きなさい」では相子は1人であり、前戸 वालो उठो! なら 相手は2人以上であることになる。 このように名詞が観別的特殊的意味に用いられるとき、単数複数の扱い方や見分け方は直ぐに分るが、ばく然と不定的に用いられる場合、なかなか処理なものかある。

- 1. 複数扱いされる場合
- (1)「1対」から成るもの。例 ぞ何「耳」, 東きょ「投ぐつ」, 前る「口びる」。
  - (5) しかし、たとえ1対から成るものでも、時折単語的に任ぎた中数扱いされることもある。例

नरा जूते [または जूता] दिसाओ। 「ちょっとくつを見せなさい」

2) 特に片方の限とか手とかて単数板。されるのは当かである。たとし、 可売 年 可可 「くつ1足」なとと「1対」をで味する品か単数板、されるのは 学術である。

- (2)「多放しか意味されるもの。■ दॉव「歯し、で、「血質し、すだ」。 「若物」、 are 「毛髪」、 gt 「現毛」 「伊の)ひれ」、 gra gra 「手足」、
- (3) चेनो 「面去とも」。司司 「三者とも」などの 数形容詞で 修飾され ストき。何

यहा गाजर और मली दोना है। 「ここに人愛と大根のとちらもある」

[王] 我可 カ形容調または副司として用いられるとき 多くの場合 動詞は複数 なるか量数の契ちれることもある。例

वह स्य-दल सव उठा चका या । छाददेश्रुक्तिका ।

7 × し 代4 季な のちゃへのや "宋財道具」をつす名詞の場合には単数弘詞が用い られる。は別

सब सामान तैवार है। रे ० र ० किए के कि केर र व

(4) 「粉食」のめに、単数名詞か複数動詞を探ることかある。例 **ヸर अध्यापक (= 句紹本。) आ** 「私の先生かいらっしっいました!

सम ३

गग जी वह रही है! [カンガーか流れていっ]m

□ この場合 主格形男性名。耐-限られる。ナとえ 長尾変化可能の 3T で終る 男性であっても その単数従格形は用いられるか その礼を成格形は出いられた 1。更1 語尾江化可能の女性名画--- デっては その主格複数光さぇ用いられぬ。

(5) 物質名詞・抽象名詞などの内容如何に関係なく、おにお勤扱いき れるもの。例 बाँस 「説」, दर्शन の 「面会」, बडे-बच्चे 「ひともょりのひな [5] [16]an , गाय-वैल [家畜] वाप-दादा [祖先] माला पिता a = मी-वाप 1 之

 <sup>290</sup>ペープは)会野

<sup>(2) 221</sup>ペープ(2) 第 2 例 2 関

<sup>(3)</sup> 河名に数でを挙行したのほ イント人が古来神子祝してまたカンシスパの私人化

<sup>(4)</sup> 冗談以外 人間の「ま子」 F は用 >5れれ

(5) 「関烈」:中南2 m「登場」;南市「人々」「…人」, 明朝・夏朝「告泉」; 長市第2 「つまり」。

(6) 权数化比积る抽象名詞。而 वाल ब 「時代」; बुण ब 「天他」「長所」; अवगुण 「欠代」「知所」; प्राण ब 「生命」 「मुख्य]; बुराई ब 「思外」, बुद्धि • ब ब्राण 「欠代」 [ 神वाल ब 「河分」 「我想起」; मुक्कुराहुट • 「欠い」; माधन ब 「手 及」「方法」「所用」; मुख ब 「幸福」

川明 स्वर्ग वे मुख मोगो 1 「天田の楽しみを受けなさい」, विडियो वे बहुबहै 「いのさんずり」。なか、 हुबवियाँ सगाना (=—मारना) 「もぐる」(水中に); चील मारना 「糾ぶ」; भूखो [भूखा] मरना 「餓死する」は個用的である。

(二) 利用を担する。。(一切をでる。4) 「必要」から を利用「仕事」「用事」か
 どのように、社会名目が高速名間化しては数数いされるものもある。

2) 有事「色」「代金」も単複可様に扱われるが、复数の方が一層引ましい。 用例。

स्या दाम होमा ? 「我のになるでしょう」 इनना दाम वयो है ? 「どうしてこんながか」 दाम मेरे हाय में नहीं है 」 「代金が見の子にない」 यहाँ नेवल एप दाय है 」 「ここでは正れたけです」

र. ४८ वडे दामी वा राज (大した他の主題) क्षणाणाण्यक्रक, रूक, 黎等 भावः (四) (सा) ; नागतः (६ 四) किस्स (फ्रायः) कीमतः (फा रूट. いずれ सारक्षराटक्षराक्रके

<sup>2) 「</sup>多鼠」が培育されるような場合にも抽象名詞が複数化される。例

<sup>(1)</sup> この mane の门総路 寄母。 は単数に扱われるる。

<sup>(2)</sup> 花な名目化すれば「必要物」の意となる。

उनकी भीवें उचट गई। ि एएएस्स्रिकंस्रोत्।

इस तींगे में बड़े दिचकोले है। [このトンガ馬原は非常に扱うする

3) 同様均質名。1も複数化することかある。例

बादला के दलका (इ.ए.) (इ.स.)

(7) 複数化し得る物質名詞。例

भोना [あられ(記)], बाना [金物], स्वास्य 「某], बुब्रास्य 「折り」, धुद्रा

[धूए とはな化する] 「煙」, बादल「選」, रोटी 「パン」。

(配 1) 独立的に用いられるとき 水木汗さえ複数化する。例 वहाँ वह पानी है 「あそこは大きな水仁」

पसीने बहते है। सिकहार हा

2) ある近の名画は話て音道名画が松散化しているのは誰々の原因になくものである。例えば (章) हाय लगना 「入手する」や (को) जूते सारला 「(を) くつて打つ」ては 平 ぞ む のは眺か考えられ (को) गले लगाना 「(を)近く」や (章) गले मिलना [ \*स्पना] 「近き合う」でも 単 のは眺か考えられれてもないか 2人の人間の「のと」の接触か写体されぬてもない。

#### 2. 単数扱いされる場合

(1) 抽象名詞や物質名詞の大部分。用例

उन्होंने अरबी फारसी बढी। 「彼(ら)はアラビヤ語やペルノャ箭

を学んだ」

मेरो इथ वड गया। 「幾セールかの牛乳が弱った」

□ 1) 一块の排名を添けたとえ回義語と結合しても単数数、される。例 相四。→4回、一句四書店場。「伝説」、「夏田・中草・中三男子之子「と経」、町名「4中・ 四原一町名「経験」、また、司甲」・司不は「身体」のように、売遊を謂り 「おんないでも単数数いされることもある。たまし、ペルン。当前の同様に合物

<sup>(1)</sup> これはまたがくを引 であ の複な化の用例にもなる。

:空名詞 रस्म व<sub>रा</sub>रियाज 「智慧」は単複画様に扱われる。

- 2) 祝明((は一年中間 「野」「野生」「多髪」, 可可((1)「大学」 「国民」 のようなサンスカートの集合を開始体験機に される。
- (2)「家財道具」「財貨」などを一括的に並べる場合。例
- उनका मामान माल-असवाव 「彼(ら)の家財道具!
- उसके पास लालटेन बौर लाठी है। 「彼はカノテラと繁博とを持ってい る」

जसने उनको कई गाँव और नकद 「彼は彼らに幾つかの村や現金をり रुपया दिया। えた」

3 単復任意に用いられる場合

चावल 「米」、वावल 「发」、चान 「俺」「代金」、「印書の』 「気分」、 वचन 』 「演説」、 चसन 』「時間」、 記和』「砂芝」のような物質名詞や 抽象名詞ばか りてなく、 集合名詞や普通名詞にして任意に単佐両様に扱われる場合も少 なくない。 例

जाडे [-जाडा] में टड पडती है। 「冬には突くなる」

कवृतर मुण्ड [ニमुण्डा] में रहते हैं। 「ハトは群をなしてほむ」

कुता चतुर पशु है! [-कुत्ते है] 「大は賢い動物だ」

आलू बाजकल बहुत महैगा है। 「シャガイモは昨今社だおい」 「-महैंगे है]

सच्चा मनुष्य प्रसन्न रहता है। [正直な人は楽しく暮らしている] [~सच्चे रहते हैं]

こま 同日 बहुन दिन [ - दिनो ] के (1859年1875 ち、てあるか 共作名)) काम-वार्ष क (世事) 「長事」 (行為) 「義善」 も中度任ごに扱われるにしても、作品以

<sup>(1)</sup> 末字 子 o はベルノ+笠の技計計。「エして」の意。

いが一層好ましい。 例

हमको बहुत काम है। व्हिरक्षिटिए।

मने कुछ आवश्यक कार्य है। 「私に少し負用がある」

たいし、ここで 要要 の代りに する「幾らかの」が行られいは立即は複数化する。

- また एक हाय की उंगिसियाँ पाँच है। 日本の手の指は5本ある」でも、 単語的に उंगिसी と地数形に含れることもある
- 4 単複の相違による語義変更
- (1)「金銭」を示す場合。
- (1) 単に「金銭」を意味する場合には単数扱いされるが、(11)「貨幣」を 指す場合には複数扱いされる。例
- (1) अपके पास बहुत पैमा है। 「あなたはお金を沢山お持ちだ」
  बहुत एम्मा नहीं लगता। 「余り会がかゝらない」
- (n) रुपवे पैसो से 「貨幣で」

रुपयों में भरा हुआ डब्बा 〔金の詰った箱〕

- - 2) マロマ する き? [一中四 すて き?] でも、前記と同一の印意がある 以外に、両者とも銀貨でも無常でも精わない、全額さえ合っていればよいのて、 それがみわられている。しかるに では おす き? [一中四 おす き?] では、 全額に必不足はないか、ドゼ全でないかどうか、貨幣の品質などについて満足か どうかよみねられることになる。(空パーノ、毎ゃる) 参照。。

- (2)「日」や「時間」の場合。
- (1) 在「日」「証」 例えば、真本 町 信可「金曜日」や 受別 町 信布 「休日」のように、単に 1日か 官味されるとう 単数数 いされるか、可刻 育 信可「冬の日」や 実可 命 信可「第10月の日」、 貞え 信可 「空い時代」「不 延野代」なとのよった、「子頭」「時代」「走日」か 召析されるとと投数数 いされる。 たとし、 初回 育 信可「きょうの日」は 副詞句である。
- (ii) 中町「時間」――例えば 中国 市 取さ 年「住事の時間に」は「1時間 前後の住事」か資料されるか、申記 を以てすれば「多数の時間」か意味さ れる。
  - (3) 抽4 名間の場合。
- (i) 夏彦は「休み」――例えば 東海市 市 行っ司 夏彦 和司司 食?「月に数日の切みかもらんるか」では「別職」かみなられるか、これや打数扱いして むぼず 青 を見てすれば「日致」かみなられる。
- (n) 宿田ヶ「心理」「心」「乳」――例えば、可可す 宿田 着る 可可」「彼らは 対気阻較した」にわけるよった。 宿田 か「心」「筋神」 を管除するとき単 数扱いされるう。 可称 宿田 中て 前「彼らの心観の上から」のように「心 陸」かな味されるとき、 香酒名間として収取にもなる。
- (m) 関マ「子」―例えば 司命 製町 南「数6の子中に」ては、岩通名 製の包数化に過ぎないか、これを単数数いにすれば、「象操」「権力」「占 村」などの地象的で味になる。
  - (b) 名詞が数詞に件われる場合
  - 1 一般的な場合
  - (1) 台通一般の名割の場合には、当然投数扱いされる。例 引て 記

「4人の息子」; एक दो वार्ते 「ひとことふたこと」, एक बजन मे दो मिनट बाकी है ) 「1 第2分前である L

しかし。動詞は複数でも、時には卑語的に単数多詞か用いられることも ある。例

ससी हो बेटियाँ [=बेटी] हैं। 「彼には2人の娘かある

(1) このも、「一般不定の場合」とやゝ趣きを異べしている [217ペーノ前項 1 の(2) #月]

2) 「設體」の場合、 森井 可収 前面 可収 | 「10年か過ぎた」、 では 市 ず ず 可収 | 「夜の 9時が切った」のように、 引調は批談になっても、 以って分かれる 名詞そのものは単数扱いされる。 例。

दो चार दिन [सप्ताहु, वर्षं, महीने] में 2 • 3 日 (त. म. 月) कर्

この場合、fer 以下の詰名詞を従格複数化させるのは良くない。

3)「全銭」と「貨幣」との関係も、「一般不定の場合」とでわりのないこと は前立の通りである。[222ペーノ[1]とその作名を用]

例えば、**दस 河町で作本作「10** アンラフィーの全貨」では、賃貸の数を示して いるが、単数形を以てすれば「全額」を示すことになる。

たいし 中文 中田 有田 匈和で明 着し「私は10アノッフノー持っている」 などと、名詞が行わか作させないこともある。

#### 2. 特殊な場合

 (1) 「金銭」「寸法」「目方」「面積」などを示す場合。例

 एक आने[-आना] गोनो
 「1アーナの丸薬」

वितने गज मलमल 「幾ヤールのモスリン」

दस सेर शक्कर

「10十一ルの砂炸!

एक बीघा ,, भूमि

「1ビーガーの土色」

तिहा 1) शाक्रीर आना टिकट=एक आने का टिक्ट [17-+०धारू], आठ वीचे (前1) 前書 [8ヒーガー [竹覧エーカー] の加」などでは、民格技能詞の有等に トーイプ玄の初びせたいが、大性、「金額」に関する場合、通例、「 類に備する **地島」の管となる。例** 

इस आने का इनाम

「10 アーナ に価する質品」

間代 西 就で 知て「6セールの重さ」においても、民格改選詞 朝 を中 師に入れるば「6セールの重さを持つ品物」の立となる。

(2) ある特殊な名詞と結合する場合。例

चार राम घोडे [ जजीर हायी ] [4頭の形](第)

एक पृंट [तिलास] पानी [ठाटक्रिक (११० वि११) ठारे]

तीन गाडी, [टोकरे] फल

「右耳車3台分〔かご3杯分〕の果

Fix (

दो प्याले, बिंतल निहवे

「2杯(びん)のコーヒー!

(=काफी)= दस जोडे जुते

「10年のくつし

# Ⅱ. 同 格 (समानाधिकरण)

(1) 名詞はよく他の名詞や代名詞と同格になる。例、 「得良の方(てある)神 करम सित्र धरमेश्वर

<sup>(1)</sup> とのように用いられた a で終る男性名詞でも、その次に来る女性名のの動に一代して i 141.242

<sup>(2)</sup> このように用いられた女性名目は2世上の数型に伴われても複数化しない。

<sup>(3)</sup> とのように用いられた á て終る男性名詞は男性複数名司の前に単数提作化する。

भारतीय नृत्यकार रामगोपाल 「インドの昇殖家ラーム・ゴパール」 こうして、この場合。後間調を伴えば、同格関係にある前後の名詞も代

名詞も從格化するのは当然である。阿

अपने पोते राम का

「自分の折ラームの」

मुझ बच्चे से

FILLの私から!

(2) 広義での同格関係で最も注意を要するのは (i) 指示代名詞と名詞 または (ii) 指示代名詞と短問詞とか互に同格関係に立つ場合である。例

- (1) उसने यह हैसी बात वह डाली ? 「彼は何というगを言ったんだ」
- (n) उसने यह क्या निल मारा ? 「彼は何というたわごとをだいたも

# んだ」

すなわち、(1) では यह と จัจที वात と、(14) では यह と वया とは正に 阿格関係に立ちながら動詞の目的語になっている。

また、項を 明市 gertan き ? 「あれは 誰が呼んでいるのか」では、 可を 「被」と 明市「謝」とは互に同格主治であるから、 可を だけを 省いても一 向送文ない。 たとし、「彼は雅を 呼ん でいるのか」の文意なら、 青市 で 作前 (一年初市) に変更しなければならぬのは契約である。

関係。(i) のように指示代名詞と名詞との同格の場合に、弘意のために 調者が動詞によって分離されることもある。例。

यह स्त्री अपनी टोपी। 「これ (即ち) 白分の刺子を収りなさ

دما دع

とこでは、同格関係を切り離せば、車両司「これを取れ」と अपनी टोपी लो「自分の帽子を取れ」との2文になる。つまり、社会的でない普通の文 郊に直すならば 車度 अपनी टोपी लो। となる。

<sup>(1)</sup> 具物の行りなどで、店員なり下行の友人なりが約白年の相丁には、「これを太めよ」「これ にしなごい」の意で作例する組合の文句。

【注 1) はまを示するか人名とは特別所をなす場合、前温の意見は任じである。 付、申信 टेगोर しょ人クゴール」 (राम महाम नोहार का 「クーム・サハーエ おけつの)。

しかしながら、人名の説明』が比較的長いならば、行らか以及かた入れて人 そのたに等く。哲

डा॰ अवनोन्द्रनाय टैगोर, आधुनित ाह्यात ८०००० १ । भारतीय विवरणा हे...जन्मदाता - ५०००० - ५७१ ।

2) パリとして、おりけんタになかっ。何

महारमा गौबी (p) Гर०- २४- - १४- - ) ; राजा दशरब (४ / + २ ) FIJo

たとし、 सावय मुनिकि シャキ・2 のかん」「就は」は問題のもの。また、 む : महाराज्याक, も、パラマン仏やなぶに対するはなとして用いられるとかに、一 だだいばっも、साहब』や जी の口能がとして 「 さん」や (あなた」のでに加 いられ、 गमस्ते महाराज (かわは) などとも忘われるか、これは人名のかにもな にも任むに用いられる。 四 一再民राज まで町-まで町 可長では可 (クリンナきん)。

- 3) 質者 礼事「住了(の」ラーム」とか 補償 礼章「兄名(の)ラーム」も そうであるが、取名と血材関係を示す語との批用 有意 相尾「大工兄さん」や 有意 着を 有「大工である日子の」などの③い力は、犬に兄弟や息子の内のI 人 が入」であるり分であるが、「宝」の関係は同作というよりも、一力が能力を説明 するたといえよう。
- 4) 2名打の並用は知に引物関係にあるとは限らない。例 電視可電電 情報 ず (電視管)「ノント(用)、プラフェナーハート(油)の砂塊」、ここでは、周頭 有名が中、被名が前者の投資を引しているだけである。

<sup>(1)</sup> 私数形を払ったのは気むから。

<sup>[2] 「</sup>青水屋」ので、ヴァイノ+階長の一家の名でもある。

<sup>(3)</sup> されて「釈迦作院」。

<sup>(4)</sup> との力は物に呼称の場合に用いられる。「大王」のぎ。

# 皿 名詞の転用 (संजा-गरिवर्तन)

#### 1 割請への転用

以一または役合の一般普通名詞や従格役数元かしきりには同じ転用され、 あるいは名類の反復が副類になることは既式の通りであっ 小

また、「時間」「位置」「方向」などを示す名詞に」 この基层か आ にて終るものか ぜ 化すると副詞になるものの少な ないこと (167ペーノボ がた(P) また WT てだわるだわらぬに関係なく普通を割や関わを割てたよ く副語化することも既に説いた。 (169ペーノド だ用) 例

कोई घर रहे. कोई परदेश चले । 「ある者は気に留まろうし、ある者 は外間へ行くかも知れない!

उत्तर बिर के परबो एक पेड है। 「北 (家の明) に初木か1本ある! वह भारत [पाठमाला。] गया । 「彼はイン」(学校) へ行った」

しかしなから、特にとこで述べたいのは疑問思いされることのある一部 特殊な名詞についてどある。例

चारी छपे साने के भाव

「非常な高値です

पनीर किस भाव वेचते हो ? [म-र्याः १८०० ।

कुछ सामान नगद खरीदता है, कुछ 「(私は) ある品物を現金で、 ある

उधार ।

(品物) を掛けて買う!

उसने दो सौ रुपये नगद दिये थे। 「彼は200ルピーを現金で与んだ」 वह प्रति दिन दो पडाव [一मील] 「彼は毎日2駅程〔2マイル〕歩く」

चलता है।

<sup>(1) 56</sup>ペーノ 3 (a) オよび 177ペーツ5) 公門。 [1] 直沢一「こっそりだされた其金の位で」。

### 2 形容詞への転用

この場合にも振めて少数の特殊な名詞に限られる。例

घर एक मील है।

「家は1マイル競れている」

बार बार थवना ऐव है।

「度々つばをはくのは悪癖である」

(正) 1) 名門の結合か形容別にたることがある。例 हंस मुख [हैम 「英い」+ मुख ・「四」] 「四なな」、बाग बाग [बाग = 「近」+ बाग] 「呼なな」「ダレいに

こして、このりは、前面かよくまごかがになることかある-nin पुत्र शोक 「色子(セクった)でしる」、साची बाजी 「相当のがし」、एक हाची सवार 「ある たのなり」」、बाम युवती。「शंकरिय」、वसन्त नमयः 「ひの手面」 ; उत्तर दिया ってにカ」、हिन्दू विवाह 「イットをはめるが」。

2) 名計が反抗されなば、特質名子でさえだる計的になることがある。例 बह प्रमीना प्रमीना है। 「佐は行だくだ」

आपका स्वागत है।

「ようこそい らっしゃいました」(点記=is たたのか可がある!)

# IV. 名詞の反復 (tim fi पुनराकि)

(1) 複合詞形成四――よく『手段』や『状態』か去わされる。例

(1) में मडब सडब आयो । [私(少)は道路伝いに来た]

मेंड मेंड (=मेंड मेंड) जाओ । 「あぜ (四の) 伝いに行きなさい」

<sup>(1) 227</sup>ペーノ(存ま) 意見。(2) 177ペーノ(音を5) 意見。

(a) वहा क्मर क्मर घास है। 「そこには豚まて着かある! जड़ ल जड़ ल [जड़ लो जड़ लो ] 「(彼は) 会からきょうろついている ]

फिरता है।

依置詞を伴っとき 「状態」の意か一層強くすされる 例

वातो बाता में

「話をしているっちに!

पानी घटन घटन तक है। क्रिकेरे इंटर करें।

भरोसे भरोसे में दस दिन हो गये। 「当てにしているっちに10日経った」 ま! वीच वीच मे 其中に」 दूर दूर तक "はるか 必方まて」なとも同 様である

(3) 「誌ヶ」の意に、例

देश देश के राजा

「説図の王」

नगर नगर के लोग

「町々の人音」

(4) 肛窓のため。例

बहा पानी ही पानी है। [स्टाइंगस्टिंग्रेट.]

वे आपम में भाई भाई है। 「彼らは瓦に佐兄弟だ」

(25 1) 反便されて名回の間に弦ぎ ごうぎ を入れ、は一路弦ど化される。例

यह बहानी ही कहानी है। 「これは桃なる(作り) 話に過ぎない」 पानार की खोज ही खोज में रात 「売物を探し回っているうちL-改L-なっす」

हा गयी।

ま・ पानी ही पानी 1分はかり」, फूल ही फूल (江than り) なとも同様で no.

2) たわます 反復の場合。属落在置端が用いられることがある。この場合 例えば 耳頓 朝 耳頓 「四人中の四人」におけるように「人」をテす時には単な る「強亡 てあるか 『抽象名詞』や「人」以外の『苦邇名』」 と井に用いられる

धिराधः 元全 ि全体」 ०००० होन्देश हैं। स्व मा घर प्रभः हैं। सूठ मा पूठ (全くの5天), दस का देश = [國とし5國] 國全体 , दिन का दिन (於 日] [1 日中], सभा की समाक (罗全全体).

しかし 複数配性模型詞 幸 か服 られるは「多数・1複数性 か たわされる。 図 前年 年 前年 1 計また計」、年で奉 中で「学という水「家々」、 再でる 幸 町で「師という時へ

## V 名詞の省略 (मजा का छोड देना)

上として次のような場合に名詞の省略か行なわれる。

(1) 反似を避けるため。例

यह दूनरा कमरा भोने वा है। 「この第2部屋は収室である」

हुछ लोग घर में है कुछ बाहर! 「幾人かは屋内に、後人かは外にい

(2) 『日方』「製作」などに関連して。例

पैर मन मन भर के हो गये। 「足か非常に重くこった」

मन चालीस सर वा होता है। 1マンは40セールある」

बह लोहें का बना हुआ होता है। िस्थाईक्षरिक्रिया 33

(3) 「値段」「偕金」などに関連して。例

सब ही इतना देते है। 「告かこれだけ出します」

मिलाई का क्या होता है ? िसिसिक्ष ६८३ ।

हम पर तुम्हारा वितमा आता है <sup>?</sup> [ほくは君に葉ら借りかありナニか」 यसा हम बो सुम्हारा बुख देवा है <sup>?</sup> はくは廷に幾らか借りがあります かし

<sup>(1)</sup> 直デュ「足がマノいっぱいごなった」、108ペーノ(2) 参照(2) 直沢〜「ぼくは暮の曇らかど与えればならぬか」

「TO 1 (not. \$31002何では 引車「価 「料金 かさかれている。第4何では \*\* 11.1 代りたとたしはすたかとのほ門的なではで門われている。

(4) 「人」か暗示されるとき。例

मैदम वर्ष का है। 私は10才(の者)です!

क्या यह अच्छे मुट्टम्ब का है ? **छाउ ध्रिप्ट प्रक**्रित राजिक

बहुत में भाग गये और बहुतेरे मारे [#Kic \$ < 0 र्राक्र अधि , \$ < 0 र्रा सम्बे १ かわされた

(5) マイセマ\* 1 音炉」 事柄 1 の右峰によるため 例

उसने विमो की न मनी।

「紡は靴の雪っことも開かなかった」 「彼らは一つも言うことを守らなか

उन्हाने एक न मानी। った」

हमारी कुछ न पुछिये। 「はくの事を引わないで下さい」

ा मेरी उसमे नहीं बनेगी। เปล ても門路であるが、しかし、これは (i) 「(見と位 つまりわれわれ 2人は) 互ににうまく協議してゆけない! (n) わ れわれは下りか常にをわたい のでとたる。

उमनी मेरी आजनल लगी हुई है। किंदे, ८५ हिंदे ५० ((४६८८५) ००० 門づにおいても、おおされている女性名詞は 利付 でなければ 対害は 「けんか」 のようたものでもみう。

- (6) 可行て。(~ase、) 前「小体に」の行品によるため。例 बर बाट मेर ठीव नही जाया । 「その上花は私に合わなかった」 उसके चाटलगी। 「彼は負性した」 ष्या तुम्हारं पतीना अता है ? [Zhàऋहि-bà fàr]
- (7)「所有物」「所属物」「味方」などのなか暗示される場合。(4) उमने दम भागा ख्वा था। [ध्रिक्षेट्राक्षिणक्रिक्षेट्रिक्षेट्राक्षेत्रे

न पर ना न घाट ना 『どっちつかすで役に立たない』の आप पूर्ण रूप से उसकी हाजाएँगी । 『真女は完全に彼のものとなろっ』 【日 名詞の上語や目的ぶのよく音鳴されることも代名詞の場合とだけらない。例

□ 名詞の上語や目的語のよく自鳴されることも代名詞の場合と立わらない。例 せば 寄る 初本 項目 「そこで(答うことに)従った」では「人 え 示す故な 名 1の上語と「中八 もず F目的がとか 合うれていることか分る。

## VI 格 (新來)

# 1 屈 悠 (सम्बन्ध)

(1) 所 有

この場合、更に次のように分だれる。

(1) 所有されるものか「人」てあれば き か用いられる。例

क्या उस के पत्नी है ?

「彼に変かあるか」

मेरे बेटी नहीं है।

「私に娘がない」

- 上記の第2号で 並えのれりに 申引 をはてするは ((それは) 目のれてないのれたなる。
- (n) 所有されるものか、「丹体」を初め「一般事項」の「窓分」を示す 時には、それそれの作っ名詞の数や性と一致するのか原則である。例

उमकी बड़ी काली है। 「彼には大きなかごのけかある」 माँग की बहुन मी हहिलाँ होती है। 「へいには多数の付かある」 इम सञ्जम की बाद बालाएँ हैं। 「この協会には4支行かある」

たいし、 उसके एक हो हाथ है।「彼は1本の手しか持たない」[計子たち

た)では、町が用いられない。[252ペーン協会制]

(m) 所有されるものか、「九貫され得る物 であれば、複合後置詞

<sup>(1)</sup> 直が=「すのものでも変し歩のもの~もない」。(2) 女性形異符に先立\*れれば「私のよか」のび。

रे पास ि の所に」「 の側に」か用いられる。例

भेरे पास एक पाय है। 「私は壁中を1頭特っている

जमने पास साखा राये है [~स्पया 「彼は幾10カルピーを持って 3 है]।

□ 1) 別外的に対する収益である時間できる。私は北部な引化を1/行っている。なとともごわれるのは、かって否使を認識物限しまされるののである。

上記とは近に 発する「取す者」 私は つのほうか占める してある カ 町田 を用いれば 告近の 「所有」から味される
 (2) 所 鑑

जो वस्तु सबकी है वह निमी नी 「哲に同する物は乱にも同しない」 भी नही। यह पुस्तव किमनी है ? तुम्हारी या 「この本は髭のか。 丑のか。 それと

(3) 組 成 वर्ष के बारह महीने होते है। 「1年は12ヶ月

बर्प के बारह महीने होते है। 「1年は 12 ヶ月から成る」 मात दिन वा एक सप्ताह कहवाता 「7日は1週間と称される」 らの力ですか」たども本項に属すへきものてある。(257ペーン(22) g5 NF1

(5) 材 料心

वह घडी मोने बी बनी है। 「その時計は金で出来ている! यह खिलीना कागब का (बना हुआ) [ट Ø के के क क्षेत्र के कि

है ।

(6)年 齡~

उसकी अवस्था लगभग दस वर्ष की िंद (≵१५३ छि ८ ) छा छ १५१५ १० ३ धी। てした!

(7) 団格は多くの場合。 उनदा पदना 「彼らの 処強」, अग्रेजा ६ ज्ञासन **東京「英国の統治時代」のように、主格的であるか、84ヶ日的格的にもな** (n) ۾

ईश्वर की अवित

शिमले की रेल-काडी 「ノムラ行「または「発行の代車」

(8) 否定文において、不定法に伴われなから「未来」の欲で去わすの に用いられる。

भ मक्के नही जान का ) 【私はメッカへ打くまい」

「彼らは色か白い」

「細に対する信仰」

हम ऐसी बाते नहीं सूनने के 1 「われわれはこんな事を聞くまい」 वह अच्छी होने की नही ।

वेरदा के सफेद है।

「彼女は合るまい」(いななどが)

(9) 形容器の前にも用いられる。09例

वे भाग ने वली है। 「彼らは選か強い」

सह बात का पक्का है। [彼は古染を守る]cs

(11) 258ペーン四套用。 (2) 232ペーン(4) 書用。 (3) 281ペーン(5 \* 2) \*. 17。 (4) 305ペーノ信ぎ 2) 玄明 (5) 直デニ「夜は一変が空間た」。

CEI 1) たは、\*\*\*に用いられる近上生活の位と主要も後世である。中、 上で F1

स जिसका भेजा हुआ दुन है ? : समाध्यानक १.१.१६० यह पत्र जनने निर्दो हुए थे। इक्त का हा क्षा १९७०

2) さに あるむでたたないの後にけくこいもまる くとく 何ま けいの ित्रिक उत्तम (१) क दिल्का मध्यम कारक अपन । ' (१)

११६० Tetsama १४ नेश एक दे भार निज (बा) पत्र ११३ उत्तम की वायता 'राज्यकारा' .. (10) 何で「・のために」「・にとうて かざかれるためにす だ \*が収

ることがある。例 यह मेरे किसी बाम की है। िट्रांध्राहात्रिक्र छिटाटा

डाक्टर ने फीस के दो रूपये निये । DXX1225\*(C(EUT)2 /r E-IR m 90 1

(11) 国格は何をも輝く。例 मेरे स्याम,,,पहुँचने के बोड़े दिन पहले 🐠 ४४ १८३१ र 🗘 ८००८ ।

(12) 切件の開発は終か関連する 治か他の 代質調を作うとき 従格化す 5 m [7]

मीव के पेड की ओर 「レモンの間の方に! उमरे आने से पहले 「彼か実る例に」

たメレ、屋林が口一路に関連するとき從格化しない。例、

पोडे वा एव और वा बोल िएका कि कि

आर्थों का सास्त में आना 「アーリヤ人のインド火田」

(1) -1(4) は双アラブ連合共和国の一十をなす「ノリヤ」のにと、

<sup>(2)</sup> ただし、単独門モア女性関係に との区間がないのはいうまでもない。

(13) 気格とそれか関連する語との間に他の語句が置かれることもある。 (4)

.. मेरातुम को प्यार ।

「よろしく In

जनग तुझमें नाव में दम है। 「彼らは君でたいへん迷惑している」m (14)「你衣」のために単数名詞が複数扱いされるとき。 國格後僧詞と非

ाध्यक्रिक्षित है। वह मेरे पिता है।

「あれは私の父です!

वे हमारे देश के राजा है। [किの方はわれわれの国王です]

(15) しばしば、位格を登録と並用される。例

इसमें का पानी

「この中からの水」

पत्था पर की लकीर कि0 1-01. ≥ (छ)।

पाँच महीने तक के समाचार-पत [5ヶ月間の新聞]

(16) 次のような句では関格の取拾は任意である。例 (विल्ली (का) शहर 「デリー市上; हिमालय (का) पहाड 「ヒマーラヤ山」; कृषि (का) शब्द 「農業

という割」

(17)「強意」のために名詞や形容詞の反復を連結するのに用いられる。ca)

例

रात की रात यहाँ काटे। 「終夜をここで巡しましょう」

बह भूषे का भूखा ही वापस चला 「彼は李煦のまゝ帰って行った」 गया।

CER 代名形容詞 研す も同じ方法で反应される。例

वे सब के सब मर गये। ि 🖟 ६०४ २००० १८०

तुम्हारे सब वे मब बच्चे द्विणां रूरण रेस्।

 <sup>(1)</sup> 日下の者と今子供とかにのみ思いられる。prot は「変や」の意。
 (2) 直景一貫によって彼らの司の中に呼吸が(結って)ある」。 m は は dam にかいる。
 (3) 72ペーン供名3) まる。

(18) 動詞の (1) 現在分詞も, (11) 過ま分詞も, 共に国格の問詞をさし挟

んで反復される。の例

(1) वे साते वे माते रह गये। 数6は水湿に殴り続け、 इस देखते वे देखते रह गये। ほくはあきれて見れけ、

यह देवती की देवती रह जाती है। 彼女はあきれて見れげー 3J

(п) उसे आया का आया समझिये। (校を行っておればと思いなさい か

[१९८१ उन्हें आया का काया कमिये] बह आया का आया घरा है। िश्री भेरा कि 611947 का

[१४३ वे आषे के आषे धरे हैं]

(19) ある町の「名言論語」において、対格同性の節をえてる。例 単代 朝間 町[==町] पालन वरना [世の合分を守る]。その上なるものを次に 列幣しょう。

(1) FIRMDIALO -

आदर , बरना (६)११३ । अपमान , बरना (६)११४३ ।

चहार = 『(を)教う』 चपयोग = パ (つ)川いる」

司司 s (=司田 n ) n (を) 続はす」 可て ッ (2) 機切る」 なって。 = 平可田 s n [(を)脱るう] ででで。 n ((2) 次 ひ f ら f でで。 n ((2) 次 ひ f ら f でで。 n ((2) 次 ひ f ら f でで。 n ((2) 次 ひ f でで。 n ((2) 次 ひ f で f o n ((2) 次 ひ f o n ((2) x f o n ((

माथ देवा ((२)शिक्षा ५

ध्यान रसना「(を)注意する」

MO - 1 NO 40 EZ

(1) 非文法的 信用的 270ペーノ(計 参照。

<sup>(2)</sup> 个り速く行って来るので

<sup>(3)</sup> 彼はよっず理路なく来るので まるで早やこしに見ているようなものとのな

(ii) ず に伴われるもの,---

खेती करना [(を)掛す」 चिन्ता क्र करना [(を)心配する]

तलाश r 『 「(を)探す」 दसमाल " 「(を)性話する」「(を)

पूजा इ " [(रु)मिंग] प्रवीक्षा इ " [(रु)मिंग]

बहाई "「(お)賞賞する」「許る」 बदली "「(を)収替える」

「ゼン」 で町 』 〃 「(ン)世話する』 護ち」 वणन 』 〃 「(を)近へる!

सम्भास " (%)धीर्य । हत्य । (%)धिर्य ।

आजा , देना [(७)क्रेचं है ।

新雨がます。「(2)命ずる」 『聖】1) この形は常に対抗的と左るとは四名ない。↓々 与称的にしたる。例

(वा) सामना करना (६) होळाडे ठा, (वी) सेवा , करना (६८) १४ ८ ठा,

(中) または 中) 知です。市市「(に)之際する」「(の) 行きをよめる」。

2) 民他が 社間代名 行を持ち 場合については 281 ヘーン (8) の何 考り よひ 292 ーン (8) も何のこと。

## 2 与 格 (सम्प्रदान)

- 〔a〕 を味上の主語に用いられる場合
- [1] ある穏の動詞と結合して ---
- (1) प्राप्त होना १९६१२२। および मिलना か [得る][見出す][出 会う]の改になるとき。例

उत्तवा एक धुरी प्राप्त हुई। [校はナイフを1本入子した] मने सब्ब पर दो बालक मिले। [廷は路上で2少年に出会った]

DE たいし 上述末例におするような場合。由会の2人が井に入れ代名だですわ されるとすれば、とれかす所がの古で不明寺を支げすがれまるので、今ら人の

されるとすれば とれか主語かのさて不明性を実たすぞれもちるので 公う人の カルはまやま 50 その相手のカルはり得かなられる ロ वह मुझे मिला।

「彼は(使性)私に会った。

(2) 可認立 が「変る」及に用いられるとき。例

आपको कितने सहायक चाहियें ? , 经人の助子か要りますか。

मुसको ऐसी दम मेर्जे वाह्याँ। 「私はこんなれか10即欲しい」

□ 1) この好の पाहिले には「人」を小す立味上の上点がよく「高さされたまと」 川いられる。何 नया पाहिले?「何かまりますか、「नई」 पाहिले।「何も聚らない」」 एक अण्डा पाहिले।「万か1円以しい」。 दोनो पाहिले, प्याला भी और पानी भी।「万万とも吹しい、コテフもかも」、 नया प्रतिविन पाहिले?「おお」

弘知の不正法が चाहिये 「知ばならぬ」、 चाहिये था 「はずであった」及び होना や पहना を移らけたもでは上の主流がほになる。 (32ペーノ(2)なお)

(3) सूजना 「見える」「思い当る」。例。 आपको क्या वाल भूकी? 「何をお思いつきになったんですか」

मुसको रात्रि में नही सूत्रता। 「私は皮見えない」 (4) भागा (फिंक्ट) ट सहाना (फिक्ट) 「暮三」。例

मुझको वह गीत भाता [=सुहाता] 「私はその歌が切とだ」

₹ 1

なりますから

प्रत्येक को छाया भाने लगी। 「告が木陰を好むようになった」

○記 1) 以上のほか、 明可「底じる」「気える」「知る」場合については、164ペ こ、「夕き歌書」(2) なとがよっ 「晩ま」い きい

- 2 「名詞動詞」(2) およびその [報章] 1) 参照。2) 無急名詞が 割削 や 98刊 と共に成句をなす場合については、163ペー

ッ「名: 動詞」(1) の第2段とその[偏名] 3) および間じくその(3) (164ペーツ) 参照。

- 3) 有利で「感じる」「覚える」「くっつく」のでの場合については16) ~~「名節がけ」(4) とその権とも肌。
- 4)「交動へ調」ので味上の主題に与格が振られる場合については142ペーン
  (3) とその質者が呼。
- 5)「完了分司」関係の核文において主語が与格を振る場合については 336 ペーノ(2)() およびその(編書)() 会別のこと。
- (11) 形容詞と結合して
- र्शात ४ = मालूम ४ विश्वर ३ ]

चमको यह स्व समाचार जात हुआ। 「彼はこれらすべての消息を知った」 मुने यह बात बच्छी मालूम हुई। 「私はこの野を良いと思った」

- (3) उपित्र = थोग्य = मुनासिव = 「渡す」「向く」。例
  यह बाम करना पुमको उपित नही। 「混ねこの仕事をするのに向かない」
  उमको इन्नलैंड देस जाना योग्य है। 「彼が炎師へ行くのはふさかしい」
- (4) आवश्यक = उचित = जररी = लाजिम = 「必要な」。例 तुन्हें यह आवश्यक नहीं । 「これは君に必要でない」 क्या तुन्हें यह चिनत नहीं है कि 「・することは君に必要でないか」
- (5) निजिज=मृदिक्त 」「田塚な」。例 हम सब पो बढा मनुष्य होना किला 「むれわれ会館が仰くなるのはむず है। かしい」

(6) निश्चय ह िक्ष प्रदेश हैं।

मझे निरचय या कि उसको दण्ड 「彼か別せられるだろことは私に確 tood of होगा ।

(7) すずっ 「生れる、「生する 起ころ!「明らかな」例

मेरे मन में यह बात पैदा हुई कि गि.किंग्स टेंग्न टेंटिक गिरिट

(8) その他次のような形容割と其に、例

यह मझको बहुत ही लाभहायक है। िराधारीयान् हिस्सिकार के महाको दोनी बराबर है। सिटाईसिटिलिट्स.

मझे दो रुपये ही बाफी है। 「私には2ルビーだけでト分だ」 ■ 1) 上記の時例で見られる近り、ある特定の形容詞とサに加いられる 町 そ

の間の具体の形は、すべて「に」または「にとり」のでになる。

そして、この場合、特に比なるのが特別の形容別に取られるわけでなく、古 パの名づであっても一切ときェカレッ例

वह मझे आग पानी है। 「彼は形にとり大と水(の間的) t.」 2) ग्र.श्रु योग्य 🥆 आवश्यक ०श्च ९ १८७६ दिखाई देना 🗀 — पहना े छि

える」と門一の様々が切られる。の例

हमको उमकी आवश्यकता नहीं। १३६८८३६०८४४६६८।

मुद्रा में ऐसा बाम बरने की योग्यता सिक्ष मध्ये प्रेमाना विकास । नही ।

### [b] 目的語に用いられる場合

(1) 間接目的語に。---(i) 他動詞と (n) 使役動詞とに分けて例を挙 げてみよう。

(1) तुमको यह न बताईंगा । 「(私は)これを君に言うまい」

<sup>(1) [164</sup>ペーノ(3) お利]。

तुमने रुपये-पैसे किसको दिये ? 「君はわ金を誰に与えたのか」

マ | おはわ金を誰に与えたのか」

- (u) उमने मुझको मिठाई विलाई । 「彼は私に菓子を食べきせた」 हमें उसे दिखाओ (=दिखलाओ)। 「ほくにそれを見せなさい」
- CD 에とは、समने मुखे जाने दिया।「総は私を行かせた」のように、「デザ」を 赤すら合でも同じことである。また、मुखे समनो दस एम्मे देने हैं [ -देना है ] । 「私は彼にのかーうたねばからぬ」では、西代名詞とも、与称形である。「222 ペーノ四カ門」
- (2) लगना やこの他が調 लगना か (1)「付着」や (11) 「所要」の意

## を表わすとき。例

(1) घडी को चाबी लगा दो। 「時計にねじをかけなさい」

गोली मुझको लगी।

「弾丸か私に当った」

(11) मुझे जढाई घटे लगे 1 「私には2時間半かかった」

-धोती को कितना बपडा श्रोगा <sup>१</sup> 「顕巻にはどばいほどの布か要るでし

ょうか」

四3 たいし、次のような場合には、明 よりも 前 の方か一回点的である。 भेरे वारीर में मिट्टी लय गई। 「私の斗体にとろかけいた」 なみ क्षकों में कीका नहीं लगेगा। 「これらの方がには金がけくまい」

## [c] 事 の特別用法

- [1] 一般的な場合
  - (1) 目的を表わすのに用いられる。 これには, (1) 騒詞の 不定法につ
- く場合と(n) 名詞につく場合とかある。例
- (1) यह करने वा तुमसे किमने कहा<sup>7</sup> 「これをするように置か器にいった か!
- (n) वह मृगया को गया। 「彼は貯頭に行った」
- CED この「目的、を示す को はよく有略される。例 खेलने आइये। 「どうそだ

- 's #s -

ひに来て下さい」、हम सवारी जाएँवै। ((のなどに) ६०に行きましょう) , हम जिकार गये । (ほくは)けいにいった」。

(2) होना の直削では「 しかいる」の意となる。例

यह अब उड जाने को है। 「彼は今飛びよろうとしている」

बह नार्यं करने को थी। 「彼女は仕手をしかか でいた」

(3)「値段」を表わすとき、例

110

आप इसे बितने को बेवेंगे ? これを残らでお入りてすか」 के बहुत दामा को बिकते हैं। 「それらは対常な路線でぶれる」

सौ रुपये को यह महंगा है। [100 ne — एक्ट देशके हरें।

□ 1)イント気後による朝夕のあいさつ用語中最も苦適な 可収荷「私はなんじ にお辞度する」や 可収可で「金製」は、「今日は」「お早う」」・今製は」「左膝な ら」などのでに用いられる。可可可。「私はあなたにお辞録する」は 目上の人 今年長系に会った時に用いられる動気である。これに答えて、先輩は 初刊句句 「私はなんじゃ根割する」を用い、質可 南 可印句句 とあい さつすることに なって、る。可可用。「干利」「金製」その他のクルトゥー系 つまり回数そのあい

(1) 年曜日。 (2) 日曜日で。 (3) 新四 新 としても思くはない。
 (4) 直次一行者さんと全候。可可 は 「行者」や「右人」などに対する参照。
 (5) 直次一行法に (名の) 要付を」目下のおませれてのみ取っられる。

さつ用的はヒンティーには全り用いられない。 可可 優々 イノトの 時間 が 不相続 の得な話としてイント数数の間に該行し出したのは住立式のことである。 インド 教名学派は それぞれ 期間の あいさつ用語を持っている。 何えば、 双耳 江耳 = 明古 ( 本刊 ) 「ラームの監視(あれ)」 や 可如 利用 司 ( 中 ) 「フリンナ神の監視(あれ)」などは ヴィンス部に長する人立のかいさつ 用語である。 また、イノト数の事態宗教とク数はによる 可事情 の同なだは 現で 対 本事情 「何の神は永远不滅」である。 これも、可味清 「何の, 哲々子似にも 若かれる。

2) 特に「表題」「見出し」などでは、町 はよくた容飾にも用いられる。 例 和本 町 マス「次人への手転」。

### (山) 副詞的用法

(1) 「方向」を示すとき。例

पीछे को चले जाओ। 「セの方へ歩となさい」[《退せよ]
यह सबक मेरे घर को जाती है। 「この訓除は私の家のがにかじてい

□ この後の को もよく公路される。例 आओ घर चले।「ダなさい、ぐへ行きましょう」。

لة

そして、「方向」の対象となるものが作生的や哲学的なものでなく、「月刊」 である的には(中) पार が用いられる。例 育文 पार आओ(だの所に(~ 私のカへ)次なさい」この場合。また 円官 古宇 河前 )ともいうれる。

(2)「日」「段」「改」「朝夕」「午前」「午後」などを示すとき。例 मई माग नी बहुनी विधि को 「5月1日に」

बारह बजे दिन को = दोषहर को ब्रि£्स-ः\_]

(CE) 1) मुबह को नौ बने (Yill) 915(C) १८०० (C-१७०६) १८ के अ को लिए १८७१ ८, १८ रात के नौ बने बनी बने राम को (Yill) शिन के A -2 -6

6

नो वजे (क्हां) श्रीहरू. १८४ एतवार (=रविवार , ) को (मध्य मध्य) , आधी रात को (११४६) ,

दिन को सिंद्रा, तीसरे पहुर को '११९८ , दम घर नो १९८८; आणे को

रिटर, टांग्डिक को डेडर (१७४१ ठ- ■ नी वर्ज गत (४६.9६)।। स्वह नाम (कुल्स्ट), बाद (कुल्स)

たなし、日付いや「野名」に新はは断できない。

- पानी हो ,चार दिन को काफो है। 水は2,3 日間充分である」なとといわれる。
  - 3) पहने को=नाम को 「名目上 は肌なる問題句である。
- 4) なお 「防悶」 については、261ペーン(1)、および271ペーン(1) とその値で1) が明のこと。

# 3. 対 格 (फर्म)

この場合、役権形のほかに主格形の用いられることが与格と異なる。 それで、如何なる場合に主格形が探られ、如何なる場合に連格形が探られるかということに一応の素謝が払われなければならない。

### [2] 代名詞の場合

授示代名詞が「物」を示すとき、主格・從格両形の選択は任意である。 例。

भै वह [ - उसको] तुसे दूँगा । 「組はそれを想に与えよう」 हमें वह [ - उसको] दिलायो । 「ほくにそれを見せなさい」 भै वह [ - उसको] पढना पस्त करता 「私はそれを続けのか好きだ」 हैं 1 - मुसे उनको [ - उसे] पढना

पसद है।

たよし、指示代名詞か「人」を示すとき、それは常に区すら格形の従格 か収られなければならない。

□ は関代名詞 南市「食」「打」「とれ」の場合には ごれ自体ので味の相違や 格欠の相違なとで一切に致われない。即ら 間接目的記 つまり対格はかりてな く 立思も「人」を下し かのような種類の時期が 用いられるとき 南市 の成 終充がなられる。例

तुम किसको (=किसे) देखते हो ? ाश्चाद १४ हिटा ४०० ।

上記第19で もし「何」かび味されるならば किस वस्तु。(一句句。)
「何约」まけは क्या 「何」か使用されなければならなし。彼って おは点を打っ けのか」のか会 तुमने कौन मारा ? とするのはまりで तुमन किसे (一 किसको) मारा ? としなければならない。

しかしなから 次のような構文では 電荷 かりとえ 人」をあさす 「何」 の意味のお合でも 同様、その提信礼が採られる。例 पान (電荷 ( ~ (電視電) ) 電 本音 書? 「女巫とは何を、うか

この種の構文では 両対格形中 存着 の方か一門一般的である。

#### 【b】 名詞の場合

 対格名詞の意味が 限定されている。「人」を示す 場合もこれと同じことである。

しかしなから、上記の原則に反し、भैने यह चिट्ठी पढी है। とか मैने एक चिट्ठी को पढा। とかのように 全然源によ用いられることもある。

(1) 論意限定の対格名詞か「人」以外のものを示すとき、主格・与格 両形の選択は圧むである。例

मेरा ब्ला [-मेरे ब्ले को | पकडो। 「私の犬を捕えなさい」

बंह काम [ उस काम को] करो। [その仕事をしなさい]

मैने उमका आना [=उमके वाने को] 「私は彼が突るのを好んだ」

一般に、「人」を示す以外の対格名詞が限定的意味に用いられていても、 その意味が不明にならない限り、日常の会話では主格形の採られ場合が多 い。

- (2)以上とは逆に、対格名調の語意が不定でありながら 前 を採る場合がある。
  - (1) 一般的な場合。例

ममय (को) व्ययं मत ग्वाबो । 「黔間を空費するな」

मैंने परे एक मीर (को) देखा। [私は彼方に1300くじゃくを見た]

□ 「吐む」または相手の「止む」を引くために不定対抗名詞に 町 が用いられることもあるが好ましい現象ではない。

(11) 他の格との混固を避けるために。例

धन को धन कमाला है।<sub>या</sub> िळळळळळळळ

<sup>(1)</sup> 直次=「ひかいさもうける」。

वे हु रर मा महन न कर मनी। 「彼女らは苦味を犯殺し得なかった」

□ 17ではた、のためのに関す更もあるために、上行つような場合 対作に 町 ・たいとせてと目的方との見合わるつきにくい。

2) は)、ま; については、「民内」(19) (238---) 「食内・(2)-(6) (25(ペー2) 「代中・(a)(33) よび(i)の(i)(254 \*--) かりのと、 (m) 二つの対称を必要とする計算と用いるよう場合、お初の対称名割

おたとも不定的なでであっても、それに 引 き気られる。例

पुरनक को स्रोग जानना । 「永を記と思いなさい」 गाय पाने बाता का भावें समयो । 「一緒に学ぶ人ぼさ兄れと思いるさ い」

Lall colorate States and the action of the colorate of the col

जनने मुझको झूठा बहा । ११३३६१ १८११ ४८१

मै आपको अपनी माता समाना हैं। स्थाधकर के कि

- た!、こつの目的がと言るまでには、他に देवा हिंद रुग्धरी, वेपना でとまたか: पाना िंद्र として記述す」, पूछना हिंद रुग्धरी, वनाना हिंद्र रहाई के इंट्रिका, बनाना हिंद्र हैं के सुनना िंद्र रिटाइक्टर
- (3) 常に को दिश्विमितः
- (4) 人名の時。例

मैंने राम को मारा धिक्ष ५ ८० ८० छ।

(III ま : ) मुलावा 「呼ょ」と共に。——この場合、評意の不定・限定に

250

無関係である。例

किसी सेवन को बुलाओ । 「誰か召使を呼ひなさい」

(正 1)「誰求か するのを見た」!誰某か するのを聞いた の構文中、人!を 示す 等求か! に対称かぜられる。

मेंने उसको बातचीत करते देखा । सिक्षंक्रक्रीरुटिंग ठ०रुही

मेंने उसको बोलते सना। विद्यालकोही राज्यकोही राज्यकोही

この場合「見酬き を示す動詞の前の分詞の従格化に注ご〔329ハーノ〔儀 考〕の参知〕。

また वह मुझको अपने से बढ जाना पसर नहीं करना। 皮は私か改日 サより汚れるのを好まない。なとも同しことである。

3) 数学の割算や掛算にも ず が用いられる。例

चार को दो से भाग दो। 4 ½2 ए%। १६८०।

दो को तीन में गुणा करो। 2123244712301

# 4 點 格 (**करण**)a)

# (1) 関 具

# (2) 手 段

मै रेल-गाडी में बार्जगा। [私は代車で行きましょう] इस सब्द से नहीं गजर सबते। [この道は遊れない

<sup>(1)</sup> ウルトゥーでは尊格の一部として扱われる。

□□ このほか 年は 別年 『」と一杯に用いられるとき。よくお晴される。『) बर उनने हायो मारा गया । [श्रीक्षेष्ठ 60] चश्रेट श्रीक्ष

(3) 行為者に

मेरी ग्या उसने हो बनी। सिक्षाद्वादादादादादादादादादा

यह तुमने दवना नही।

यह परवर महाने नहीं बडा Im [COति इस् १३१९ में ६ से ६३० जार ] 「花「または「それりは月の下に食え 201

### ५ रह १६ (अपाटान)

(1) 並 性・委 前

मै आपमे प्रेम न्यता है। 🛮 🖺 🖽 ऊटा २००८ ।

मद को अपने गरीर ने प्रेम है। 「行か行分の斗体を愛する」 मां को धर्ष ने (=का) प्रेम होता [[]:2][1:2][1:2][4:3]

ŧ١

उपन्यामा ने उसे बहुत लगाय था। निरुष्ट श्रिक्षकी विदर्शित हैं।

(2) 恐 伤。容 怒

बाप विगमे डरते हैं।

「あななは誰を恐れている人でナかり 「姓らをいらだなせてはいけない

उनमे छेद छाट न वरना । वह मुत्रगे एठा हुआ है।

「技は私に立貫している」

इम विवाह में मब मीन प्रमन्न िट क्रिक्षिट स्टिप्स है द्वार दें ないりょ

[अप्रयम ] है। (3) 地原・ねたみ

वह मझमे द्वेष बज्ता है। 「牧はするれたている

<sup>(1) 143</sup>ペーン(5) かり、

वह मुझसे कुढ गई।

「彼女は私をきらった」

वह मुझसे बहुत जनता ।

「彼は私を大変ねたんでいる」 「彼女は私に預をしかめていたもの

यह मुझसे मुँह फुलाये रहती।

でし

(4) 拒絶・禁止

मैने वेचने से अस्वीकार किया। 【私は売ることを拒んた】

उसने मुझको आने से मना किया। 「彼は私か来るのを然した」

ただし、幸福寺 前 [一哉] 南龍 で称 可能 सकता (「見ることを歌も差し止め得ない」と言われる。一方、前衛 सुनने से 可能 寸極れ (「近も聞くのを差し止めない」である。

(5) 承知。通知

वह मुझसे भ्ली-भाँति परिचित है। 「彼は私をよく知っている」

आपसे यह निवेदन किया यया था। िकदिराहर एक्किक्किक्किक्रीरी

मुसको इस बात से खबर हो। 「私にこのがを知らせなさい」 たいし、मेरी उससे जान-पहचान नहीं है। [私は数と知合いでない] (点深

一切と私との報しき (知己) はないりょう मेरी आपसे जान-पहचान हुई। 「私はあなたと知り合いになった」などである。

■ その他、例えば उपने सोगो को बुदे कामो से दोका है। 「珍は人々に をいけいを止めさせた」のような「防止」を切め「節制」「放字」「己だ」「ピッ」 「恨み」「反対」「恋奴」などのむを表わずのにも、」このように、目前から、こ用 いられることが多い。

(6) 陳述・質問

उससे यह बात कहो। 「彼にこのことを言いなさい」

में , उससे यह पूछता है। सिक्षंस्टर्शक अंधर र!

तुम्ते एक भेद की बात खोलता हूँ। 「江江內正江老一つ開神しょう」

(1) で表すが「可作」または「命令」の意になるとき、恋格の代りに与格が おおれる。例

इसको हिन्दी में नया कहते है ? टिक्टेंस्टर राज्य प्रति अपने को कहा । सिक्टेंस्टर टाउट्सेंटर राज्य अपने को कहा । सिक्टेंस्टर टाउट्सेंटर राज्य स्थान

たいし、専奏者は 人情代名詞と実に用いられる時に限り、単語的に その 第二形のり始め 第 に代用されることがある。例 第 夏昭 [ ~ 夏昭] 可要 専業者 [ 形成型にこれを言わり」

2) बोसता के 1831 एंटर्टर, किंग्रा एंटरुठ, क्षेत्र, नह सन्ही हर्नू बोसता है। द्विप्रक्रेडर १०१० - क्ष्ट्रिय एंट्रग्रा, बह मृत्रसे बोता। 「लाक्ष्रियाक्षर्यक्रियाक्षर १०४० वर्षु बन्ता है। २८६२ क्षिप्र पंतर्कर १०४० - २०१३ व्हिडा स्थाप्तर ।

また 前回引 はじゅの吟声にもいわれる。例

मेदक बोल रहे है। किनानकार ८५ ठ०

3) 実を可 が「順度する」「気付く」 立に用いられる時にも、やはり 与性 のぞさばかられる 例

किमी ने मुझको न पूछा। इसैंडेक्स्स्ट्रिकेन्क्रिकेन्द्रि

4) たまし、毎年日一年日初日「「告ける」とては、存得の代りに与格か存られる。例

महायो बतलाया नयो नहीं ? स्टिट्स्ट्रिटेस्क ना-००।

5) 竹にパノカール (बमाल) 即ちへノガル地方の人近そでも白なさは中なる(深江) や「命令」を表明する場合でも、よくよって उपले रही [बोण, पूछो] などといったりする。同株 मेरी नमन्ते [-मेरा सलाम्ला] बन को कह

<sup>(1)</sup> kahnā と共に本語を用いるの社能方的。

<sup>[2]</sup> イノト払社は外の者によって使用。

a) 」「毎によろしく」などと、南南 が 刊 よりも一層多く使用されてはいるが、 みが用いる方が正しい。

#### (7) 而会。訪問

प्रेमचन्द्र से भेट

「プレーム・チェットかどの面会し

उसमें मेरी भेट हुई।

「私は物に会った」

(- मैने उससे भेट की ।)

मै तमको उससे मिलाईगा । 「私は君を彼に会わせましょう」

(記 1) たいし、दर्शन s 「面会」「訪問」は常に複数形板いされるので आएके で前す ある ままず? ルット日にかられるでしょうかしかととしわれる。

2) 上記のように「直去」あっての「面会」や「訪問」でなく、「個件の出 会」が音味される時の構文については、239ペーン2 (a) (i) (i) とその備考算 間のこと。

#### (8) 要請。新願

उसने मझसे क्षमा गाँवी ।

मैं आपसे दिनती करता है। 「私はあなたに際願します」 「彼は私に容赦を求めた」

दिवर में प्रार्थना करो ।

「袖に折りなさい!

मझसे क्या चाहते हैं?

「私に何をわ切みですか!

### (9) 翻条・新空

बह मझमे सड पड़ी है। 「彼女は私とけんか [strit 復突] したげ

उसमें मेरा प्रतिदिन झगडा रहता है। 「彼と私とは毎日けんかだ」

उसको पत्यर से ठोकर सगी । 「彼は石につまづいた」

<sup>=</sup> उसने पत्थर से ठोवर खाई।

<sup>(1)</sup> ヒノディー・ウェトゥー両語にむけるそ名なインド小型家 (1880 7 31-1936 10 7)

```
(10) 立株・報復
```

अपनी घडी उनकी घडी से बदलेंगा। 「自分の時計を彼のと交換しましょ

à l

पै भी तुमसे इसका बदला लगा। िरिट 古君にこの仕返しとしょう」 िम भी तमको इसका बदला दंशा।

(11) 充高・容虚

फ्ला से भरा स्थान 「花で形たされた場所」

वह सडक कीवह स भरी है। [स्वाह्याद्वर कर्मात है। घर रुपये ने लाली है।

「家にはわ金かない」 「市民 「窓は食になしい」)

(12) 受好。 型味

मझे सरा से अनराग नहीं। 「私は酒をたしなまね」

मुझे इससे वडा अनुराग है। [私はそれか大好きだ]

उसे पढ़ने लिखने से आक्षेण था। 「彼は読み書きに興味があった」

(13) 協 週

पडोसिया से सहयोग 「隣人改との協力」

「告の名と協関しなければならね」 सबसे भेल रखना चाहिये।

उनमें मेरील मित्रता है।

「彼らと私は仲良しである」

「Man 動物などか人」なれることも本項に所属させ得よう。例

यह पन हमने जीझ हिल जाता है। िट ० डीम्प्रोसी र राजे के किया

(14) 会 致

आंबा से आंबें मिल गयी। । धिटिक्सिटेकपीर्र् ा

मही (को) तोप म मिला दो। 「時間を午回に合わせなさい」

हिम्मण १ हरू मेरी उससे , उसनी मुश्त , उसनी और मरी ६८ ६ ३ छ। **更しても同しことである。** 

में स्वतन्त्रता से सन्य है।

私は自由を作われている

2) [程体: や [はたし] を意味する場合には、नमें भरीर मत फिरो। [程体 でうろつくたい。वह नगे पाव है। 彼ははたしである なとと つちか一層哲

**ifである**、

(30) 「(と)-- 抹にしの意に。

वह लडको से खेला बदा।

「彼は少年らと 銘に遊し回った」 जन्होंने मझसे ब्यापार किया। 「役らは私と館だした」

रोटी मक्खन से खाओ।

「パンシハターと一緒に食べなさい」

[元] 1) 第1・2例におけるように まぶの担丁が「人」であるとき 章 可な「(と)

一緒に」を用いる方か一扇好ましい。この種の ぞ も形なるはれたる。例 प्रकृति से तादासम्ब 「白外との公一」

社 か用いられる。例

2) その他 『担談』「注む」 かよひ物の送り先き なとの対学と なるものにも

जनको मझमे सम्मति लेनी पढी। 「彼は私に忧ますることとかななくされ

7-1 「彼に気をつけなさい

足したら

उससे सावधान रहना। मेरे पते में भेज दो।

「私宛に送りた言い」

3) なお、礼 उसके स्वभाव से सतुष्ट नहीं था। 「私は彼の特徴に毎足しなか った」などと「満足」の対象にも、者が用いられる。しかし、これは「は足」を登 味する形容調や名詞の如何に因って 97 や ず も用いられる。 [256ペーノロング

用)例 मै उसके हदम को बहलाने में कृतकार्य हुआ। सिक्षिक ८ १% ८ ३ १ ८ १ ८ १

4) 特に副詞句を作るのに用いられる。例 それで 桜 市「明確に」; すぎ

नम्रता से 「たいへんな々しく」、अधिक से अधिक 「多くて」「せいせい」。

# 6 位 格 (अधिकरण)

ral 9₹

### (1) 瞬 間

この場合。(ロ) [分] [時] など比較的短い時間か(ロ) [一定時] を入わ すのに用いられる。例

- (1) दस बज कर दस मिनट परm [108]105]12]
- (1) ठीफ समय पर 「正確な時間に」。इस अवसर पर 「この好機会に」, वापमी पर 「添ってから」。 उसकी विदाई पर 「終か出際の時にし

また、 議論的別点としては、 本刊 書寄行 पて 初期 は 「1089になったらオ なさい」に合けるように 「 すると」の形になるほかに、 次のように、 पて \*\*しにも 用いられる。 एक 書奇 「185に」、 春春 君育 「185 に」、 引行 若 日寿 ・25:15:7 別に」、 दो बने रात 治 「午前 285から」; दो बने विसरे पहर 「午後 28:11:7

3) पर は付に (時間) を万寸間関めを作るのによく用いられる ダ प्राप पर (時間通りに), समय समय पर (時点), अवसर हाथ सपने पर おかい) ると」。

たいし、समय=चक्तर か他の品目で終終されるとき。そのかか リバルメイ 石かれる。例 उस समय 「その終」「その終」、बात समय 「メバル・ さた

<sup>(1) 77</sup> कर कार्षा नजने में रुक्तिराधा (10091098)(\*) कर १९८८

पल पल (पर=में) は「絶えず」である。の

(2)場 所

(1) 上。表面

पुस्तक के अगले पन्ने पर

「本の次の百にし

मेरी टोपी खूँटी पर है।

「私の帽子はクギにかかっている」

छत पर बहुत मक्तियाँ है। पारा २० दर्जे पर है। 「天井に沢山のハイかいる」

「温度は20度である」

また、転じて「人」または抽象的なものの「上」の窓にも用いられる。

例

जान पर लेलना

「生命をかける」

वह भ्रम पर है।

(食駅=「生命の上に遊ぶ」) 「彼は混迷している」

नीहें का बाजार चढाव-उतार पर है। 「鉄指揚は上ったり下ったりだ」

(23 1) 守着 पて (一首) फल लगते है। 「磁々に注がついている」であるが、 申注 計え はむて マス (一首) お申 者の 着! 「上流は私の身体にあう」では するの方が一層強制である。

2) 可長 平等所 पर 朝 で訳 着い「飲は鈴上をやって来るところだ」に対し、 可長 स事所 ਜ पर गगい「飲は立中で死んだ」であるが、後名では「彼少」また は「兎釣」の2中で失くかった色、(20ペーノ)のとその縁をか明)

3) 本項や次項(n) 該当の 97 は影客調的にも用いられる。例 471 97 中年41「ガンカー(阿)上の夕暮!: 初中雲 77 97 平空町「海岸の角大」。

4) 各種の棄物のうち、自転車や牛馬などのように、屋根や悪いの無いもの に対しては 97、が用いられ、汽車・電車・自動車などのように覆いのあるもの

<sup>(1) 245</sup>ペーノ『写稿』(4) (2)、および271ペーノ『位答』(6) (1) な際。

に対しては その音味の把点によって TT と 育 カ除腔に用し れる M वह उस सडक से टटट पर गया। श्रिक्ष र कार्य र मार र र

ナムし 方可 すて (一ず) ち两 可引 青し「手押車にりだかずへてしょ」など では阿後置計が任意に用いられるが देम में मेरी टोपी बा गयी। 電車内で私 の何子か失くなった」では 紛失した場所か 電耳内に限定されるか पて をも ってすれば 1内と関わす 各会会でも香利口でもよい 買った関係のあるには でよくなったことかし叫される。 (273ペーノ 「位格」(6)(2)(1) ほご1) ひび 274ペ - 2(3)4a#3) なり)

5) 切む とれ合い格式書目が副国の 359で とは同一行い されっこともあるか 本質的に注っている。97 は (市) 3897 「(の)上に」のようと 現代は設罰 草 来たい、また 例えば जड म कपर का भाग 「むから上のばっ しおいても次 型詞 97 を以て頭詞 397 と取材えることはできない。第一 上例で見られる ように 切て とでは3女型コカゴ用されるということはあり作ない

#### (11) 榜。駐

टलिफोन पर आओ।

「電話の所へ来なさい」

वह गगा तट पर पहुँचा। 「彼はガンガー河畔にるいた

मेरी पीठ पर एक कत्ता है। 「私の背色に犬かいる」

その他 अलाव पर 「かょり 人の所で」。 विनारे (पर) 「岸辺で」。 वर्षे (===98) 97 「井戸はたて」, まで 97 「入口の所に」, あであ 97 「門の所 36

### (m) 境界·線上

यह पश्चिमी सीमा पर है। [स्तादिला छूप्रिमा करें]

अलगनी पर क्यडा पडा है।

「物子されに布かかうっている」

वह नगर रेलवे-लाइन पर है। [二の町は鉄道沿やにある

(17) 距離 - 間隔

सह क्रिने पासले पर है <sup>7</sup> 「それはとれ程の距離の所にあるか」 वह यहाँ में दो मील पर है। िर्देश देट टक्क २ २ ४ ० व्हार्ट क

51

(v) ##

घर पर सब कैंस है?

「家ては皆さん如何てすか」

वह एक स्थान पर आ पर्तेचा। 「彼はある場所にもとり浴した!

पहल माट पर घम जाओ।

「最初の曲り仏で回りなさし

(3) 進 椒

आदेश ( नमन> ) पर कारना 「見本に基いている!

वह भेरे इजारे पर बलता है। 「彼は私の合図に従って動く」 घडी नी लय पर हिला।

「車の」スムに払いて提砂した」

(4) 方 \*

वैल घास पर जीवत वितीत करता है। 「牛は草て生活する」

कौन स रास्त पर जायें?

「とんな方法で行うましょうかり

□□ 〒1 別では 対 の使用は全り良くない。 〒2 例は「とんな方法が好らるへれ きか」からねられているか 者 お用いれば単なる 「子取」かっされる。 रास्ताの ार्था सं रह हैसार उत्तरकार्या मेर्सा प्रस्ते पर सं रिष्टिश विदेश のほかし 「方はで」「前位で」のだにもなる。 🗏 अपने अपने रास्ते पर चलो। 「め」め、の方法でよって行きだえ」「それそれの夜頃」従って行動しなさい」

たい वह राष्ट्रआ की तलवारे अपने हास पर रोकता था। 「彼はずともの のを自身の子でない 止めていて」でも 着 を用いれば「丁段」かうされること トニュラ 「250ペーノ [ヹド」」(2) さまび274ペーノ (b) (3) な計)

(5) 義 務 वह लडाई पर गया। 「彼は戦争に行った!

वह अपने काम पर गया। िं सिंधिविश्विणस्मारित र !

वह छुट्टी पर गया है। 「彼は休暇を取っている」

बह पहरे पर है।

「彼は見張り中だり

30 1) 第1例で TT の代りに 新 は用いられない。第2例で 新 シ代田され

は、「義務」のためでなく。「自身のため」かを味される。

2) 特に動詞 杯刊 「従事する」の前によく用いられる。何

वह अपने काम पर लग गया। विशेष विमेशिय किया

जसने मझका अपना घर चनाने पर क्षित्र शिक्ष शिक्ष कर कर किया विकास कर कर किया विकास कर कर किया विकास कर कर किया कि लगा दिया । せたし

(6)原 因(1) इस पर उसने कहा।

「この事で彼が言った!

जनमें रपये पर लडाई हुई। 「彼らの間にお金のことてケンカか

起こった」

छोटी छोटी बात पर भी बिगड जाता 「(彼は) 極く ささいな事にも 敗を 立てる!

ŧ١

(2)期 連四

जलर दिया जान लेने पर 「北の方角を知ることについて」 जर्मनी पर लिखी हुई पुस्तके 「トイノに関し書かれたなり

TET すては特に表質なとによく用いられるとサに 形容計的にもたる。例 fire 田東 पर निवध 「イント数に関する論文」。

<sup>) 258</sup>ペーノ「飛路」間 む昭

<sup>1) 256</sup>ペーノ「毎件」(D) まよび 276ペーノ「位格」(b) (B) 各門。

(8) 係 省

266

वह सब यस्तुओ पर थेप्ठ है। [それはすべての物に優れている]

बह बिद्या में मझ पर श्रेष्ठता ले गया। िर्कादिक वाराध्य よりも優れた」

(9)待 調の

बह मझ पर बड़ा जुपाल है। ि धिसंस्थानिक स्थापित

जसने मझपर अवमं विया। 「彼は私に不法なことこした」

□□ 中が actia 「竹酒 千の他「取扱」 えっすある竹」な。 やなのとサル用 いられるに対し 収 は説明語か 我切 肝直 不才 なっかふすとき 各所に **加いられる。** 

(10) 結 末

मैं इत परिणाम पर पहुँचा वि 「私はとういう私論に逢した。」

(11) 海 足(1)

इस पर मन्तुष्ट रह। 「これて満足せよ」

इस पर सन्तप्टता वरो। [दशपळाटा दशेश

(12) 注 意

गाडी पर ध्यान रखी। विस्टिमेर्सिट देशे

जमने गाडो पर व्यान न निया। 「彼は耶に社意しなかった!

(13) 行為の対象に

(1)攻 整

वह मुझ पर ट्ट [=पिल] पडा। 「後は私を思うた」

<sup>(1) 258</sup> ペーノ [病格] 四念所。

<sup>(2)</sup> 物語などの。

<sup>(3) 260</sup>ペーク(質な)3) 参照。

मैने उस पर चडाई की। [Lは役を攻撃した]

मैने तम पर वपड़ा मारा। [६।६११८एमध्याकाकाका

ा तलगर चलाना (L) ग्रदश्लि □रो , बन्द्रक चलाना (L) पर्वार ध とでも せてかればかしなる

(11) 上 領

हमने उस पर अधिकार कर निया। [क्रिकाक्यावस्था क्रिकाक्या दर्ह पर भरा अधिकार हा गया। िंट टर्का क्रिकेशिं∪ °ू

(m) 註 点

बह चीन पर राज करता है। िहांद्रांगिय क्रांसिट एक

पह ईरान पर राज नरने वाला हुआ। शिंदादेन २००३०० विस्ट ५०% औ

ाहा (पर) ताक लगाना [-वाँघना] (१)११ अठा (६)११० ou क्रंट िश 祝の対ち」も「斑に所以さすへきものであるう。形に「見る (それぞ) リンケ ちゃこの対けななられるたけである ナメレ मन पर देवा। なら「れな見なさ 1 ではたく 杭の上1 何かあるか プロセので。

### (14) お椿の対象に

(1) 信。不信

मझ पर [-मेरे ऊपर] भरासा रखे । [स २ (१)मा ८४३)

मचे उसकी प्रतिज्ञा पर भरोगा नहीं। सिंधई१०१।३४२।१॥८६०।

मझको उस पर सन्देह है। सिक्षा स्क्री

ा गाल्या वस्ता कामि शिक गडला-र उनमें १ निवास हो। एक

く「竹」「が桁」ナガタにされる。

(ii) 同情·親切

मब पर हमा रखना।

「みんな1あわれみなさい」

वह ममपर [मरे उपर] हपानु है। [ध्रिक्षांद्राध्यातः]

उसने मझ पर बडी कृपा की। 「彼は私に人変製切でした」 ≃उसकी मझ पर बडी कृपा हुई।

(m) ## 3%

मै जमपर लट्टू हो जाता है। सिक्टरास्प्रिटेशरा ठ

वह मुझ पर मुख्य हो गयो। 数女は見に忍した

मैं उस पर मोहित हो जाता था। "सिक्किएकिएर पं

(1V) 接 155

अपनी बुराइयो पर पछताओ। 「自分の思いことを化悔しなさい」

अपने आमस्य पर हाथ मल रहो। 🗀 जिळाडी ति स्थिक एट 🕬 (v) 笑 い

तम क्मि पर हसते हो? 「江は許を欠っているのか」 उमना मझ पर वडी हैसी आई। 「彼は私を人いに欠った」

億

(vi) d

आपको किस बस्त पर अभिमान きっ 「何か御貸役ですか」 जसको पत्र पर बढा घमड है। 「彼は肚子か人白恨だ」

「★」「☆!! 「おたみ」などの時情も本項に記すること知論である。例 जम पर [=जमके ऊपर] त्रीध मत [स्ट्रंट्रुठंटा]

न्म उसके वेतन पर क्या जलते हो ? शिक्षा कार्य देशी देश देशी देश

कर।

(15) 全銭関係に

(1)借金

मुस पर उसका उचार है। 『君は彼に借金かある』

हम पर तुम्हारा नितना आता है 🤊 「ぼくは君に幾ら借りかあるか」

भेरा उम पर बुछ रुपया चाहिये। 「被は私に若干の借財がある」 = भन्ने उसमें बन्न रुपया लेना है।

(11) 値 段m

िम दाम पर [=म] बेचोगे ? 「(武は)機らで死るのか」

बह सौकर तुमको कितने पर पडी। 「その額は幾らしたか」、

この場合、すず、や 帯 の方が一般を過である。上記の事を例などはむしろ状
用は、 なぎ 作者中 申 [一年] आ国 ↑ 「それは幾らしたか」などのない方の方が
一般的である。

(m) 賃貸借·利息·保険料

मूद पर उधार लेना [利子付で借りる]

भै यह बंगला किराये पर लूंगा। 『私はこのパンガローを貸借りしよ うし

पर का दम लाल येन पर वीमा हुआ 「家には100万円の保険がついてい

ι

الة

[23] 「罰金」も本項に属し、可要 पて 両折可 前 中町 1「点に計算に処せられた」 などと、では上の主題に पて が用いられる。

१. ६ ६ . ट ० मके. 他弘河の代文を採出上, उन्होंने मुझ पर जुमांना कर दिया

[一時有者でき दिया] 1「彼らは私に罰金を認した」のように、पर が目的に行ける。

### (16) 勤詞の不定法に

(1)「…すると」の音に。例

उसके पूछने पर

「技が得ねると」

विपत्ति पडने पर

「別が起きると」

<sup>(1) 244</sup> ペーノ [ 写作] (c) (l) (3)、 たよび 276 ペーノ (化作] (b) 助 参拝。

(11) 記述を行って「しかかる」立に。例

वह मरने पर था।

「ひは死にかかっていき

पेही पवले पर वाते है। 「小んかどりかか て う

CE THE TENT IS HERBRE ITER IS THE ME NO THE OF आया । हिंदे शिर्म एक त्र शिक्ष रहेत है है दे

(1a) 南 お作、丁 にもかゝわらず」の真に。 切

परा प्रयस्त बरने पर भी रिनिट अगिर ५० १० १

□□ 1) 「またにはどすしもく止けにけくが企とは限らす ポッカム」もはない

に 村中名ので代名のこけくいへでも「「しまれたることもまる。べ

इतनी मन्दरना पर विशेषाहरू हो देशकार कर है।

2) 「にしかいわらす」のでは 南 かけうかけのはなでもしいこれる。 5)

左

अनेक प्रयत्ना के होते हुए भी वह । इंडर लक्ष्मां देश राज्य है। असपल हो गया।

(10) 中をけって「・のみならす」の方に。日

इतना होने पर भी 「これほど花るはかりでなく」

वह सुन्दर होने पर भी चत्र है। 「数女は久しいはかりてなくだい」

LE. (bu) は前句と相反した章の仮句を従うととに(w)は前代の前句と も互に反及的でない 場合であることは自ち明らかで。 そのい けんてかるかは一に 前色の交換によって計畫ることである。

(17) 名詞や動詞の反復の繋ぎに。の 例

(1) प्याते पर प्याने चढता िमः ११ मि ११६ मि १३)

वात वात पर झंझवाना

「肝なだいらいらする!

<sup>(1) 237</sup>ペーノ「両在」(7) む形。

(h) आएगा पर आएगा।

「(はは) 結局火よう」

「(饮は) 結局やって来た(

आ तका घर आ गया। मच्छर त्यारा नह पीते और नताते िक (६) विकास कार्क कार्य ह

पर स्ताते।

し続ける1

(ED 1) は上のほかに \*数否しなどもある。例

मै इस पर विरोध नहीं करता। शिक्षट कश्चाट हा शि. ११००

2) すては「場所」の場合に特によく省略される。行

बह मेरे घर (पर) रहना है। व्हिन्नहरूठा

क्ष एक गाडी किराये (पर) सँगा । सिक्षक 1 क्षा कर

2) 97 は「様性」「時間「周折」「距離」に関連したデス切が作るのによく田 いられる。

(6) में

(1) 图 题

(1) 町や 村よりも一階長い時間。即ち「敦時間」 「西川日川年川年

M 1 FEA代 1 「老節 1 「始め」 「終り 1 などに用いられる。例

हो हो घटे में [- बाद] [2時國母に]; सप्ताह में दो बार [透に2回]; अवलं महीने में [双月に]; पिछले महीने में [先月に], इस वर्ष की अवस्था में 「100歳に」、प्राचीन काल में 「古い時代に」「訂」; ऐसे समय में 「こんな時 हा। इन्ही दिनो में [धक्रेय 6 कर छात्र (बेटार 季節, 時代) हा) श्रीचा कार में गिर्फात्ती, आरम्बः (-प्रारमः) में शिकात्ती

「 1) दिन में [日中]; रात में [京中] におけるように、いうれも [別記] が ぶされる。このた 耐 が一気に行って、成地示すのと違っている。しかし、可て में [ नवा दिहा; बन्त में [ नको किंगहा हिहा का का का お前 によく代明されること。ならひにこれらの正義記ごとも名のされたまい。つ

まり名詞そのまゝの光で福詞として用いられることは既止の重ってつる (169 ペーノ(位で) あよび 246 ペーノ (44考) 1) の末節を飛)

2) ± १८ दोपहर की बारह बचे दिन को । E+x ६ दोपहर में १८ ८ १० १०१८०१ क्री १६८१०, १८८ दिन दोपहरी में कहाँ फिर रहे हा ? । ध

は)显日中とこをうろつしてしるのか なととしわれる。

3) (1) 項の場合の 單 か 特に一般の形容。4 で指すたて ふんぱっけるか合に よく名数される。例 अगले वर्ष 「来年」,बारह महीने 一十中 、ん हर इसरे सत्ताह 2週間ことに」, उन बिना その頃 「当時 उन्हीं बिना ちょ

4) 例えば 神明寺 神倉市 華 平町 東京町中 意? 「乗月のブロック」は何か」で は 「如何なる内容のプログラム」または「プログラムの本 へとど方的なもの か趣ねられるに対し、著 の代りに顕格 町 をはてすれば、 1ヶ月中のをプロク

7ム」か尋ねられることになる。(1) 「一定期間以内に 「の意に。例

दो तीन दिन में [2 3日中に]

एक घटे में आओ। [1時間以内に来なさい]

(m) 「期間中」の意に。例

うと その頃 に

काम के घटा में 「仕事の時間中に」 बातों बातों में प्रमान को काम 「一様に美している内にケノカにな

बातों बातों में ऋगडा हो गया। 「一緒に話している内にケノカになった!

2) 上記 (1) (11) लिहार में ६1८ विद्यंतितः ला एक वर्ष 13 टा, दी दर्ष [2年間], कई कई महीने [数ヶ月間も], कुछ दिना [4.日間] (2)場 所

(1) 中、内部

घडों में चाबी दे दो। 「時計にオンをかけたさい」

यह जापान के बीच में है। िस्सारेसिकणसंगादक है।

転じて、抽象的なものにも用いられる。柳

बह कोच मे शर गया। 「彼は怒りに溺たされた!

[EE] 1) 可言 पर 可言!「彼は字の中にいる」は、家という建物の内部にいること がさ味されるに対し、するすてすて青」「彼は在書する」は、彼が太皇内と祖らず、 納屋の中でも庭園の中でも一向差支えない。家敷内にいることが育りされる。 同様、可言 耳て पて प्रता 青」は、彼は学校でなく、米で勉強しているで、 生た そこれ りて 知可し 「駅で全いなさい」も、駅の構内なら、たとんび物の前

でも徐わたい。 2) बीच में (इक्टा स. आगे (काटा, पीछे (कटा केर श्रीकट (क्रि.) を示するのであるが、 इस वीच 前 「とかくするうちに」では「時間」が示される。

3) 草 の名的については、277 ペーン儀名2) 参照のこと。

(ii)「身体」を示す語と。m 例

उसने मेरी पीठ में [=पर] गीली 「彼は私の背中に弾丸を打込んだ」 मारी।

मेरे पांडो में मोच आ-गई है। सिक्षिट रूर एक्टर कोट मेरे शरीर में ठीक बैठा है। [上花が私の写体に合う]

Mr Cur)

देसने और मुनने में बड़ा अतर है। 「見ると聞くとは人赴い」

[E] दोनों में [両者の間に] , तीनों में [三者の間に] ; आपस में [五に] なとも 局様である。

<sup>(1) 959</sup>ペープ「会告」四 お照。

には 茸も者 もなしく用いられる。例

सुनने में [-से] और देखने में 「धरिट रिठ ट は大変に

[=से] बडा मेद है।

इनमें (और) उसमें [न्इससे उससे] िस्तरास्थारः ठ

सादृश्य है।

2) �� は特に1対から成るものを対比的に立へる場合に限り 対比。を行

すのに用いっれる。例

हयेली के नमूने पर तलका। 「手のひらに対して足の事」

(7)值 段(1)

क्तिने में साये ? नौ रूपये में। 「幾らで待って来ましたか。9ルビ ーで!

यह दो आने में आता है। 「これは2アノナで入手される」

दो रुपये में यह महँगा है। 「これは2ルピーては高い」

CD यह कितने में आता है? 「これは幾らしたか」の機なは、また यह कितन

町 もっとすることもできる。

(8)「・に関して」の意に。cts 間

तुम इसमें क्या कहते हो ? 「君はこれについて何というか」

इसमें तुम सहायता करो। [८०१७ त्वाधिष्ठको क्षेत्र] उसकी उत्पत्ति वे सवध में [स्थाधिकारणाजा

□□ 1)この場合。ある特定の名言との被句の形で用いられることが多い。例

जिलालेस के बारे में 「硝文について」

<sup>(1) 269</sup>ペーノオロ(a) (b) (l)、 たよび 24ペーノ [与わ] (c) (l) (l) 合成。 (2) 256ページ [お称] (の たよび 25ペーン (引き点。

2) 草 も慣用的に古吟されることがある 📗

मै भवा रहता है। सिक्षाद्र र करें।

यह दिस भाग अता है? टिशास्त्रक स्टिश्च

क्या गाडी कोचे रकती है ?

3) में रेट्राज्ञणरति ठरःश्राद्धर माध्यतिक ला बन्त में हिर्। अर्था, बास्तव में द्वारा, मक्षेप में (चन्ते) ह्यापाटा, मेरे (पास-) पडोय में हि वर्तमाना, देर में हिर्दारा

4) 貯入 民格後置訂を伴うことかある。例

इस बक्स में वा रुपवा को गया। िट्यांश्यक्तिके १८५० र ।

5) また よく形容詞的にも用いられる。 🖺

पुष्पदान में पीले पूष्प स्थि ४०००० इस्स

चित्र में तोते को देखो। अध्यान्यकार्थकर प्रदेश ।

(c) तक

(1) 跨 所

この場合。(1)「時の於止点」 または。(11)単なる「期間」か表わされ

5. M

(1) १०० से २०० ईमवी लक 『西暦 100 年から 200 年まて』

म क्ल तक दापस आऊँगा। 【私は明日までに帰りましょっ】

(n) मुझको दस दिन तक ठहरना पन्ता 「私は10日間器在しなければならな

ここ 1) この「邦間」のか合には、市本 はよく行かれる。例 秀田 [一योडे] दिना 「武田間」、 有物 [一योडी] देर「動吟の間」、 एक महीने「1ヶ月間」、 बहुत दिन 「長い間」。

2)「とれほとの期間」を包味する 「毎日付 देर तक [または 社] は「許」 「分」などの期間を引むるのに用いられ、「毎日付 दिन तक [または 社] は、 「日」「月」 温 などの比較的長期間を尋ねるのに用いられる。
が]

वह क्तिनो देर (सक) पढता है <sup>7</sup> 「忍は最時間勉強しますか」

3) 上例とか、 電影 包す 電幣 [または 著] 「数日間」に見られるように同じ 「期間」を示す 著 と 電幣 との使い分けにも締らわしいものかある。 大体の用法 は次の通りである。

「伊朗的には、著 は「以来」、 有等 は「開題」の包を示すのであるが、 常に動 図の「特性」をも考定に入れなければならない。 例えば、 算 有限 (有す 著 変変) で 賞 「私は10日以来作限中た」におけるように、「以来」の方がは、言さない 関り、 乳間が「現在時刊」である時には、 上記 2) の本例や前記(1)(山)の 例 を初め 算 官 (有す るぞく 初ず可 賞 )「私は2日間だ在できます」におけるよ うに 有等 が用いられる。しかしながら、「現在特別」の「連行形」では 者 が用 いられる、 例

**年 दो दिन से ठहर रहा हूँ।** 「私は2日間(以来)称在している」

本度 「布布州 全て 中 マ本 で表す 表 ? 「 企は金粉が削り放しているか」 また。( )) 「力ま終制」や ( ii) 「未来終制」 ( iii) 「力よ放射的和」が用いら れる終には 有事 がなられる。例

(i) मै दम दिन तक छड़ी पर रहा। 「私は10日間作家でした」

- (ii) दम वर्षे वत्र आपस में शान्ति 110年間 ग्राह्मण्यात्रकार्यः ५५ । रहेगी।
- (m) मैं बहुत देर तब उसकी राह देखता 「私は非常に長く数を行った」 रहा।

たいし、世別り 可す 市 その的はお」「 してはれ」は、「むと」や 現在党 了」の所に ちれる父をも得くことかできる。例

जब में वे गये

「彼らが行ってから

जब में हम यहाँ काये हैं सि.इ.क. २०१८ कर

なか、可可 君子 の用沙については、185ペーノ (11) 参照のこと。

- 4) 慣用的に PT か まで」の音に用いられることについては、261ヘーメ(1) 億51) 当時のこと。
- (2) 類 所

जनने यह यात मुझ तब पहुँचाई। 「数はこのりを私まで伝達した」 यहाँ से नारा तक पितनी फासता है? 「ここから奈良までどれほど辿いで - यहाँ में नारा क्विनी दर है?

DEI 1) में 2001 शिक मझ तक धर मेरे पास ४ L र ६ ज.

2) 8年 は紅格後門型を行うこともある。■

पूरव से लें कर पश्चिम तक के सब अ कि कि छंड टा टिल

देश

たいし、この種の同年は白懸されることもある。例

वहां (तक) वा विराया २०६००। का

3) また。 君事 は「さぇ」ので味で。(1) 名訂」 ^2 (11) 「動詞」あるいは

(m)「助門の不定性」を強めるのに用いられる。例

(1) 3中 有別 です 資本(1) 初申 有 「彼にはとこにも1階の水も行られな 財産(1)

(ii) उसने मेरी ओर देखा तक भी नही। 「娘は私の方を見るしなかった」

(ui) नपा तुम्हे समाचार मेजने तक का िंडावर्स्ट्रारुं ठिहालाट्या है।

भी समय नहीं मिला ? ा\_のかり

<sup>(1)</sup> たとヶ部定及化し行る 時[で終わるを同でも、この意味の 荷事 の前ではおぎのまゝが 用いられる。

# 第二章 代 名 詞 (सर्वेनाम)

### I 人称代名詞と指示代名詞 /पुरुषवाचक सर्वनाम तथा सकेतवाचक स्वनाम)

(1) 各人株代名詞か並用される場合,第1 3 3人株の顧に並へるのが 原則とされる。そうして、各代名詞に対する動詞の一致は、 gr にて始ま る場合に限り動詞がこれと一致する設外、常に男性複数形が採られる。 柳

हम और वह परिश्रमी हो । [君と彼は勤勉だ]

मै [त] और यह मित्र है। [私[कोंंं] と彼とは友人だ]

हम सम बरसो से एक साब रहते 「डिं ८ टिटोट La 数年来, いっしょに

養 1 住んでいる」

(2)人称代名詞の複数形がたとえ単数の意に用いられる場合でも、述 部は一切複数化する。

हम वडे [=वहुत] भूले हैं। 「ほくは非常にお取が空いている」

वे लम्बे और मोटे विदेशी थे 1 「その方は背の高い回えた外人でし

1:1

(3)格の如何に関係なく、人称代名詞も指示代名詞も、核私詞省略の はよくが用される。例

हम तुम दोनों [註〈と記(धःち私选) 2人とも」

हमारा तुम्हारा हो तो क्यों हो <sup>२</sup> 「ほくと君とかいっしょになるなん

て、どうして出来よう」

यह बस्तु ट्रमारे तुम्हारे नाम बातो 「この品物はほくとおとに役立つ」 है। कोमल कमी दम कभी प्रम दानों 「ほとしきすが、昨にはこの小枝、 पर पहकनो किस्तों हैं। 昨にはその小枝と、さんづり回っ

7031

(4) 人名代名詩は常に他の代名詩に先行する。例

तम्हारी इव बान में 'ग्राकटकार्डकर'

हमारी कीन की बाही है <sup>7</sup> ंस्ट्र क्रमेस्ट हमारी कीन की बाही है <sup>7</sup>

मेरा अपना पेट ही नहीं भरता । "स्विमिणश्रीहरू देवित्रका

(5)主格ル等二人名代名詞を指示代名詞は、代に来る主格形裝物代名

|とよく||格的に用いられる。そして、私名か前者の説明調化する。例 | マロ マロ き ? 「あの様たわっているのは何か」

त यह स्था स्ट रहा है? [टिशिक्षेचीलिक रियान वर्णा

यह तमने वया विया १ दिशासी स्टेरिट किया

बह बीन साता है? जिल्लान र प्रदेश हैं है

□□ 1) かのような様文では、以作かごは上の上版になる。行

तम्हारा वया मी गया ? व्यास्थारुप्रदेश ०००

2) 比かと日午竹的になることかある。四門

मया मान आपके दर्शन होती ? शिति, क्रीट्राटा विष्य ती. दे रे ट्रेट्र

(6) 5格、即ち いわゆる 図底目的哲が「人」「行 その中の「小 元 に限り用いられるに対し、対格、即ち いわゆる自集目でには「孔 元」 一 生物」の如何に図底なく用いられる。例

यह मुझे (-मुझनो) दे दो । िटशास्त्र हरू

मै इन्हें (=इनको) पनद करता हूं। गिर्धिति " का Cti 60 है।

(1) 235ペーノ (7) 参用

上記の指示代名詞 項 は当然 第 または 領南 ともなることができる。 しかし、それでは対格・与格とも同形になるため文章かあいまいになり、 口調もやくなるので、たとえ文法的には正しくとも、この場合の 項の後 数化は知力しくない。

もっとも前後の文脈にも図ることではあるか、同一文中に直接・間接の 阿口的別か並用される場合、それらの主格・集格の形如何に関係なく、直 接行的野か間接口的野に気立っことか原則的である。何

मैं उसको तझे दंगा।

「私はそれをお前にやうう

इसको उसे दो ।-इमे उसको दो । これを彼に与えなさい

たとし、次のような構文では、両者互に処分配同し易い 例

मुझे तुम्हें (-मुझे तुमको-मुझको 「私は君に約束を思い出させなけれ तुम्हें) अपनी प्रतिका बाद दिलानी ばならない」

है।

मुमें आपको यह बताने में आनन्द [सिस्किक्टास्टराफ्राफ्रीक्टिकेड हैं। क्राक्रिकेट

(7)人称代名詞も指示代名詞も、私置詞を伴う時のほかに、次のような場合にも從格化する。

(1) जैसा, ऐमा, सा に先立つとき。例

उस [उन, मुझ, नुझ] जैसा(1) 「彼(彼ら私,君)のような」

[-ऐसा-सा]

**उम जैमा बडा लड**का

「彼のような人とい少年」

उम नन्या जैसी सुन्दर

「その娘のように差しい」

三つの類かのうち、これが最も遺跡、そしてき目とも。 3日 にて終わるえおけいぶけれるかつな、ひだかずや ヤ になわる。

[13] 一श्रेट, १५人५ तुम मा बालक किलाज 15 करें हो। मन जैसी दाई 「アのような石質を」などとはへるに対し、地方人は人物代名。例を作ればさせな ाट, माट्डा, इंग तेस, मेरा हमा ठ.

(4) 在置話を作う名割や先容割と同格的に用いられるとも、例

नश पापी ने

「新人のお前かり

मझ अन्ये की नाठो

「竹目などのつまり

महा बेनारी विभानी वा िंद्रालांदे दिश एका स. (६० ० । १४)

のような気の形なく行しいつ者の1

(8) 単位人の代名詞の同格は、希腊的にも既論を使って物質が終化す ることがある。例

मुम्हारे पांडे हमारी ने मन्दर है। शिक्रिक्षिक्ष (क्रिक्रिक्र)

नेगों में हमें क्या शाम<sup>?</sup> 「お前らとはくらは何の拘りかある

のか!(ほくらはお前らに割せたい) (9) 上格指示代名別は時々 寛朝 や 着町 の意にも用いられる。例

यात यह है वि

「事はこうです。即ち

पदि उनकी यह दशा है तो 「もしも、彼らの状態かこうだとす

れば 」

# II. 内州代名詞 (निजवाचक-सवंनाम)

### 1. 主格の場合

मेंने आप ही इसकी किया । सि.विकिटशास्टितः

उसकी स्वय ही जाना है। [संसंविभित्रश्रामाध्यान्य]

आप ही इस से पछिये यह आप 「御自身との人にお祭ね下さい。

可高 き? m 「音節とは何を言いますか」において、主語か「事例」てある
から 南市 の対格は「物」を表わすが、主語が「人」を表わせば対格も
「人」を表わっことになる。ところか、項車 毎可 可で 寝中 司? 自は誰を笑
うのか」では「何を笑うのか」の意に解せねこともない。よって依名の意
味なら、停車 のかに 可同「事」「事例」を入れたば文章か明能になる。

また、 यह विस का विज्ञ  $\hat{\mathbf{e}}^{7}$  [これは誰の絵か] ては、 विस は「人」の ほかに「動物」にもいるる。

なわ、本語は「職業」などを尋ねるにも用いられる。例

वह कीन है, शिक्षक या सैनिक? 「彼は学校教師ですか軍人ですか」

(3) 网格にも伴われる。例

बह आपका कोन है ? 「彼はあなたの症にあたりますか」 =वह आपका क्या लगता है ?

- 1)上記の場合、第1例の ずず と第2例の 幸祉 との入れ於えも可能、しかし、共に 幸祉 の方が一般行きしい。
  - 2)単復同形の本語では、特にその複数性強調の必要ある場合には、前記の 近り 所可 を受けするか、本語を反称するほかない。例、

यहाँ कीन कीन आर्रागे ? [टटाइक्क्रिक्टर्स्टर्स्ट

### B. 疑問形交詞として

(1) この場合、普通名詞にも抽象名詞にも用いられるが、前っ自体は 「人」を示す名詞を作うのでなければ「誰の」の意になることはない。 常 に、「何の」「どの」「どんな」などの意となる。 例

यह पोडे क्नि लोगों ने हैं 7 [これらの鳥は誰々のか] बाहर जाने वा कौन मार्ग है 7 [外部へ行くのはどの道か]

(1) 「・ を と呼ぶ」の言い方には、智に主語「人々が」が占かれる。

(2) 新市 に 研 [後, 破] を変えれば、「とれ」「どの」 とちらの」の 窓になる。例

क्षेत सी कत्या है? 「との少女ですか」 क्षेत सा कच्छा है, यह या बहु? 「これとそれと、とろらかばいか」 प्रास्त के बढ़े बढ़े नगर कीन से है? 「イントの大都なはとれか

- (23 1) もしも、第1列において、単なる 電荷 をもってすれま 竹丁の名かみ ねられる。
  - 2) この種の सा ६4%कारिन सेकोरउट ともある。 ला जापान में खब रे बड़े कौन (से) 「日本の6大賞がとはこれか छ नगर है?
    - 3) 平一村 村 は計々「とんな狂類の」のかとなる。

कीन मा साबुन लगाते हो ? 「(語は)とんなファイ・もつ ^まずか」 इस क्यारी में कीन से कुन है ? 「この花性にとんなほ気のたかあか」 この場合にも、単語的に सा からかれることがある。 料 आप कीन (祖) पुस्तन पढते हैं ? 「とんな木をわばべになりますか」

4) この狂の 南河 もよく反復される 罚

कौन कौन से दिन (लाह्य १ लाह्य १ लाह्य

हिन्दुआ के चार आश्रम कौन कीन [4 ノト数の4生活致陈は]/か』 से है ?

5) 本語と 軽打 や 素衍 などとの住い分けについてはけに止てすへきもの かある。例

कल कोन खुट्टी है? 'शिमध्यंत्रमं खुट्टी हो हो स्थापार प्रस्ता स्थापार प्रस्ता क्षार्यक्र क्षार्यक्ष क्षार्यक्र क्षार्यक्र क्षार्यक्ष क्षा क्षार्यक्ष क्षा क्षार्यक्ष क्षा क्षार्यक्ष क्षार क्षार्यक्ष क्षार्यक्ष क्षार्यक्ष क्षार्यक्ष क्षा क्षा क्षा क्षा क

は「明日は何かの作日か」の意となる。

६। ४:७% १ तिथि = तारीस4 विक्षा २ दिन विवा वार (८४०) वा %

と共」所にられる時にも、特別の表質が要る。例 आज क्या [-कौन सी...] तिथि । १८ । १५ । १५ ।

9 ?

आज क्या किन सा दिन ां ना विकास विकास

[बार] है?

मार्काट्रां के अध्यक्त की दसवी तारीख है। [6 मां 10 सर्पा कर धर り 《名に対する起答は सोमवार (का दिन) है। 「月曜日です」なとといわ 1221-

7) 刊 を住わぬ場合の疑問形窓口もよく反抗される。例

गलाब के फल क्स किस रच के प्राथिक ग्राह्मा के राम के प्राथिक किस रच के प्राथिक ग्राह्म किस रच के प्राथिक ग्राह्म के प्राथिक किस रच के प्राथिक ग्राह्म के प्राथिक के प्राथक के प्राथिक के प्राथक के प्रा के प्राथक के प्राथक के प्राथक के प्राथक के प्राथक के प्राथक के होते हैं? पदने के लिये किन निन वस्तुओ 「勉強にほとんな品物か上張か」

की आवस्यकता होती है?

#### 2 एग

(1) 疑門代名詞としての用例。

तम बया देख रहे हो?

तुमका क्या हो गया है?

□□ 外別は水や過失に対していわれる。中なる क्या हुआ ? ハ क्या है ? も その日義語として用いられる。

「おは何を見ているのか」

「野はどうしたのか!

到て 可切? は「はかに何か (あるか)」の亡のほかに、反気的に「ももろん」 のでにもなる。

जानना 「知る」の「不定時相」と結合した नया जाने ? むにざかになって「誰 カ知るものか」「カ知らん」のでになる。

(2) 屈格にも伴われる。の

वह मरा क्या कर सकती वी ? 「彼女は私に何かでゝたか」

इसका क्या किया बाए ? [स्थाराविक १३ ठ० ५ ५ एक मवारी वा क्या होगा [—ऋ७१३६ ८ ४ ४)

[लोगे<sub>छ</sub>] ?

(3) 反復されるば とんな品々」「いろいろ違った物」の取り 表わされる。 柳

और तथा तथा है? [अर्थाट-१४६ विक के उर्थ ]

□ 幸市 程度 有可 再可 可 素可 ? は「きのう ここに係っていか 起こった」のでの反信であるか この文章から否定 可を付けば「きのう ここにとんなが作か 起こったか」の立となる。

なら この反復の紹合 野々牧駅町ではなわることもある 八一 「竹」と うす名言か 占額されていなければなまさらのことである。

(4) 原間形容詞としての用例。

तुमने क्या मुलता की ? । सिंहरे ८८ छिति ६ रू ० ० ००

आपना वया नाम है? चिन्नांदेशिएके!

स्थि नती वृत्तक स्थाद्यकार्य निम्हार्थक केंग्री वृत्तक राय ५०११०० । स्वर्धाक,

同様 電視 明明 市代研 巻<sup>7</sup>「設は打 (社下) をしているか」では だい」 まずねられるド対し 幸田 明明 さもってすれば 「弦はとみな社」をしていっ か」というでしなり、彼の既常は分っているか 日下とんな在が74代で

<sup>(1) 292</sup>ペーノ(3)、まよび290ペーノ(倍ぎ) 4 参照

<sup>(2)</sup> この「取る」点のは「対対は、れゝは「料金」とでなする目のでの名。」と (すての食可 もんかなていることが分る。

かときかれる。

(5) その他の用た。

(・) 野門などして、女の初めに用いられる。四 例

「これはあなたのですかく क्या यह आप का है ?

(11) 反語として。例

मनुष्य क्या देवता है।

「(彼は) 人間どころか神だ」

गुण का ता पूछना ही क्या। 「美徳のことを尋ねるなんて」

(m) 反新的否定に。例 इसमें क्या मदेह है ?

「この事について疑いない」 「迷惑はない」「構わない」

मप्ट की क्या बात है? (iv) 感慨語として。例

आज क्या ही सुहावना प्रात काल 「今日は何と心地よい朝だこと」 食!

क्या ठडी ठडी वाय चल रही है! 「何と冷い瓜か吹いていることよ」

1) 和 - - 和 は 「 も も」のもの副語は作品である。 副名とも区別 し姓いでなるわすのに用いられる。例

वया दिन वया रात 

वया हिन्दू वया मुसलमान सब ने ान ०१ ११ ६६० छिए ६६६० ५०००० यही वहा।

2) बया में बया は常に状態の「了関しないご覧」や「白紙な 否化」かり えきれる。例

आजवल मसार की दशा क्या से 「昨今、世界行券は全く一次した」

क्या हो क्यी।

<sup>(1)</sup> ただし、言葉じりこえあげれば髪門文になるので、この髪門がはよくさいされる。

### V 関係代名。 (सम्बन्धवाचक सर्वनाम)

これは、先行詞の有無によって 二つの場合か生する。

- 1 先行詞を持る場合
- (1) 先行詞の名詞や代名詞を単に説明する。この場合 相以詞は契6 ない。例
  - यही वह घडी है जो भेन पर पडी 「これこそ、れの上に受けれていず थी। 時計だ」
  - पुत्र बही है जो जपन माँनाप का [मिन्टेंटेविनिक्रेसिक्टिंगानार स्वता मानता है। पिन्टेवेटिकिक्रेंटेवि
  - फला में दान होते हैं जिन को 「花の中に突かある。これや打子と बीज कहते हैं। 呼ぶ」
  - एक ऐसी हाँबी ल आओ जिस का 「ロの小さいとびんを一つけってが मैंह छाटा हो। 結れ」
  - उसने मुक्से वह पुस्तक माँगी जिसका 「後は私かわずした本され来した」 भैन वचन किया व
  - □ 1)「こうしうものす」「こんなのもある」としったようなごしか」は 先行 門と関係代名 )との間 - 更研「こんな」を入れる。例

81

गाडिया में एसी भी है जिन्हें बातु ार्भाण अस्टर्ड दें। ६८८ सीचते हैं।

2) 可 トヘルン・2の関係代名で 枝に 1 年 と 1 分 次付した ちはかて に用いっれなくなっている 可 देहली में जो कि भारत की 「४०४० विक्रीता । — ८५० र ।
राज्यानी है

वह मेरे वास्ते जो बुछ कि वह िक्षांस्था अध्यक्षेत्रांस्य ८-४४ लिए कर सकता है करेगा। १६५३।

- (2) 先行詞と共に用いられても、関係代名詞の意味か ) 政定される 場合と(n) 不定な場合とかある。従って、後者の場合、 可 前着 や 可 で などの物合類の関窓部となる。 観
- (1) जो स्त्री कल यहाँ ची वह अब नहाँ िक 0 0, टटाट पं क्षितियें टेट  $\frac{1}{6}$   $\frac{1}{2}$  नहां स्त्री जो नन यहाँ ची  $\frac{1}{6}$  राष्ट्र रे $\frac{1}{2}$

अब वहाँ है ? (1)

जिस कमरे में मैं बैठा करता था 「私か品に低ってい! 総明の強かー उसकी एक खिडकी खुला करती っぷに関けてあった」 थी:

जिन किसानी को कोई महाजन एक 「どんな金貸しも1ルピーさん好さ रुपया तक उद्योद नहीं देता ロような正性逆には 」

(n) जो शाम तुमको अञ्चा न लगे उमे 「何でも君の気に入らない任事はず मत करो। るな」

जिस काम को तुम बाज कर सकते 「何でも私か今日やれる{} 中山は明日 हो, उसे कल के लिये मत छोडो ! に妊まな」

जो लीग प्रतिदिन ब्यायाम करते है 「毎日運動をする人々は新でも得久 उन्हें रोग नहीं होता। にならない!

2 先行詞を採らぬ場合

(1) この場合は、ほとんど常に「何ても」「誰でも」のなか たわごれ

<sup>(1)</sup> 秘 司... ともごわれることもあるが、上記の方が一層可。

. 191

जो गरण में आए उसे बचाना। 「誰ても遊難して来る名をおいなき wi

जिस का जी चाहा नागरिक हो सका । 「誰ても希望する者は市民になれた」 जिन्हें ईश्वर ने दिया है वे प्रमन्न 「誰ても神から真っちょっれている

रहते हैं।

者は幸福だし

जो माँगुँगी वह आप देन का वचन 「何でも私(女) かねたる物を貸方か दें तो में मांगुंध

下さるとお望いになれば、私はね だりましょう」

हैं।

जो तुम वहो वह मै करने को तैयार 「何ても君のいっことを私はしょう としている」

□□ 第2例のような構文では相関代名詞は不要であり、第3例における相略詞 す が主格的である以外。その他の例においては、対称形。主格形の門はあっても、

しすれる目的格的になっている。 事実、この種先行詞を謂らぬ文章における主格形相関詞はよくいあされる。例

जो चाहो (वह=सो) करो। जिल्हां अधिकार रहे

「何ても君(女)の言っぱり(とは)しょう」 जो तुम वहोगी वर्ह्या। बह जिसे चाहे ला सकता है। । लिए も彼か望むむをはへることができ

Z 1 जो साता है, आप खाता है उन्हें ाबट & (截水) 持 ,て人たものか自身 もなへ。 彼らにもなべさせる

बिलाता है। (2)「一教性」を述べるに便利なこの先行詞無しの用法は、格言・こ

とわざの類によく使用されるのは当然である。 📶 जिस की लाठी उस की भैसाया 「正義は力なり」

<sup>(1)</sup> 真ア=「水牛はぎでも終されつおのもの」。

(3) 社管詞 計 を添えれば、常に副詞となる。 वैसा दी は「同一の状 彼で」で 義者 は関語 義 「その方法で」の数で調である。共に、それ それ単独にも用いられるし、 ず町 の物製調としても用いられる。例

अभी तो वैसाही है।

(私は) 今ま相変らすだ

जैसा मैंने सोचा या वैसा ही हुआ। 私か考えたようにな たっ

बह जैसे ये देमे ही रहे। 「彼らは、元のままでした」

■■ 1) 第1 別では、私気なとで (別と同し状態) にあるさ、なら弦な詞 閉 は、 昨折、枕合調調のためでなく。非常な代名孔容詞としての 着紙 に付くこともあ る。例

वह फिर वैसा ही **बरता है।** िखंधालका एट ८४ हें उ

2) वैसा वा वैसाध [மிறை १ に | तिके ったように [ वि-र्रिए ] वर्ष の期間句である。用例

पश वैसा का वैसा (=ज्यो का 「別別は元のあるかま」(の公) である」 त्यो ) रहता है।

(生しも進化しない)

3 कैसा

(1) 形容詞として。例

 वह कैमी दलहिन है? की घोडे मही होते हैं?

आप कैसे है?

「彼女はどんな花むかり 「どんな馬が窓備ですか」

「できげんは如何ですか!

ा 1) र प्री. आप का वैसा विचार है रे कि. सं× कि र देश पर कार्प केंसा विचार करते है ? [केंक्रेट्रोक्ट्रेडिटर्गक] क्रेट्राटर्श एवं केंसा ह りも 平町 をもってする方か一層好ましょ。

2)「多種多様」の音を示すために、やはり反復される。例 केसी केसी अच्छी वस्तुएँ विश्वक्रिकारिका (2) 動詞として。 町

वें मे आगलगी?

「如何にして火か起とったか!

वह वैसे जा सका?

「彼はどうやって行けたか !…

उसने अपना धन कैसे खोदा ? 「彼は自分の財産をどうして失った n la

□ अस्ति उनका घर कैसा बना है? सक्राय, कैसा अस्टिशिएकठ०००, 「行たる」のでの呼吸引として「彼の安は非常に美しく作られている」でになる か、江山 寿年 シロてすれば、どうやって作られたかその方法、作り力の互換、 行を関係などが質問されることになる。

(3) 感境間として。例

र्मते अपमोम की बात है। 「何と気の毒なことだ」

न कैमी मोडी समझ का परप है। िक शिक्षणिट एक रस स्वरूप स्थाप मेरा खेत कैमा हरा भरा दिखाई देता [सळाधार्याट क्षेत्र टेरि. इट टेरे] है 1

(1) 反語として。例

जाएका कैसे ?

उससे ऐसा भारी परबर उठाया 「彼にこんな重い石がど」して持ち とげられよう」

「पता की आजा को जो पत्र नहीं 「父の命令に従わないよっな息野は मानता, वह पुत्र वैमा । 食子であろうか!

■ 新書書 は「とにかく」または「どうにかこうにかして」のでの副詞句。

ा जैसा

(1) 形容詞として。

この場合には、孔容詞接尾辞 स のような働きをする。例

<sup>(1)</sup> 徒歩でか、車でか、あるいは走ってか はってか。とにかく行き方からねられる。 (2) 失くした野山がきかれる。

मझ जैसा प्रतिहारी उम जैमे प्रहरी का

「私のような家会! 「彼のような見帯人の!

उन कमारी जैसी सन्दर

「その娘のようになしい!

यह कमार जापानी जैसा है। 「この若者は日本人のようだ」

[12] 1) 例えば तम जैसा 「江のようた」というところか やいもすれば सम्हारे 幸田 なとと 幸研 のかに異格を用いるのは良くない。

21また वच्चे सब एक जैसे है। 「子供達は哲一称 (同し) である」な ととらしまっれる。

(1) 割詞として。例

जैसा... आप चाहे • • चाहे जैसे, तरो।

「お弦み通りのことを 」 「(水の) 好きなようにしなさい!

**気報は、時々、「例えば」の意の副詞となる。例** 

जैमे गिरजा घर तो वहाँ न था। 「例えば、数会かそとになかった」

CE ず中 前 「ちょうど のように」「ちょうと同じ方法で」は、単なる ずれ 「 のように」「あたかも」の飲食品である。

(1) 副詞的接続詞として。例

(1) これは、前々項2で述べた流り、常町と相関的に用いられる場合が **最も多い。仓のため、なおここに2・3の例を挙げてみることにする。** 

जैसा देश वैसा भेष। 「郷に入りては躯に従え」

जैसा राजा वैसी प्रजा। 「との手にして、この人見あり!

जैसे गर वैसे चेले। 「この師にして、この弟子あり」

(1)(2) 井に 引州 を以てすれば代名光容詞になり、それぞれ「あなたの好きなことを 」や

「アの好きたことをせよ」の意となる。従格化すれば非に訓詁的になる。 (3) 点状=「四に従って服装も」「弦いも所を第1

そして、肉者の相互関係は जिम तरह उम [\*\*consuc こमी] तरह の 関係と全性なしい。簡

बह पत जैमा [-बिम तरह] बुढे '२०果物比老人や岩名に好かれる और नवान को साता है बैसा हो ように子がにも好ばれる」

[ - जमी तरह] बच्चे को भी प्यास है।

(4) 南州 はまた 省町 のような同類の制型調を作うばかりでなく、治水 代名調で同類の 寛明 を初め、3年 (社位の時には 3年) 石硬「そのように」 や 3年 (社質の時には 3年) 対抗「そのように」などともよく相関的に用 いられる、例

जैंगा बह बाहे उमें बरने हो। 「微が知むようにさせならい」 हमारे बाल ऐंगे ही बाटना जैंसे अब 「ほくの安を今まで巡りかって下さ 着!

जैमे पहले वह मेरे पास आता वा िश्रिके, 数が私の所へ来ていた孤り उमी मांति वह अब भी आता है। に、今もやって来る」

(111) なお、南州 はしばしばペルンニ語の技礼詞 陬 を持う、例

र्जमा कि कापको मानून है. 「ご存じの通り・」 जैमा कि वहाँ हुआ या यहाँ भी । 「あそこにあったよっに、ここでも また…」

उमरी नम्बाई<sub>का</sub> ऐसी ही है जैसे कि 「彼の身反はちょうどなぐらいてす」 मेरी।

ऐसा नरो जैसा (वि) हमने बताया [1まくが言ったようにしなさい] या-ऐसे वरो जैसे 1

<sup>(1)</sup> 物の「高さ」が意味される時には 義司に が用いられる。

しかしなから、作因動詞状名詞としての बाबा は、名詞や副詞に添けして「所有」や「関係」を示す名詞や形容詞を作るのでなく、常に単数從格形不定法に添けされることである。そして、(1) 名詞としても、(11) 形容詞としても、河南 か他動詞に伴われるば目的語も採れる。例

(1) याता-सामग्री पाने वाली 「手荷物の受取人(公)」

तेरा पीछा करने वाले िश्तीरु 追धार ठ人々」

(n) सीपे मार्ग पर चलनेवाली स्त्री व्रिकृत्वं ८४व्येक्टीर प्रियो

सब जीवो पर दया कर सक्ने 「すべての生き物に同協し得る人 वाले कोग <u>जै</u>」

□ 1)本品か 高可の各時相を伴うりには「しかかる」立になる。例

बह बाहर जाने वाला है। 「症は外出しようとしている」

यह चारपाई टूटने वाली है। 「この終台はこわれかかっている」

2) 「人」を示す接見辞としての 可耐 は、その格方 可可 とサに 出身地名に添けされて氏性として用いられることがある。例 切削可可耐 。 新町で可耐 の

(1) 先立つ名間の複数提格化に往在。

おてらおる.

<sup>(2) 67</sup>ペーノ(2) および 92ページ (\*) お原。

<sup>(3)</sup> この姓はサノベー地方に見出される。thāna は「安養」「見張り」などので、

<sup>(4)</sup> 利利利(可利)「アーダッの人」の意。アーガルワール独社北印ー等における Banya 商人院投所度30貨階級中の一つ。その大多数がヴィンス長で、一部がノナイナ教徒である。 銀行、貿易 金融などに従事する者が多い。すべてが最後な変食主義者でありず断主我

## ॥ ऋक्ष्मिन (पूर्वकालिक कृदन्त)

原語 9章 「過ぎ去った」「過去の」の語義の示すように、本分詞は、本 来、主動制であわされる動作に先行する動作を表わす場合に用いられる。 つまり、接続詞を隔てよ二つの主動詞が表わされるところを最初の動詞を 分詞形にした」め、その接続詞が節約される結果になる。

その形としては、(1) 動詞の語根そのましが使用されるか。(11) その部根 に すて、市 あるいは すて 市 かぶけされる。例

(1) यह देश वह प्रसन्न हुआ। 「これを見て彼は容んだ」

यह मृत वह बहुत दुवित हो कहने 「これを聞いて彼女は大いに悲しん で言い出した。 लगी।

(11) वह ठोनर सा कर गिर गया। 「彼はつまずいて倒れた」

वह सहक घम के जाती है। 「彼女は回り道して行く」

इयर पीठ कर के न बैठ। िट 56 एक्ट किए एक कर

□□ 1) たたし。上記のような単文ではなく。複合文中、「本 にて与かれる従比 文を控約分詞か受けるようた場合には、その何で 以下の從民文が接続分詞の目的 語になることを予め明示するために分詞の前に 死 が変かれる。何

यह देखकर कि मेरा वैरी भागा सिकारकाईनिएसिरिक रुप्तिर सिविक्ट जा रहा या मैने उसका पीछा अठिकारी...

किया ।

また、関係代名詞の使用される複合文において、その関係代名間自身が推修分 罰の目的語になることもある。■

कुछ कहानियाँ ऐसी हैं जिन्हे ि किठिएक्किस्टिक्टिक्ट्रिक्टिक्ट्रिक्टिक्ट्रिक्ट

<sup>(1) 「</sup>近去時相に関する分別」の意。pārr-1370k kmylas 「近去に関する的別」とし作され

<sup>ा</sup> ८८ एवं सुन ६ हो ८४% १६९८ १८६० ८०० है.

さいしなどと名詞語尾になったり、また例えば एक बच्चे बाली गाय 「子供 のある雌牛」; सन्दर परोल बाले तीतर 「美しい羽毛のあるンヤコ鳥」, मेरे आम पास बाले लोग 「私の周囲の人達」などと形容詞語尾になるこ とはほど説明格みである。こ

しかしながら、作因動詞状名詞としての 3787 は、名詞や副詞に振仕し て「所有」や「関係」を示す名詞や形容詞を作るのでなく、常に単数母格 形不定法に添付されることである。そして、(1) 名詞としても、(11) 形容詞

としても、可可 が他励詞に伴われ」ば目的語も採れる。例

い याना-सामग्री पाने वाली 「手荷物の受敵人」と

तेरा पीछा करने वाने

「わ前を追跡する人々!

(11) सीघे मार्ग पर चलनेवाली स्त्री 「其っ直ぐな道を行く婦人」

सब जीवो पर दया कर सकने 「すべての生き物に間接し得る人

बाले लोग

名

■ 1) 本語が 割可 の各時相 を伴う時には 「 しかかる」 きになる。例

वह बाहर जाने वाला है। 「虚は外出しようとしている」

यह चारपाई ट्टने वाली है। िट०व्हिक्षेट्रिक्तिककरण्या 2) 「人」を示す投足辞としての 可耐 は、その略語 可可 と共に、出

身地名に添付されて民姓として用いられることがある。例

पानावालातः वागरवाल...

<sup>(1)</sup> 先立つ名詞の控数疑格化に注意。

<sup>(2) 67</sup>ページ(2) および92ページ(マ) 会院。

<sup>(3)</sup> この姓はインペー地方に見出される。thâna は「交易」「見張り」などので、

<sup>(4) 3</sup>月177 引売1「エーグラの人」の宜。アーガルワール性は北印一等にもける Baniya 高 人院校所製306]階級中の一つ。その大多数がヴィノヌ業で。一部がジャイナ教 徒である。 似行、収易、全時などに従事する者が多い。 すべてが概然な業費 主義者であ りか而主義 おでもある。

## II. 接続分詞 (पूर्वकालिक कुदस्त)ण

原語 qず「過ぎ去った」「過去の」の語義の示すように、本 来。主動調で表わされる動作に先行する動作を表わす場合に用 つまり、接続調を隔て、二つの主動調が表わされるところを最 分類形にしたよめ、その核軟調が節打される結果になる。

 (4) 本度 を確 可度 知识が 裏知! 「これを見て彼は窓んだ、 で 報子 可度 可度 可度 可能の 表) 本長寺 「これを聞いて彼女は大い で窓い出した」

(n) वह ठोकर दा कर भिर गया! 「按はつまずいて倒れた」
 वह सडक दूम के जाती है। 「彼女は回り巡して行く」
 इसर पीठ कर के न बैठ ( こちらに哲を向けて比。

(配) 1) たたし、上記のような単文ではなく、複合文中、存 にてま 文を接続分詞が受けるような場合には、その何 以下の従属文が移 語になることを予め明示するために分詞の前に 項表 が置かれる。例 収表 देखकर कि भेरा बैरी आगा 「起の転が送けて行くのを見

जा रहाथा मैने उसकापीछा ऋक्रकेतीर्

また、関係代名詞の使用される複合文において、その関係代名詞を 詞の目的語になることもある。例.

कुछ कहानियाँ ऐसी हैं जिन्हें [क्रेडशाजाधरीर एक 🖫 ५०

<sup>(1)「</sup>過去時間に関する分割」の点。pēre kālik knyā。s 「過去に関する影別」 る。

<sup>12)</sup> ८८७३ सुन ८ हो ८४१६६९४४८४, ८८०८.

पढकर बाप हैसेंगे। ० एउं।

2) 接続分詞で示される動作と主弧画で示される動作とが、一見 同時に設 こる動作のように歴史られるのは、多くの場合、接続分詞が語詞化しているため である。例

समझ कर पढो।

「(世味を) 了解して読みなさい」

निरिचन्त हो कर बैठो। ि এই १८८० १८८०।

たいにおかって」; जान बुझ कर [一章] 「知りたから」。 जो [一年7] लगा कर「こととかて」、 जो मर कर [一章] 「私を終たして」「過及して」、 मल कर

भी「よもや」(直訳wifthでも」)。

3) 接続分詞が 明 を伴うとき一層調測的になる。例 यह जान कर भी भैने चसको 「これを知りなからも、私はそれ〔また

छोड दिया। は彼)を放してやった」

बरसा घर में रह कर भी िश्चमिक्षिक्रसाहितकाठितक।

4) 南州 「取る」の接触分詞 南南て が、「時間的」にも「場所的」にも、 よく尊称の 奇 と一緒に補足的に用いられる。例

उस ममय से लेकर अब तक िंट्गीके 64 दें €

हिन्द महा सागर से प्रशाना महा 「१ / h於から太平祥まで」

सागर तक

5) 弘清 電石「前途する」「増加する」の 電客では、 名前 電客がて उसने मुझनो मारा | 「前に進んで会社私を打った」なとと、普通の音味の弦紋分詞に なる以外に、(a) 「強礼た」並の「永容詞」にもなれば、(u) また「比較玩」を 示すために、神秘的に 徳 に終われることもある。(80ペーツ (37な) 20 まれ) 例

(1) वह बीरता में सब से बढ़कर 「佐は武功において混よりも優れている」

- (11) इस गाँव में इस घर से बढकर िटार्गाटार, टार्गाट १६८५ रहार से कोई नहीं है।
- - 7) 接続分詞も 19々反復される。例 एक चील फडक फडक कर जब महै।「1刊のトヒか日またきをしなから無ん で行った」。

# 亚 末完了分詞 (वर्तमानकालिक श्रवन्त) と完了分詞 (मृतकालिक श्रवन्त)

構筑——名弥から言えば、前項所認の「接紋分詞」も等しく分詞(表記で) の中に包括すべきものではあるか、本質的には全然所配のものであること は外形だけを観ても分ることである。いわゆる「接続分詞」が多分に到詞 の特質を有するに対し、これら二つの分詞。つきりいわゆる「現在分詞」 と「迅去分詞」とは共によく名詞や代名詞を修飾するなど多分に到詞状形 容詞の性質を持っている。あたかも 朝 で終る一般几容詞のように、名 間や代名詞の数・性・格と一致する。

で、長 の3種が整人に飛行されまするか、またよく名略もされる。 なお、「未完了分割」か「未完了の動作」即ち現在行われつよるる別作 や事柄を安わすた対し、「完了分割」は「完了した動作」即ち「状理」を 安わすのに用いられる。

そして、両分詞の場合とも、その数や性に応じて होना の完了形 हजा.

『E』 DF、(a) (b) 面分詞の各項目を、絶えず互に関ちし合わせること。

#### [a] 朱完了分詞

- 1. 堆合酚氯化
- (1) रतना を伴って「動作や状態の粧続」を、जाना を伴って「動作 や状態の進行しを示すことは既に述べた。[157ペー 22 [1] 25限] 例 गर्मी बढती जाती है।

「暑さが増加している!

उजाला बदता जाता है। [日光か増加している]

- □ 以上而交とも。ただ今の一時的な現象を述べているが、第1例において ですで や以てすれば常に思さが加わるという「習慣的な状態」が暗示される。こ の意味において第2例でも、ではてすることは理論的に不適当である。
- (2) बनना 「作られる!「できる」を伴えば「適当に・する」意が表 わされる。たゞし、この場合、分詞は常に従格化する。例 यहाँ से चलते बनो ।... 「い」加減にここから出て行きなさ

ts i

उसने महासे यह बात बहुते न बनी। 「彼は私にこの事を適当に言わなか ったり

### 2. 形容詞として

- (1) 形容言形容詞の場合。例えば 47億 (質) 羽ま 「死にかけてい る羊」; च्रेंचला दिलाई देता (हवा) तारा 「かすかに見える星」などにおけ るように一般の形容温と変わらない。
- (2) 叙述言形容易として も同様であるが、主語や目的語の性や数と の一致の点において多少者謝を要するものがある。例

<sup>(1)</sup> 相手を告替していう時のけんか知巧。

कुमारियाँ आती हुई दिखाई दी। 「鮑蓬の東るのが見えた」 बालक सिसकता हुआ दीख पडा। 「子供がすゝり泣くのが見えた」

□□ 1) 自動詞が主動詞となるとき、分詞は主動詞同様、主語の性や数に一数する。ただし、分詞の詞形を 『 化させ調画的にすることも可能である。例

बह हंसती हुई [=हंसते हुए] आई। [彼女は笑いながら来た」

वह ईसता हुआ [=ईसते हुए] 「彼が笑っているのが見えた」 दिवाई दिया।

मै बहाँ जाता हुमा [=जाते हुए= छाउटेट**्**रिशकटरीर

'जाने से] डरता हूँ।

2) 「韭茶は韭菜が するのを見た」または「食えた」の構文によいて他製品 存布付 「(を)見る」と 受づ付 「(を)関く」とは、それら両払訊の目的語ではあるが、分配自体の主張となるものに号格形が採られると共に、で 化活尾の分流の 用いられるのが浮動的である。例

भैने उसको बोलते सुना। 「私は彼が話すのを聞いた」 उसको फल खाते देख (कर) भैने 「彼が果物を企べているのを見て私は答

कहा। ०६।

しかしながら、この場合でさえ、詩折、分詞の主語の性や数に一致させること さぶある。例

बह मुझको रोता (हुआ) [=रोते 「愈は私が江くのを見ている」

(हुए)] देखता है।

もっとも、同じ構文を探るにしても。上記2種の知識動詞以外の一般想話が消 いちれるりいは、分詞は主動詞同様、常に第三人称男性の単数形になること行為 である。例

मेंने घर ने सब मोगों को जायता । यस्त्रित्रक्रिमिक्टं के एए एक एक

(हुआ) पाया। ार्टाः

3) 上記の構文以外の一般構文において他動門の完了形が主動詞であるとき。

- 採り、(n) 無生物であれば 南 を採らない。 例
  - (1) मशको उससे मिले हए बहत दिन 「私が彼に会ってから久振りだ」

हो गये ।

तोक्यो पर्ये हुए तारो को दो महीने हो 「太郎が東京へ行ってから2ヶ月に गये। なった」

(1) चल्द्रमा निकले ढाई घटे हो गये 『月が出てから』時衛半になった』

(1) すばれ はから でき まつ ぞいか 1 1分かはてから 1 1時倒半になった。

यह घर खरीदे(हुए) एक वर्ष हो गया। 「この家を買うてから1年になった」

○記 1) この種の構文は、特折現在分詞の場合にも用いられる。例 तुमको वहाँ विवा करते हुए कितने 「野があそこに妨めてからどれほとにな

दिन हुए? १ १ १ ८ १ १ १ १

2) 上記(山)の様文は名詞の協合にも用いられる。何 現代前「福司度 夏収 収率 再創研」 資「値が結婚してから1ヶ月になった」。 和収11

 上記の誘門における 前 可可「(ド)なる」は、すべて 前 項を可「終 む」を以てすることも可能である。

4) 近去分詞によって示される「行為」が、それと直結する結分言なり主動 詞なりによって示される事何と同時に起こる場合。その近去分詞は、その目的语 がたとえ与なの形を伝っていても、その目的語と一致する。例

वसे घवराया [=वर्से घवराये] 「彼が当然しているのを見て」

देखकर

この担任、阿弥における「他」が「他ら」となったら、それぞれ उन्हें बबराये देख बर र काको बाये (हुए) जान (कर)…となる。

(3) 否定前盟制族後盟制 विना-विनु と共に用いられると。完了分割

の部尾が常に せ 化される。例

(i) विना पानी से घुले
 सुम्हें विना मारे न छोडेंगे।
 (n) दस में पडे विना

देश-प्रेम उत्पन्न विये बिना

「水で洗われるのでなければ」 「(ほくは) 君を殺さずにおくまい」

「苦痛に陥らないで」 「愛国心を発生させないで!

1) 他の同業活 विन や वपैर ba saura p も珍折明いられる。例 विन जाने 「知らないで」、किमी से बात किये वपैर 「誰とも話をしないで」。

2) 比較的生活ではあるが 本分詞からもご詞句かれられる。例 आपो रात गर्पे (以改中に);दिन चढे (劉武く) (欽明一[日於上。て1],दिन छुपे 「日 अग्रिटा; राज निक्ते (日の出野に)。

### 4. 名詞として

स्वया बाहा नहीं होता। 「数の値いは答れられない」 मैं उनना जिला (हुआ) नहीं पढ िंद्राविक्टरेग्या श्रेक्टरेक्टरेग्या स्वता।

उस पादरी का बहा मन है। 「あの宜数節の言う事は本当だ」 मेरा कहा मुना क्षमा कीलिये। 「私の失済はどうそむゆるし下さ

[13

(2) かんだし、मुझसे उसकी वहा सुनी हो गई।は「私と彼とは不知(金)になった」ので、

なた。 विमा 「行為」。 विचा 「まいた約」「文書」。 विचा-पढी 「文書」 पछताया 「後悔」。 देखा-देखी。 「は似」 など も名詞への転用すてある。

2) 分詞がひとたひ名詞化し、復落化すれは、完了・未完了の両分詞に流け される 質研 生でが複数化する。例 적明市 (6章 新) 「自今の行为の」、司 खापे हुआ का भिद्याति, ५००), बूबते हुआ का किस्ति ठे, ५००), मरे पर वैद्या ११९०६: १ क्या-सिक्ट स्थात

- 3) 完了分詞 即ち点去分詞か 可信可 や 事で可 を伴って「 しかかる」や習慣を子子構文については「複合質詞」(188ペーン(1) 切 および159ペーン(3) 参照のこと。
  - 4) 238ペーン「既格」((ii) およひ271(ii)ペーン「位格」第2例参照。

## IV 条件文(आश्रित वाक्य)

### 1 概 說

(1) 条件文では原則として条件句か 学一文となり、結句か第二文となるのか、まれには関者の順位か逆になることもある。そして、条件句は接続調 項信 \* か 河町で \* に、終句は相関調 前 に初かれるのか普通である。しかし、「条件」を示す核総記はしばしば有断される。例

हो सक तो आसा।

「できたら来なさい」

तुरहें कुछ मातूम हो ता बताओ। 「吾が何か知っていたら 君いなさ

(2) 「条件」を示す技術詞は条件句の冒頭に置かれるのか普通である か 他の品類に先立れることもある。 脚

म स्थलाजार प्राचित स्थला स्

तो 1-5 1

🔟 1) व्या चो ६ यदि भिष्ठाता इस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्राइस्ट्रिस्ट्र

たいい 前 もまれ といされることかある。ナナレ 多件を子す投げのから

etantique di mantenancian anni attentione enceptone et di operatione estato.

### 2. 用 法

### (1) 不可能条件の場合

「命令」以外のすべての時間は条件を示す技権知におかれることができる。そして、直接性別時間が「確定的な事態」を促定的に述べるのに用いられるに対し、任定法認時間は、「不可能な事態」「不能かな事態」「ありたうな事態」などを述べるのに用いられる。語時間中、1.の「不定時刊」即5「可能未来時程」3.の「乃上可能未完了時間」13.の「乃上可能未完了時間」14.の「乃上可能未完了時間」0.の「可能完了時間」13.の「乃上可能未完了時間」14.の「乃上可能未完了時間」の6時間がそれである。わけても、上記の3、13、14の3時間は、実現しない事態を示す、いわゆる「不可能条件」を示すのに用いられる。例えば、事務、事度可可可、前一「もしも、これを知っていたが一」では、大阪に知らなかったことが暗示される。

そして、「不可能条件」の条件句に、上記の通り、3 紅の別があっても、 熱句即も主文は常に同一の時間、つまり「条件過去」が探られる。(121ペー) 2、124ペーノも、134ペーノもかり

#### (li) 可能条件の場合

(1) 両句とも「確定的な事語」が述べられるとき、両句に「未来的 相」が用いられる。例

यदि आता होगी तो मै व्यवस्था। [६८६@@#.कांपसंसदार्यः यदि आप कहेंगे तो मै वनी वार्तमी।[८०००७७३मदिसदास्राक्षणंदरं]

(2) 前項の場合、条件句である動作の起とることが設定的に述べられるならば、条件句に「不定完了」即ち「過去時間」が削いられる。例

यदि वह गया तो मैं भी जाउँमा। [६七被が行くなら私も行く] अगर तुमने विसो को मारा तो मैं [६七も君が鼎かを殺せは私は私と तम्हारे साथ नहीं दुनेंगा। 一話にいまい]

(3) もしも両句とも「可能性」の有無を初め、「疑問」「不能火」など不定的意味を示すとき、両句に「不定時相」か用いられる。例

अगर बाहें तो आप बसे बाएँ। िटर्सिप्पर हर के क्षेत्र प्राप्त से हो तो दूष्यी न मिले। िष्टिकार प्राप्त से से स्थान

れまい」

(4) もしも条件か単なる「可能性」や「不確実性」を示し、熱句が 「確実性」を示せば、条件句に「不定時相」 結切に「不来時相」が用い られる。例

यदि आप चाहेँ तो बले जाइएमा। क्रियःस्थ्राःस्थर्धः ५२५० ८० । ३०।

मैं नियल जाऊँ तो वह भी चला 「私が出て行けば彼も出かけよう」 जाएगा।

(5) 文意の如何に関ビなく、結句が「命令」であれば、条件句には 常に「不定時相」が採られる。例

अगर आप चाहें तो मेरे साथ आना। 「ご希望なら私と一緒に来て下さ

l-j

बोई सेवा हो तो वताइएगा। 「何かお役に立つてとがあったら召 って下さい!

- 1) 前記(2)の場合は、彼の行くことは確実であるか、または彼が既に行っていることが背景される。
  - 2) 同じく(5)の形式は、他の接柱間や関係代名詞の場合にも適用される。

जहाँ चाहो वहाँ जाओ। EoMethy~fietal।

जब वह आए तब मूप से कहना । 「彼か 末」 ら私しこって下さい」

3) 町で(1)と(4)に関連することであるが 様して文字の如けに関係なく かとなぜの技能で報告化る部に導かれる時でも 主節に「未来時間」が対 られれば、後援節には「不空時間」または「未来時間」が扱られる。例

जो कुछ कहूं, करोगी ? [जिटकेसर १०० ५ ८ ८ ४४ (४) छ ८ ४ उमे कुछ कहूं, करोगी ?

जब बह आए [इर्राः आएगा] िक्षेत्र श्रां 5 एकि रिट पि १००० । तब तम जाओंगे।

- 4) 条件句と結句との間に格別な時相が差異かなければ「「一分相の」、可か 間句に採られるのか管理である。例
  - यदि मैं आता तो वह भी आता। हि। छा अंग ६ छ छ ग ० छ।

    यदि मुझको आजा मिले [च्हों] हि। ६ छ छ छ छ छ छ छ छ।

    तो मैं आर्ज ।
- 8) 上記4)の第2例では「許可」なり「命へ」なりの発せられるのをかっぱかりの変かを配丁しているか もしも 転句 こ 「「末時和」が 引いられれば だらすしも行きたくはないか 命せられずら行くないなる。これに対し 条件句に直接は「現在時初」の意か用いられ 計句 「本来時初」が用いられれば 自分が行きすかるとすとに配せず 介せられ次符(くていなる。なず 行取(1) 頭の別会をも参照のこと。
- 6) 正法法語が相と仮定法語が相との定気を例至すれば次の通りである。例 スは 現在 可要 中研 資明 前 [一甲中 中研 前] 前 「もし致か 変れていた ち 」では 彼か 実件に変れているかとうかは不明であるか 前 のかわりん 養 をもってすると 彼の変力は強力であるのを用し気が加まい。 てみたけいのこと になる。

±र यदि उसने मुझका देला हो तो ार्ड ८ क्रेश सरुप्र र र र र स्

か乱を真に見たかどうかは不明であるが、 マオ き なら、確かに見たことか略示される。

## v. 動詞の省略 (कियाओं का छोड़ देना)

次のような場合に、励詞はよく省略される。

(1) 存在動詞 割可 の結示される 可能 が木尾に用いられるとき。例

यह काम का नहीं। [ट्राइश्रिटार्ट्स्ट्रार्ट्स

वहाँ कोई देखने वाला नही। 「そこには誰も批話する人がいな

211

CB 上記の明合。存在試験の代表は住住である前、「人来」の音楽を指示するために影響の不定性と共正否定影響用いわればれ、動き性情に覚かれる。(\*)

(2) 動詞の反復を避けるために、牧旬の動詞がよく名かれる。例

न भ हूं न तुम। ((etul) श्रेर हे दर्श गार्थ ये ए हे द

[ري

शहवा पीते है या चाय?

「コーヒーをお飲みですか、それと も茶をし

(3) 疑問詞が反語的に用いられるとき。例

भगडे से बचा साम ? िरोर्रकेशीलिशीहरू ठर्रात्री

अब वह बात कहाँ ? िक्टरण्यादिटारका ।

(4) 「程座」や「様態」を示す形容詞が「年を伴うとき。例

(4) ) STAT A LIBERT SWANNING IN SHACE OF DI

कहानी लम्बी इतनी किंग्य [物語は…ほどにほかった] जिलना कि महाँ से मेरा घर। 「ここから私の究ほど」の

(1) 235ペーノ(8)、および171ペーノ(マ) お同。

<sup>(2) 「</sup>部は既に作わった」 元

<sup>(3) 「</sup>更要」をおおられてのお客。

(5) てとわざ。例

अपने मुँह मियाँ मिट्ठू।

[首面百姓] to

चिराग तले अधेरा।

「燈台下暗し」の

(6) ことわざ類似の言い方をするとも。 例

यथा राजा तथा प्रजा।

「この王にしてこの民」

णव तलक सौस तब तलक आस। 「庄命のある限り希望かある」

(7) 表題。例

नाम बडें दर्शन थोडे।

「聞くと見るとは大遊い」の

मुखी प्रेमचन्द, हिन्दी के महान 「偉大なヒンティー作家ムノンー・

プレーム・チャンドト

लेखक ।

# VI 動詞の一致 (किया का उदस्य या कर्म से साहश्य)。

(1) 住を異にする両主格主流か並用されるとき、動類は常に男性の 複数を採る。例

कुमार और कुमारी खेलते है। 「少年と少女とか遊んている」

れて 中食 中食 中食 中食 中食 日本 「私には兄弟結婚かなかった」 (2) まれに助題に母も云い主格主題に一致させることもある。例

एव बातक और एक बातिका आये 「1少年と1少女とか来た」

[≢त्रध्यायो]।

भैने एक बूढा और एक वृद्धिया देखे [私は1老人と1老後とを見た] 【まべは देखी】[

[इलाइदला]।

<sup>(1)</sup> 首款=「自身のロで(自身を)首長(呼ばわり)」。 ■ 直ご=「受合の下位ほい」。(3) 直款=「名は大きいが会ってみたられさい」。

<sup>(4)</sup> 数為のだは「主語 目的語と歌門の一致」。

- CEI 近頃の類向として、主格主語が全部女性でもない限り、別性の複数形が採ら れる場合がない。
- (3) 難接々払訊が使用されると、些訊は末尾の主格主語の住や数と 一种する。例

पिता बयवा उसकी पुत्री बाएगी। 「父かその始かか求よう」

EE ただし、次のような場合には、動間の反復を受けるために 品料のまるにし か動気がない。(342ペープを買ったち)の会用) 何

वया तम हो या वह ? (स्थक्ष) शक, स्थार ६ छक मया बेटा आता है या बेटी? [£3% १४००० स्थार १५००)

- (4) 二つの主格名詞のうち。 後の方が述節 主語として前の方のもの の納潤となる場合、そのいずれに引潤を一致させるかは未だインド人の間 でさえ失まっていない。例えば、इमारी सबसे प्राचीन राजधानी तोश्यो नहीं 竹I「われわれの最古の首都は東京でなかった」におけるような言い方 では、動詞は第一主格主語である女性名詞 राज्यानी「都」に一致させるの が常識的で、「東京」に一致させて 町 にするのは悪いが、逆に ओसाका एक प्राचीन राजधानी थी। 「大阪は古れであった」になると、お詞を第二 主格名詞である女性の राजपानी に一致させるべきか。第一主語の男性名 河「大阪」に一致させて 町 にすべきか、一定しない。 結局、 どちらでも よいことになる。 व्यवह एक टाप या। 「ポンベーは一つの島であった」に おいても、女性名詞である主語 神祇 に一致させないで、補語の 部「島」 に一致させている。
- また、 उसका तोता बहुत सुन्दर चिडिया थी। 「彼のおうひは非常に美し い鳥でした」においては、何徳町 のような女性名詞と雄も 陸もある「お うむ」のような中性名詞とが並用されたゝめ、自然に女性的意味か強調さ れる結果になり、動詞が構築としての第二主格名詞に一致させられたも

00

従って、この場合、女性名詞 句句如 の代りに同義の男性名詞 句前 a を以てしたら、誤詞は 如 でもよいわけである。しかしながら、一般的 に刻て、所詞は第一字称:頭に一致させるのが疑も許適である。

なお「値段」などが述べられる場合。よく並用される「値段」と「金額」 とを示す町上格名詞に対する計画の一致も一能していないが、いずれかと となって、この肌合によ「筋性」を示す第一本機関に一切される方代の関係

いえば、この場合にも「値段」を示す第一主格器に一致させる方が一層適 当である。例

इसका दाम दस आने है [-है]। [これの面は10アノナだ] उसका मल्य आठ रुपये है [-है]। [その面は8ルピーだ]

(5) 政詞がいわゆる名詞動詞であれば、即詞は主格主語の性や数と

一致し、名詞動詞中の主格名詞とは一致しない。例 現で、音音中 前 電景 で記さ 信頼度 『太陽は見たところ甚だ小さく見え

देना है। इं

मुक्ते पशियों के चहचहें सुनाई देते है। 「私にほどものさえずるのが聞える」

全 また、中午 四個商業 おて 年で 春命 朝で呼 第1 「私は小さいコップン房たし村が出した」においても、受到は名詞の時の男性名詞 朝で呼る 同時的 とばかりでなく第1 主性形の複合目的格句・年で 春旬 とも一致しないで、その目的格句中の目的話 四個項 と一致したもの。

(6) 「作为」「呼称」「任命」などを示すいわゆる「作為動詞」を初め、 可円可「(と)知る」「(と)型める」、表示「(と)見る」、 和可可「(と) 認め る」、「円可「(を) 見出す」、 租用可「(と) 解する」などの動詞では二つ の対格が収られる。 この場合、第一対格が代名詞であっても名詞であって も、与格形が収られるが、それらの主語が動作格となる場合、第二対格の 性や数の如何に関係なくび記ればなど三人称列性の単数にといなる。例

(1) राजमन्त्री ने उसका रक्षामन्त्री 「首相は彼を問勤相にして बनाया।

में उसको देशभवत समझता है। िया देशक द्वारिय है।

(u) राष्ट्रपति ने उपराष्ट्रपति को 「人統領は別人統領に派任にしま」

सभापति बनाया।

न छोडो ।

अकदर ने आगरे को अपनी राजधानी (アクバルはアーゲノを付4)の称と बनाया।

(7) 同しく別が移の行られる文中 で一対格かでれ自身に移跡する 形容詞 または礼名門として用いられる別詞の分詞を行する場合にも、(4) それらの形容詞や分詞は 主動詞もろとも、対格と一致し (n) その対格 が 守 を抵れば1回も形容詞を第三人所明性地数にとせなる。例

(n) उसने दो गाडिया को खडा किया। 「彼は2台の車を始めた」

(8) たとん対格名詞か 前 を採っても、それを作飾する孔谷詞 または形容詞として用いられる分詞は、その対格名詞と一致する。例

भैने उस मिठाई का वहिया मान 【私はその菓子を上等と思った』

तुम अपनी साने पीने को वस्तुए सुनी [田は自分の飲食物を門けっぱしに (हुई)[चनस्तुओ को सुना (हुआ)] して既いてはいけません」

だいし、名詞が詞を構成する孔容詞はその種の与格孔対格とは一致しな

い。例.

गाडी को खडा करो।

「車を算めなさいし

=गाडी सही करा।

- (E) 1) 「代文門と覧門との一番、については20ペーンはなきがのこと。
  - 7. 不定法と勤高との一致。 たついては 歌 ベーノイ わよい <sup>233</sup> ーノ(行 考) 2) むらのこと。
  - 8) 「未完了分司と對うとの一致」については320 ー・2.2 シェンモのパ 荷全都登場のこと。
    - 4) 「完了分司と記すとの一式」については35ペーノ255 を取のこと。
  - 5)「交業論」中に「特相」医師を扱わなかったのは、原に 品 \*\*\* においては及したためである。

-

(a) 散文 मुत्र । तुमने क्या मुत्र हमारे सम्पाना । (तुम) निज प्रण पूरा कर प्राण देने क्रियारे। (a) 「瓜子よりおかは私歌とはに何と楽しか」 たこと か。 (a) (おいば) 自身の気打を果たして死んだ」。

削文 सूत स्ल सुमने क्या सग पाया हमारे।

निज प्रण कर पुरा प्राण देके सिघारे॥

上記、2例ともよ為か抑制されている。すなわち 省1例では両句とも 朝刊 できり、ヤ2例では国句とも 朝代 で終 ている。

2) 大行分の別がは4行から放っているかの その全行か行名であるとは別 うない。() ア1行目とア2行日 第3行目とで4月日とか。それそれ门設であったり (h) 第1行目とア3行日 第2行目とア4行日とか 交近に门辺であった りする。また (m) 全半行型されないものもある。つまり、押額以(資料所 で不) に対する評価。( 例の取得ででで) である。

至するに 押削するかしたい か 押しするとすればとの形式の似と迷ふかは作 い者の好み次なである。

## 2 音닯 (मात्रा) と音節 (वर्ण)

ヒノティー許引測弦のための音(呵何)は、その音の訓算(पल्पा) 法の相談で、音風と音節とに分たれる。即ち、呵呵、とは音の発力に以され

<sup>(1)</sup> とこでは技権分割が二つ美用されている。 ■収率「生命を変でよった」

<sup>(2)</sup> 直次=「お前はわれわれと一緒で何かる楽しみで見出したととよ」。 (3) しばしば1 m 3 m 6行まかはそれ以上のものも見気けっれる。

る役も短い時間の単位、終言すれば短母音の発声に占められる時間の長さ が作味される。これが詩句俳融の基準となる。

各気母音は1 明朝 として計算され、これの2倍の音量や時間を要する 長母音は2 明朝 として計算される。この長短の両音を区別する記号とし

て、1日が短さ、5日か長さを示すのに用いられる。ロ

これに対し、可で (一可可で) はその基礎を母音に 置くこと において音量 の場合同様であっても、音の反短に全性無関係であることが違っている。 つまり、反気の母音も二重母音も、それらか子音を伴わうか伴うまいが、 字数の如何に一切関係なく、1音で発声可能のものは1音節として計算さ

例えば、〒 ta や 3 pra を初め、 可可「何」、可可 5 「利益」などは低文で は替1 首節である。ところが、 顔文における音話・音節の判定で特に住窓 しなければならぬことは、 顔の終りにある子音字の異音についてである。

例んば、上記の 町戸 や人名の 町戸 は、その現代音 labh や Râm は 1 音 節ねであるが、顔文では lábha や Râma と発音されるので 2 音節評にな る。つまり、似文ではほとんど紀に続声になる節尾子音字も、顔文では有

沓にな。そのために、1字が1音節・1音量を形成することになる。この事 はサンスクリノト由来語の場合だけでなく、产通のヒノティー語の場合で も同様である。イノドの国党(では京車 南市)かそのよい例で、これには勤 弱以外、サンスクリノトの品詞が使用され名子音字とも短母音化されてい

जन<sub>(3)</sub> गण<sub>(3)</sub> मन<sub>(4)</sub> अधिनायक<sub>(6)</sub> जय हे

jana gana mana adhinâyaka jasa he

30

れるのが形女の場合である。

<sup>(1)</sup> 差別における 一印に当る。

<sup>(2) 「</sup>人」「人々」「人類」。 (3) 「群」「団体」。 (4) 「ん」「身」 (3) 「指考者」。

This book should be returned within a fortnight from the date

last marked bel	ow 1- 3	62	
Date of Issue		Date of Issue	Date of Issue
15303 103	)		
		·	ı
			j
~			
			}
1	٠		
	1		
	,	-	
			L

# क्र हो (अनुक्रमणिका)

A	ţ	文 岳 99
		文章 自 11
Apabhrańska	13 364	分数(司) 98 101 104 106
Anu nāsik(a) 13 14	20 360	斯 類 ( Varga) 5 8 33
Anu svår(a) 3 9 13 14		物質名司 82 110 218 221
	48 360	229
361		核助化する 220
プフヒヤ品 1 13 15		
プロヒヤ部女性形	79	C (チ)
アノヒ ** ボの护衆名司や指 」辞	67	Candar bindu Candra bindu 13
プフヒヤ山央で(後電司)72 1		直並左 113 171 339 341
Ardha bindu	360	直接目的语 58 261 282
Avagraha	160	直接基本 350
Awadhi语	33	長首(Guru) 360 361
В	-	中間母音 3 6 17 20
信款司	104	中世名詞 344
Banauti文字	6	1 - 4-1
Barvas	367	抽空名 37 42 64 66 M 163 164 165 218 220 221
		223 229 230 240 242
Darg (瓜) : ヘンガッ文字	8 33	270 284 292
Bhomuri T	6	<b>複数化しうる―― 219</b>
	12.	a
ヒハーリー力に群	31	代名頭司 167 177 180
八百(字) 4 8 9		代名形态 7 80 111 112
A ST	3 13	代名上答。 1月 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11
化二化铁石	3 14	学格 58—61 73 74 76 W
以音音 符(Avagraha)	32	83-85 240 251-260
母音如抗	30	285
プノヘー式文字	5	高気音 12
艾 忑 → Sanskrit	1	□ 音 12
艾払からの借用で→信用で		Dandak(a) 368
Bray 'T'		

		- #		引 ㅡ		3C/ 111
断子音(無気の	, 有:	<b>はの</b> )	12 ]	複合汇合副句		97
Dehli 地力の(	発音	.その他)	- {	符合名詞の性		45
		6, 44, 48	, 323	夜合後設詞。	风格後置詞 ke	:
Deva nâgarî j	文字	iı, 1, 5, 1	6, 17	をとるもの	D	189197
同载货	45.	46, 71, 66, 7	5, 76	の取物任	色のもの	198, 199
		95, 98, 103, 18		一しては	kl 22360	199
		200, 206, 21 245, 294, 29		たとらなり	いもの	199, 200
	337	240, 294, 29	0, 303	技会政权形容	习句	97
同格(的)		225, 226, 227	281	複合數詞		98
1-11-1-1-1	283			部词作用代名3	F\$3	186
玛作格		60, 73, 81, 8		可同的技术司		296, 310
		345, 346, 34		不定代名詞の記	到却化	82, 83
の採古に	ンしって			不定代名词の	3.司伝用	169
助司の省略			343	不定法	93, 116, 14	5, 153, 159
動詞の一致			-347		161, 194, 2	40, 270, 279
動詞状形容詞		321	, 327		322, 323, 3	12
助詞状名詞			, 320	不定関係罰		291
同種母音(音の	按合,	)	30	不定完了的和	115, 126, 1	
Drāvida OH	B 64		13	不定冠詞		81
	]	3	1	不定太完了的		
英 五		39, 44, 50	352		124, 141, 1	
-			- 1	不定未来		123
	I	•	- 1	不定的扣	117, 121, 1 134 136, 1	
Faslî			215		185, 205, 2	
不可他条件			124		340, 341	.,
不变器			167	5333	37, 110, 21	9, 220, 221
不均等計(Vis	ms i				223, 228, 2	30, 292
			, 365		G	
不規則對司		136	137	Gan(a)		361, 363
不規則合字			21	外来至	13, 22,	23, 37, 54
不規則完了分	7		146	外來音	,	15, 16
複合文		126, 175		現代音		52
複合動詞		130, 133, 13 -166 332	E, 145	現だ数別		110
WATER		100 336	83	現在分訂	114, 116 12	21, 127, 129
拟合不定代名	e)		€>	VALUE 1		

_	4	引 ㅡ

XIX

	Hurs 215
177 238 327 336	1141
の主 <sup>17</sup> や目的 <sup>15</sup> との一致 328~330	すヒンディー方言群 11
现在可能的相 127	専門(自」) 13 102 217 222 224
现在完了時和 132 134 142 145 165	257 293 319
现在末完了7月相 114 115 125	比較表 88 89 326
現在進行 115	Hundustan1 1 11 5 29 368
現在時相 113 114 115 116 124	否定命令 171 172
132 165 278 341	否定接尾辞 35
月名 213 214	否定接頭辞 29
疑問符 296	否定司と時間 117 118 120 121 124
疑問現在 128	否定门門司神後四周 146
疑問形容詞 84 295	注 113
疑問記を有する疑問 30	方言 口語体 117 118
語数なしの哲語 71	<b>指 語 143 844</b>
语 瓜 348 349	本弘司 114 115 117 154 157
西原の転倒(文章) 144 249 349	捕助剪河 142 144 146 153 154
グンャッート文字 (Gujarātī) 6	157 158 160 162
Guna 30 31	I
Guru 360 361	位 格 58 73 74 75 80 81
『象名門 37	83 84 85 261-279
	286 348
н	位味上の(文法上の)→ 主語
医分趾詞 106	值 (Tuka) 355 356
Halanta 17	加 文 355 356 357
<b>产母音(字)</b> 4 5 8 11	額交法 ₪ 350 355
反語(的) 180 294 296 309 342	前即(Gana) 361 362 366 367
半均等。 (Ardhasama chand)	管吉才来 123
364 365	異種母音の独合 30-1
反転音(字) 4 11 8 11	Ę
反転的介音字 8	Tâtı chand 362
破裂音 8	Jātsk 368
破評者 8	デ <b>ス</b> 音符 14
死声器官 3.4	自助司(同義目的者を探り得る)
平1 人省 25	130 140 142
	20 240 240

		- r	뤽 ㅡ	xx	
時相(性別のな	( J	114 117	出去可能來完了時期	1 128 3	34
宇名司		320	心去完了時相		45
助數詞	114 115 1	25 126 127	心去熱新時相		78
	128 129 1	35	心去未完了時相		
~—の省略	12	5 126 134	115	116 125 126 3	19
銃 法		113	FFA	2	30
条件文	131 13	6 338-341	: 边去時相 115	116 126 131 13	32
条件凸去		124	133	175 339	
条件凸去时相		125	過去条件時相	17	75
亞 竣 語		153 156	確定太才	12	23
女性名間からつ	つくられけ 男性	名司	間任副門(句)	182 184 301 30	02
		48 52	可能现在完了	13	34
序数司		99-101	可能完了時相	117 134 181 33	38
上界調		30	可能未完了特相	117 127 134 33	39
教建智形容司		328 333	可能太完帥相	121 127 33	39
数过的用法		86		115 129 131 13	
또 文		348		144 153 159 16	
复数世	113 140 1	145 146		199 327 332-33 tut 33	
	159		校合動訓用いら		
型	14		形容詞として用い		
交動的自動了	142 14	4 145 147	副司として用いら 名司として用っち		
從格拉數特別	租主	56	完了許相		
<b>村代名形</b> 容词		111	2000	12	-
約(坪)按尼辞		91	間接合令 間接目的音 58		_
粒学合名司		102	348	00 100 IPS SEA	
土 恕		143 280	間接話法	35	0
從民文		142 325	<b>经应</b> 商	69 84 309 31	6
佐瓦節		184 185	慣用句	9	19
	K			113 171 339 34	1
Kaithi 文字			仮定法現在時相	12	
過去分詞	E7 115 12	9 130 131	仮定未完了	135	5
	177 238 3		敬語 対する関河	80 21	В
一 主ぶや	目的語との一致	333-337	数 野	7:	9
およ可能です	持期	135 339		1620 22 23 DI	ā

xxx - * 5! -
--------------

ギウーがクラ

形容言形容词 328	Kundaliyâ 368
形容言的用法 <b>88 3</b> 03	空 点 3
形容部計劃 91	口ひる音 4
形容词护副词 88, 97, 100	客 语 266
形容詞の反復 88 89	载变(化) 88, 93 103 144 194
<b>北容詞の副詞転用</b> 167-8,301	195 199 226 290
形容詞の名司転用 304	強在词 36 78 84 85 97 112
形容词接尾语 (辞)	174 176 178 230 258 305 309
57, 67, 90 91 92 93	365 366 365 172 179 186
177	独市的疑問。 172 179 180
形容詞と接続詞 86,87	強 省 25 27 28 29
<b>黎 辞 的</b> 201	fkit (Yati) 25 27 28 29
器格 58, 59, 60 73 74, 76 80, 83 153, 250, 251	作此记号 363
348	1111.429 303
希求法 141	L
近接近去 125、132、133	Laghu 360, 361
近接末来 125, 128 131, 159, 180	Lakhnau 地方の (発音, その他)
320	44, 48 118 180
均等計 (Sama chand) 364 365	М
気音(字) 4, 12	Magahi 11
気音行 3,35 36	Mahājani(=sarrāfi)文字 6
気音序游者 11	マラティー(マーフッタ)に 5 22
気息音 3	厚药音(字) 1, 4, 9, 10 11, 15
<b>选数词 94, M 98, 99,103,106</b>	摩擦音化母音 3 14
の慣用 98	Måtrå 3 356
Khari bolî	Matrik chand 364
口至摩擦音 15	命 令 30, 113, 118, 119, 120
口 弦音 4	121
呼格 8,59 60,61	命令形 (特殊な) 120
硬口签 5, 8, 10, 11	命令文 181, 184
校置詞の古む 57	名詞
固有名詞 37,72,228	語原の違いで語義を異にする―― 46
<b>後舌母音</b> 6, 7	語義の違いで性を異にする―― 45
Krama (頁, 事款) 352, 364	(常に)複数扱いされる―― 55, 218

<b> 単校任じに用いられる── 55 221</b>	Någarı → Deva Någarı
単位の相違で語義が変わる場合 222	<b>利口笠</b> 7 9
単数名割が複数動詞をとる場合	似口图台 15
218, 224	数口盛音摩擦着 15
女性たになると別種の正味となる――	行数を
50	オール語 1
のご用作用 169	二(fof (Dvspåd) 362 361
の形容形に用 229	西ヒンティーカ言門 11
の気役 56 177, 228 229 230	二工母音 6, 14 25 148 360
285	二工母官信扶 31
の占約 231-233	二百任伊野司 147, 148 149
名門期 145, 153, 162-6,220	० १ व
238, 240, 241, 345	优野性 115
<b>名</b> 刀接尺针 63 92, 177	作的数词 113
正 15 216	វេសស្រាំ១២៣ 148
末完了分门 114, 116 124, 141,153	
158 327—332, 335	0
<b>複合的詞に用いられた―― 828</b>	1722 (Tuka milânâ) 355 361
1777として用いられた―― 330 331	押買: )(Tukânt chand) 356
形容引として用いられた――328 329	<b>首便的</b> 接合 30
名訂として用いられた―― 331、332	音館変化 90
<b>未</b> 來命令 319	音監 (Matra) 356 357, 361,363
未分的相 117, 118 122, 123, 137	364 367
185, 278, 339, 340 341	行量計(Mätrik chand) 864
目の計の数や住に一致(他動ご) 137	百百 (Varņa) 358 357, 316
fital (Atukant chand) 356	のきりガ 22
机较许 87	右節計 (Varnik chand) 364 368
無気奇 4	音舞 30
村知了古 12	音 (計句記述のための) (= Dhvam) 356
Mundi 6	-の計算法(Sankhy2) 356
州人和新司 146	P
無声音(紅音) 4	Pâd(a) 362-4 366-7
無ア・子 で 19 <b>1</b>	パハーリー (Pahārī) 方言群 n
N	Panktı (Fi) 367
••	

жш	~ #		引 ㅡ	
	1 13 15 41 43 68 192 220 297 3 311 354		91 144 146 153 9 165 169 233 316,323 327-230 333-7	
ルノャ文字		1	性質无容词 97 303	
	今名 司や指 』 評	67	先行司 85 297-299	
ペン * 高由宗	KG 85 :	303	能律 (Laya) 355	
<b>,ノャ由来</b> 語		1	接頭許(音) 21 32 33 112 211 213	
	42 68 72 195 197	201	接尾辞 23 21 38 64	
rākut	13	364	核粒分詞 89 90 126 154 325~327	
	R	- 1	接続部門 163 184	
<b>ヮー</b> クヤスター	方言群	11	接轮调节用证 172	
歷史現在		77	接柱両の首略 71 280	
tola chand	336	368	技権詞の副司転用 170	
ローマ字	1	16	住役動詞の作り方 148-152	
国际ローマ字		5	使役形をかく動詞 147	
	S		.\$17 (Pada) 362	
再帰代名詞の	先行詞者略	80	做空音几音 反転音 侧音	
再帰代名詞と『	动作格	284	計形 <sup>1</sup>	
最上版	89	119	進行现在	
作為動詞		345	进行過去	
作因到司状名	323	324	唐 音	
Sambat		214	也 音	
散 文	355-	-357	調へ (Gati)	
San iswi		215	由縣市	
Sandhi	30 36 178	179		
Sanskart	1 2 3 5 7 10		指小蒜	
	13 20 22 30 32 43 48 99 189		定员文字	
	213 221 353 35		母籍両形を持たね名詞	
Sanskrit o	男(女)性按尾跨	24	相互代名词	
の序数で	1	99	相関代名詞	
Savaya	•	368	相関词 85 1 187.	
	(よって異るもの)	119	301,	
西部ヒンデ		60	相関この古塔	
性や数との-	数			

	- 4		31 <b>—</b>			₹XIV
DUTHIN		187	」 対性をこっぱ	55171		249
<b>********</b>	119	120	単文		126	325 348
存むよがなな		119	Li (Laghu)	)		360 361
存在功门 131 1	193 193 312	348	<b>地长门定名司</b>			53
1.83 77		95	Tatsama		22 2	
(3P)."			1		53 6	67 211
プラヒア肌からの	5 15 21	112			13 236	
大にからの		44	Tadbhava	12 14	22 3	211 213
ベルノャがうちの			てにとは	_		53
5 15	17 24 91	112	F用代纸。	П		111
サンスクリットでか	50		15 产化			00
4 9	11 12 15	19	活什五			153
23 30	357		interni			107
拉定冗了时相		135	面石			3
推定来完了時刊		128	調査を			3
拉丘本车	318	123	150213			13
f t		215	(	ŢŢ		
<b>1.</b> [8			ultalâ	0		267
文社上の		143	ujja14			401
九川上の 143	163 164 239-	-241	i	V		
269	281 322		Varga(~barg	m)		5 8 33
主。5に対称かとられる	(受動性)	142	Varna (=ak			357
主江の古町		118	Varnik chang	1		364
华合名门	37 110	221	Vabhaktı			53
集合款訊	58 102 101	106	Virâm(a)			17 19
四 名		214	Visarga			
主作		185	,	3 1(	16 25 3	4 35 360
τ			の音略			15
-		362	Vriddhi			31
Fffit (Bahu Pada)		113	1	W		
也	0 73 74 76			**		J50
対 将 58-6		238	当位			500
** -		285		Y		
	346 348		Yati(作此)			≈63

吁掛付語	54		Z
与 格	58, 59, 60, 73, 75, 76 80, 81, 83, 84, 85, 143 163, 239—246, 253, 281 282, 320, 322	前置詞茅用 前舌母音 舌音(字)	の後置詞 198, 199 6, 7 3 4, 9
七味上の言	語に用いられる場合 239-242	俗語(的)	13, 27, 80, 159, 163 283 305, 316
目的語に月	いられる場合	份 音	10, 25, 52
	242, 243	民 格	58, 59, 60, 73, 75, 76
抑 揭	29		80, 81, 83, 84, 85, 93
四行词(Catu	spåd) 362, 366		233-239 281, 283, 284
有気音	4, 12		287, 290, 292, 295, 310
有気子音	12	网络设置词	
有声反転音	11		225, 230, 237, 238, 258 263, 277, 279, 321
有声音(數音	4, 15		,,,

一 # 引 一

xxv

## 正 國 表 (河流 ( 47)

un (qu à dia d chr) cunenclures?!. 3000. Trudound

(anb) (-1)	্ৰ (অগুৱি)	e (बृदि)
76	f	बी
87		স্বা
181	अ ब	असा
213	थार	नदार -
315 (	াশবা	<b>लिया</b>
		-